

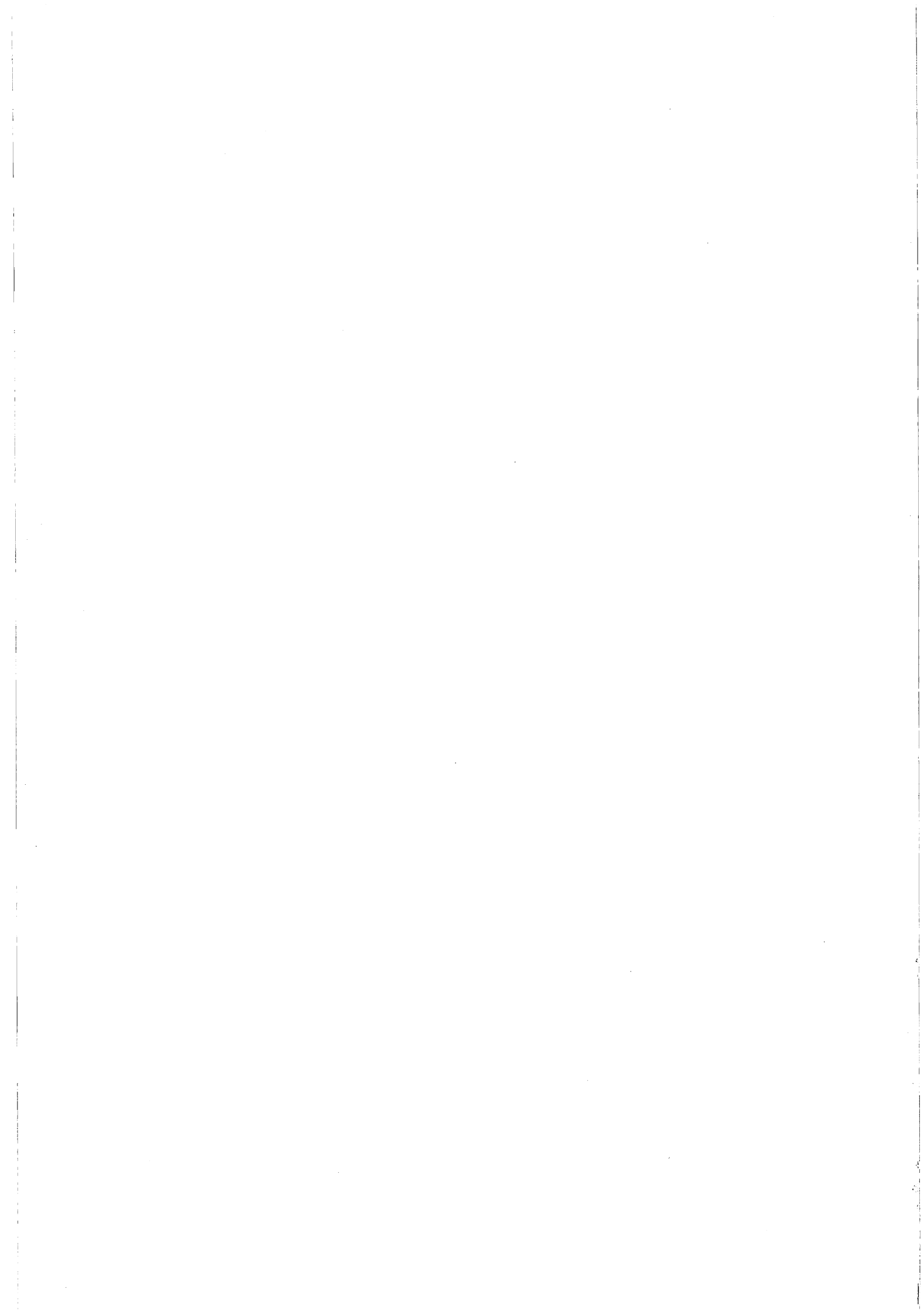
千歳市

ユカンボシC 2 遺跡

長都地区道営畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 5 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



千歳市

ユカンボシC 2 遺跡

長都地区道営畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 5 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

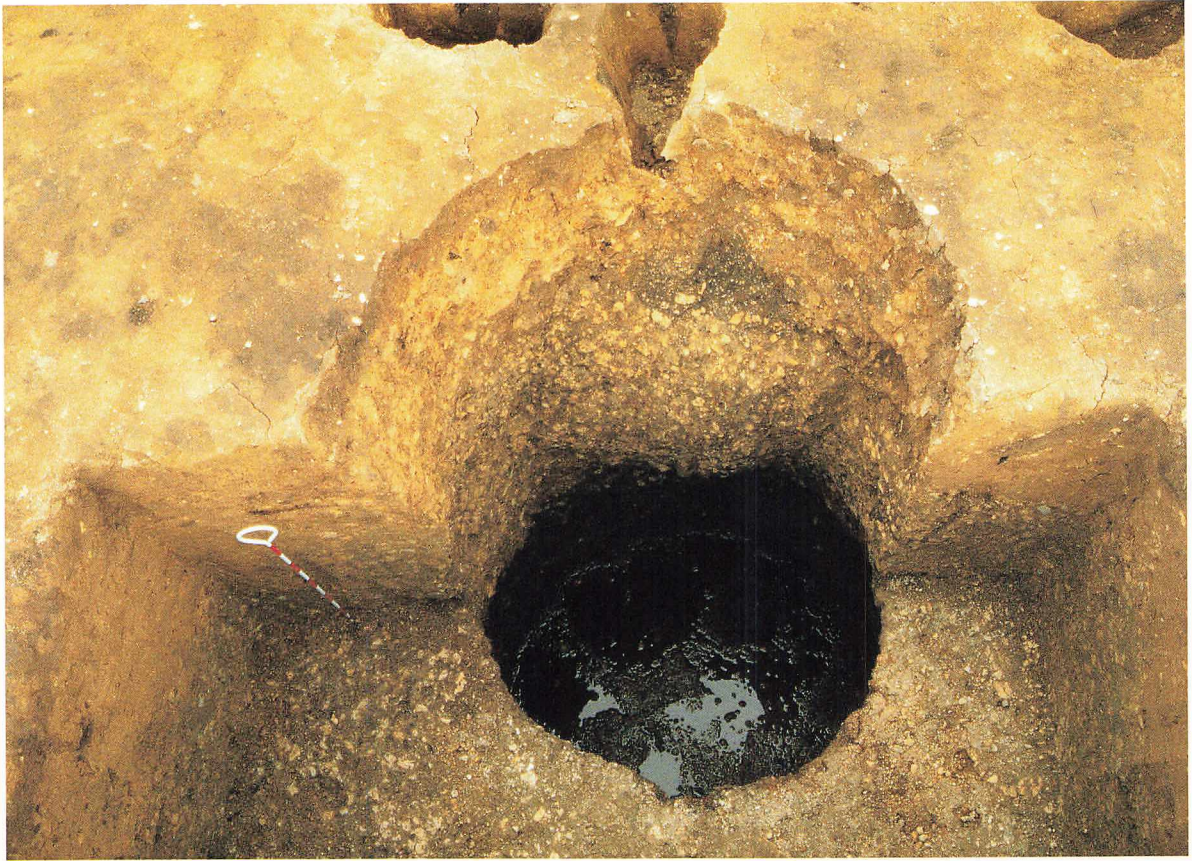




発掘調査区（東から）



竪穴住居跡H-4の遺物出土状態



土壤 P 3



土壤 P 2



掘立柱跡断面



縄文時代早期の土器



縄文時代早期の土器



石器

例 言

- 1 本書は、長都地区道管畑地帯総合土地改良事業に伴って実施された、千歳市ユカンボシC2遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集および原稿執筆は、調査を担当した調査第1課の鬼柳彰、田才雅彦、鈴木 信が行った。文責者はそれぞれ文末に記した。
- 3 土器の整理については鈴木 信、石器の整理については田才雅彦が統括した。
- 4 整理後の遺物写真撮影は、調査第1課の田中哲郎、鈴木 信、写真技師の菊池滋人が担当した。
- 5 遺構の略号、および実測図の縮尺は原則として次のとおりである。遺構図の方位は、すべて上が真北である。

竪穴住居跡 (H) 1 : 40

Tピット (T) 1 : 20

土 壙 (P) 1 : 20

焼 土 (F) 1 : 20

掘立柱建物跡 (B) 1 : 40

遺物実測図の縮尺は原則として、次のとおりである。

復元土器 1 : 4

土器拓本 1 : 3

剥片石器 1 : 2

礫石器 1 : 3

- 6 植物種子の同定は、北海道大学吉崎昌一氏に依頼した。
金属器の鑑定は、岩手県立博物館赤沼英男氏に依頼した。
木製遺物の鑑定は、農林水産省森林総合研究所平川泰彦氏に依頼した。
- 7 調査にあたっては、千歳市教育委員会の協力を受けた。また、下記の人々の指導と協力をいただいた。(順不同、敬称略)

大谷敏三、田村俊之、高橋 理、豊田宏良、松田淳子

上屋真一、松谷純一、佐藤幾子、吉崎昌一、椿坂恭代

赤沼英男、平川泰彦、横山英介、清水雅男、木村哲郎

中島孝幸、乾 哲也、兼八明彦、橋本博一



目次

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯と調査の経過	1
4 調査結果の要旨	2
II 立地と環境	3
1 遺跡の位置と歴史的環境	3
2 周辺の遺跡と発掘調査	5
III 調査の方法	7
1 発掘区の設定	7
2 層序	7
3 遺物の分類	10
1) 土器等	10
2) 石器の分類	11
IV 遺構と遺物	12
1 竪穴住居跡	12
2 土壇	46
3 Tピット	49
4 焼土	71
5 掘立柱跡	74
6 杭穴	74
7 ピツ	74
V 包含層出土の遺物	78
1 土器など	78
2 石器類	104
VI まとめと課題	139
引用参考文献	140
千歳市ユカンボシC2遺跡出土の植物遺体(吉崎昌一)	141

写真図版

挿図目次

II-1	遺跡の位置	4	34	Tピットの分布	49
2	発掘調査区の位置と周辺の地形	6	35	Tピットの大きさ	49
III-1	発掘区の表示	7	36	T1~4平面及び断面	51
2	発掘区の地形と遺構の位置	8	37	T5~8平面及び断面	53
3	土層断面	10	38	T9~12平面及び断面	55
IV-1	H1	12	39	T13~16平面及び断面	57
2	H1出土の土器	14	40	T17~20平面及び断面	59
3	H1出土の石器	14	41	T21~24平面及び断面	61
4	H2周辺の石器分布	15	42	T25~28平面及び断面	63
5	竪穴集中区の剥片分布	16	43	T29~32平面及び断面	65
6	H2平面及び断面	17	44	T33~36平面及び断面	67
7	H2出土の土器	18	45	T37~39平面及び断面	69
8	H2出土の石器	19	46	Tピット出土の土器	70
9	H3平面及び断面	20	47	Tピット出土の石器	70
10	H3出土の土器	22	48	焼土平面及び断面	72
11	H3出土の石器	23	49	焼土出土の土器	73
12	H4平面及び断面	25	50	焼土出土の石器	73
13	H4出土の土器	27	51	掘立柱建物跡B1及び杭跡	75
14	H4土器及び礫石器出土状況	28	52	掘立柱建物跡B2及び杭跡	76
15	H4出土の石器	29	53	ピット出土分布	77
16	H4石器出土状況	30	54	ピット形態分布	77
17	H5平面及び断面	32	V-1	縄文時代早期の土器	79
18	H5出土の土器	33	2	縄文時代早期の土器	81
19	H5出土の石器	34	3	縄文時代早期の土器	82
20	H6平面及び断面	35	4	縄文時代早期の土器	84
21	H6出土の土器	36	5	縄文時代前期の土器	86
22	H6出土の土器・土製品	37	6	縄文時代前期の土器	88
23	H6出土の石器	38	7	縄文時代前・中期の土器	89
24	H7平面及び断面と出土遺物	39	8	縄文時代後期の土器	91
25	H8平面及び断面	40	9	続縄文・擦文時代の土器	92
26	H8出土の土器	41	10	土製品	93
27	H8出土の石器	41	11	IIb層の土器分布(縄文時代早期)	95
28	H9平面及び断面	42	12	IIb層の土器分布(縄文時代早期)	96
29	H10平面及び断面	43	13	IIb層の土器分布(縄文時代早・前期)	97
30	H10出土の土器	44	14	IIb層の土器分布(縄文時代前期)	98
31	H10出土の石器	44	15	IIa層の土器分布(縄文時代中・後期)	99
32	P3出土の土器	46	16	IIa層の土器分布(続縄文時代・擦文時代)	100
33	土壌平面及び断面	47	17	石器類の分布	106
			18	包含層出土の石器(1)	110
			19	包含層出土の石器(2)	111

20	包含層出土の石器(3)	113
21	包含層出土の石器(4)	114
22	包含層出土の石器(5)	115
23	包含層出土の石器(6)	116
24	包含層出土の石器(7)	118
25	包含層出土の石器(8)	121
26	包含層出土の石器(9)	126
27	包含層出土の石器(10)	127
28	包含層出土の石器(11)	128
29	包含層出土の金属器	138

15	調査状況	161
	調査状況	161
16	土壌P 1 確認状況	162
	P 1 上半部土層断面	162
17	P 1 下半部土層断面	163
	P 1	163
18	土壌P 2 確認状況	164
	P 2 上半部土層断面	164
19	P 2 半割状況	165
	P 2 下半部土層断面	165
20	P 2	166
	P 2 中央ピット	166
21	調査状況	167
	調査状況	167
22	土壌P 3 土層断面	168
	P 3	168
23	P 3	169
	P 3 壇底	169
24	Tピット T 1 断面	170
	T 1	170
25	T 2 断面	171
	T 2	171
26	T 3 断面	172
	T 4 断面	172
	T 3 (左)・T 4 (右)	172
27	T 5 断面	173
	T 5	173
	T 8 断面	173
	T 9	173
28	T11断面	174
	T12断面	174
	T13	174
	T14	174
29	T15断面	175
	T15	175
	T17断面	175
30	T18断面	176
	T17・T18(奥)	176
	T20	176
	T22	176

写真図版目次

図版 1	空中写真	147
2	調査前全景(南東から)	148
	調査前全景(北東から)	148
3	調査前全景(北西から)	149
	発掘作業の開始	149
4	調査状況	150
	調査状況	150
5	管理用道路の立会調査	151
	土層断面(3・2区)	151
6	沢跡の土層断面	152
	竪穴住居跡H 1 の調査	152
7	竪穴住居跡H 2	153
	H 2 遺物出土状況	153
8	竪穴住居跡H 3	154
	H 3 遺物出土状況	154
9	竪穴住居跡H 4	155
	H 4 遺物出土状況	155
10	竪穴住居跡H 5 調査状況	156
	竪穴住居跡H 5	156
11	竪穴住居跡H 6	157
	H 6 遺物出土状況	157
12	竪穴住居跡H 7 の確認状況	158
	竪穴住居跡H 7	158
13	竪穴住居跡H 8	159
	H 8 土層断面	159
14	竪穴住居跡H 9	160
	H 9 土層断面	160

31	T24断面	177	49	H 4 出土の土器	195
	T24	177	50	H 4・5・6 出土の土器	196
	T25	177	51	H 6 出土の土器	197
32	T32 (左)・T24 (右)	178	52	H6・7・8・10その他の遺構出土の土器	198
	T27確認状況	178	53	遺構出土の剥片石器	199
33	T31(左)・T32(中)・T24(右)	179	54	遺構出土の剥片石器	200
	T28断面	179	55	遺構出土の剥片石器	201
	T28	179	56	遺構出土の礫石器	202
34	T30	180	57	包含層出土の土器(縄文時代早期)	203
	T31	180	58	包含層出土の土器(縄文時代早期)	204
	T32	180	59	包含層出土の土器(縄文時代早・前期)	205
	T34	180	60	包含層出土の土器(縄文時代前期)	206
35	T34(左)・T35(右)	181	61	包含層出土の土器(縄文時代中・後期)	207
	T36	181	62	包含層出土の土器・土製品	208
	T37	181	63	包含層出土の剥片石器	209
36	T38	182	64	包含層出土の剥片石器	210
	T39	182	65	包含層出土の剥片石器	211
37	調査状況	183	66	包含層出土の剥片石器	212
	調査状況	183	67	包含層出土の剥片石器	213
38	焼土 F P 4	184	68	包含層出土の剥片石器	214
	F P 7	184	69	包含層出土の石斧	215
39	F P 7 断面	185	70	包含層出土の礫石器	216
	F P 10断面	185	71	包含層出土の礫石器	217
40	玉出土状況	186	72	包含層出土の礫石器・ピッ	218
	槍先出土状況	186	73	堀立柱・杭	219
	土器出土状況	186			
41	遺物出土状況	187			
	剥片出土状況	187			
42	掘立柱建物跡 B 1	188			
	掘立柱跡	188			
43	掘立柱と杭跡の断面	189			
	掘立柱断面	189			
44	掘立柱断面	190			
	杭跡	190			
45	杭跡断面	191			
	杭跡断面	191			
46	杭跡の調査	192			
	旧石器確認調査	192			
47	H 1・2 出土の土器	193			
48	H 3 出土の土	194			

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：長都地区道営畑地帯総合土地改良事業用地内埋蔵文化財発掘調査

事業委託者：北海道石狩支庁

事業受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：ユカンボシC2遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-04）

所在地：千歳市長都216-10ほか

調査面積：2,710m²

調査期間：平成5年4月27日～平成6年3月25日

（発掘 平成5年5月6日～10月30日・整理 平成5年11月4日～平成6年3月25日）

2 調査体制

理事長 寺山 敏保（平成5年8月10日まで）

〃 阿部 茂（平成5年8月11日から）

専務理事 永田 春男

常務理事 中村 福彦

調査部長 森田 知忠

調査第1課長 鬼柳 彰（発掘担当者）

主任 田才 雅彦（〃）

嘱託 鈴木 信

3 調査に至る経緯と調査の経過

石狩支庁農業振興部は千歳市の申請に基づき、同市北部の都地区と長都地区において、道営畑地帯総合土地改良事業を実施中である。都地区は昭和61年度、長都地区は同63年度から農道整備のほか客土や排水施設等の工事が進められている。

両地区の境を流れる長都川と、長都地区を東流するユカンボシ川の両岸には、多くの遺跡があることからこれらの工事に先だち、埋蔵文化財保護のための協議が行われてきた。

範囲確認調査は北海道教育委員会によって平成元年度から行われ、ユカンボシ川右岸（長都地区）のユカンボシC2・C9・C13、および長都川右岸（都地区）のオサツ2・14の各遺跡について、工事計画の変更が不可能な部分の発掘調査が行われることとなった。ユカンボシC2遺跡では排水機場の建設が予定されており、ほかの4遺跡ではそれぞれ遺跡の中を通る農道の整備と排水溝の工事等が計画されている。

上記の5遺跡のうち、ユカンボシC13遺跡では千歳市教育委員会が平成3年度に調査を実施した（千歳市教育委員会 1992『千歳市文化財調査報告書XVII』）。オサツ2遺跡は平成4年8月より当センターが調査を行っており、平成6年度に終了する予定である。オサツ14遺跡は平成6年度、ユカンボシC9遺跡は7年度以降に調査を実施する計画である。

範囲確認調査では黒色土下部から縄文時代早期の土器片が9点、出土したのみであったが、千歳市教育委員会が平成1・2年度に実施した、本遺跡主体部の発掘調査では、擦文時代の大規模な集落跡

I 調査の概要

とアイヌ文化期の遺構が見つまっていることから、調査の計画に当っては黒色土上部にも、ある程度の遺構・遺物を想定した。

発掘作業は長都川の対岸に位置するオサツ2遺跡の調査と並行して行った。発掘された遺構・遺物の時期は当初の予測にほぼ一致していたが、数量は大幅に超過した。調査面積は2,760㎡の計画であったが、調査区北東隅にあるポンプ小屋の移転が今年度中にできなかったことから、50㎡減となった。この部分については、来年度に調査する予定になっている。なお、東6線道路から排水機場予定地に入る管理用道路については、北海道教育庁文化課が工事立会調査を実施した。(鬼柳)

4 調査結果の要旨

発掘の結果、今回の調査区は縄文時代早期の集落を主体とする遺跡であることが明らかになった。発見された竪穴住居跡は10軒である。8軒(H1・2・4～6・8・10)が調査区南西部にまとまっており、伴出遺物から縄文時代早期に構築されたものと判断される。このうち、H4は長径8.5mを計る大型の住居跡である。調査区北西隅に一部分が検出されたH9は、昭和63年度に千歳市教育委員会が調査した縄文早期の竪穴住居跡に続く遺構の可能性がある。調査区中央部に位置するH3は伴出遺物がなく、構築時期は不明であるが、他と同じく縄文早期の遺構と推定される。H7は時期不明である。

P1とP2は漏斗状の形態をもつ土壌である。樽前a降下軽石層(Ta-a)直前の遺構と推定されるが、用途については明らかではない。P3はいわゆるフラスコ状のピットである。P4からは多量の剝片類が出土している。

Tピットは調査区全域に分布している。長短さまざまで、2～3基単位で列をなすようである。

焼土は10ヵ所検出された。縄文時代から擦文時代まで各時期のものがある。

調査区北西部に確認された掘立柱跡のうち、建物の規模を推定できるのは2ヵ所である。杭跡は北半部に多く分布している。柱跡、杭跡ともに基部が残っている例があった。

出土した土器は縄文時代早期のコッタロ式が多く、東釧路Ⅲ式・Ⅳ式、中茶路式がこれに次ぐ。後期の余市式や続縄文時代、擦文時代の土器もある。剝片石器では石鏃と加工痕のあるフレイクが多い。礫石器では石斧とすり石が多く、たたき石、石皿、台石などもある。カンラン岩の垂飾が1点出土している。

(鬼柳)

表I-1 遺構一覧

竪穴住居跡	10	縄文時代早期 9、時期不明 1
土 壙	4	縄文時代 2、近世アイヌ文化期 2
Tピット	39	縄文時代中期～後期
焼 土	10	縄文時代～擦文時代
掘立柱跡	37	掘立柱建物跡 2
杭 跡	537	近世アイヌ文化期

表I-2 遺物一覧(点数)

土 器 片	12,318	縄文 11,967、続縄文 36、擦文 327
土 製 品	12	縄文
剝片石器	484	
礫 石 器	121	
剝 片	11,586	
木 製 品	29	掘立柱および杭
鉄 製 品	3	
計	24,553	

II 立地と環境

1 遺跡の位置と歴史的環境

千歳市は石狩支庁管内の最南端に位置している。市域は東西に長く、西は支笏湖から東は夕張山地の西端にあたる馬追丘陵におよんでいる。市街地は丘陵に挟まれた平地に発達している。この平地は石狩平野の最南端にあたり、南方のなだらかな丘陵を経て太平洋側の勇払平野に続いている。千歳市街から太平洋岸（苫小牧市）までの距離は10kmほどに過ぎない。

札幌―苫小牧低地帯は、先史時代から文化的・地理的に北海道を二つに分ける境界であった。また、古くから日本海側と太平洋岸を結ぶ交通路でもあり、今も平野の西端を国道36号とJR千歳線が縦断、西側の丘陵部には道央自動車道（北海道縦貫自動車道）が通っている。苫小牧市との境界には新千歳空港が位置している。

支笏湖の周辺は、樽前山（1024m）・不風死岳（1103m）・恵庭岳（1320m）などが並ぶ山岳地帯である。支笏湖のカルデラや恵庭岳を噴出源とする降下火山灰は、千歳市以東の広い範囲に分布しており、遺構・遺物の年代決定の指標になっている。支笏湖東岸に源をもつ千歳川は山間部を東流して千歳市街に入り、平野部を北流して江別市で石狩川に合流する。石狩川下流部では最大の流域面積をもつ支流である。この千歳川にも長都川、漁川、島松川など多くの支流がある。長都川は市街地西側の山間部に源を発し、ポンオサツ川・勇舞川・ユカンボシ川などの支流を集めて北東へ流れ、千歳川に注いでいる。ユカンボシ川は恵庭市の市街地南部にある恵庭公園の湧水に水源をもち、約6.5km東流して長都川に入っている。

今回、発掘調査を行ったユカンボシC2遺跡は、ユカンボシ川の両岸に多数分布する遺跡のうち最も下流に位置している。長都川の河口からは約1km上流の左岸にあたる。千歳市の市街地から北方へ約4km、恵庭市の市街地から約5km離れた田園地帯で、周辺には畑や牧草地が広がっている。

ユカンボシC2遺跡の範囲は南北およそ300m、東西約250mである。今回、調査の対象となったところは長都川との合流点のすぐ南西で、本遺跡のうち最も東側にあたる。調査区の北側を走る市道南24号に沿って続く、国有保安林にはクルミ・ハンノキ・ナラなどの樹木が生い茂っている。

千歳市の北東部には、かつて長都沼（オサツト）と馬追沼（マオイト）と呼ばれる沼があつて、千歳川は長都沼を貫流していた。長都川や右岸の祝梅川もそれまでは長都沼に注いでいた。二つの沼は昭和26年から45年にかけて行われた干拓工事で埋め立てられ、今は広大な牧草地や耕地として利用されている。千歳川も千歳市街から長都沼までの間が改修され、河道は西側に移っている。長都川は本来、本遺跡付近では調査区より300mほど東側の東7線道路に近い所を流れていたが、下流部が直線化され、今の位置に河道が変更されている。ユカンボシ川も調査区よりも約300m下流で長都川に入っていたが、現在の位置に河道が移されている。ユカンボシ川の改修は下流の千歳市側がすでに終了しているが、現在、上流の恵庭市で工事が進められている。

これらのことから、本遺跡を取りまく自然環境は二次的なものであることが分かる。千歳市から恵庭市にかけての平野部のうち、千歳川に近い地域は明治の開墾当時から洪水の頻発地帯であった。水田造成のため明治時代中ころから、川の埋立てなどの治水工事が行われてきた。仮製5万分1図（明治19年）には、今回の発掘調査区のすぐ南に、長都川に入る無名の小川が記されている。現在もこの部分は周囲よりも低くなっており、今回の発掘で調査区南端がこの小川の左岸にかかっていることが判明した。

II 立地と環境

平成元・2年度、ユカンボシ川の改修工事に伴い千歳市教育委員会が実施した本遺跡の発掘調査では、調査区西半部に擦文時代の竪穴住居跡が33軒見つかり、東半部では、土壇・Tピット・掘立建物跡・杭跡などの遺構が多数発掘されている。

江戸時代、千歳市を含むこの地域は「シコツ」と呼ばれていた。寛文年間のシャクシャインの戦いの時には、ハエクルの指導者オニビシの勢力下にあったといわれる。アイヌの人たちとの交易を目的とした「シコツ十六場所」にはオサツ場所が含まれ、寛政12年には幕府の東蝦夷地直轄のもと、ユウブツ場所の管轄下に入っている。幕末に蝦夷地を探検した松浦武四郎の日記には、長都川の川口付近にアイヌの集落があることが記されている。

シコツという地名は永田方正著『北海道蝦夷語地名解』によると、アイヌ語で「大谷」を意味するが、幕末に和人が「チトセ」に改称したものである。オサツは同書に「溜レ川尻 此川夏日ニ至レバ沼ニ注ク處乾涸セル故ニ名ク」とある。ユカンボシは、長見義三著『ちとせ地名散歩』で「yuk-ampa-usi シカ・がたくさんいる・所」と解釈されている。(鬼柳)



図II-1 遺跡の位置 1:50000

2 周辺の遺跡と発掘調査

長都川とその支流両岸には、現在までに約60ヵ所の遺跡が確認されている。このなかには古くから知られている遺跡もあるが、昭和50年代に千歳市および恵庭市の教育委員会が実施した分布調査で発見されたものや、近年の各種開発工事に伴う所在確認調査で確認された遺跡も多い。縄文時代の遺跡が多数を占めるが、擦文時代の集落跡と推定されているところが14ヵ所ある。長都川の右岸には「都のチャシ」、左岸に「長都チャシ」が位置し、ユカンボシ川中流部にあるユカンボシ C10遺跡には、かつて北海道式古墳とみられる盛土があったという。

長都川と支流域では古くから遺跡の調査が行われてきた。大正11年に河野常吉が長都チャシを調査、昭和25年には河野広道がユカンボシ C1 遺跡の「古墳様墳墓」で土師器・直刀3振を発掘している。このほかにも、HOWARD A.MacCORD による長都田中遺跡の調査（昭和28年）、大場利夫と石川徹による恵庭公園遺跡の調査（昭和41年）などの先駆的業績がある。なお、ユカンボシ C2 遺跡では石川徹が昭和41年に、保安林の中にある擦文時代の竪穴住居跡を1基調査している。

昭和60年代になると、開発工事に伴う発掘調査が増加する。ユカンボシ川両岸では、各種の造成工事や河川改修工事などに伴い、上流の恵庭市で5遺跡、下流の千歳市で7遺跡の発掘調査が行われた。長都川本流の右岸では、当センターが昨年度からオサツ2遺跡を調査しており、擦文時代の集落跡や続縄文時代の墓が見つまっている。支流の勇舞川上流左岸にあるイヨマイ6遺跡でも、平成1・2年に発掘調査が行われている。（鬼柳）

表II-1 長都川と支流の流域における発掘調査

遺跡名	調査年	調査者	おもな、遺構・遺物と文献（報告書）
オサツ2	1992～	縄文センター	縄文中・後期、擦文時代の竪穴住居群。続縄文期の墓地。擦文以降の木製品。調査中。
都のチャシ	1967	大場・石川	チャシ(?)の周溝、土塁。『千歳遺跡』(1947)に「都遺跡」の名称にて所収。
長都田中	1953	MacCORD	擦文時代の竪穴住居跡。『CULTURAL SEQUENCES IN HOKKAIDO』(1960)
イヨマイ6	1989・90	千歳市教委	縄文～擦文時代の遺物。『イヨマイ6遺跡における考古学的調査(1)・(2)』(1989・90)
恵庭公園	1963	大場・石川	擦文時代の竪穴住居跡。『恵庭遺跡』(1946)所収。
ユカンボシE8	1988・89	恵庭市教委	縄文早～後期の竪穴住居群、土壇群。『ユカンボシE8遺跡』(1989)
〃 B地点	1990・91	〃	縄文早～後期の竪穴住居。土壇群。『ユカンボシE3遺跡A地点・ユカンボシE遺跡B地点』(1992)
ユカンボシE3A地点	1991	〃	縄文後期の竪穴住居群。中・後期の土壇群。報告書、同上。
〃 B地点	〃	〃	縄文中・後期の竪穴住居群。前・後期の土壇(墓)群。『ユカンボシE3遺跡B地点』(1992)
ユカンボシE4	1991	縄文センター	Tピット。擦文時代の竪穴。『恵庭市ユカンボシE4遺跡』(1992)
ユカンボシE5	1991・92	〃	縄文前・中期の竪穴住居。Tピット群。『恵庭市ユカンボシE5遺跡』(1993)
ユカンボシE9	1992	恵庭市教委	縄文早～後期の土壇。続縄文・擦文時代の焼土。
ユカンボシC1	1950	河野広道	「古墳様墳墓」。土師器・直刀3振。宇田川洋『河野弘道ノート 考古篇1』(1981)所収。
ユカンボシC2	1966	石川 徹	擦文時代の竪穴住居。『続千歳遺跡』(1979)所収。
	1988・89	千歳市教委	擦文時代の竪穴群。近世の掘立柱建物跡。『ユカンボシ2遺跡発掘調査概報(1)・(2)』(1989・90)
	1993	縄文センター	縄文早期の竪穴群。Tピット群。近世の掘立柱建物跡。報告書一本書。
ユカンボシC3	1990	千歳市教委	擦文時代の竪穴住居。『ユカンボシ3・5・6遺跡発掘調査概要報告』(1990)
ユカンボシC5	1990・91	〃	擦文時代の竪穴住居。近世の掘立柱建物跡。概要報告、同上。
ユカンボシC6	1990	〃	縄文中期～近世。報告書、同上。
ユカンボシC8	1991	〃	縄文時代の土杭、擦文時代の竪穴住居、近世の掘立柱建物跡ほか。
ユカンボシC11	1992	〃	縄文後期(?)の土杭群。続縄文時代(?)の焼土群。
ユカンボシC13	1991	〃	縄文前期～続縄文。縄文の竪穴住居。『千歳市文化財調査報告書XVI』(1992)



図II-2 発掘調査区の位置と周辺の地形（網点は千歳市教委調査区）

III 調査の方法

1 発掘区の設定

発掘区は、工事予定地の南西にある用地境界杭 (L3) を原点 ($X=0$ 、 $Y=0$) とし、L2 杭方向 (南東) を X 軸の正方向、L4 杭方向 (北西) を Y 軸の正方向とする座標を設定した (図III-1)。

グリッドは ($X \cdot Y$) で表示する $10\text{m} \times 10\text{m}$ の大グリッドを基本とし、各々の大グリッドを $1\text{m} \times 1\text{m}$ の小グリッド (xy) 100個に分割した。各グリッドの表示は、大グリッドの場合、 $1 \cdot 0$ 区、 $1 \cdot 3$ 区、 $2 \cdot 6$ 区などとし、小グリッドを差す場合には、 $0 \cdot 5 - 00$ 区、 $3 \cdot 0 - 55$ 区などとした。

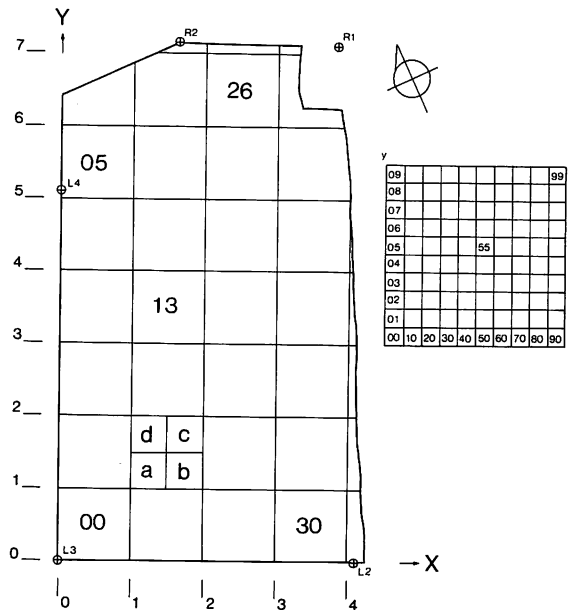
なお、当初は遺物の出土予想点数が少なかったことから、 $5\text{m} \times 5\text{m}$ の小グリッド ($a \sim d$) で遺物取り上げを行っており、その際は $1 \cdot 1 - a$ などと表示している。

各基準杭の座標は以下のとおりである。

L2 杭： $X=-125,082.55$ 、 $Y=-49,310.07$ 。L3 杭： $X=-125,064.01$ 、 $Y=-49,346.08$

L4 杭： $X=-125,018.41$ 、 $Y=-49,322.60$

R1 杭： $X=-125,018.21$ 、 $Y=-49,279.92$ 。R2 杭： $X=-125,008.20$ 、 $Y=-49,299.38$



図III-1 発掘区の表示

2 層序

調査区の土層は南西側壁でとった (図III-3)。

耕作土：基本的には重機で除去したが、心土耕のため一部は包含層に食い込んでいた。

Ta-a：白色火山灰。1739年降灰の樽前 a 降下軽石層。

Ia 層：黒褐色～暗灰褐色粘質土。低地部分にみられる。

B-Tm：淡緑色火山灰。10世紀頃の降灰とされる白頭山-苦小牧火山灰。凹地に極部分的にみられる。

II a 層：パミスを含む黒色土。縄文時代晩期以降の遺物包含層。

1 間層：黄褐色を呈す、草本と Ta-c (樽前 c 降下軽石) 層。

II b 層：パミスを含まない黒色土。縄文時代晩期以前の遺物包含層。

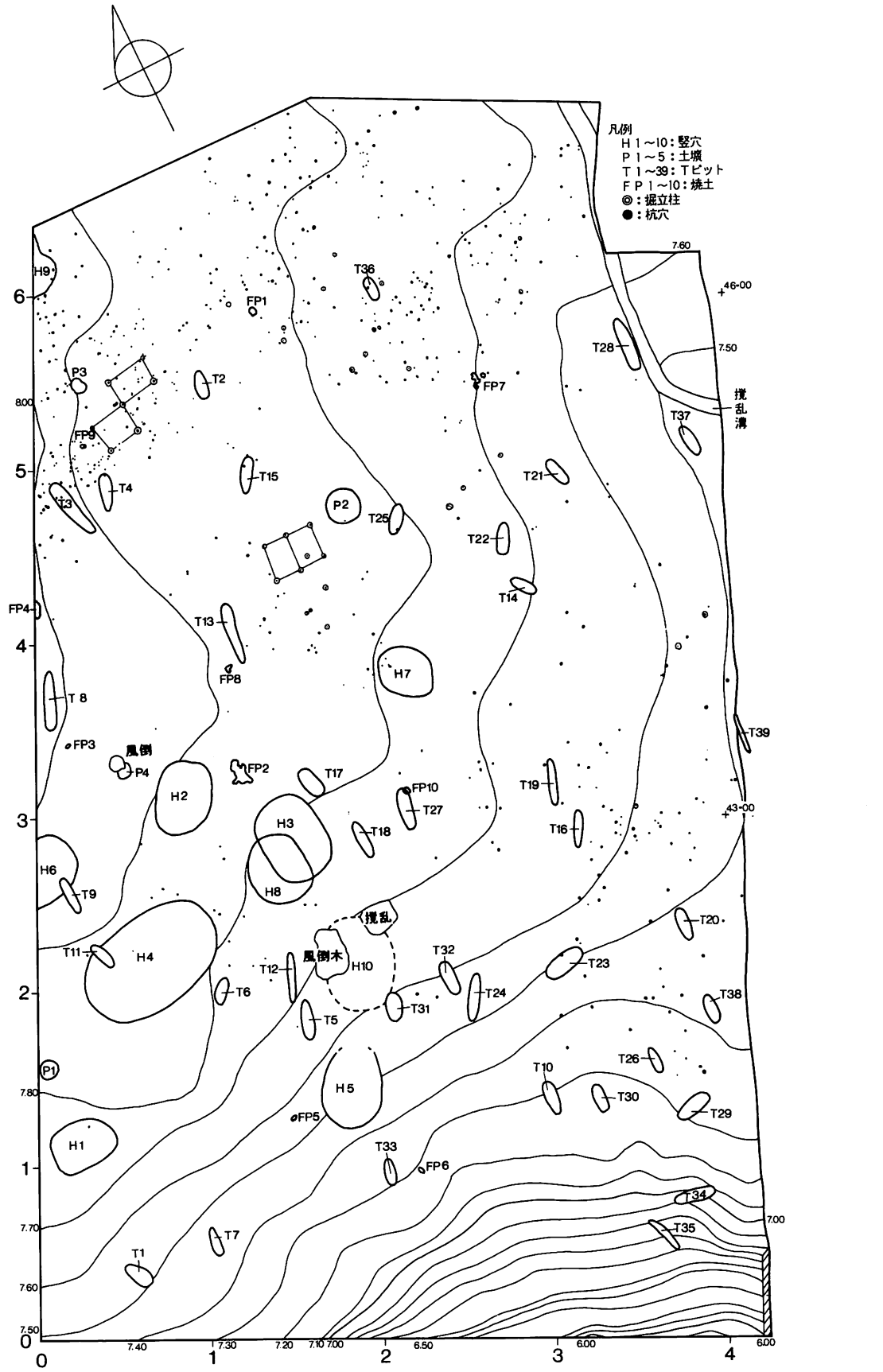
III 層：暗褐色ないし黄褐色土 (漸移層)。上面が縄文時代早期の遺物包含層。

IV 層：黄褐色土。

V 層：Va 層 (黄褐色大粒軽石、粒径 $1 \cdot 2\text{cm}$ から 20cm に達するものもある。いずれも角がとれて丸い) と Vb 層 (灰白色砂) が互層をなしている。土層断面図には現れないが、Tピットの下部など深い部分では Vc 層 (青灰色細粒砂) もみられる。

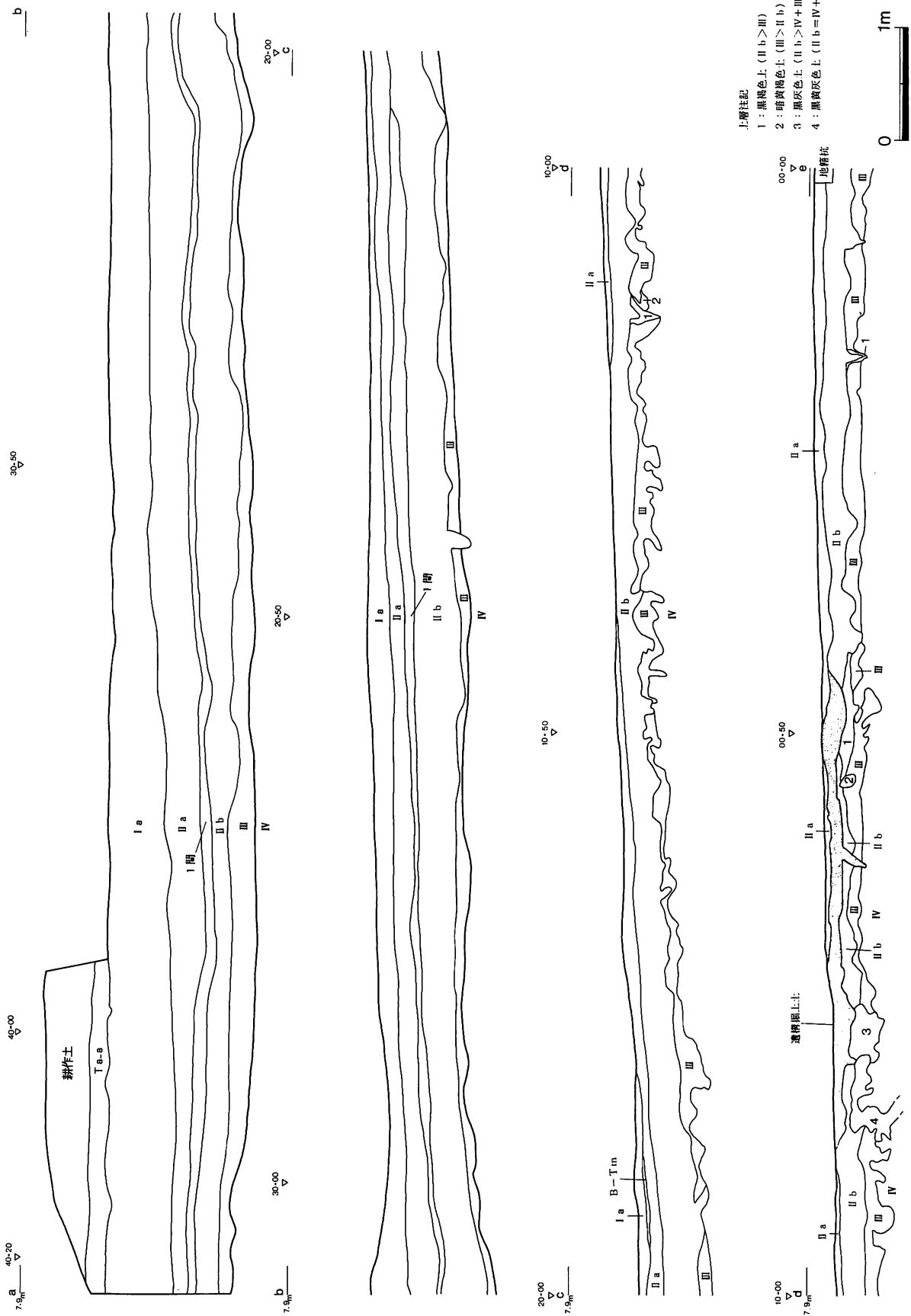
(田才)

III 調査の方法



図III-2 発掘区の地形と遺構の位置
 (コンターはIV層上面)





図III-3 土層断面

III 調査の方法

3 遺物の分類

1) 土器の分類

今回の調査で出土した土器は縄文時代のものが11,967点（早期8,221点、前期818点、中期284点、後期743点、時期不明1,538点）、続縄文時代ものが36点、擦文時代のものが327点である。土製品は12点出土している。

基本的な分類は、『美沢側流域の遺跡群』において昭和51年以来修正を加えながら使用しているものに準拠し、3・4年度のユカンボシE5遺跡の分類にほぼ従っている。

I群 縄文時代早期に属する土器。

a類：貝殻復縁圧痕文、条痕文が施された土器群。今年度の調査では出土していない。

b類：縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付帯が施された土器群。

b 1類：東釧路Ⅱ、Ⅲ式に相当するもの。今年度の調査で多量に出土している。

b 2類：コッタロ式に相当するもの。今年度の調査で遺構の時期の主体をなすもの。

b 3類：中茶路式に相当するもの。今年度の調査で少量出土している。

b 4類：東釧路Ⅳ式に相当するもの。今年度の調査で極く少量出土している。

II群 縄文時代前期に属する土器。

a類：胎土に繊維を含み、厚手で縄文の施された円底、尖底の土器群。

a 1類：網文土器、組紐回転文、羽状縄文が施された土器に相当するもの。今年度の調査で多量に出土している。

a 2類：静内中野式に相当するもの。

b類：円筒土器下層式、大麻Ⅴ式相当する土器群。今年度の調査では出土していない。

III群 縄文時代中期に属する土器。

a類：円筒土器上層式、萩ヶ岡1・2式に相当するもの。

b類：天神山式、柏木側式、北筒式に相当するもの。

b 1類：天神山式。今年度の調査では出土していない。

b 2類：柏木川式。

b 3類：北筒式（トコロ6類）に相当するもの。

IV群 縄文時代後期に属する土器。

a類：余市式～入江式に相当するもの。今年度の調査で多量に出土している。

b類：手稲式～エリモB式に相当するもの。今年度の調査では出土していない。

c類：堂林式～御殿山式に相当するもの。今年度の調査では出土していない。

V群 縄文時代晩期に属する土器。今年度の調査では出土していない。

VI群 続縄文時代に属する土器。今年度の調査で極く少量出土している。

VII群 擦文時代に属する土器。今年度の調査で多量に出土している。

(鈴木)

2) 石器の分類

今回の調査で出土した石器等の総数は28,198点で、内訳は剥片石器類603点、剥片22,510点、焼けた剥片4,445点、礫石器類157点、方割礫334点、礫149点である。

基本的分類については、「忍路土場遺跡・忍路5遺跡」の報告(1989)で示した基準を踏襲しているが、以下に特徴的なものあるいは本文中に用いる略語について記す。

搔器：ラウンド・スクレイパーのほか、刃部角度が直角に近いものと斜めのものを、それぞれ直角刃・斜角刃とし、粗い調整によってエッジを波形に作り出しているものを波形刃として区分した。

F・C集中：剥片(flake)・碎片(chip)が集中して出土した地点。

R・F(retouched flake)：二次加工(retouch)のある剥片。器種の特典できない各種石器の未製品。破損品を含む。

U・F(utilized flake)：使用痕(主として肉眼、一部実体顕微鏡での識別による)のある剥片。

B・F(burned flake)：焼けた剥片。肉眼での分類で、黒曜石はかなり明確に区分できるが、頁岩やメノウの場合、焼けが弱いものについては区分しきれないものがある。なお、焼けの段階については以下のように表現した。

- ① カキモチ状に焼け：全体に真っ白く発泡して破裂した状態。
- ② 極度に焼け：発泡部分が多く、破裂寸前の状態。
- ③ 酷く焼け：全体に白く濁り、発泡している部分がみられる状態。
- ④ 良く焼け：全体に白濁している状態。
- ⑤ 焼け：白濁部分や流紋岩球顆部分が発泡しかけている状態。

縞頁岩：木目状の白い縞がみられる珪質の頁岩で、珪化木の可能性がある。一般の頁岩と区別するため縞頁岩とした。同様の石材は、一昨年・昨年と調査した恵庭市のユカンボシE4・5遺跡でも出土している。なお、この石材は漁川上流部で採取できる。

石斧：製作過程での素材残片や剥片、使用過程での剥片類を含む。

板状礫：厚さ6cm未満の板状を呈する礫。石皿・台石の素材として、あるいはそのまま台石的に用いられたものと考えている。

ピツ(pit)：出土状態から、ゴザなどを編む際に用いられる小石と考えられるもので、一般の礫とは区別して扱った。

方割礫：様々に割られた(割れた)礫で、ワッカオイ遺跡の報告(1977)で飽津が注目した「方割石」に準じ、破断面の数によってB型(1面)～E型(4面)と、その他の破片に細分した。なお、破断面0のA型は礫として扱っている。

略記号について

図版中に用いた略記号は、以下のとおりである。

PNo：土器片の遺物番号

YNo：剥片石器類の遺物番号

BNo：礫石器類の遺物番号

WNo：木製品の遺物番号

GNo：その他遺物(鉄製品・種子等)の遺物番号

剥片石器の略記号は、以下のとおりである。

A r：石鏃、Po：石槍、Do：石錐、Pe：楔形石器、No：抉入石器、Sc：搔器

T k：つまみ付きナイフ、Kn：削器、Co：石核、Br：石刃

(田才)

IV 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

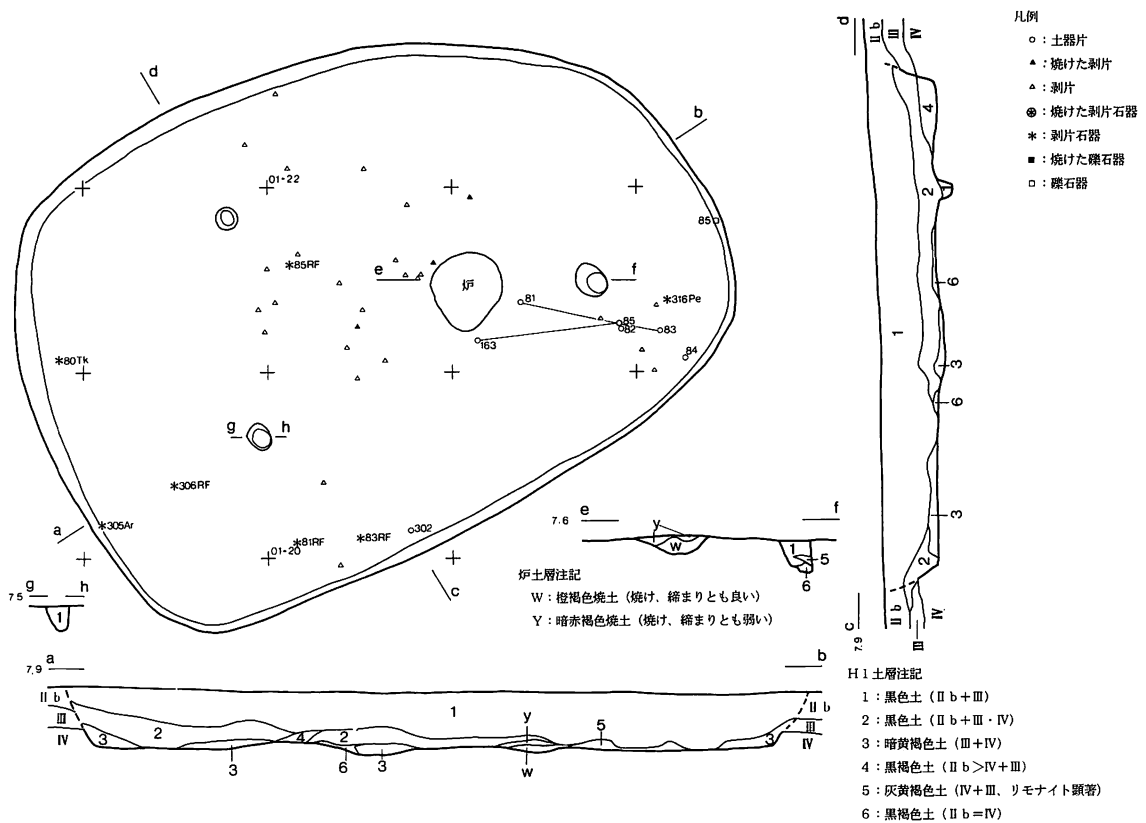
10軒の竪穴住居跡を確認した。このうちH1・2・4～6・8・10の7軒は、出土遺物などからコッタロ式期のもと思われる、もっとも大きなH4を中心にして、それをとりまくように残りの5基が位置している。H3は東釧路Ⅲ式期のもと思われる、H8に切られている。H7は時期の特定できる伴出遺物がないため時期不明である。H9は、昭和63年度に千歳市教育委員会が調査したⅡH-1の続きになる竪穴とみられ、東釧路Ⅲ式期のもと思われる。

1) H1 長さ(確認面での最大値、以下同じ) 381cm 幅273cm 深さ35cm

○・1-21区を中心とする南向きの緩い斜面で確認した。確認面はⅢ層中位からⅣ層上面である。平面形は不整な楕円を呈し、長軸はほぼ東西方向にある。墳底はほぼ平坦であるが、中央部が若干皿状に窪んでいる。

中央やや東よりに地床炉がある。掘り込みはなく、焼土は下位の部分が良く焼けて締まっており、橙褐色を呈す。なお、炉の周囲はリモナイトによって赤褐色に変色した部分が広がっており、焼土との判別が難しかった。焼土についてはフローテーションを実施したが、炭化種子等の遺物は検出されなかった。

柱穴と思われる小ピットは3カ所確認した。炉東側の小ピットは、床面からの深さが約15cmで、若干西側に傾いている。



図Ⅳ-1 H1平面及び断面

床面出土の土器はコッタロ式のみであり、本竪穴は該期のものと考えられる。図IV-2-3は、炉の東側から東南隅にかけて出土した底部破片（遺物No81・83・85・163）と、覆土1層出土の破片が接合している。底径は約7.5cmで、底面が強く張り出す部分がみられ、周囲に刻みが施されている。立ち上がりはやや内傾したのち外へ開く。底面の内側は弧を描くように強くなでられ、周囲に刻みが施されている。中央からやはずれた部分が乳房状に盛り上がって残されている。地文は羽状縄文で、貼付帯上には押捺による刻みが施されている。胎土は砂粒が多く、外面は赤褐色を呈し、内面には黒色有機物が付着している。同2は別個体の底部片（遺物No84）で、胎土は黒雲母や長石が目立つ。色調は内外とも灰褐色である。立ち上がりは内傾することなく、3よりも大きく外へ開く。

覆土出土の土器片は、3に接合したコッタロ式のほかに、早期、前期の破片がある。図IV-3-1は、竪穴南側の覆土2層（遺物No302）から出土した東釧路Ⅲ式の口縁部片で、絡条体圧痕が縦位に施されている。また、口唇にも同一原体による圧痕がみられ、その結果口唇直下が肥厚している。前期の土器片は、0・1-30,40区の覆土1層からまとまって出土したもので、磨滅が激しく接合が困難であったが、II群a1類に属する同一個体のものと思われる。

床面出土の剥片石器は、石鏃（図IV-3-2）、楔形石器（同3）、削器（同7）、R・F（同9・10）、U・Fの計6点がある。2は無柄凹基鏃であるが、剥離が粗雑で肉厚になり、凸状部も残っており、ねじれている。3は図の上下及び左側縁がつぶれており、右側縁は欠損している。下端には刃部調整もみられ、削器の転用と思われる。7は頁岩製の削器で、図右端に刃こぼれ状の使用痕が顕著に認められる。9は楔形石器の、10は削器の可能性もある。剥片類は、竪穴中央部に比較的まとまってみられたが、H2~4のような集中（図IV-5参照）はなく、量的にも黒曜石の剥片・碎片が35点（うち4点が焼けている）と頁岩の剥片1点のみで少ない。

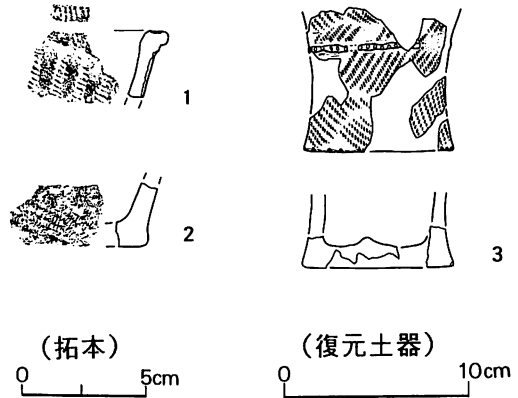
礫石器は、東壁の際から出土した蛇紋岩製の片刃石斧1点（図IV-3-11）のみで、方割礫や礫の出土もない。11は赤黒い色調を呈し、刃部から基部に向かって極端に細くなるものと思われるが、こうした形態の石斧は今回の調査ではほかに出土していない。両面に極めて丁寧なみがきがなされ、両側縁の面取りもしっかりしている。刃部は片減りしており、角度が急で、二段に研ぎ出されている。

覆土出土の石器類は、石鏃（図IV-3-1）、つまみ付きナイフ（同4・5）、削器（同6）、R・F（同8）、U・Fと、黒曜石の剥片類27点（うち1点は焼けている）がある。1は透明度の高い黒曜石を素材としており、全体に丁寧な調整が施された無柄凹基鏃である。4・5は共に頁岩素材で、4の先端側はかなり顕著に上方に反っている。6は背面に原石面、腹面に凸状部が残されており、両端はわずかに上方に反っている。8は石鏃もしくは石錐の未製破損品の可能性がある。

IV 遺構と遺物

表IV-1 H1土器集計

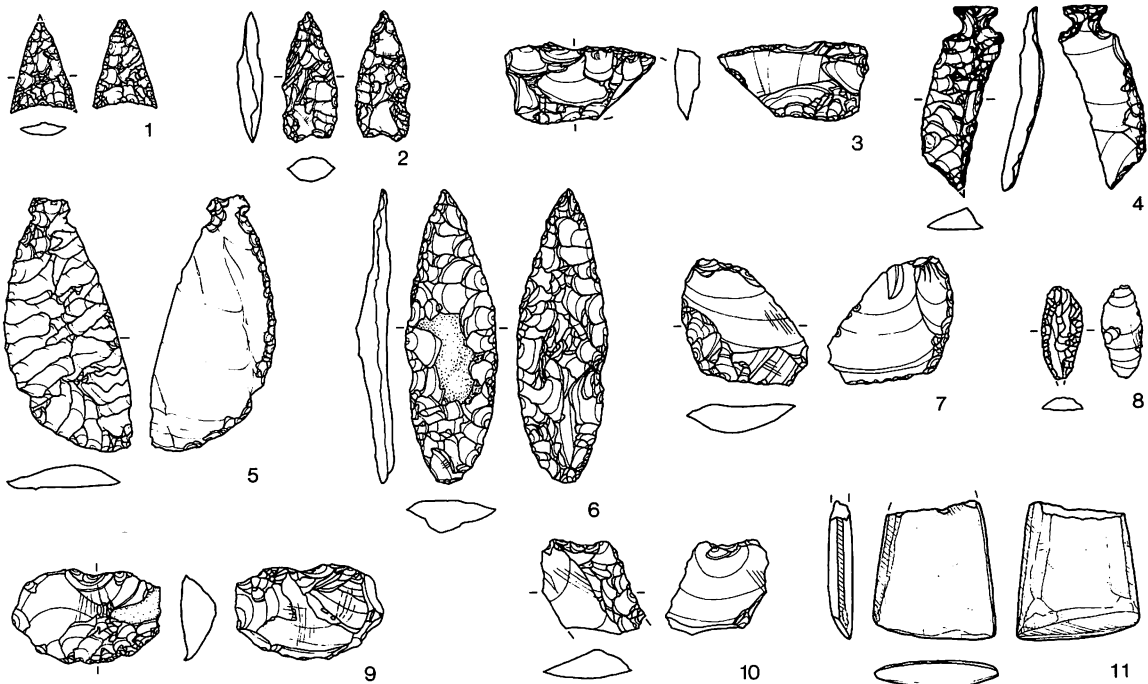
層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土1	前期 東銅路Ⅲ	前期 156	前期 156	1
		コッタロ	コッタロ	
覆土2	東銅路Ⅲ	●	前期	1
床 面			コッタロ	1



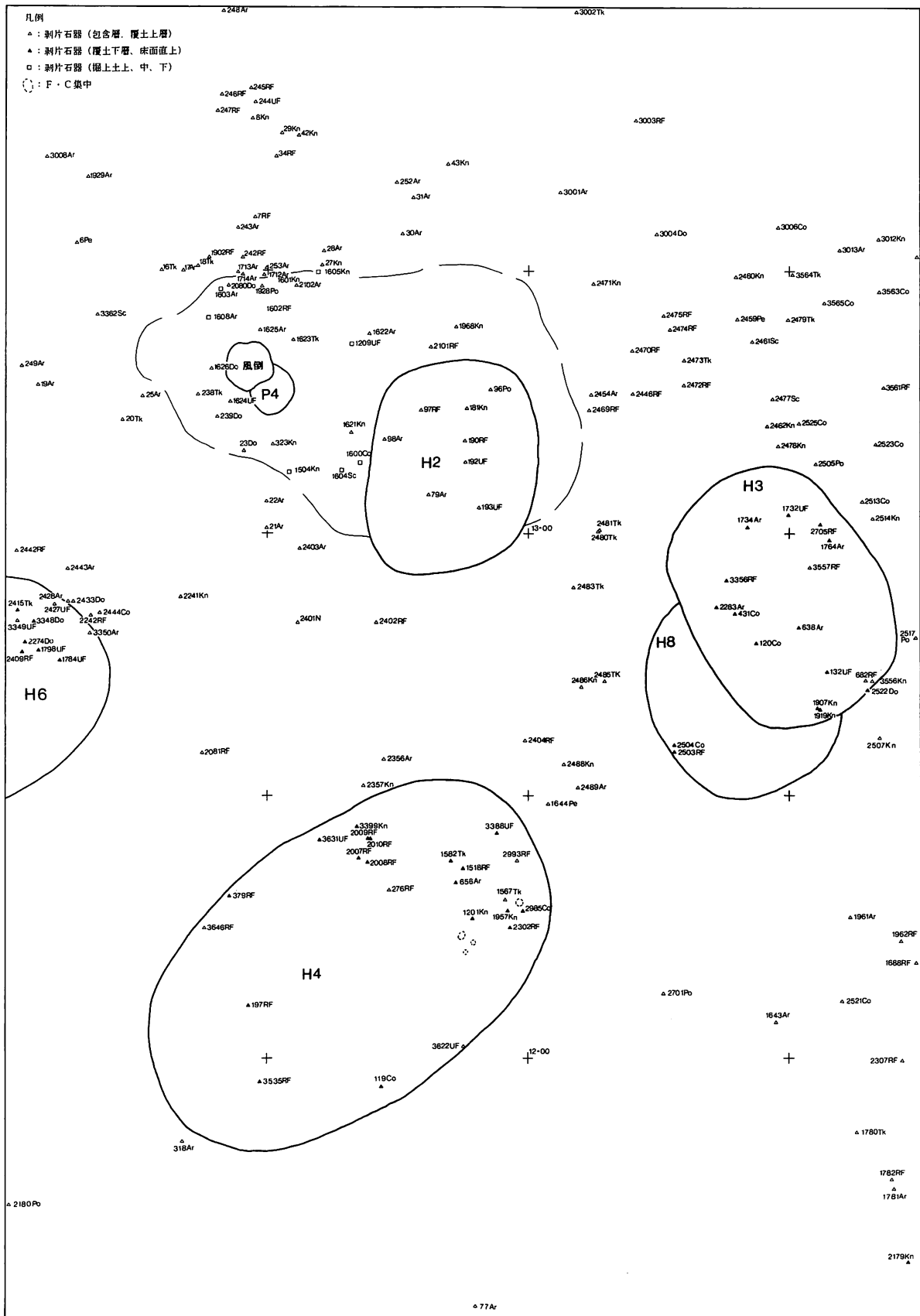
図IV-2

表IV-2 H1出土石器一覧

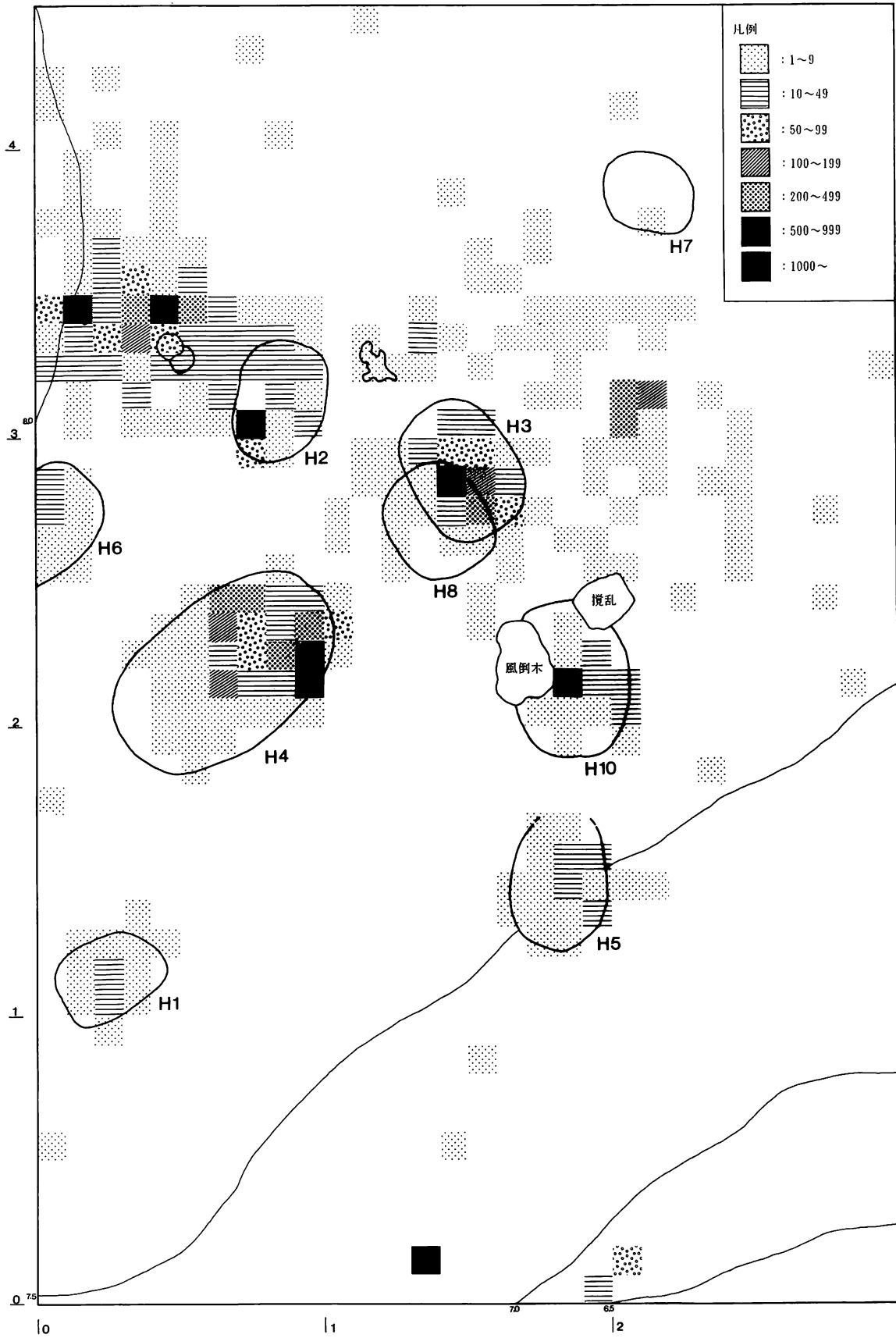
No.	層位	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	覆土1	24.0	18.0	3.2	1.2	石鏃	黒曜石	1	66	無柄四基	先端わずかに欠損
2	床面直上	35.5	14.9	6.2	3.0	石鏃	黒曜石	2	305	無柄四基	肉厚、ねじれ、側縁つぶれ
3	床面直上	21.2	40.3	7.1	6.4	楔形石器	黒曜石	3	316	楔形	三辺つぶれ、削器の転用か
4	覆土1	50.0	21.5	6.5	4.7	つまみ付きK	頁岩	4	76	切出状	一側縁両面・一側縁背面加工、反り
5	覆土2	69.7	33.4	6.2	14.2	つまみ付きK	頁岩	5	80	切出状	一側縁両面・一側縁背面加工
6	覆土1	39.6	18.0	6.9	4.2	削器	黒曜石	6	68	縦長	基部・両側縁背面加工、先端欠損
7	覆土1	79.3	24.3	8.0	13.5	削器	頁岩	6	67	横長	両側縁両面加工、凸状部、若干反り
8	床面直上	31.0	37.3	7.0	8.0	削器	頁岩	7	306	横長	先端一部背面・一側縁両面加工
9	覆土1	24.9	11.0	2.7	0.8	R・F	黒曜石	8	75	—	両側縁背面加工、先端欠損
10	床面直上	26.0	40.4	9.6	9.0	R・F	黒曜石	9	81	—	先端背面加工、基部つぶれ、背面に原石面
11	床面直上	30.7	22.6	7.6	5.3	R・F	黒曜石	10	83	—	一側縁背面加工、先端欠損、欠損部曇り
12	床面直上	29.0	24.1	4.3	2.1	U・F	黒曜石		85	—	一側縁刃こぼれ状、若干摩耗、曇り
13	覆土1	40.3	21.5	2.8	2.5	U・F	黒曜石		70	—	一側縁先端側刃こぼれ状、先端背面摩耗
14	床面直上	56.6	50.0	9.2	44.6	石斧	蛇紋岩	11	85	片刃	基部欠損



図IV-3 H1出土の石器



図IV-4 H2周辺の石器分布



図IV-5 竪穴集中区の剝片分布

2) H2 長さ400cm 幅320cm 深さ23cm

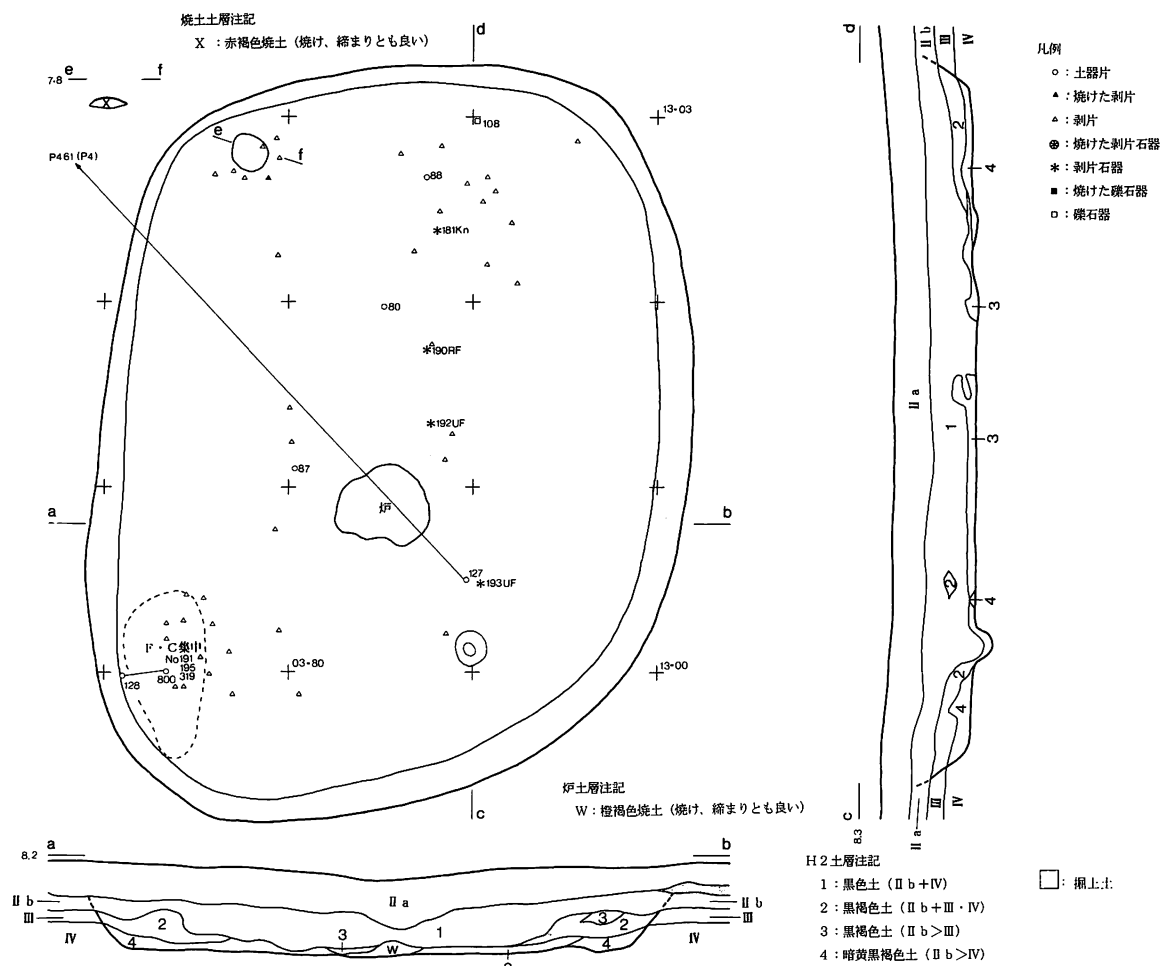
O・3-80,81区を中心とするIIa層上面で、径3mほどの円形のくぼみを確認し、当初は擦文期の竪穴遺構として調査を始めた。しかし擦文期の遺構はなく、IIa層下位に掘上土の広がりが見られ、更に掘り進めた結果、掘込面をIIb層中にもつ縄文時代早期の竪穴と判明した。なお、P4は本竪穴の掘上土下位で検出されている。

平面形は不整な楕円を呈し、長軸はほぼ北東-南西方向にある。

床床炉は中央やや南西寄りにあり、焼土は橙褐色を呈し良く焼けてしまっている。また、北東隅で床面に乗ったような状態の小規模な焼土が認められた。これは赤褐色を呈し、焼け、締まりとも良いが、この地点で焼かれたものではない。焼土についてはいずれもフローテーションを実施し、若干の炭化材片を得た。

柱穴と思われる小ピットは、南東側で確認した1カ所のみである。

床面出土の土器片は5点で、東釧路II・III、コッタロ、余市式がある。図IV-7-5は、竪穴南西端のF・C集中内から出土した破片と、覆土3層出土の破片(遺物No.128)が接合した東釧路II式で、6は北側の床から出土した(遺物No.88)コッタロ式である。炉の東南側から出土した遺物No.127は、内面に条痕のみられる胴部片で、表面は剝落しているが、H6床面出土の土器(図IV-22-14)と同一個体と思われる。なお、この土器の底部破片はP4の埋土からも出土している(遺物No.461)。遺物No.80は余市式の胴部片である。



図IV-6 H2平面及び断面

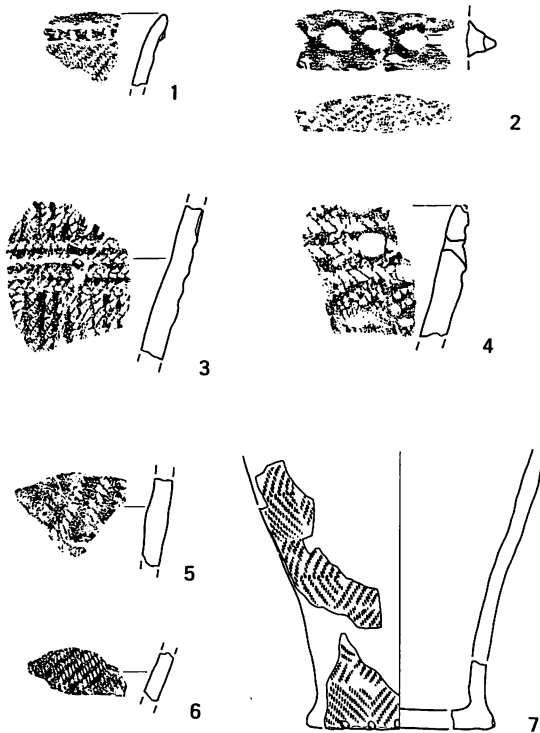
IV 遺構と遺物

覆土出土の土器片は、東釧路Ⅱ・Ⅲ、コッタロ、余市式と、前期初頭に属するものがある。図Ⅳ-7-4は覆土2層出土の東釧路Ⅲで、口唇と口縁部に縄線が施されている。

掘上土の中及びその直上からは早期の土器片のみが出土している。図Ⅳ-7-1は、掘上土の直上から出土したコッタロ式で、口縁部が内外面から挟むようにナデられているためやや尖り気味になっている。2・3は掘上土中から出土した東釧路Ⅲ式の破片で、2の貼付帯裏には地文の縄文が陰刻されている。3は区画に組紐を施し、短縄文で充填している。胎土は長石や角閃石などを多くを含みやや粗雑である。7は掘上土中から出土した破片と 層出土の破片が接合している。やや細かい結束羽状縄文が施され、張り出した底部の角はユビオサエ(?)によって波状に成形されている。胎土は3同様やや粗雑である。

床面出土の石器は、たたき石1点(図Ⅳ-8-8)のみである。これは安山岩の焼けた楕円礫を使用しており、一面と一側縁に敲打痕がみられる。剥片・碎片はすべて黒曜石で、床面出土総数1,565点のうち1,523点(うち4点が焼け)が南西隅に集中してみられた。残り42点(うち1点が焼け)はまばらに出土しており、北側隅の焼土下からも出土している。

覆土3層出土の石器類は、搔器1点(図Ⅳ-8-3)と剥片2点である。搔器は先端側に斜角刃を作出し、図左側縁は波形刃となるように調整されている。基部に原石面、一側縁と先端背面に古い剝離面を残し、主剝離面の打点がネガティブであることから、石核を利用したものであると思われる。覆土2層からはR・F3点とU・F2点、剥片・碎片27点(うち2点が焼け、2点が頁岩)がある。図Ⅳ-8-6は、削器もしくはつまみ付きナイフの先端部と思われる。覆土1層からは、石槍の基部片1点と剥片・碎片41点(うち4点が焼け)が出土している。



図Ⅳ-7 H2出土の土器

表Ⅳ-13 H5土器集計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土上のⅡb		東釧路Ⅲ 23	東釧路Ⅲ 1	東釧路Ⅲ 24
Ⅲ 層		東釧路Ⅲ 4		東釧路Ⅲ 4
掘揚土上面		早期 8		早期 8
		東釧路Ⅲ 7	東釧路Ⅲ 3	東釧路Ⅲ 10
掘揚土の中	コッタロ	1		コッタロ 1
		早期 19	早期 1	早期 17
	東釧路Ⅱ	2	東釧路Ⅱ 2	東釧路Ⅱ 4
		東釧路Ⅲ 11	東釧路Ⅲ 6	東釧路Ⅲ 23
覆 土 1	コッタロ	2		コッタロ 3
		東釧路Ⅱ 2		東釧路Ⅱ 1
			東釧路Ⅲ 1	東釧路Ⅲ 1
覆 土 2	コッタロ	2		コッタロ 3
		余市 4		余市 4
		早期 3		早期 3
		東釧路Ⅱ 2		東釧路Ⅱ 2
覆 土 3		前期 1		前期 1
		東釧路Ⅱ 1		東釧路Ⅱ 1
		東釧路Ⅲ 1		東釧路Ⅲ 1
床 面		東釧路Ⅱ 2		東釧路Ⅱ 2
		東釧路Ⅲ 1		東釧路Ⅲ 1
		コッタロ 1		コッタロ 1
		余市 1		余市 1

※ Ⅲ層出土の土器はH-2の土器と接合したものと

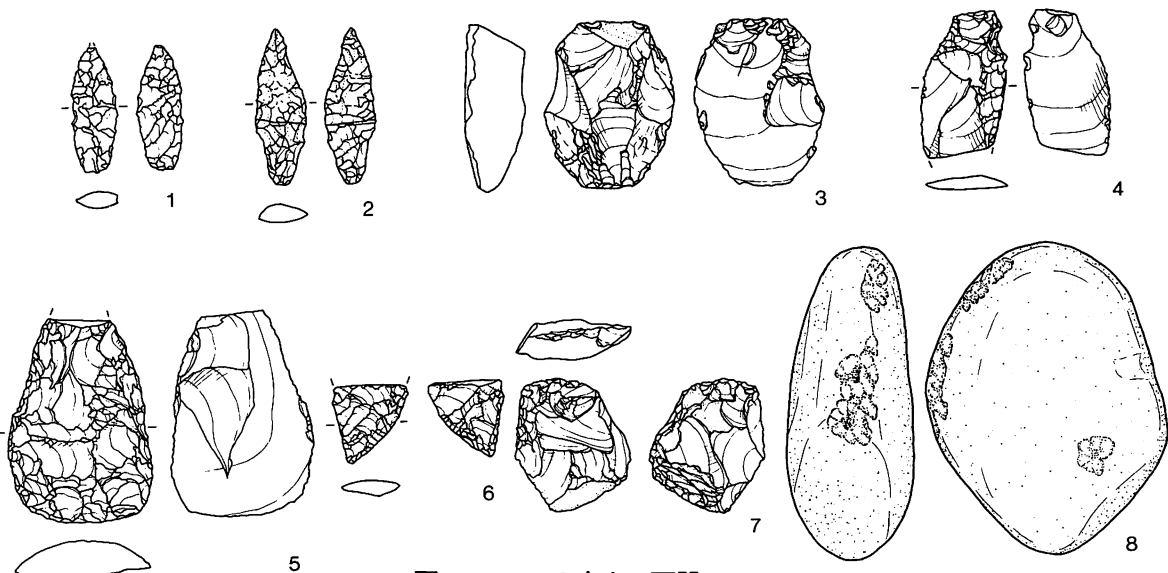
表IV-4 H2出土石器一覧

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	掘上土中	33.3	12.0	4.5	1.7	石鏃	黒曜石	1	1208	柳葉形	先端わずかに欠損、折れてから酷く焼け
2	掘上土中	21.1	10.0	2.0	0.3	石鏃	黒曜石		1603	—	先端部片
3	掘上土中	41.9	13.9	6.0	2.6	石鏃	黒曜石	2	1605	柳葉形	3572と接合、酷く焼けてから折れ
4	掘上土中	17.7	12.2	3.4	0.7	石鏃	黒曜石		3573	—	基部片、未製破損品か
5	覆土 1	22.2	20.5	8.5	3.6	石槍	黒曜石		96	—	基部片
6	覆土 3	44.8	35.7	15.0	24.5	搔器	黒曜石	3	1604	斜角刃	先端背面加工、先端つぶれ、基部に原石面
7	掘上土中	37.7	22.4	5.0	4.2	削器	頁岩	4	1601	—	つまみ付きナイフ未製品か
8	掘上土中	55.0	38.0	8.8	23.9	削器	頁岩	5	1504	爪形	先端・両側縁背面加工
9	覆土 2	25.2	19.8	4.2	1.6	R・F	黒曜石	6	181	切出状	両側縁両面加工の先端部片
10	掘上土中	11.8	30.8	5.2	1.4	R・F	黒曜石		1602	—	両面加工の先端部片
11	掘上土中	25.2	24.8	5.3	2.8	R・F	黒曜石		3575	—	一側縁両面加工、先端・基部欠損
12	覆土 2	27.0	36.8	7.6	6.5	R・F	黒曜石		97	—	一側縁両面・一側縁背面加工の端部片
13	覆土 2	27.4	21.0	4.3	2.2	R・F	黒曜石		190	—	一側縁背面加工・つぶれ、一側縁刃こぼれ
14	掘上土中	19.0	41.0	6.6	4.3	U・F	頁岩		1209	—	先端・一側縁刃こぼれ状
15	覆土 2	22.7	16.7	3.5	1.2	U・F	黒曜石		192	—	先端刃こぼれ状
16	覆土 2	12.6	18.1	4.1	0.9	U・F	黒曜石		193	—	一側縁刃こぼれ状の基部片
17	掘上土中	35.8	30.6	10.6	9.8	石核	黒曜石	7	1600	—	三面に原石面
18	床面直上	126.7	95.6	50.7	805	たたき石	安山岩	8	108	—	一面・一側縁に敲打痕、焼け
19	掘上土上	45.0	29.0	19.0	20.9	方割礫	砂岩		134	E	
20	掘上土中	99.8	86.3	50.7	494.8	方割礫	安山岩		146	D	石皿もしくは台石片か

表IV-5 H2出土F・C集中一覧

No.	グリッド	層位	剥片・碎片数	剥片・碎片重量(g)	焼けた剥片・碎片数	焼けた剥片・碎片重量(g)	遺物No.	備考
1	0・2-79	床面直上	1,469	48.3	1	+	191	
2	0・2-79	床面直上	44	5.3	3	0.5	195	
3	0・3-70	床面直上	10	0.6			319	
計			1,523	54.2	4	0.5		

掘上土中からは、石鏃4点、削器とR・F各2点、U・Fと石核、方割礫各1点、剥片・碎片543点（うち55点が焼け、17点が頁岩）が出土している。図IV-8-1は先端がわずかに欠けた後に酷く焼け、2は酷く焼けた後に折れている。4・5はいずれも頁岩製で、5は大型剥片の打点部を横にして作られている。7は両極打法で剥片を剥離した残核と思われる。剥片類は0・3-44区に219点（うち26点が焼け、9点が頁岩）、0・3-54区に111点（うち15点が焼け、3点が頁岩）が集中して出土している。掘上土上面からは方割礫1点と、剥片・碎片74点（うち12点が焼け、4点が頁岩）が出土している。



図IV-8 H2出土の石器

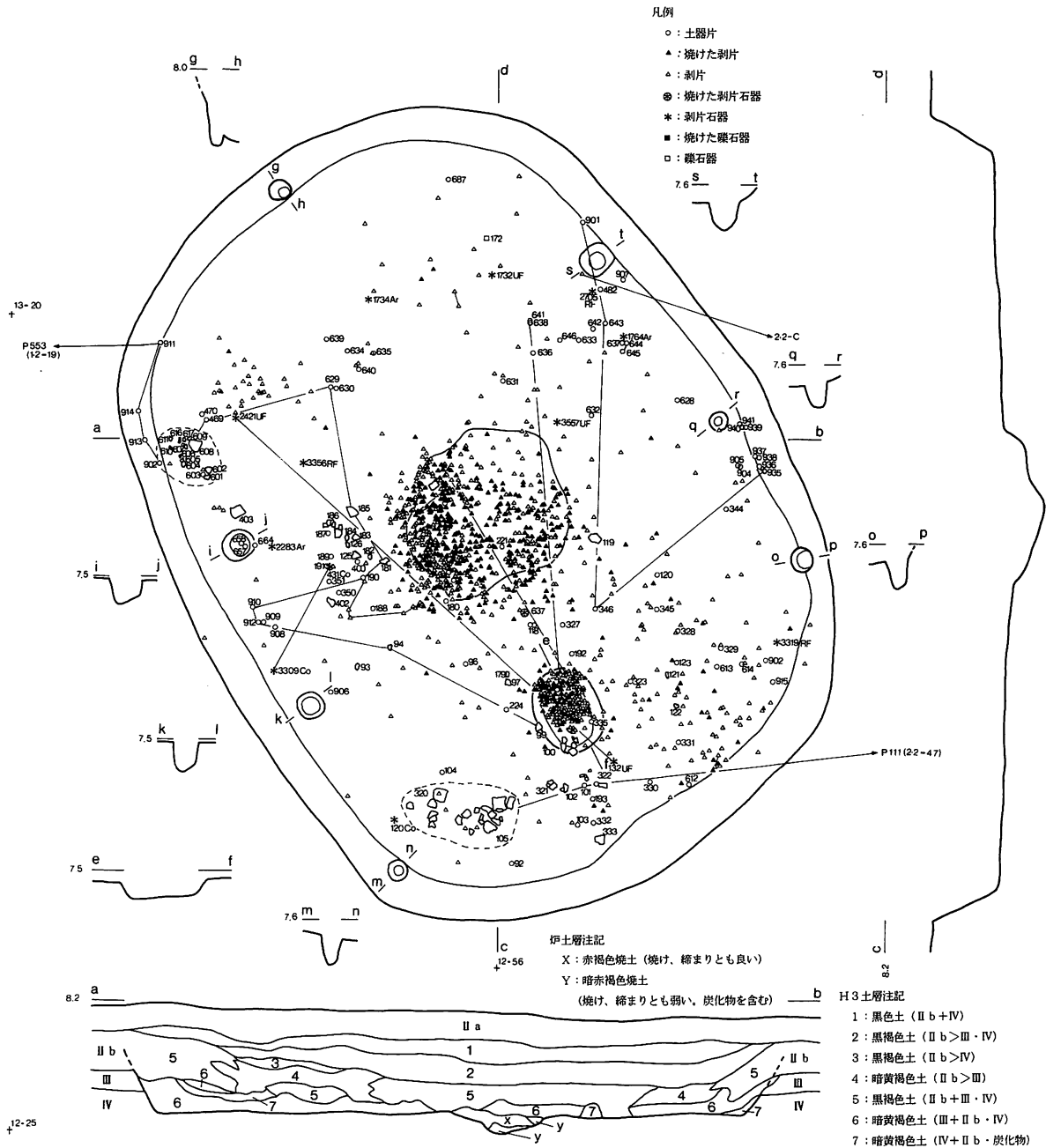
IV 遺構と遺物

3) H3 長さ490cm 幅378cm 深さ28cm

東釧路Ⅲ式期の竪穴である。1・2-47, 57区を中心とするⅡa層上面で、楕円形のくぼみを確認し調査を始めた。掘込面はⅡb層下位にある。西側部分は覆土下位までH8に切られている。平面形は隅丸長方形に近く、長軸はほぼ南北方向にある。

中央に大きめの地床炉があり、焼土は赤褐色を呈し良く焼けてしまっており、多量の剝片・碎片が含まれていた。また、炉の南側に楕円形の浅いピットが設けられているが、このピット内からも剝片・碎片がほぼびっしりと出土している。なお、焼土はフローテーションを実施したが、剝片類以外の遺物は得られていない。

当初、柱穴と思われる小ピットは確認できなかったが、H8の調査に伴うだめ押しで計7カ所確認されている。



図IV-9 H3平面及び断面

床面出土の土器片は155点で、東釧路Ⅱ・Ⅲ、コッタロ式がある。出土地点は西側に偏っている。図Ⅳ-10-11は、わずかに頸部のくびれをもつ東釧路Ⅲ式の深鉢で、炉の南側から出土した破片（遺物No.346）と、東壁付近の覆土3層から出土した破片が接合している。器面調整は雑で、殊に内面は凹凸が激しい。口縁部及び内面のへこみ部分に黒色有機物が付着している。上半部文様は絡条体圧痕で、口唇直下は斜めに、その下は横位に施文している。下半部は縄文で、羽状風に施文され、底部のくびれから張り出し部分には短縄文が縦位に施されている。12は南側で一括出土（遺物No.101・105・320）した東釧路Ⅱ式の接合資料で、上半部のほぼ半分がある。なお、口縁の1点は2・2-47区のⅡb層出土である。器形は11とほぼ同様と思われるが、口唇は外に張り出し、約2cm間隔で斜めに縄線が押捺されている。文様は縦・横位の縄線文と縄端圧痕文で構成されている。13は西側床面と覆土3層からまとめて出土した東釧路Ⅲ式で、口唇は小波状を呈し外へ張り出す。文様は縦位の短縄文で、胴下位に幅広の貼付帯2カ所が残っている。3・5・6・8・9はいずれも東釧路Ⅲ式で、3は床面出土破片（遺物No.203）と覆土3出土破片（遺物No.638）が接合している。文様は縄間の空いた縄文が斜位・横位に浅く施されている。5（遺物No.329）は丸軸絡条体圧痕文が横位に施された口縁部片。6（遺物No.322）は丸軸絡条体圧痕文が縦・横位に施された口縁部片。8（遺物No.330）は縦位の短縄文と横位の組紐がみられる口縁部片。9（遺物No.27）は斜位の縄文が施された胴部片である。7（遺物No.100）は浅い縄文がみられる口縁部片で、東釧路Ⅱ式と思われる。10（遺物No.321）は縄間の空いた斜位の浅い縄文と、縦位の貼付帯がみられるコッタロ式である。なお14の有孔土製円盤は、南側の土器集中地点（遺物No.101・105・320）内から、15は北側の覆土3層出土である。

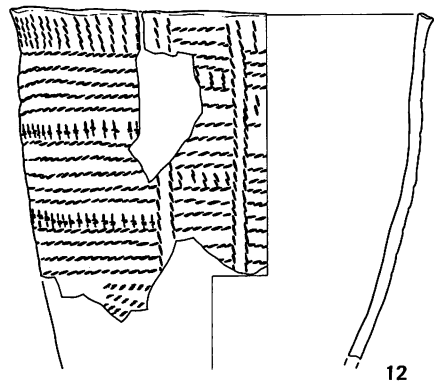
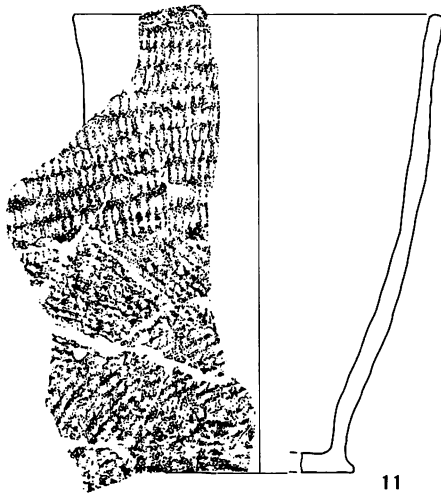
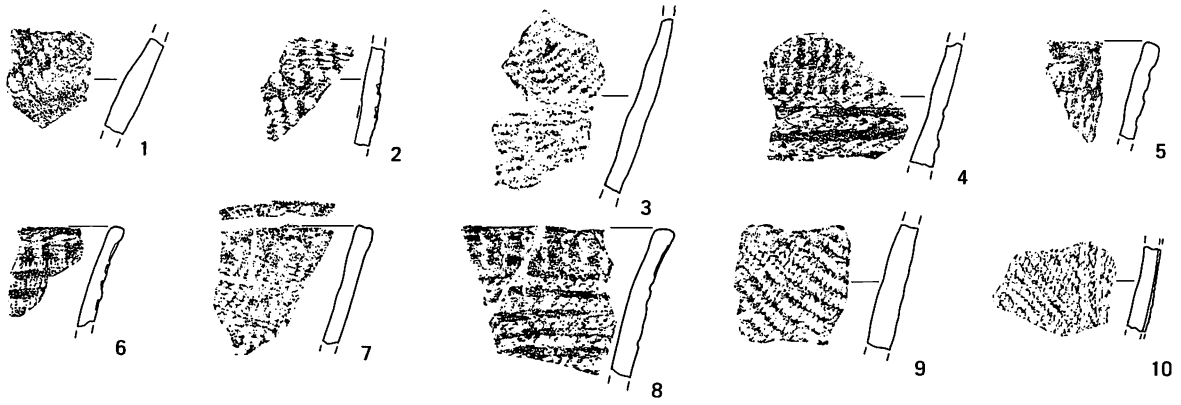
覆土出土の土器片もすべて縄文時代早期のもので、東釧路Ⅱ～Ⅳ式の時期に含まれる。図Ⅳ-10-1は覆土2層出土の東釧路Ⅲ式で、浅い撚糸文がみられる。2（遺物No.938）・4（遺物No.940・941が接合）は、覆土3層出土の東釧路Ⅲ式で、2には円形の浅い刺突がみられる。

床面出土の石器には、石鏃4点、R・Fと石核2点、U・F1点がある。図Ⅳ-11-1は、炉西側から出土した柳葉形鏃で、先端と流紋岩球顆の脱落部分を欠く。2は炉と小ピットの間で出土したもので、酷く焼けた後に図の先端右側部分が再調整され、その際に先端がわずかに欠損し、更に熱を受けている。3は炉東側からの出土で、基部一端を欠く。幅が広く肉厚でねじれており、全体に作りが粗雑である。4は炉北側からの出土で、やはり基部を欠くが、細身に薄く形も整っている。8は1・2-39区出土の先端部片と、1・2-57区出土の基部片が接合した。10・11はともに流紋岩球顆の目立つ黒曜石の石核で、10は1・2-37,38区出土の破片が接合している。剥片・碎片の床面出土総数は1,332点（うち2点が頁岩）で、半数近い591点が焼けている。出土分布は、前述したように炉及び小ピット内に集中しており、周辺部は散点的で、炉の北側には全く出土しない部分がある。大半が小破片であるが幾つかの接合関係を確認している。こうした剥片類や破損した石器類の出土状態から、本竪穴は石器制作に関わるものと考えている。

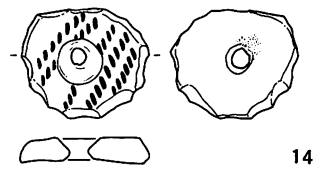
覆土3層出土の石器はR・F1点（図Ⅳ-11-7）、U・F2点（同9）と砥石1点（同12）がある。砥石は炉北東側からの出土で、両面に幅広の溝状使用痕が幾筋も残されている。剥片・碎片は51点（うち3点が焼け、1点が頁岩）あり、23点（うち10点が焼け）が南東隅の1・2-67区出土である。覆土2層からは石器の出土はなく、剥片・碎片は47点（うち10点が焼け）がある。覆土1層からはR・F1点（図Ⅳ-11-6）が二つに折れた状態で出土したほか、剥片・碎片7点がある。

（田才）

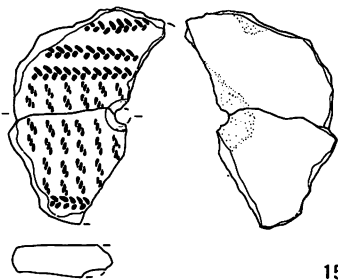
IV 遺構と遺物



0 5cm (拓本)

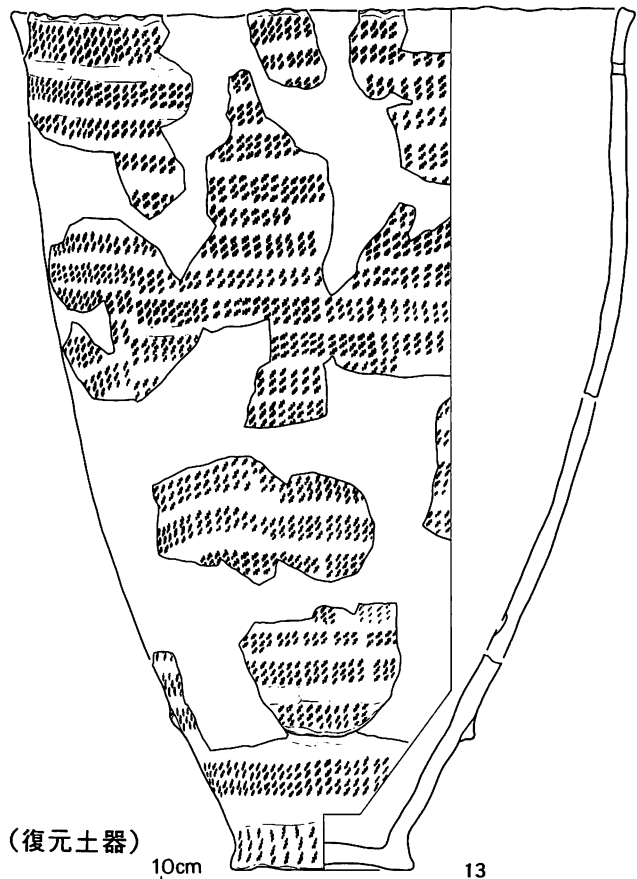


14



15

0 5cm (土製品)



0 10cm (復元土器) 13

図IV-10 H 3出土の土器

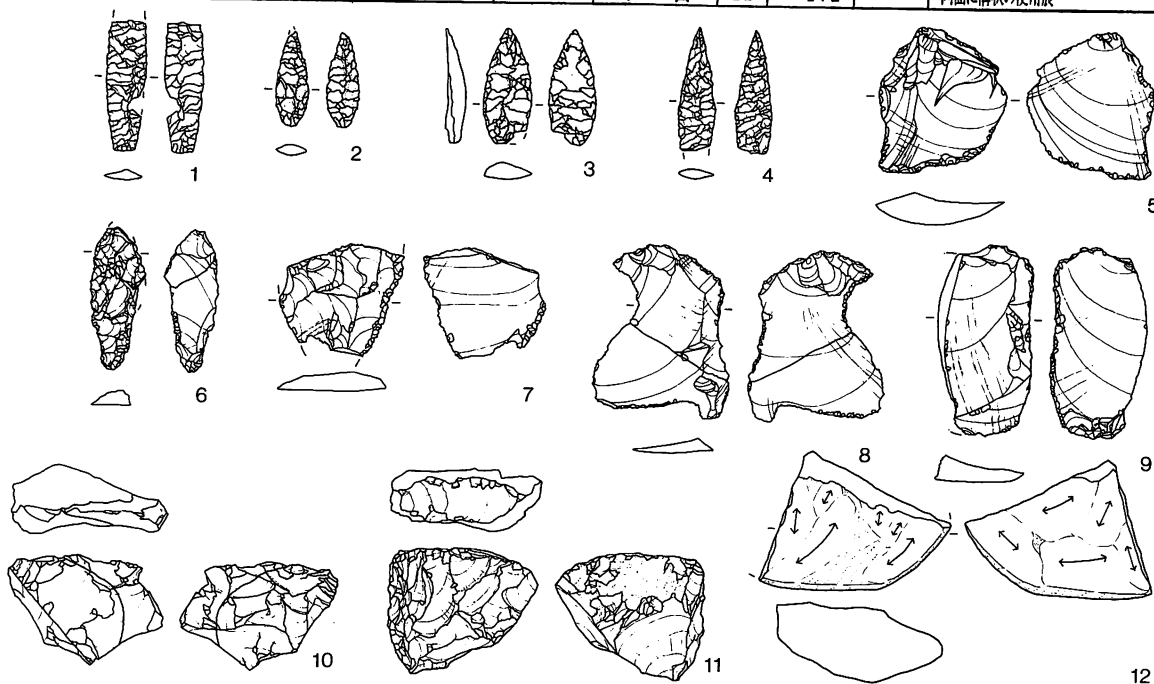
表IV-6 H3出土土器集計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土上のII	東銅路III	早期	早期	早期
		6東銅路III	9東銅路III	東銅路III
		コッタロ	コッタロ	コッタロ
覆土2	東銅路II 東銅路III	早期	早期	早期
		1東銅路II	4東銅路II	東銅路II
		2東銅路III	10東銅路III	東銅路III
		コッタロ	コッタロ	コッタロ
		東銅路IV	東銅路IV	東銅路IV

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土3	東銅路III	早期	早期	早期
		5東銅路III	19東銅路III	東銅路III
		コッタロ	コッタロ	コッタロ
床 面	東銅路II 東銅路III	早期	早期	早期
		4東銅路II	4東銅路II	東銅路II
		5東銅路III	42東銅路III	東銅路III
		コッタロ	コッタロ	コッタロ

表IV-7 H3出土石器一覽

No.	層位	長さ(m)	巾幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	床面直上	35.0	10.2	2.3	1.1	石鏃	黒曜石	1	2283	柳葉形	先端・一端欠損
2	床面直上	25.0	8.9	3.1	0.6	石鏃	黒曜石	2	637	柳葉形	鏃く抜け、先端わずかに欠損
3	床面直上	31.1	13.1	4.4	1.6	石鏃	黒曜石	3	1764	柳葉形	基部欠損、おじれ、透明な縞
4	床面直上	32.7	10.3	2.7	0.8	石鏃	黒曜石	4	1734	柳葉形	基部欠損
5	床面直上	37.6	33.2	8.3	8.2	R・F	黒曜石	5	3356	—	先端背面加工・つぶれ、基部刃にばね状
6	覆土1	14.2	38.1	4.7	2.1	R・F	黒曜石	6	682	横長	全周背面・一端側面・腹面曇り・摩耗
7	覆土3	31.8	38.2	8.3	7.6	R・F	黒曜石		3319	横長	12-67の先端部片と接合
8	床面直上	30.0	29.9	5.7	5.2	R・F	黒曜石	7	2705	—	先端背面加工、基部つぶれ
9	床面直上	49.6	43.1	3.7	5.5	U・F	黒曜石	8	132	—	一端背面・一端腹面加工の中央部片
10	覆土3	51.2	24.5	6.5	7.8	U・F	黒曜石	9	3557	—	先端・両側縁刃こぼれ状
11	覆土3	35.9	28.0	7.5	6.5	U・F	黒曜石		1732	—	遺物No. 2421(12-39)と接合
12	床面直上	30.3	41.7	15.2	14.6	石核	黒曜石	10	431	—	一端・一端縁刃こぼれ状、一端縁欠損
13	床面直上	36.1	40.9	15.2	22.4	石核	黒曜石	11	120	—	一面に原石面を残す、遺物No. 3309
14	覆土3	65.8	57.6	36.8	131.4	砥石	砂岩	12	172	—	(12-37)と接合 一面に原石面を残す 両面に溝状の使用痕



図IV-11 H3出土の石器

IV 遺構と遺物

4) H 4 長さ865cm 幅525cm 深さ35cm

0・1-c・d、0・2-a・b・c、1・2-a区にまたがり、標高7.8m 付近の台地部分に位置する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-50°-Eを向く。床面は平坦でIVb層を若干掘込むようにして作られている。壁は内湾しながら外上方に立ち上がる。

IIb層を15cm位下げたところで、覆土の広がりを確認した。当初、この広がりには住居跡の南西部分で確認されたため小規模な住居跡を想定したが、覆土を調査して行くに従って北東に伸びることが判明した。覆土は流れ込みの1層と2、3、4層によって構成される。

柱穴は立上り付近の床面にめぐっていた。住居跡の北東部分については精査を行ったが明確な柱穴は確認できなかった。住居跡の長軸を対称線とした配列がみられる。柱穴の断面形は先端部分がほとんど鈍角をしている。径は15cm前後とあまり太くなく、かつ浅めである。炉は住居跡中央に位置し、平面形が不整形の地床炉である。掘込みはない。

遺物出土状況について。土器は炉よりも北東側に集中して分布している。とりわけ柱穴付近と壁との間に集中がみられる。床面出土の土器とH10覆土中層の土器と接合関係をもつ。フレイク・チップも土器と同様に炉を境にして東北側に多くみられ、炉の東側の壁際には6か所の集中がある。礫石器には特に集中が見られない。

床面からI群b2類土器が多数出土していることより、縄文時代早期中葉の遺構と考える。H10覆土の土器との接合すること、H6床出土の土器との接合することから、H10→H2=H4=H6という新旧関係が成立する。

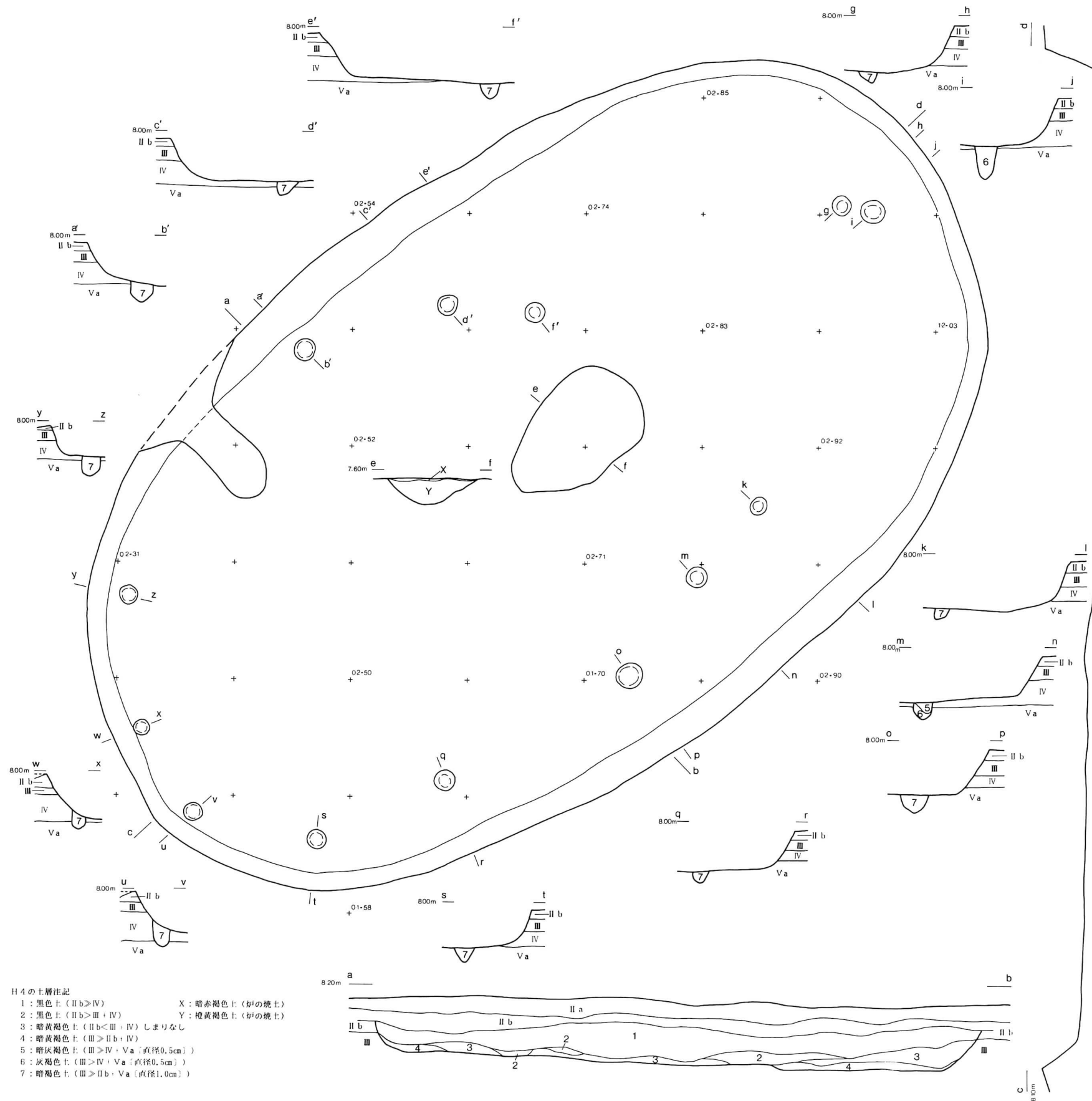
1~8は覆土出土の土器。1は区画内に縄線文が施される。補修孔をもつ。2は施文以前の器面調整が丁寧でないため器表の凹凸が激しい。縄間の空いた縄文が斜位に浅く施される。3は胴部下半。角軸絡条体圧痕文が斜位に施され、その上には区画文と思われる角軸絡条体圧痕文が横位にある。4は胴部上半。丸軸絡条体圧痕文が斜位に施される。5は胴部上半。丸軸絡条体圧痕文が斜位に施され、その端部による刺突文がある。6は開いた縄の一端を別の細い縄で縛っている。この原体を使って羽状に縄文が施され、幅広の貼付帯がある。貼付帯の上には縦位に短縄文が施される。7は細かい縄文が斜位に浅く施される。8は縄間の空いた縄文が斜位に浅く付され、その上部には丸軸絡条体圧痕文が斜位に施される。

9・10は柱穴出土の土器。9は撚り糸文が施された後にナデられ、その上部にはに末端に環の付いた短縄文が縦位に施される。

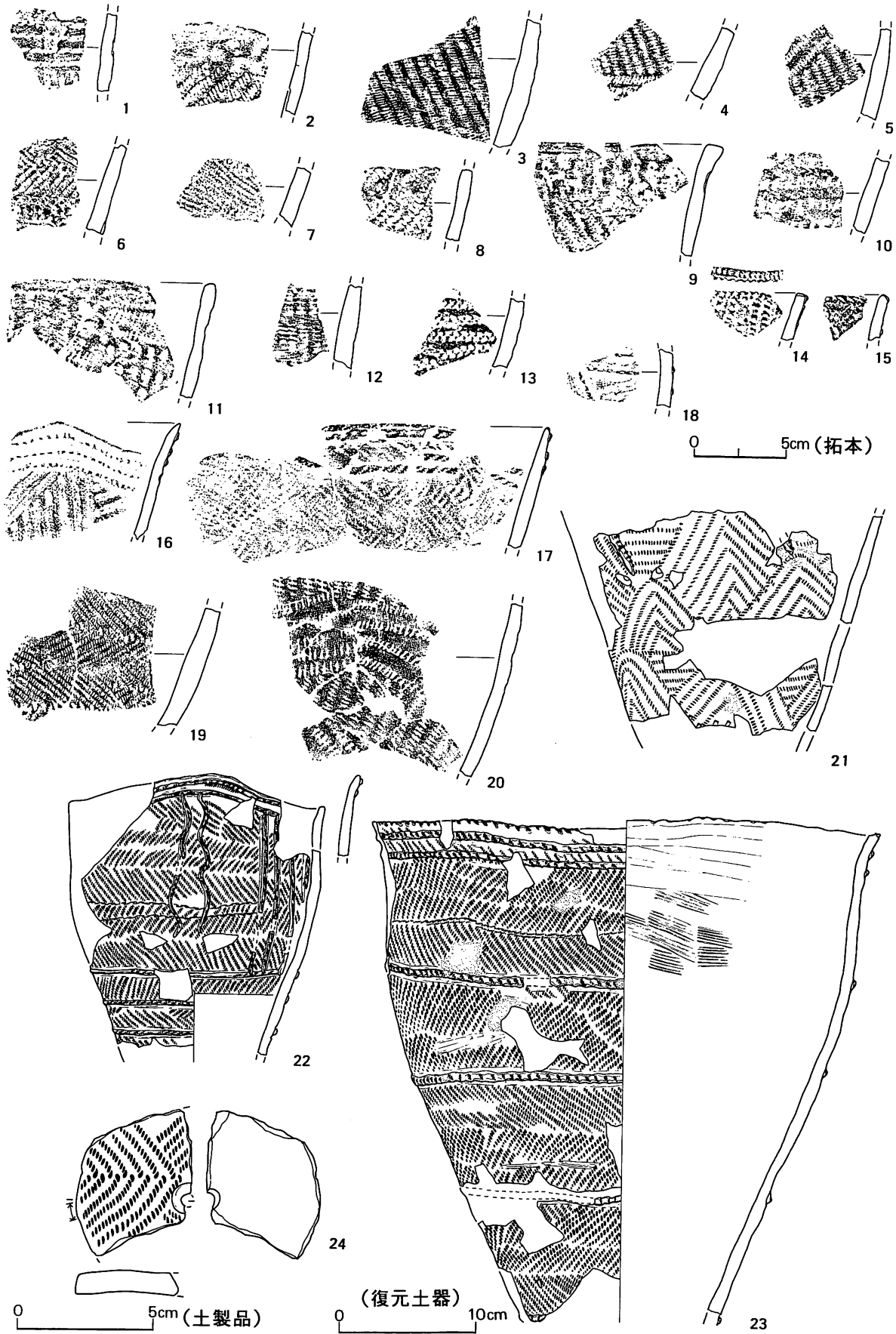
10は角軸絡条体圧痕文が間隔を空けて横位に施される。絡条体圧痕文は上下で条の傾きが異なることから、上下方向に施文を行っているのではなく、原体を横方向に展開して1列ごとに施文しているようだ。11~19は床面出土の土器。11は横位丸軸絡条体圧痕文と縦位丸軸絡条体圧痕文とを交互に横方向に展開していく。なお、縦位丸軸絡条体圧痕文にはその端部による刺突文が加わる。口縁部は丸い。12は区画がヨコナデ、充填文は縦位

表IV-8 H4土器総計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土上のIIa		前期 1		前期 1
覆土上のIIb	東釧路III 26	東釧路III 7	早期 1	東釧路III 33 早期 1
覆土 1	コッタロ 1	東釧路III 1 コッタロ 3		東釧路III 1 コッタロ 4
覆土 2	東釧路III 2	早期 13 東釧路III 23 コッタロ 17 前期 1		早期 13 東釧路III 25 コッタロ 17 前期 1
覆土 3	東釧路III 5 コッタロ 2	早期 5 東釧路III 9 コッタロ 10		早期 5 東釧路III 96 コッタロ 12
床 面	東釧路III 27 コッタロ 26	早期 13 東釧路III 376 コッタロ 43		早期 13 東釧路III 405 コッタロ 69
炉の中		コッタロ 1		コッタロ 1
柱穴 11		東釧路III 1		東釧路III 1
柱穴 12		東釧路III 3		東釧路III 3

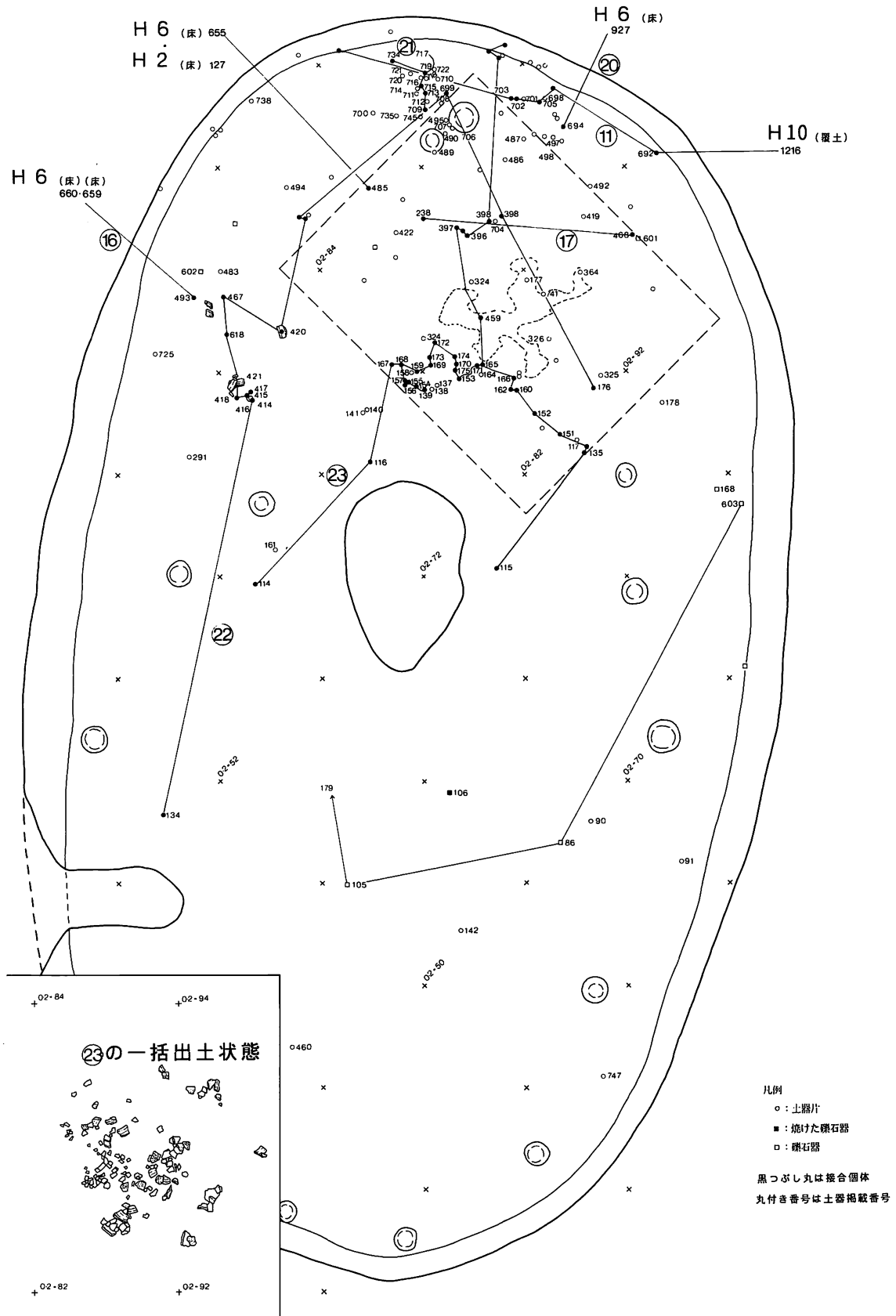


図IV-12 H4平面及び断面



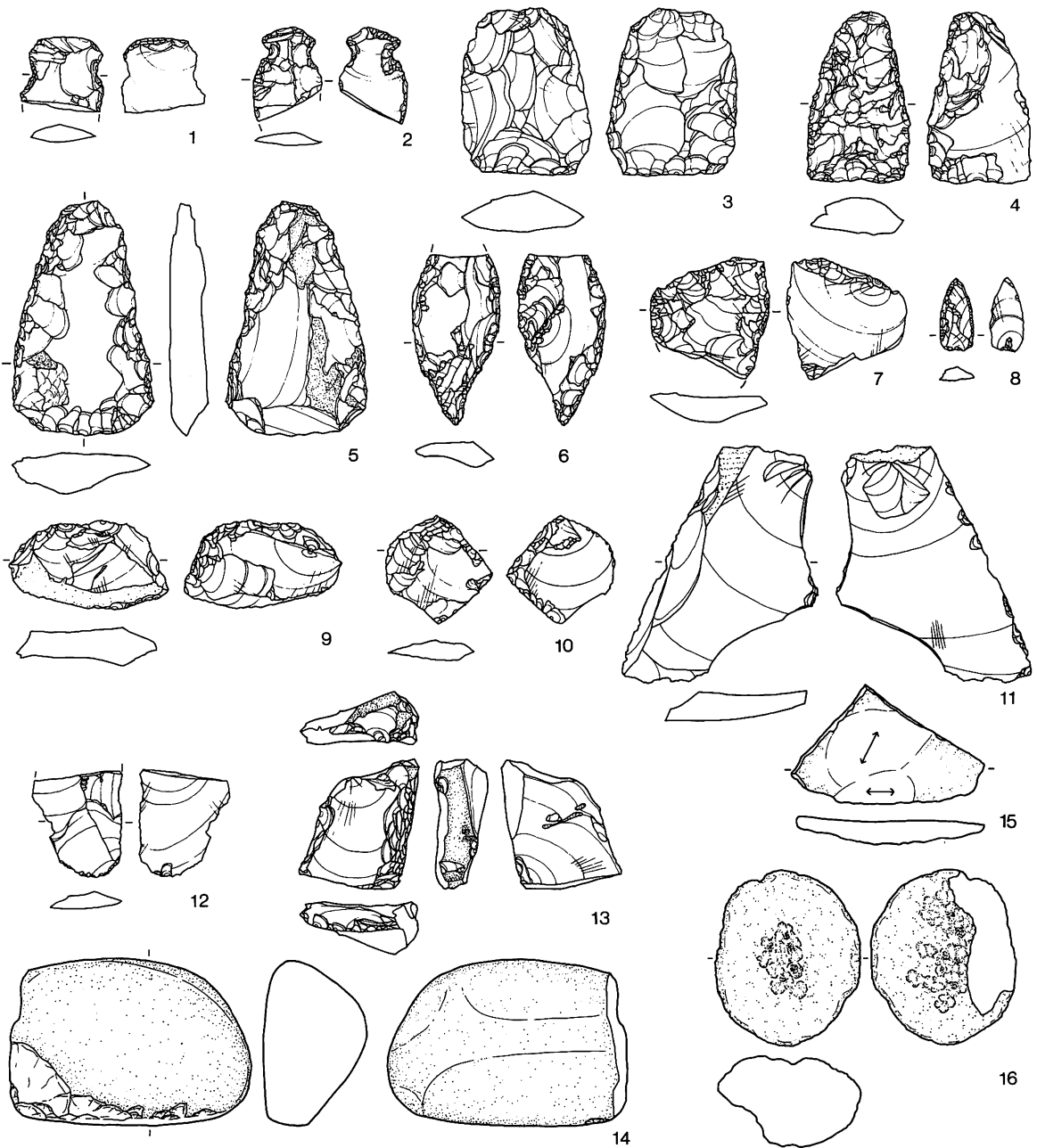
図IV-13 H 4 出土の土器

IV 遺構と遺物



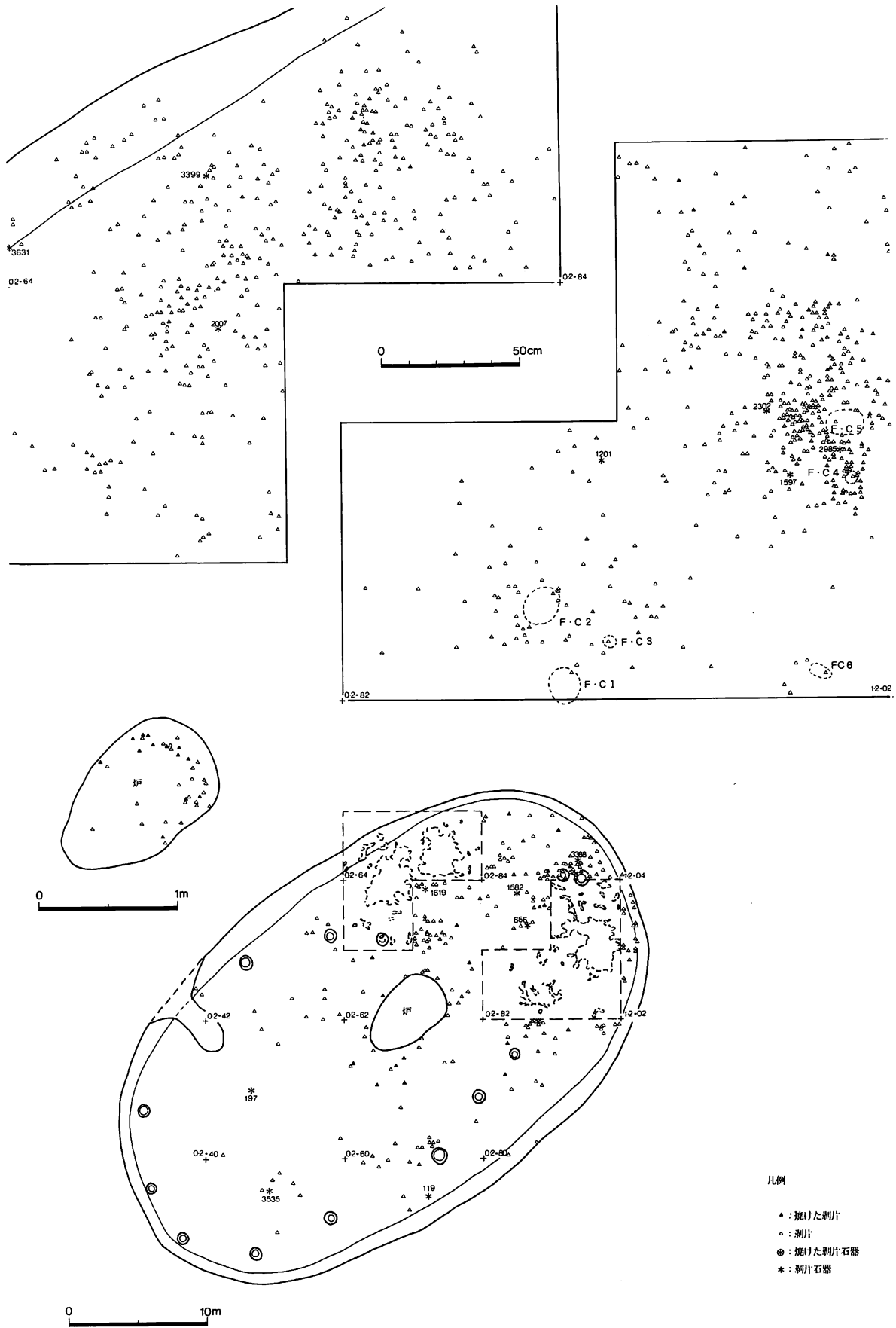
図IV-14 H 4 土器及び礫石器出土状況

丸軸絡条体圧痕文である。13は横位組紐圧痕文。14は細い貼付帯上に縄による深い刻みが施される。口縁は断面四角形で端面を形成する。端面には縄線文が押されている。15は細い貼付帯上に深い刻みがある。端面にも刻みが施される。16は口縁波頂部。細い貼付帯上に浅い刻みが施される。貼付帯が施された後、その下に斜位・縦位の組紐圧痕文が充填されている。なお、絡条体圧痕文にはその端部による刺突文が加わる。17は細かい羽状縄文が施された後、細い貼付帯をつけ、その上に浅く縄文が施される。18は細い貼付帯上に浅い刻みがある。貼付帯間はナデでつぶされている。19は細かい結束羽状縄文が施されている。20は胴部上半。横位丸軸絡条体圧痕文によって山形に区画し、縦位丸軸絡条体圧痕文とその端部による刺突文で充填される。21は胴部下半。下部は絡条体圧痕文、角の丸い三角形を横に展開し、三角形の谷部分を横位絡条体圧痕文で充填する。上部は絡条体圧痕文の大きな三角形と角の丸い三角形を交互に配し、大きな三角形の谷部分を横位の絡条体圧痕文で充填する。ここには短い凸帯が付く。22は



図IV-15 H4出土の石器

IV 遺構と遺物



図IV-16 H4石器出土状況

表IV-9 H4出土石器一覧

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	床面直上	19.5	9.8	3.1	0.5	石鏃	黒曜石		656	—	先端部片
2	床面直上	22.0	24.6	4.7	3.4	つまみ付きK	黒曜石	1	1582	—	つまみ部片
3	覆土 2	29.8	21.2	3.9	2.7	つまみ付きK	黒曜石	2	1567	—	つまみ部片
4	床面直上	50.8	38.8	12.4	26.6	削器	頁 岩	3	3399	爪形	先端・側縁両面・側縁腹面加工
5	覆土 2	52.3	31.1	11.0	17.4	削器	黒曜石	4	276	爪形	先端・両側縁背面加工、焼けた後一部剥離
6	床面直上	71.1	42.7	12.4	38.5	削器	頁 岩	5	1201	爪形	先端腹面・両側縁両面加工
7	床面直上	51.6	26.7	7.1	7.6	削器	黒曜石	6	1597	切出状	横長、基部背面・先端腹面加工、一端欠損
8	床面直上	35.8	40.1	8.7	10.0	R・F	黒曜石	7	3535	—	両側縁背面加工、基部つぶれ、先端欠損
9	覆土 2	21.7	10.0	3.2	0.7	R・F	黒曜石	8	3646	切出状	両側縁背面加工・つぶれ、腹面曇り
10	床面直上	28.2	12.0	4.2	1.0	R・F	黒曜石		197	—	背面加工の側縁部片
11	覆土 3	26.8	48.9	9.8	12.1	R・F	黒曜石	9	1518	—	基部腹面加工、背面に原石面
12	床面直上	27.1	29.0	4.9	3.8	R・F	黒曜石	10	2302	—	側縁腹面加工、先端欠損
13	覆土 3	22.0	18.1	4.9	2.0	R・F	黒曜石		2993	—	側縁背面加工の先端部片
14	床面直上	26.5	39.6	6.2	4.3	U・F	黒曜石		2007	横長	先端一部刃こぼれ状・一部欠損
15	床面直上	28.5	40.2	5.6	6.2	U・F	黒曜石		3631	—	両側縁刃こぼれ状の基部部、摩耗
16	覆土 3	80.9	55.0	9.4	32.6	U・F	頁 岩	11	3622	切出状	両側縁刃こぼれ状、側縁欠損
17	床面直上	31.3	27.4	5.2	3.4	U・F	黒曜石	12	3388	—	先端刃こぼれ状の先端部片
18	床面直上	30.4	39.1	14.6	18.1	石核	黒曜石	13	119	—	二面に原石面、曇り
19	床面直上	24.8	7.7	2.8	0.6	石斧	片 岩		601	—	背部片
20	覆土 3	107.9	76.2	43.8	610	すり石	安山岩	14	604	断面三角	一端欠損
21	床面直上	87.5	53.9	15.1	49.4	砥石	砂 岩	15	168	—	一面に使用痕
22	床面直上	79.5	65.1	41.2	231.4	たたき石	安山岩	16	602	—	二面に敲打痕
23	床面直上	59.0	56.3	22.0	70.6	方割礫	凝灰岩		106	D	割ってから焼け
24	床面直上	53.0	45.0	13.9	34.7	方割礫	砂 岩		86	D	No. 28・29と同一母岩
25	覆土 2	84.4	65.0	43.1	343.8	方割礫	安山岩		179	B	焼けてから割れ
26	覆土 2	61.4	18.8	11.3	17.2	方割礫	玄武岩		145	B	
27	床面直上	39.6	38.3	10.0	14.9	礫片	砂 岩		105	—	No. 25・29と同一母岩
28	床面直上	54.2	51.9	15.9	31.2	礫片	砂 岩		603	—	No. 25・28と同一母岩

開いた縄の一端を別の細い縄で縛った原体で羽状縄文を施す。波状の口縁部に沿って2本の貼付帯があり、体部上半には、4本一組の縦位貼付帯と2本組の蛇行した縦位貼付帯が施される。体部下半には、3本の横位貼付帯が施される。縦位の貼付帯は横位の貼付帯が施された後に付せられている。全ての貼付帯には縄文が施されている。23は開いた縄の一端を別の細い縄で縛った原体で羽状縄文を施す。貼付帯が施される位置を横環するヨコナデによってあとづけ、そこに貼付帯がある。口唇と貼付帯上には縦位に縄がおさされている。内面は粗いヨコナデが施されている。24は有孔土製円盤。細かい結束羽状縄文が施されている。

表IV-10 H4出土F・C集中一覧

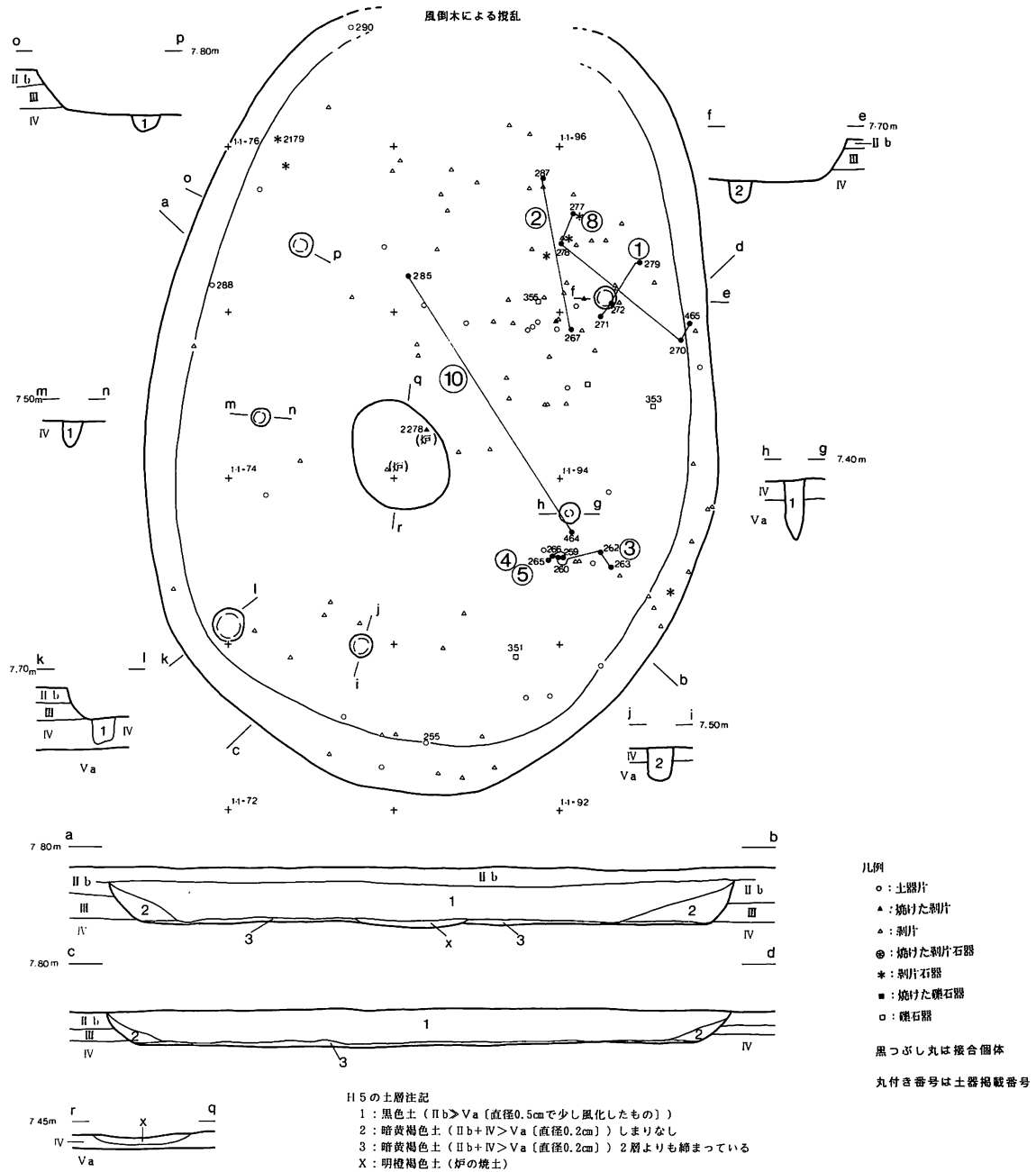
No.	グリッド	層位	剥片・破片数	剥片・破片重量(g)	焼けた剥片・破片数	焼けた剥片・破片重量(g)	遺物No.	備 考
1	0・2-81	床面直上	64	5.7			366	
2	0・2-82	床面直上	101	7.2			361	
3	0・2-82	床面直上	95	16.3			435	
4	0・2-92	床面直上	67	5.1			2721	
5	0・2-92, 93	床面直上	1,131	39.9			2893	
6	0・2-93	床面直上	3,250	160.9	4	0.5	2896	
計			4,708	235.1	4	0.5		

IV 遺構と遺物

床面出土の石器は、つまみ付きナイフ点1、削器3点、R・F3点、U・F3点、石核1点、剥片・碎片4,708点、石斧1点、方割礫4点である。3・5は石篋。7は錐の可能性がある。床面出土の剥片・碎片は多数出土しているが未製品が出土がないことから必ずしも石器製作が行なわれていたと断言できない。

覆土3層出土の石器は、R・F2点、U・F1点、石核1点、すり石1点、砥石1点、たたき石1点である。

覆土2層出土の石器は、つまみ付きナイフ点1、削器1点、R・F1点、方割礫2点である。4は石篋。



図IV-17 H5平面及び断面

4) H5 長さ約460cm 幅345cm 深さ23cm

1・1-b・c区にまたがり、標高7.5m付近の斜面肩口に位置する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-4°-Eを向く。床面は平坦でIV層を若干掘込むようにして作られている。壁は内湾しながら緩やかに外上方へ立ち上がる。

IIb層を10cm位下げたところで、覆土の広がりを確認した。当初は円形に近い住居跡を想定した。覆土を調査していくに従って北に伸びることが判明した。北端は風倒木の攪乱によって破壊を受けていた。覆土は主に床面全体を覆う1層と、壁際の流れ込みである2層によって構成されている。

柱穴は立上りと炉の中間の床面に6か所検出できた。住居跡の北部分については精査を行ったが明確な柱穴は確認できなかった。住居跡の長軸を対称線とした配列がみられる。柱穴の断面形は先端部分がほとんど鈍角をしている。太さは、20cmの柱穴を除くと、12cm前後と細めである。炉は住居跡中央に位置し、平面形が不整形の地床炉である。掘込みはない。

遺物出土状況について。遺物は住居跡の北東側に集中して分布している。

床面からI群b2類土器が多数出土していることより、縄文時代早期中葉の遺構と考える。

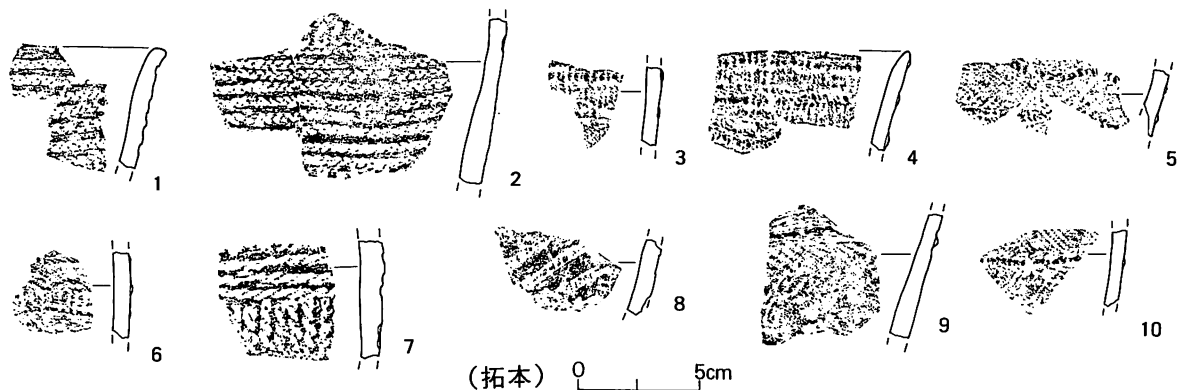
1～6は覆土出土の土器。1は横位組紐圧痕文が施される。口縁は若干の端面を形成しながら丸く収まる。2は胴部上半で、1と同一個体の可能性がある。横位組紐圧痕文が施され、その下部には縄間の空いた斜縄文が施される。3は細い隆起線上に縄による浅い刻みがある。4は隆起線間に細い短縄文が施され、その後隆起線上にも同じ短縄文が施される。口縁は尖がる。5は4と同一個体。6は隆起線貼付後に、隆起線間に短縄文が施される。隆起線上には、起線間に撚りの細かい短縄文が押されている。

7～10は床面出土の土器。7は区画が縄線文、充填文に縦位の末端に環の付いた短縄文が2列施される。8は斜位に角軸絡条体圧痕文が間隔を空けて施される。9は開いた縄の一端を別の細い縄で縛っている原体を使って羽状に縄文を施してナデている。

10は3と同一個体の可能性がある。細い貼付帯上に縄による浅い刻みが施される。

表IV-11 H5土器集計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆 土 1		早期	1	早期
		東釧路II	2	東釧路II
	東釧路III	東釧路III	5	東釧路III
		コッタロ	5	コッタロ
	中茶路	中茶路	5	中茶路
		前期	4	前期
覆 土 2		早期	1	早期
		コッタロ	1	コッタロ
		中茶路	1	中茶路
床 面		早期	1	早期
		東釧路III	7	東釧路III
		コッタロ	4	コッタロ



図IV-18 H5出土の土器

IV 遺構と遺物

床面出土の石器は、削器1点、礫・礫片3点で、炉の中から削器が1点出土している。覆土2層出土の石器は、石鏃1点、石錐1点である。覆土1層出土の石器は、石鏃2点、つまみ付きナイフ2点、削器1点、R・F1点、U・F1点、方割礫1点である。

4) H6 長さ約433cm 幅347cm 深さ31cm

0・2-a・d区にまたがり、標高7.9m付近の台地部分に位置する。平面形は遺構が調査区外へ伸びるため全体を把握できないがおそらく長楕円形と考えられる。長軸方向はN-46°-Eを向く。床面は平坦でV層を若干掘込むようにして作られている。壁は内湾しながら外上方へ立ち上がる。

III層上面で覆土の広がりを確認した。覆土の上面は耕作によって攪乱を受けていた。覆土は暗黄褐色土1層のみで構成されている。

柱穴は2か所検出できた。住居跡の長軸を対称線とした配列がみられるのであろう。柱穴の断面形は先端部分が鈍角をなしている。太さは14cm前後である。炉は確認できなかった。

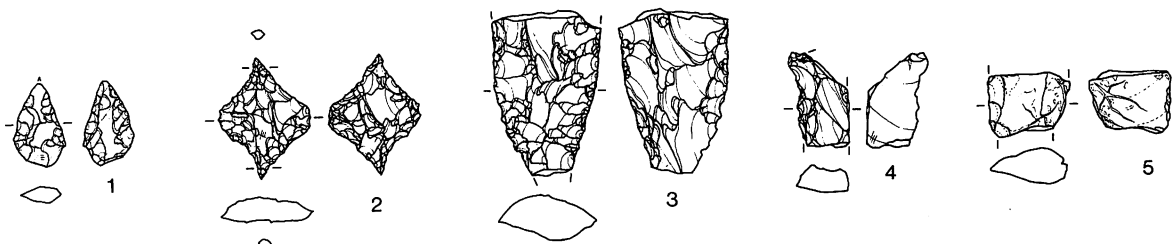
遺物出土状況について。遺物は住居跡の北東側に集中している。

床面からI群b1類土器が多数出土していることより、縄文時代早期中葉の遺構と考える。H2・H6床出土の土器との接合することから、H2=H4=H6という新旧関係が成立する。

1～5は覆土出土の土器。1は区画が縄線文、充填文が短縄文。口縁部は外方に肥厚し、端面を形成する。2は区画・充填文に丸軸絡条体圧痕文が施される。なお、充填文の絡条体圧痕文にはその端部による刺突文が加わる。口縁端面には爪形文が施されている。3は細い貼付帯上に浅い刻みがある。貼付帯間はナデでつぶされている。4は胴部上半、絡条体圧痕文が斜位

表IV-14 H5出土石器一覧

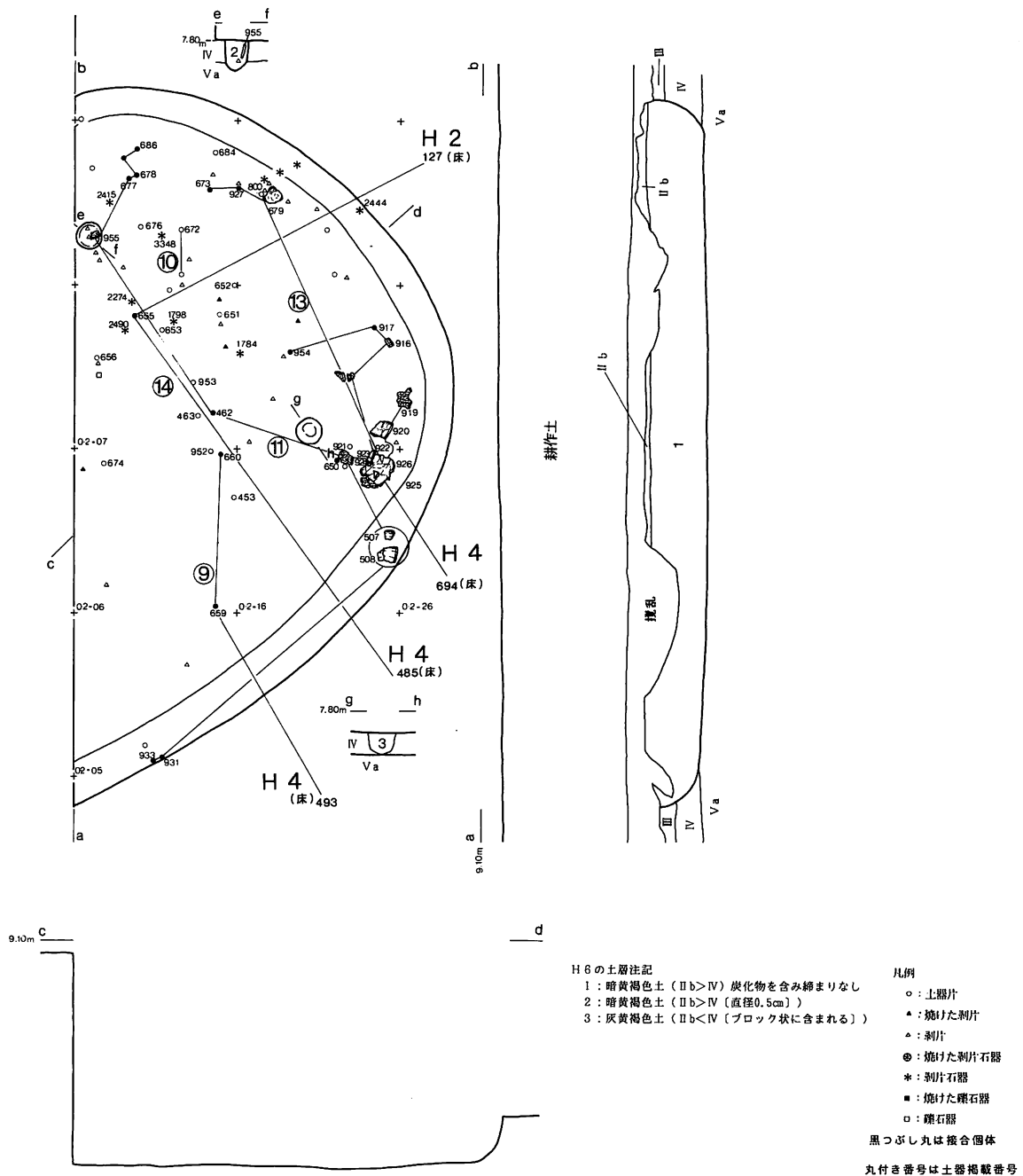
No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	覆土2	22.6	13.2	4.2	1.2	石鏃	黒曜石	1	2153	—	未製品、焼け、附録つぶれ
2	覆土1	22.7	12.4	4.2	1.0	石鏃	黒曜石		2123	—	基部片
3	覆土1	10.9	12.9	2.4	0.3	石鏃	黒曜石		2161	—	基部片
4	覆土2	32.0	25.0	6.3	3.5	石錐	黒曜石	2	2109	両頭	焼け
5	覆土1	27.0	16.8	3.6	1.8	つまみ付きK	頁岩		2104	—	つまみ部片
6	覆土1	22.5	18.0	6.7	3.1	つまみ付きK	頁岩		2152	—	つまみ部片
7	床面直上	44.7	29.5	10.9	15.5	削器	黒曜石	3	2179	切出状?	両側縁両面加工、先端・基部欠損
8	炉焼土中	24.0	13.5	7.9	3.2	削器	黒曜石	4	2278	—	背面加工の側縁部片、折れてから藍く焼け
9	覆土1	16.1	21.7	9.6	3.0	削器	黒曜石	5	2116	—	背面加工の側縁部片、折れてから藍く焼け
10	覆土1	31.0	21.3	6.7	4.3	R・F	黒曜石		2110	—	背面加工の側縁部片
11	覆土1	39.3	28.3	6.7	5.5	U・F	黒曜石		2132	—	一側縁刃こぼれ状、先端・一側縁欠損
12	覆土1	42.2	41.2	15.6	34.9	方割礫	玄武岩		352	C	
13	床面直上	100.0	88.0	54.5	695	礫	安山岩		353	—	楕円礫
14	床面直上	29.0	30.0	6.8	6.1	礫片	安山岩		351	—	
15	床面直上	11.2	10.8	2.9	0.4	礫片	安山岩		355	—	



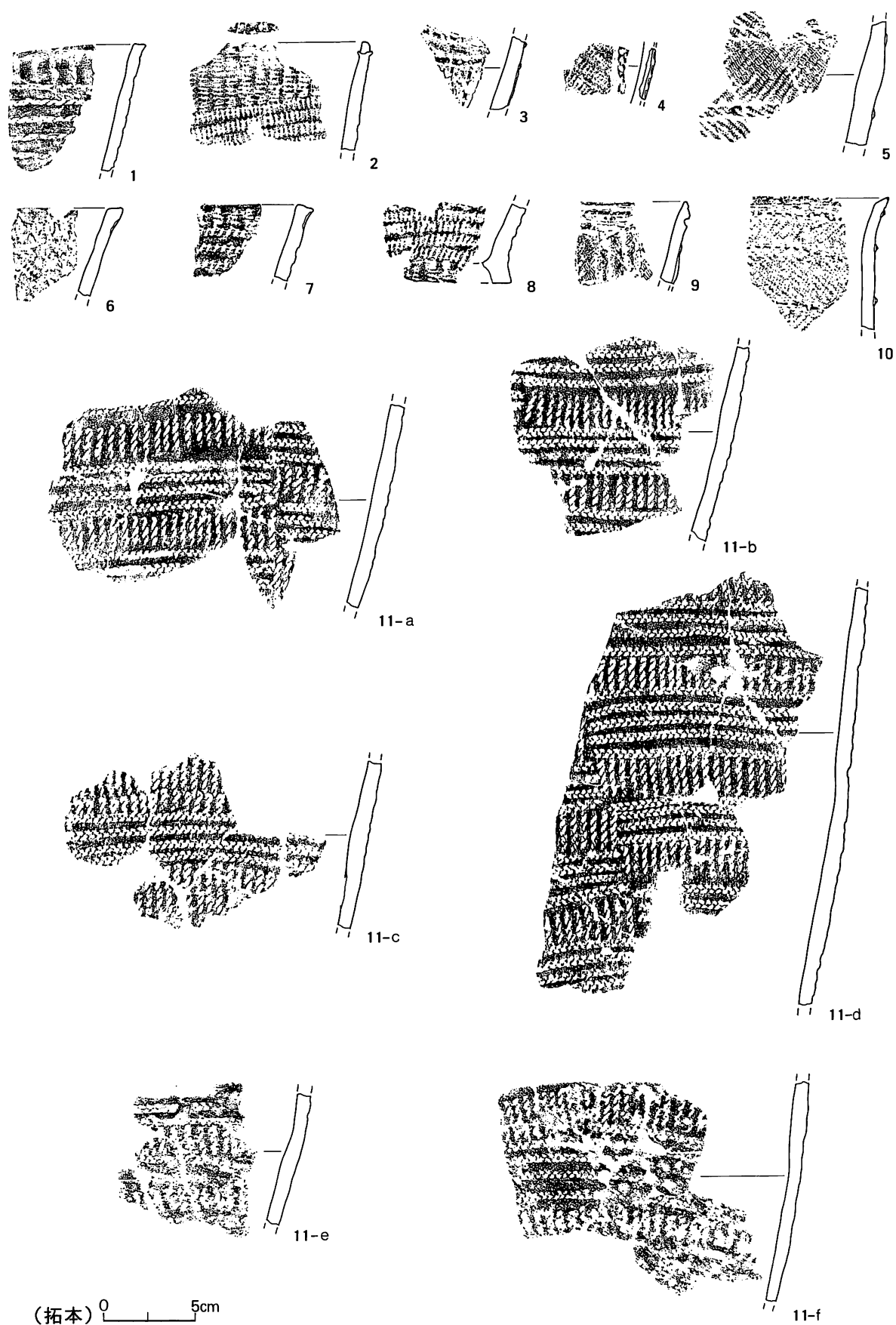
図IV-19 H5出土の石器

に施される。細い貼付帯上に刻目が浅く付けられる。5は縄文が羽状に施され、縄文の境目に貼付帯がある。貼付帯上には縄が浅く施される。

6～10は床面出土の土器。6は施文以前の器面調整が丁寧でないため器表は凹凸が激しい。縄文が斜位に浅く施され、その後に口縁部には縦位の短縄文がある。口縁部は外方に肥厚し、端面を形成する。7は区画文と充填文に丸軸絡条体圧痕文が使われる。なお、充填文の絡条体圧痕文にはその端部による刺突文が加わる。8は2と同一個体か。胴部下半を横位絡条体圧痕文で埋められ、その下には縦位の絡条体圧痕文が付されている。9は横位の貼付帯が付された後に、縦位の貼付帯が付されている。細い貼付帯上に縄文が浅く施される。10は緩やかに外彎しながら立ち上がる。口縁は尖がる。縄文が羽状に施され、縄文の境目に貼付帯がある。貼付



図IV-20 H 6平面及び断面



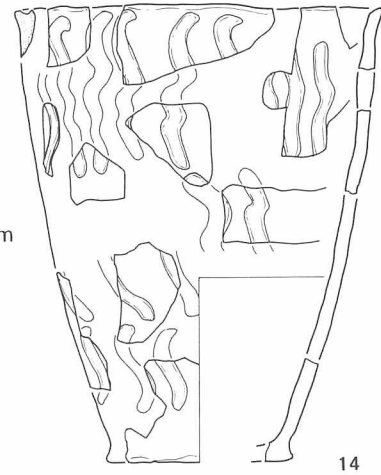
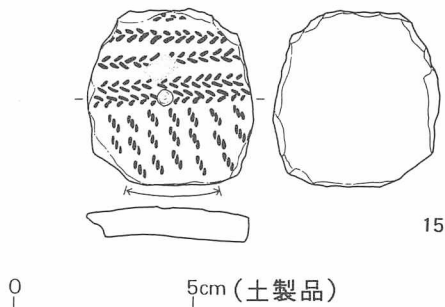
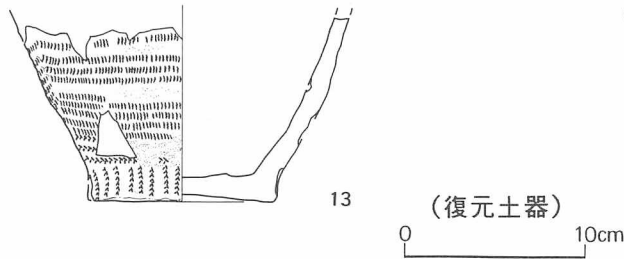
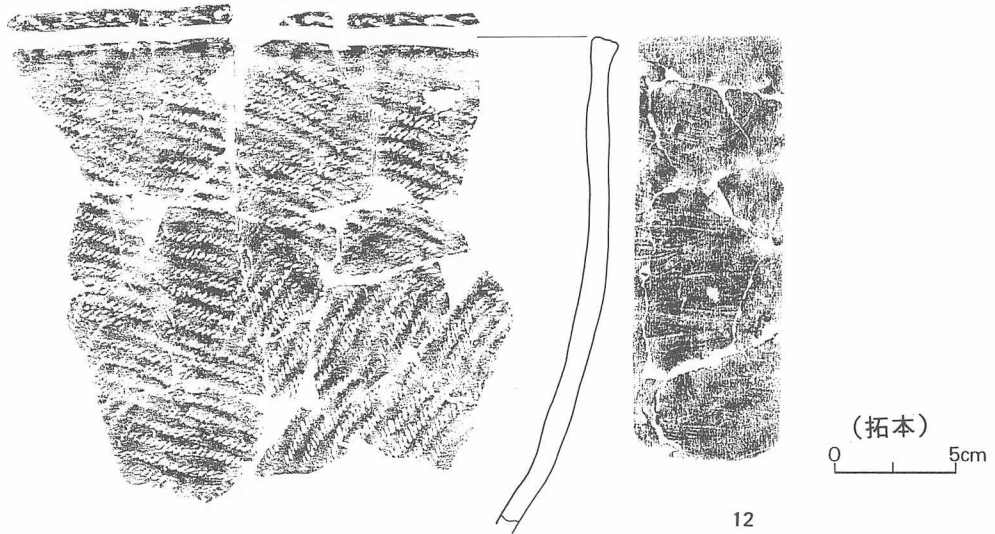
図IV-21 H 6 出土の土器

帯上に刻目が浅く施される。口唇にも刻目が浅く施される。11は区画に横位組紐圧痕文、充填文に短縄文が施される。11-a・dは胴部上半部。文様構成は区画文と充填文を一段ずらした構成をとる部分がある。12は口縁部付近に横走気味の捺糸文が浅く施されている。胴部上半部は方向の異なる斜行の捺糸文が浅く施されている。口縁部は外方に肥厚し、端面を形成する。端面には縄線文が施されている。13は横位角軸絡条体圧痕文が施され、その下には横位組紐圧痕文がある。底部の張出し部分には縦位組紐圧痕文がある。外底面は揚げ底気味。14はナデによるS字状の文様が3段に施さ

表IV-13 H6土器集計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土上のIIb	東鋤路Ⅲ 10	東鋤路Ⅲ 39	東鋤路Ⅲ 2	東鋤路Ⅲ 51
Ⅲ 層	東鋤路Ⅲ 3		東鋤路Ⅲ 1	東鋤路Ⅲ 4
覆土1		早期 2		早期 2
	東鋤路Ⅱ 1			東鋤路Ⅱ 1
	東鋤路Ⅲ 5	東鋤路Ⅲ 7	東鋤路Ⅲ 9	東鋤路Ⅲ 21
	コッタ口 1	コッタ口 7		コッタ口 8
床 面		早期 2		早期 2
	東鋤路Ⅱ 4	東鋤路Ⅱ 20		東鋤路Ⅱ 24
	東鋤路Ⅲ 6	東鋤路Ⅲ 39	東鋤路Ⅲ 14	東鋤路Ⅲ 59
	コッタ口 1			コッタ口 1

※ Ⅲ層出土の土器はH-6の土器と接合したもの



図IV-22 H6出土の土器・土製品

IV 遺構と遺物

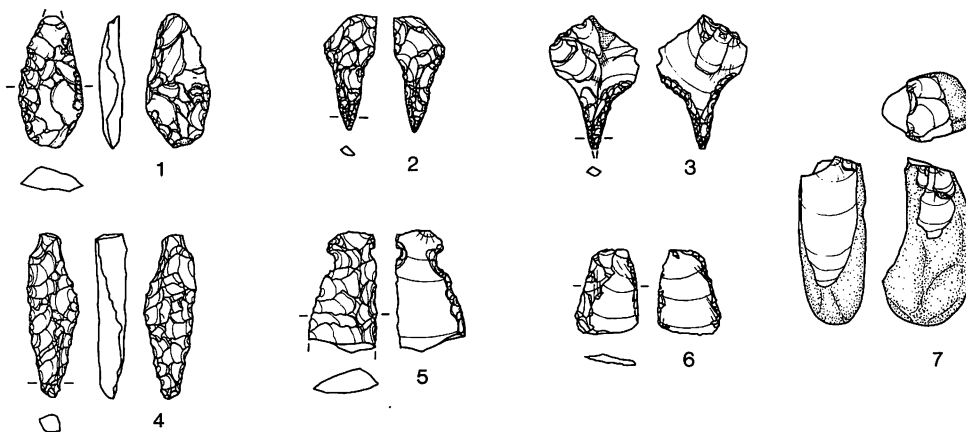
れている。口縁部は外方に肥厚し、端面を形成する。底部は若干張出す。15は有孔土製円盤の未製品。区画が横位組紐文、充填文が短縄文である。

床面出土の石器は、石錐2点、つまみ付きナイフ1点削器1点、R・F1点、U・F2点、石核1点である。覆土1層出土の石器は、石鏃1点、石錐1点、U・F2点、石斧片1点である。

(鈴木)

表IV-14 H6出土石器一覧

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備考	
1	覆土1	35.2	17.2	6.2	3.3	石鏃	黒曜石	1	2428	木槩形	未製品	
2	床面直上	30.9	13.9	5.4	1.6	石錐	黒曜石	2	2274	有柄	刃部つぶれ	
3	床面直上	35.2	24.2	6.1	3.1	石錐	黒曜石	3	3348	有柄	先端わずかに欠損、背面に原石面	
4	覆土1	43.7	14.0	7.5	5.2	石錐	頁岩	4	2433	棒状	先端つぶれ顕著	
5	床面直上	32.5	18.4	6.2	4.0	つまみ付き	頁岩	5	2415	—	つまみ部片	
6	床面直上	22.7	16.8	3.6	1.3	R・F	黒曜石	6	2409	—	一側縁背面・一側縁腹面加工	
7	床面直上	30.1	23.3	5.2	3.5	U・F	黒曜石	7	1798	—	先端・一側縁刃こぼれ状	
8	覆土1	28.6	30.0	5.0	5.1	U・F	頁岩	8	3349	—	一側縁刃こぼれ状、先端欠損	
9	覆土1	28.2	27.4	6.1	3.1	U・F	黒曜石	9	2427	—	一側縁刃こぼれ状、基部に原石面、摩耗	
10	床面直上	12.5	22.2	3.7	1.0	U・F	黒曜石	10	1784	横長	一側縁刃こぼれ状、一側縁に原石面	
11	床面直上	45.3	24.9	17.1	20.9	石核	黒曜石	11	2444	7	—	転換使用、五面に原石面
12	覆土1	28.7	16.6	5.2	2.4	石斧	泥岩	12	363	—	背部片	



図IV-23 H6出土の石器

7) H7 長さ(確認面での最大値、以下同じ) 308cm 幅265cm 深さ28cm

2・3-18区を中心とするⅢ層上面で確認したⅡa層でのくぼみや、掘上土の広がりなどは認められず、床面及び覆土下層の出土遺物もないため時期の特定はできないが、周辺の遺物出土状態などから縄文時代早期の竪穴と思われる。

平面形はやや歪んだ平行四辺形に近く、長軸はほぼ東西方向にある。

炉・柱穴とも確認していない。

遺物は、覆土1層から東釧路Ⅱ式の土器片3点(接合)と、石斧の基部片1点が得られているのみである。図Ⅳ-21-1は、口唇は外側へ張り出し、外面には撚り糸文が施される。上端に斜めの縄線を押捺している。2は青緑色を呈する泥岩製の石斧で、基部には原石面が残され、一面には敲打剝離痕がみられる。

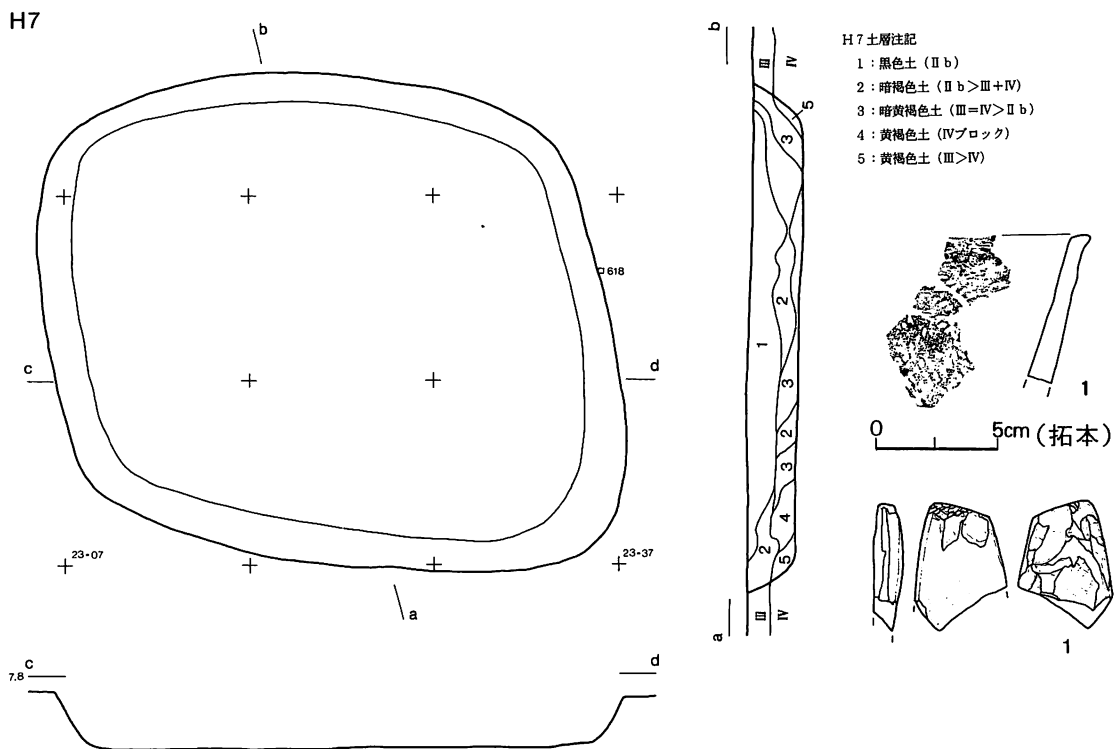
(田才)

表Ⅳ-15 H7出土土器集計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆 土 1	東釧路Ⅱ	1		東釧路Ⅱ 1

表Ⅳ-16 H7出土石器一覧

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	覆土1	51.7	37.3	11.9	30.9	石斧	泥岩	1	618	—	基部片



図Ⅳ-24 H7平面及び断面と出土遺物

IV 遺構と遺物

H 8 長さ約415cm 幅356cm 深さ20cm

1・2-c・d 区にまたがり、標高7.7m 付近の台地部分に位置する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-35°-Wを向く。床面は平坦でIV層を掘込むようにして作られている。壁は内彎しながら緩やかに外上方へ立ち上がる。

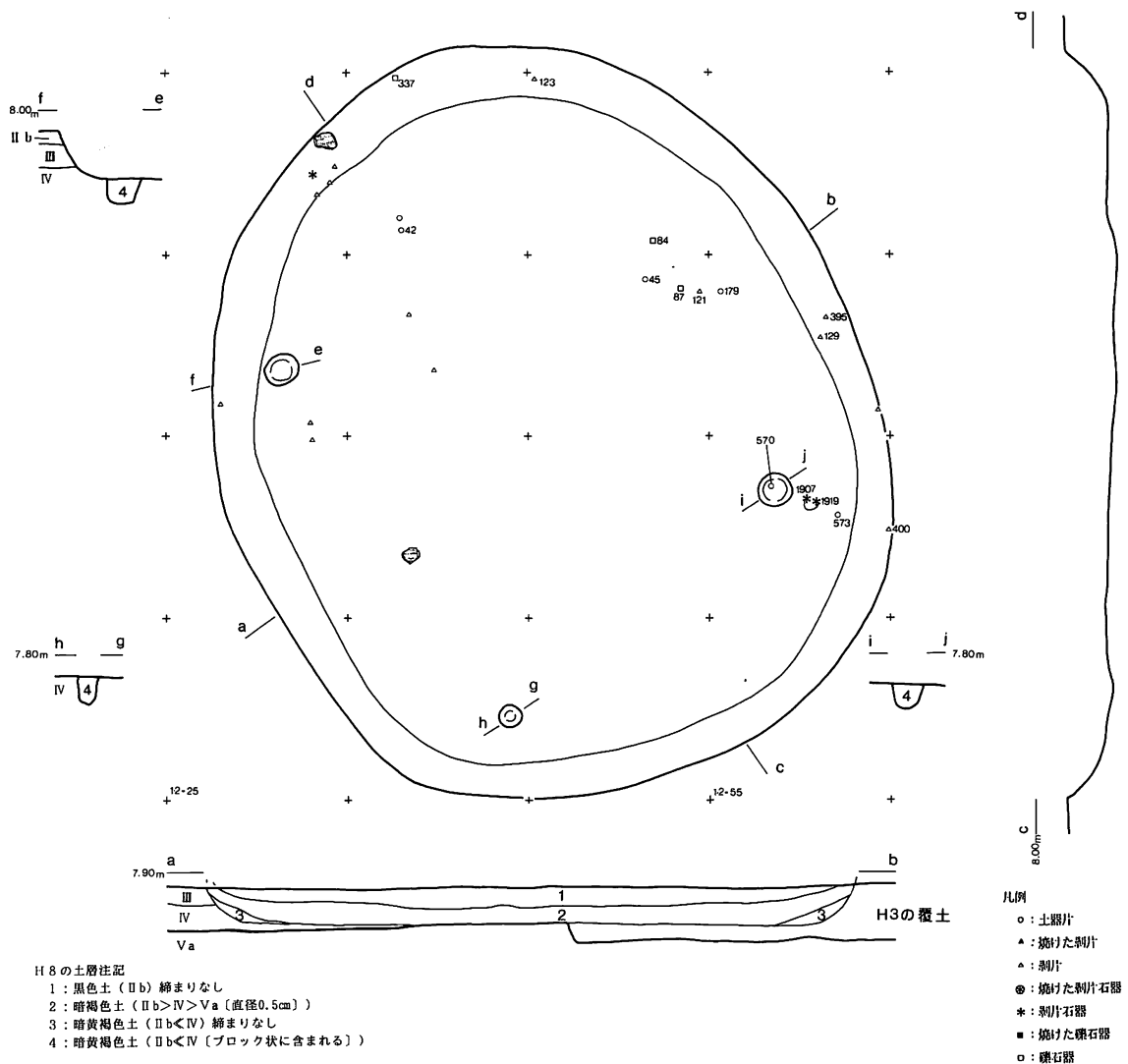
III層を4cm位下げたところで、覆土の広がりを確認した。覆土は主に床面全体を覆う2層と、壁際の流れ込みである3層によって構成されている。

柱穴は3か所検出できた。住居跡の北部分については精査を行ったが、明確な柱穴は確認できなかった。住居跡の長軸を対称線とした配列がみられる。柱穴の断面形は先端部分がほとんど平坦になっている。太さは14cm前後と細めである。炉はない。

遺物出土状況について。遺物は住居跡の北半に集中して分布している。

床面からI群b2類土器が多数出土していることから、縄文時代早期中葉の遺構と考える。

1は短縄文が縦位に施されている。2は細かい組紐圧痕文が縦位に施されている。3は細かい縄文が斜位に施されている。



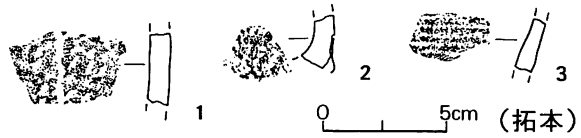
図IV-25 H 8 平面及び断面

覆土3層出土の石器は、R・F1点、石核1点である。覆土2層出土の石器は、削器1点である。覆土1層出土の石器は、礫1点である。1は石槍の可能性はある。

(鈴木)

表IV-17 H8土器集計

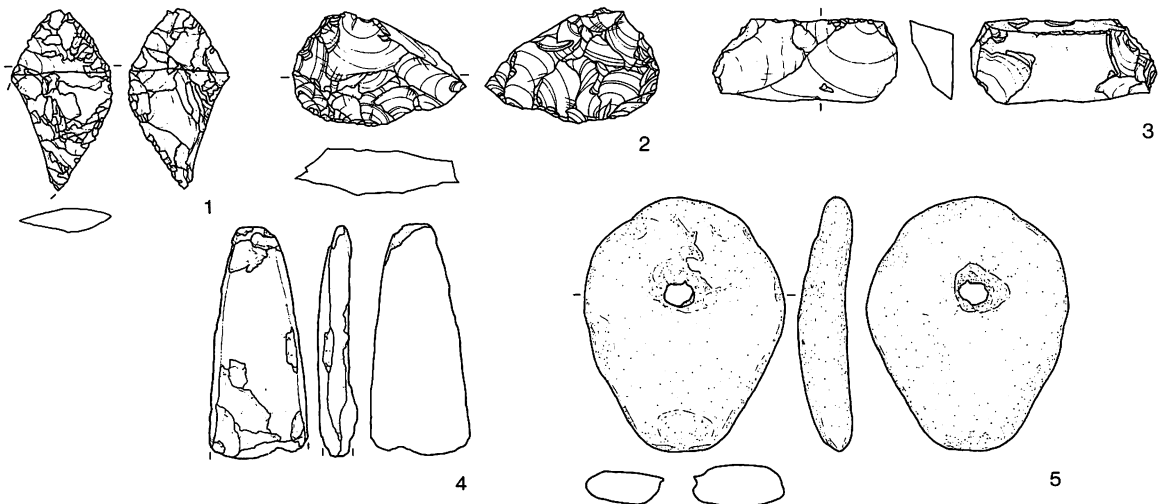
層位	部位			合計
	口縁	胴部	底部	
覆土1		東鋤路Ⅲ 2		東鋤路Ⅲ 2
覆土2		早期 1		早期 1
		コッタロ 2		コッタロ 2
床面		コッタロ 1		コッタロ 1
柱穴 2			コッタロ 1	コッタロ 1



図IV-26 H8出土の土器

表IV-18 H8出土石器一覧

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	覆土2	48.4	27.4	6.4	7.1	削器	黒曜石	1	1907	木葉形	遺物No.1919(12-56)と接合 先端から側縁大損
2	覆土3	31.8	46.5	12.8	14.3	R・F	黒曜石	2	2503	—	全体に粗い加工、先端大損、楔形石器か
3	覆土3	23.4	49.7	10.8	13.7	石核	黒曜石	3	2504	—	四面に原石面
4	覆土1	93.1	39.2	13.4	71.5	石斧	片岩	4	87	—	先端から一面大損
5	覆土2	102.5	81.1	19.5	204.9	石製品	泥岩	5	84	—	自然に開いた穴の周囲を一部調整している
6	覆土1	51.3	23.7	16.8	31.7	礫	安山岩		338	長楕円礫	



図IV-27 H8出土の石器

IV 遺構と遺物

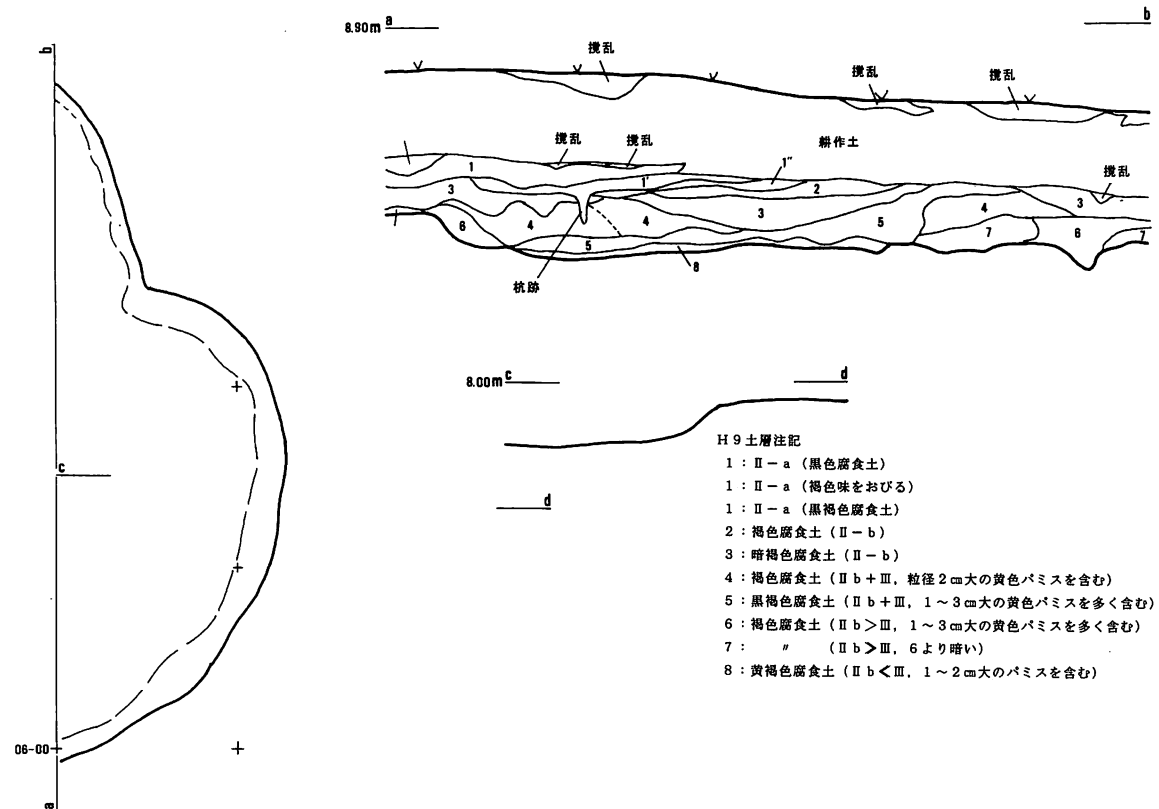
H9 長さ cm 幅 cm 深さ cm

調査区北東隅のIIb層下部で確認した。東半部は調査区外にあり、全体のプランは不明である。壁の立上りは不明瞭であり、床面にも凹凸が多い。柱跡や炉跡も検出されていないことから、竪穴住居としての要素に欠ける。しかし、昭和63年度の千歳市教育委員会による調査で発掘された「IIH-1竪穴」に続く位置関係にあること、自然地形の窪みとは見られないことから、竪穴住居跡と判断した。

床面には遺物が出土していないが、確認された層位および、覆土よりコッタロ式土器の破片が出土していることから、縄文時代早期の遺構と考えられる。

確認したプランは北部でくびれており、土層断面の観察でもこの部分に立上りが見られる。このことから、本遺構は2軒の住居跡が重複している可能性がある。

千歳市教育委員会が調査したIIH-1竪穴は、直径約10mにおよぶ竪穴の北半部で、床面から東鉤路Ⅲ式土器が伴出している。市教委と当センターの調査区は接しており、この住居跡のプランを南へ延長するとH9の位置にあたることから、本住居跡はIIH-1竪穴の一部とも考えられる。しかし、南東部が両調査区の外にあることから、詳細について判断することはできない。H9はIIH-2竪穴より以降に、これを切って構築された竪穴の可能性もある。(鬼柳)



層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土上のIIb		コッタロ	1	コッタロ 1
覆土 1		コッタロ	5	コッタロ 5

図IV-28 H9平面及び断面

H10 長さ約540cm 幅370cm 深さ20cm

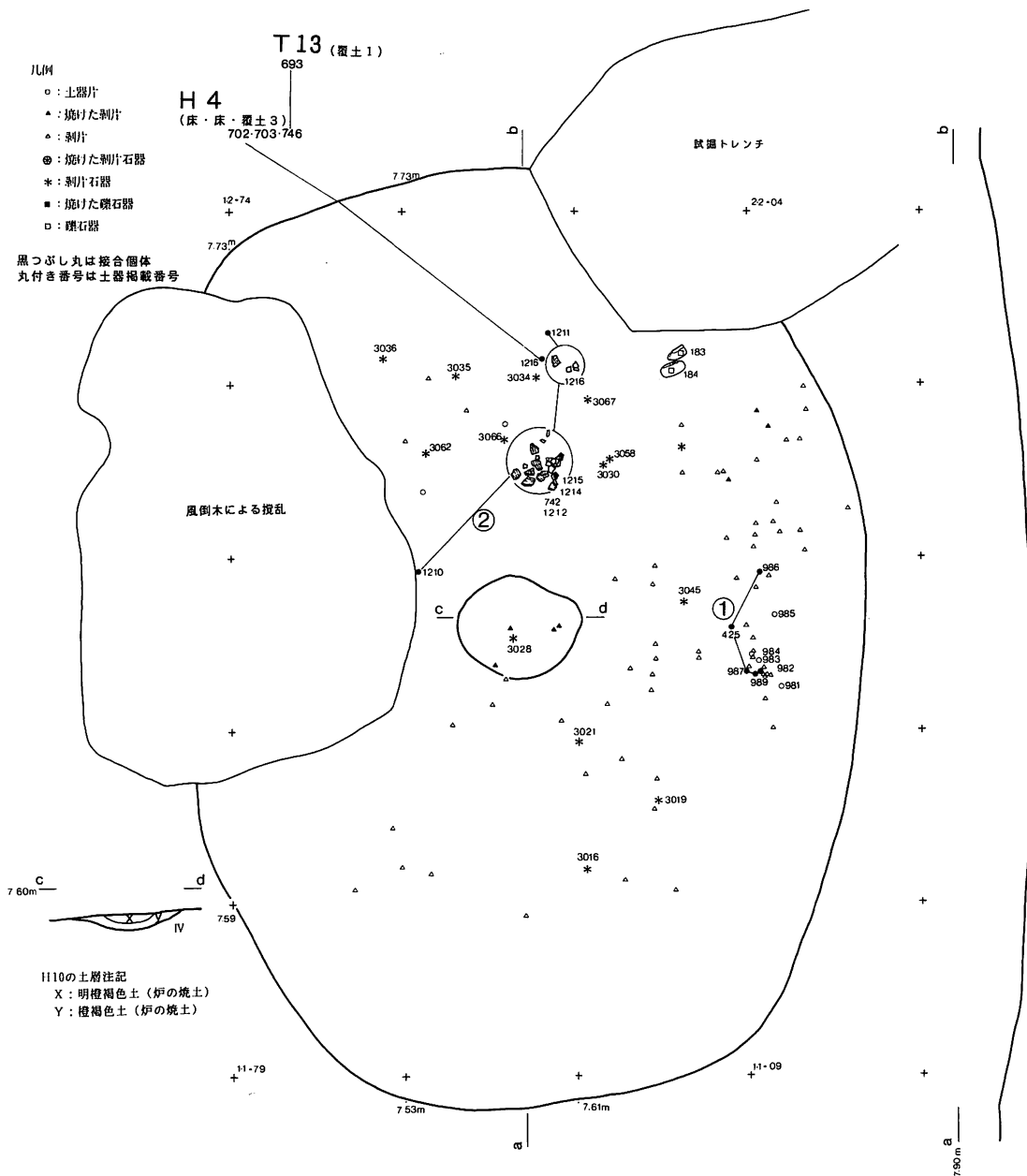
1・1-c、2・1-d、1・2-b、2・2-a 区にまたがり、標高7.6m 付近の斜面肩口部分に位置する。平面形は長楕円形で、長軸方向は N を向く。床面は皿状でIV層を若干掘込むようにして作られている。

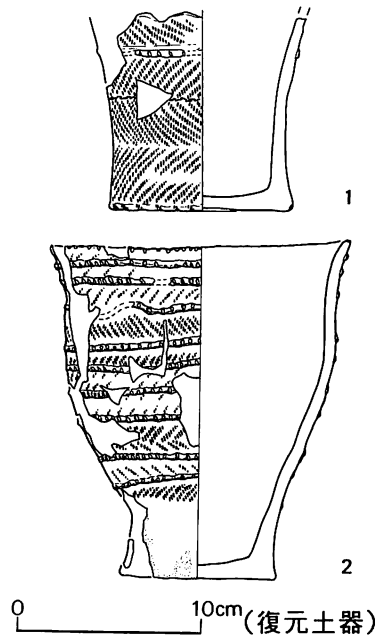
調査当初は明瞭な立上りがないこと、皿状の底をもっていたことから住居跡とは考えていなかったが、遺物の出土状況と炉が検出されたことによって、浅い竪穴住居跡であると判断した。

柱穴は検出できなかった。炉は住居跡中央に位置し、平面形が不整円形の地床炉である。掘込みはない。

遺物は床面からの出土は少なく、少し浮いた状態で出土した。住居の東半に集中して分布している。

床面から I 群 b 2 類土器が多数出土していることにより、縄文時代早期中葉の遺構と考える。

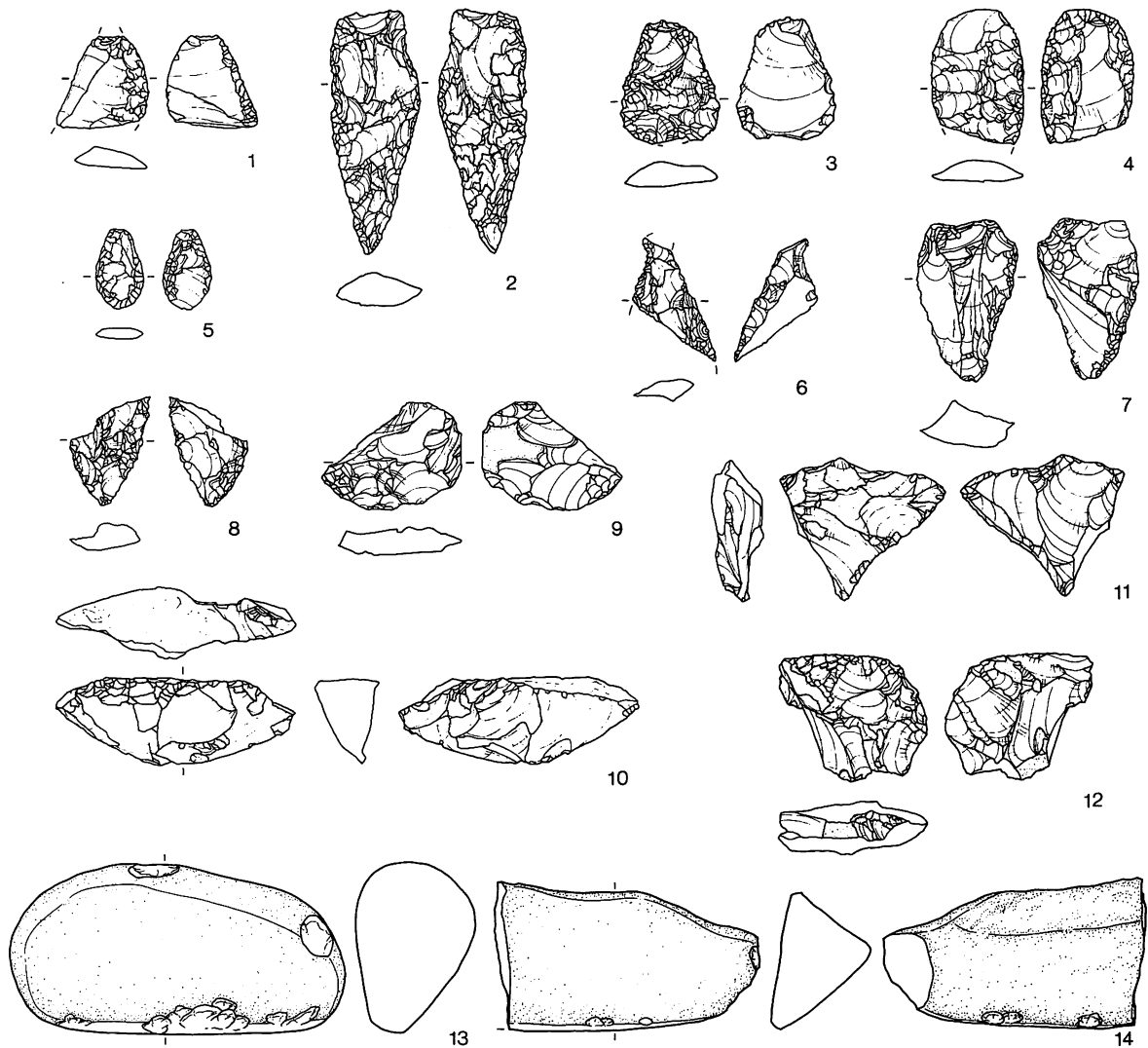




表IV-20 H10土器集計

層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
覆土上のⅡb前期	1	コッタロ 64	コッタロ 5	前期 96
覆土 1	コッタロ 7		コッタロ 10	コッタロ 17

図IV-30 H10出土の土器



図IV-31 H10出土の石器

1 は開いた縄の一端を別の細い縄で縛った原体で羽状縄文を施す。ヨコナデによって貼付帯が施されるがその位置をあとづけている。貼付帯上には棒状工具による浅い刻目が付される。底部の角には縄端による圧痕文が付される。外底面は揚げ底ではない。2 は羽状に縄文を施す。ヨコナデによって貼付帯が施される位置をあとづけている。貼付帯上には棒状工具による深い刻目が付される。底部は若干張出す。口縁は尖がり、口唇に刻目が付される。

覆土から出土した石器は、石鏃2点、石槍1点、削器5点、R・F7点、U・F6点、石核4点、すり石2点である。出土したR・Fから推測すると、両面調整石器を製作しており、薄手の木葉型の石槍であった可能性が高い。
(鈴木)

表IV-21 H10出土石器一覧

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	覆土	13.7	6.3	1.8	0.1	石鏃	黒曜石		3028	—	先端部片
2	覆土	21.4	9.7	3.7	0.8	石鏃	黒曜石		3044	柳葉形	先端欠損・一側縁わずかに欠損
3	覆土	36.6	27.2	9.0	6.2	石槍	黒曜石		3034	—	基部片、基部に原石面
4	覆土	28.5	25.0	7.3	4.7	石槍	黒曜石		3067	—	基部片、基部・背面に原石面
5	覆土	27.8	25.2	5.0	4.0	削器	黒曜石	1	3036	—	一側縁背面・一側縁腹面加工、先・基欠損
6	覆土	67.9	25.0	10.1	15.6	削器	黒曜石	2	3066	切出状	両側縁両面加工、刃部つぶれ
7	覆土	33.7	27.7	7.3	6.2	削器	黒曜石	3	3035	縦長	一側縁背面、先端欠損
8	覆土	36.5	25.6	6.3	7.4	削器	黒曜石	4	3019	—	基部腹面・両側縁両面加工、先端欠損
9	覆土	22.0	13.4	3.1	1.1	削器	黒曜石	5	3032	木葉形	両側縁両面加工、両側縁つぶれ
10	覆土	21.1	16.1	5.0	1.8	R・F	黒曜石	6	3014	つまみ?	一側縁両面・一側縁背面加工の中央部片
11	覆土	39.5	31.5	9.8	10.7	R・F	頁岩		3024	—	一側縁両面加工
12	覆土	39.0	24.9	6.5	5.2	R・F	黒曜石		3026	—	基部腹面加工、先端欠損、背面に原石面
13	覆土	44.5	27.5	12.5	11.2	R・F	黒曜石	7	3023	—	一側縁背面・一側縁腹面加工、摩耗
14	覆土	21.9	41.1	7.8	6.1	R・F	黒曜石		3039	—	一側縁背面加工、先端欠損、若干摩耗
15	覆土	32.5	29.5	7.2	3.2	R・F	黒曜石	8	3045	—	両面加工の端部片、焼けてから折れ
16	覆土	27.4	39.8	8.2	7.5	R・F	黒曜石	9	3058	—	全周に粗い加工、一側縁欠損、先端つぶれ
17	覆土	48.7	21.5	7.7	6.1	U・F	黒曜石		1641	—	両側縁先端側刃こぼれ状、背面に原石面
18	覆土	29.1	15.4	5.5	2.1	U・F	黒曜石		3050	—	両側縁刃こぼれ状
19	覆土	35.4	20.3	6.1	4.5	U・F	黒曜石		3025	—	一側縁刃こぼれ状、先端欠損、摩耗
20	覆土	28.8	33.2	7.8	6.3	U・F	黒曜石		3017	—	一側縁刃こぼれ状、基部つぶれ、若干摩耗
21	覆土	20.4	28.5	4.0	2.0	U・F	黒曜石		3018	—	一側縁刃こぼれ状、先端欠損
22	覆土	57.8	22.0	6.5	6.8	U・F	黒曜石		3020	—	一側縁刃こぼれ状、先端欠損、摩耗
23	覆土	25.4	67.3	18.2	22.0	石核	黒曜石	10	3062	—	一面に原石面、摩耗
24	覆土	38.8	40.6	13.3	16.6	石核	黒曜石	11	3016	—	一面に原石面、摩耗
25	覆土	38.4	39.6	12.4	17.6	石核	黒曜石	12	3021	—	一面に原石面、摩耗
26	覆土	18.0	37.8	8.5	4.3	石核	黒曜石		3030	—	一面に原石面
27	覆土	139.7	50.4	70.2	745	すり石	安山岩	13	183	断面三角	上面に敲打痕
28	覆土	109.7	45.3	59.7	323.4	すり石	安山岩	14	184	断面三角	一端欠損

IV 遺構と遺跡

2 土壌

P1 (確認面での最大値、以下同じ) 長径122cm 短径110cm 深さ74cm

0・1-05区のIIa層上面で確認された。下半部は円筒形で上半部が碗状に大きく開き、全体に漏斗状の形態をなしている。上半部はIIa層にあり、非常に滑らかである。下半部は硬いローム層(IV層)に掘りこまれ、壁と壙底には棒状の道具で掘削した際のものと思われる凹凸がある。壙口部は耕作によって削平されており、本来さらに10~20cmほど深い土壌だったものと考えられる。

上半部には粒径が異なるTa-a軽石層が互層をなして堆積している。下半部には黒色腐植土(II-a・b層)とIII層およびTa-a層が、それぞれ異なる割合で混じりあった土壌が、やはり互層になって堆積している。下半部の埋土には細かな空隙があり、非常にやわらかい。すべて、周囲から流れ込んだ状態を示している。

内部から遺物は出土していない。

P2 長径202cm 短径198cm 深さ84cm

1・4区北西部のII-a層上面で確認した漏斗状の土壌。上半部はP1よりも大きく開いているが、下半部は同規模である。やはり、壙口は削平されている。上半部にはTa-a、下半部にはII-a・b層、III層、Ta-a層が混じりあった土壌が、P1と同じ状態で堆積している。下半部の壁、壙底には、掘削した時のものと見られる凹凸がある。伴出遺物はないが、壙底の土壌(10層)からキハダの種子が検出されている(頁を参照)。

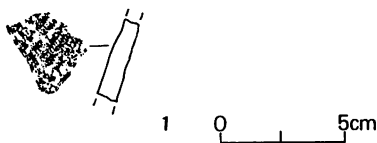
P1・P2とも、上半部には樽前a降下軽石層(Ta-a)が入っていることから、この火山灰が降下した1739年以前に掘られた土壌であることが分かる。壙口はP1が少し小さいが、本来は同規模だった可能性が強い。下半部の埋土はII層・III層にTa-aが混じりあったもので、短時間のうちに周囲から流れ落ちた土壌と見られる。Ta-aの降下年代に、かなりちかい時期の遺構と推定される。

形態、埋土の状態が極めて類似していること、伴出遺物がないことなどから、二つの土壌は同一の目的で掘られたことは明瞭である。しかし、目的と用途について判断することは今回でできなかった。

これと同様の土壌は、千歳市教委による本遺跡の調査により今回の調査区の北方にあたる場所で8基発見されている(千歳市教育委員会 1998)。

P3 長径110cm 短径90cm 深さ154cm

調査区北西部の1・5区にある。III層上面で確認した。断面中央部が狭いフラスコ状の土壌



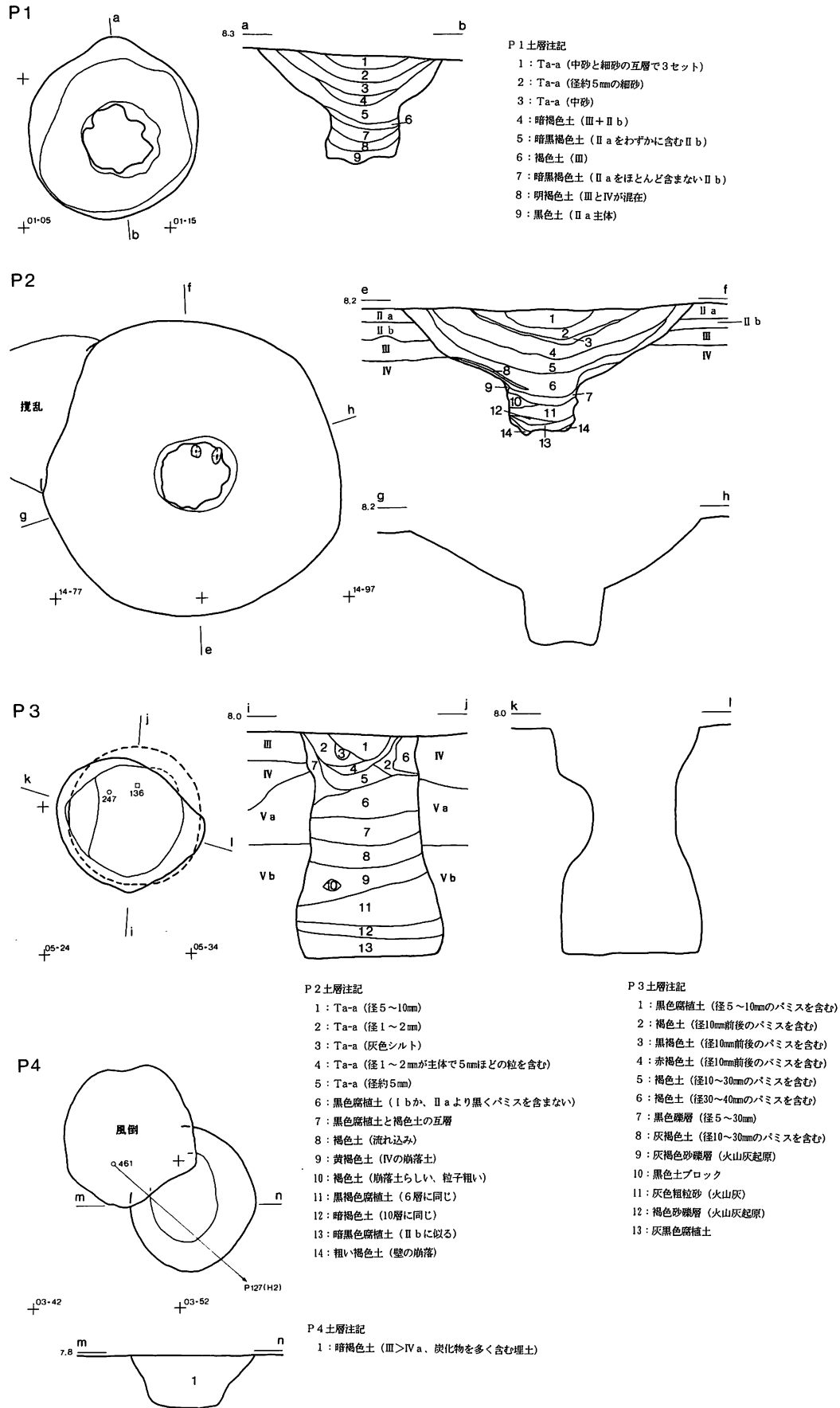
図IV-32 P3出土の土器

表IV-22 P3出土土器集計

遺構	部 位			合 計
	層 位	口 縁	胴 部	
覆土 1		コッタ口		コッタ口 1
覆土 10		余市		余市 1

表IV-23 P3出土土器

No.	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	上面	50.6	48.3	21.2	60.2	方割礫	凝灰岩		136	B	



図IV-33 土層平面及び断面

IV 遺構と遺跡

である。西側の壁がほかの部分に比べて大きく膨らんでいる。下半部はV層を深く掘り込んでいる。墳底はほぼ水平である。下半部の埋土はⅢ-b層にⅡ層・Ⅳ層が異なる割合で混じりあった土壌が互層になって堆積している。下半部の埋土はやわらかく、自然に埋まったものと推定される。

墳口付近と墳底で1点ずつ土器片が出土している。前者は縄文時代早期のコッタロ式、後者は後期の余市式土器の破片であるが、掘り込み面がⅢ層下部にあって、上部を削平された可能性がないことから、縄文時代早期から前期の遺構と考えられる。(鬼柳)

P 4 長さ93cm 幅85cm 深さ35cm

0・3-42区のⅢ層上位、H 2 掘上土下で確認した。北側は後世の風倒木によって攪乱されているが、平面形は楕円を呈する。埋土はほぼ均一で、炭化物と剥片類が目立ったため、水洗選別及びフローテーションを実施し、土器片1点・剥片類32点(黒曜石剥片15点、焼けた黒曜石剥片6点、頁岩剥片2点)と、炭化材片0.1g・種子0.001g(同定不能)を得た。なお、本土墳周辺のⅢ層上位、H 2 掘上土中及びその上面からも多量の剥片類が出土している。土器片は東釧路Ⅲ式の無文底部片で、H 2 床面出土の底部片(遺物No.127)と接合し、H 6 床面出土の土器(図Ⅳ-22-14)と同一個体である。(田才)

3 Tピット

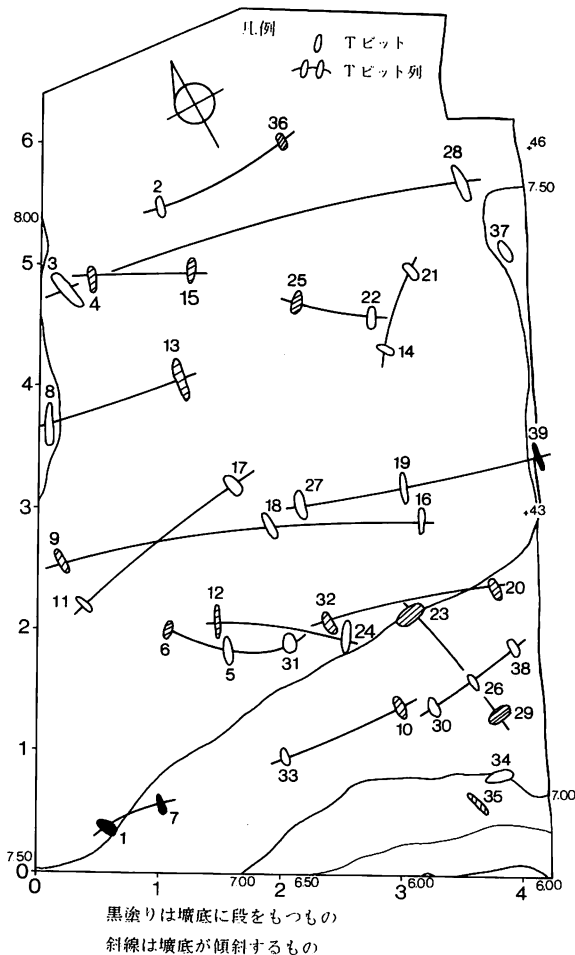
Tピットは、調査区のほぼ全域から計39基検出されている。杭穴を確認したものはないが、湧水のため塙底を詳細に調査できなかったものも多く、あるいは見落としがあるかも知れない。

長軸は南北を向くものが多いが、T1・14などは北西-南東に、T6・25などは東北-南西に、T23・29・34は東西方向に長軸がある。

塙底長幅比が4未満のものはなく、5.0~9.9が32例と大半を占める。

ユカンボシE5遺跡の報告(1993)で注目した、塙底の一方が傾斜しているものと、端部が角張るものもみられた。

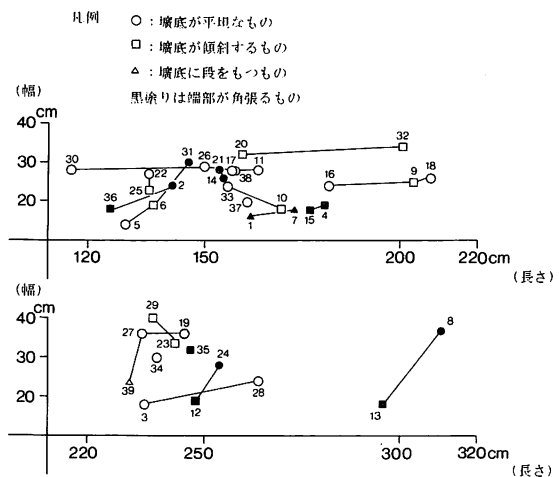
配列は、ユカンボシE5遺跡例ほど明確ではないが、やはり2ないし3基ずつのセットが窺われる。



図IV-34 Tピットの分布

表IV-24 Tピット計測値一覧

No	グリッド	深さ (cm)	塙底面		長幅比	備考
			長さ	幅		
1	00	108	162	16	10.1	両端角張る、塙底に段
2	05	124	142	24	5.9	南端角張る、塙底平坦
3	04	140	235	18	13.1	塙底平坦
4	04	124	181	19	9.5	南端角張る、塙底中央が下がる
5	11	114	130	14	9.3	塙底平坦
6	11	129	137	19	7.2	塙底若干北側が上がる
7	10	124	173	18	9.6	南端角張る、塙底に段
8	03	141	311	37	8.4	塙底北側が上がる
9	02	158	204	25	8.2	塙底北側が上がる
10	21	96	170	18	9.4	塙底北側が上がる
11	02	121	164	28	5.9	塙底平坦
12	12	105	248	19	13.1	北端角張る、塙底南側が下がる
13	14	137	296	18	16.4	両端角張る、塙底北側が上がる
14	24	124	155	26	6.0	北西端角張る、塙底平坦
15	14	121	177	18	9.8	南端角張る、塙底南側が上がる
16	32	109	182	24	7.6	塙底平坦
17	13	124	157	28	5.6	塙底平坦
18	12	122	208	26	8.0	塙底平坦
19	23	102	245	36	6.8	塙底平坦
20	32	123	160	32	5.0	塙底中央が下がる
21	34	116	154	28	5.5	北端角張る、塙底平坦
22	24	125	136	27	5.0	塙底平坦
23	32	138	243	34	7.1	塙底東側が上がる
24	21	104	254	28	9.1	南端角張る、塙底平坦
25	24	124	136	23	5.9	塙底北側若干下がる
26	31	88	150	29	5.2	塙底平坦
27	23	136	234	36	6.5	塙底平坦
28	35	128	264	24	11.0	塙底平坦
29	31	116	237	40	5.9	塙底東側が上がる
30	31	105	116	28	4.1	塙底平坦
31	21	132	146	30	4.9	南端角張る、塙底平坦
32	22	110	201	34	5.9	塙底中央が下がる
33	10	102	156	24	6.5	塙底平坦
34	30	96	238	30	7.9	塙底平坦
35	30	44	247	32	7.7	両端角張る、塙底南側が下がる
36	16	112	126	18	7.0	両端角張る、塙底北側が上がる
37	35	124	161	20	8.1	塙底平坦
38	31	122	158	28	5.6	塙底平坦
39	43	119	231	24	9.6	塙底に段



図IV-35 Tピットの大きさ

IV 遺構と遺跡

T1 長さ180cm 幅70cm 深さ110cm

調査区南東隅の沢跡に近い斜面、0.0区に位置する。長軸方向は北西-南東で、コンターにほぼ直交している。壙底のプランは、幅約20cmの細長い長形状をなしている。

上部は大きく開いており、確認面では楕円形をなしているが、崩落したものと見られ、とくに南西側からはIIb層が大量に流れ込んでいる。

壙底面は北西に向かって高くなっており、南西から3分の2ほどの所に段がある。壙底からは多量の湧き水があった。

遺物は出土していない。

位置、規模、形態からT7と列をなすものと見られる。

T2 長さ150cm 幅66cm 深さ123cm

調査区北西部の0・5区にある。長軸は北北西-南南東。上部は崩落して少し開いている。壙底は南側がわずかに低くなっており、南端部の壁は下方でオーバーハングしている。壙底の両端は丸みをもっている。湧水はない。

位置関係や規模から、T36と列をなすものと推定される。

図IV-47の4は覆土上部で出土した余市式土器片。口縁端面に縄文を施している。

T3 長さ370cm 幅45cm 深さ150cm

調査区北西部の0・4区で確認された。長軸はほぼ南北方向を向いている。規模は大きいですが、上部の崩落が少なく、構築された時にちかい状態を保っているものと考えられる。土層断面にも大きく崩落した様子は見られない。

壙底はほぼ水平になっているが、長軸方向の壁は上へ開いて傾斜しており、壁の途中に段がある。短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土下部の9~13層は湧き水による影響で、非常に柔らかい砂状の層になっている。

調査区北東部にあるT28に長軸方向、規模がほぼ共通しており、これと列をなすものとも考えられるが、約34mの距離があり、この間には同一列とみなされるTピットはない。

遺物は出土していない。

なお、確認面で後世に打ち込まれた杭跡が3本検出された。

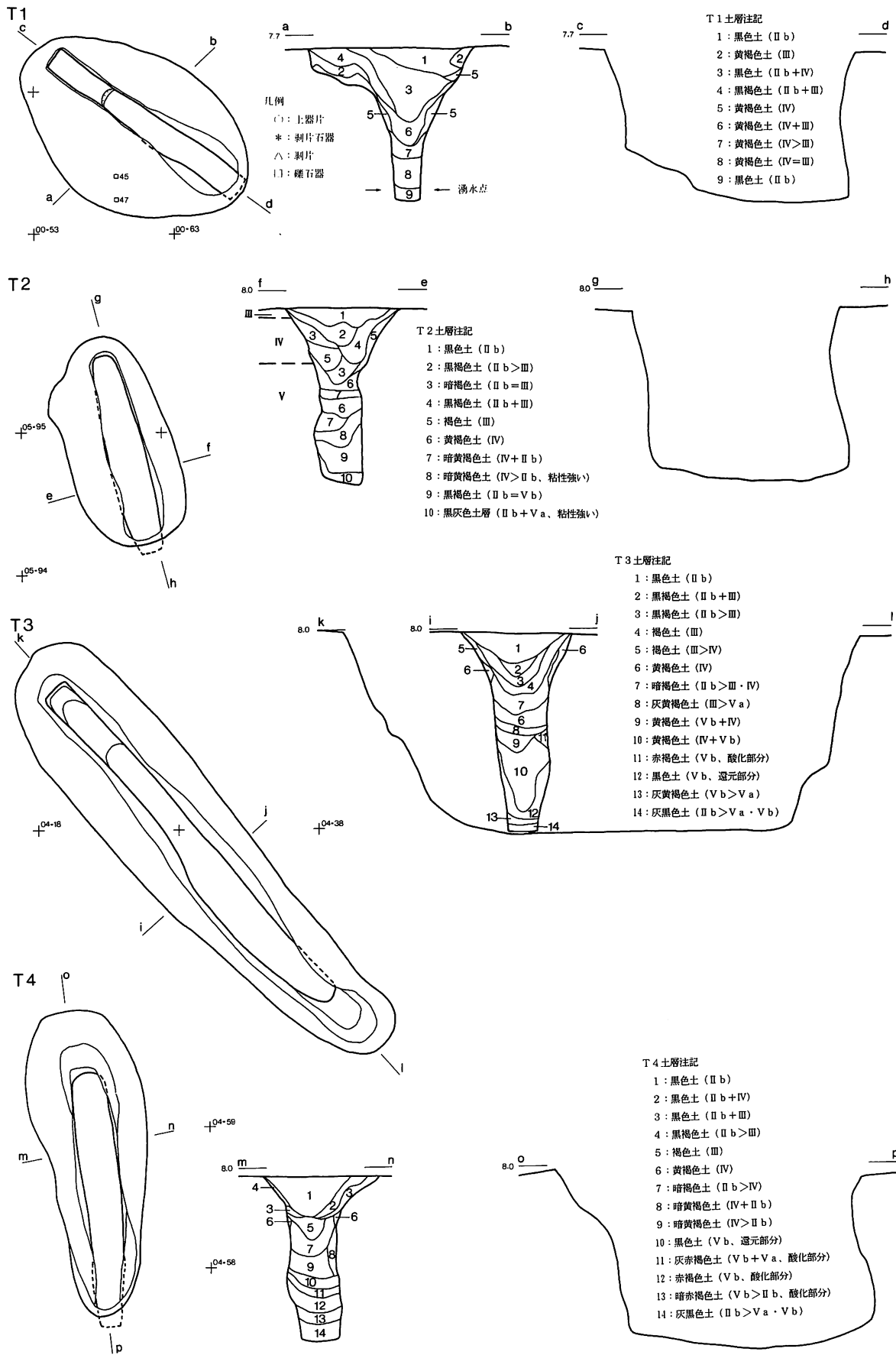
T4 長さ218cm 幅82cm 深さ120cm

調査区北西部の0・4区で、T3に並ぶ位置にある。確認面はIIa層。長軸方向は北北東-南南西である。壙底は両端が角ばっており、南側の壁はオーバーハングしている。

壙底面は南側がわずかに低くなっている。短軸方向の壁はほぼ垂直に立上り、壙口ちかくで開いている。

東に約8mのところ、長軸方向と規模を同じくするT15があり、これと列をなすものと考えられる。遺物は出土していない。

(鬼柳)



図IV-36 T1~4 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T 5 長さ220cm 幅78cm 深さ116cm

1・1-c 区の標高7.7m に位置する。IIb 層を15cmさげたところで検出された。確認面での平面形は北側が少し細くなる長楕円形、底面の平面形は細い楕円形を呈する。

壙底は横断面が皿状、縦断面が平坦である。

覆土はIIIb 層起源の黒色土が土壌の上半部分に流入しているところから壁面の崩落は、土壌の埋没過程の初期に頻繁に起こったと考えられる。

T 6 長さ152cm 幅62cm 深さ130cm

1・1-b、1・2-a 区の標高7.8m に位置する。IIb 層を20cm下げたところで検出された。確認面での平面形は長楕円形、底面の平面形は細い楕円形を呈する。

壙底は横断面、縦断面ともに平坦である。

覆土はIIb 層起源の黒色土が土壌の上半部分に流入しているところから壁面の崩落は、土壌の埋没過程の初期に起こったと考えられる。なお、壁面が上方にまっすぐ立ち上がっているところから壁面の崩落は頻繁に起こったと考えられる。(鈴木)

T 7 長さ167cm 幅57cm 深さ124cm

1・0-05区で確認した。長軸はほぼ南北方向で、コンターに斜行する。壙底は全体に傾斜しており、北側が高く中央は段になっている。南側はバチ状に広がり、端部は角張っている。杭穴は確認していない。

こうした形態と位置から T 1 と対をなすものと考えられる。覆土下半はほぼ Vb 層の崩落土で、黒色土の堆積はみられない。

遺物は出土していない。確認面から 1 m ほど下位、標高6.6m 前後で湧水がみられた。

T 8 長さ343cm 幅68cm 深さ141cm

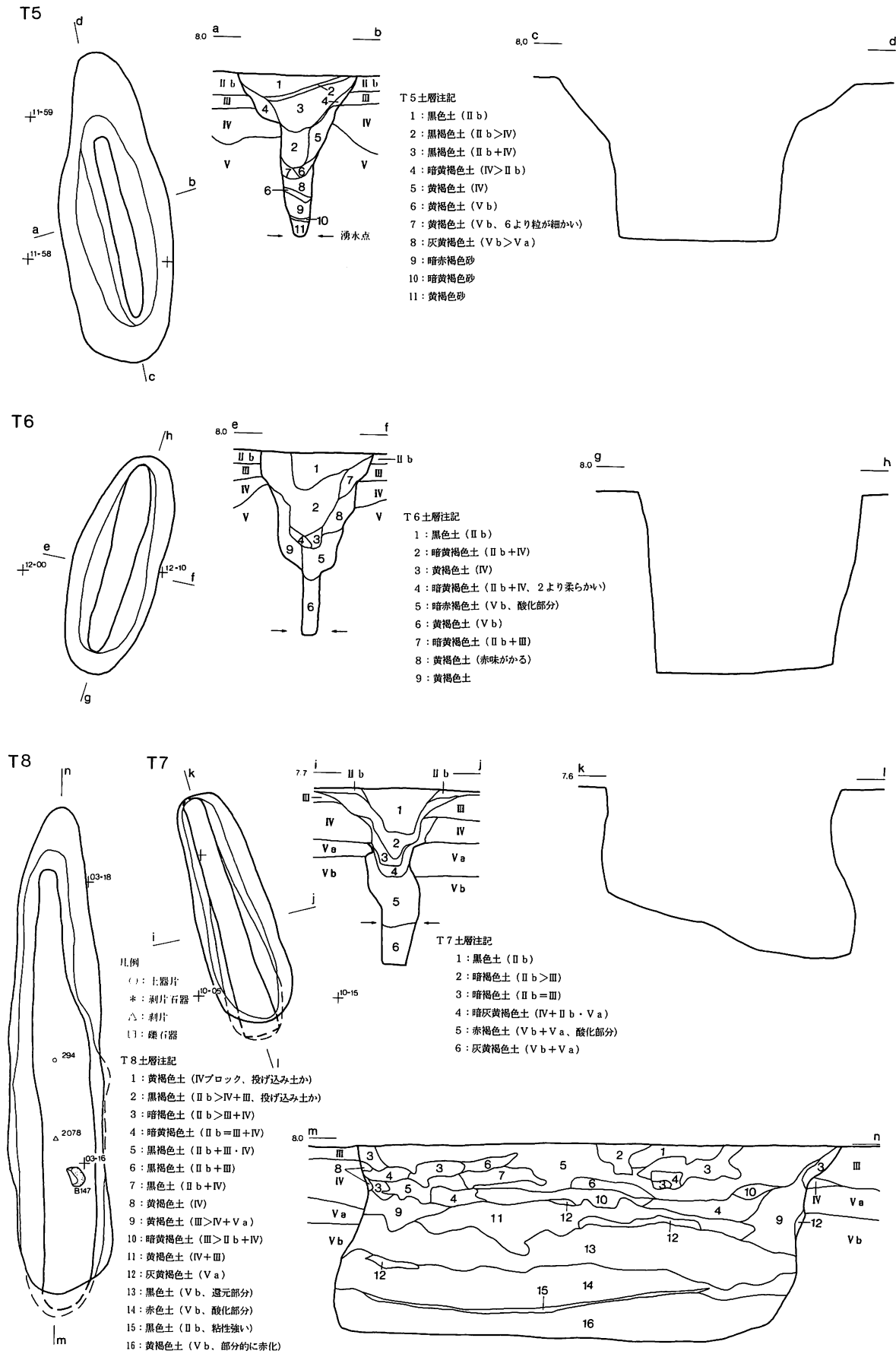
0・3-05区で確認した。長軸方向は北東-南西で、コンターに並行する。壙底はほぼ平坦であるが、北側のみが斜めにあがり、幅も極端に狭くなっている。

壙底長は、今回確認した T ピットではもっとも長い311cmを計る。杭穴はない。

位置・形態などから T13と対をなすものと考えられる。覆土は、壙底から15cmほど上位に粘性の強い黒色土が薄くみられ、その上下に b 層の崩落土が厚く堆積し、半分以上を埋めている。

なお、確認面の覆土 5 層中に投げ込みと思われる層（覆土 1・2）がみられる。

遺物は覆土 5 層中からコッタロ式土器の細片 1 点と、半分に割れた安山岩素材の台石 1 点（図 IV-47-3）、黒曜石の剝片 3 点が出土している。湧水は壙底際の標高6.6m 前後でみられた。



図IV-37 T5~8 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T9 長さ217cm 幅56cm 深さ158cm

0・2-25区で、H6を切った状態で確認した。長軸はほぼ南北方向で、コンターに直交する。壙底南側はほぼ平坦で、北側三分の一ほどが斜めに上がっており、深さは今回の調査で確認した中ではもっとも深い。

杭穴は確認していない。

位置・規模から T16・18と列をなすものと考えられる。壙底直上には Vb 層混じりの黒色土が 15cm ほど堆積している。

遺物は出土していない。

壙底から 20cm ほど上位の、標高 6.6m 前後で湧水がみられた。

T10 長さ190cm 幅80cm 深さ96cm

2・1-93区で確認した。長軸方向はほぼ南北方向で、コンターに直交する。T9 同様に壙底北側が斜めに上がっている。

杭穴は確認していない。

覆土下半の湧水点（標高 6.6m）付近までが Vb 層の崩落土で、その上位に漆黒色土の帯状堆積がみられる。

なお、覆土 1 層中には投げ込み土と思われる Va 層と Vb 層の混在したブロック（覆土 2）がみられた。

遺物は、覆土 1 層中から胎土に繊維を多く含む縄文時代前期の土器片 1 点（図 IV-46-2）が出土している。

位置・規模から T33と対をなすものと思われる。

T11 長さ163cm 幅63cm 深さ121cm

0・2-32区で、H4を切った状態で確認した。長軸方向は北西-南東で、コンターに直交する。壙底は平坦で、南側が極端に狭まり袋状に入り込んでいるようにみえるが、湧水点（標高 6.7m）が丁度壙底付近にあたるため、その影響で起こった現象と考えられる。

杭穴は確認していない。

壙底直上に Vb 層混じりの黒褐色土が 10cm ほど堆積しており、覆土半ばにも 2 枚（覆土 6・8）の黒（暗）褐色土がみられた。

なお、6 層下面の深さは確認面から 65cm、8 層下面は 84cm である。遺物は出土していない。

位置・規模から T17と対をなすものと考えられる。

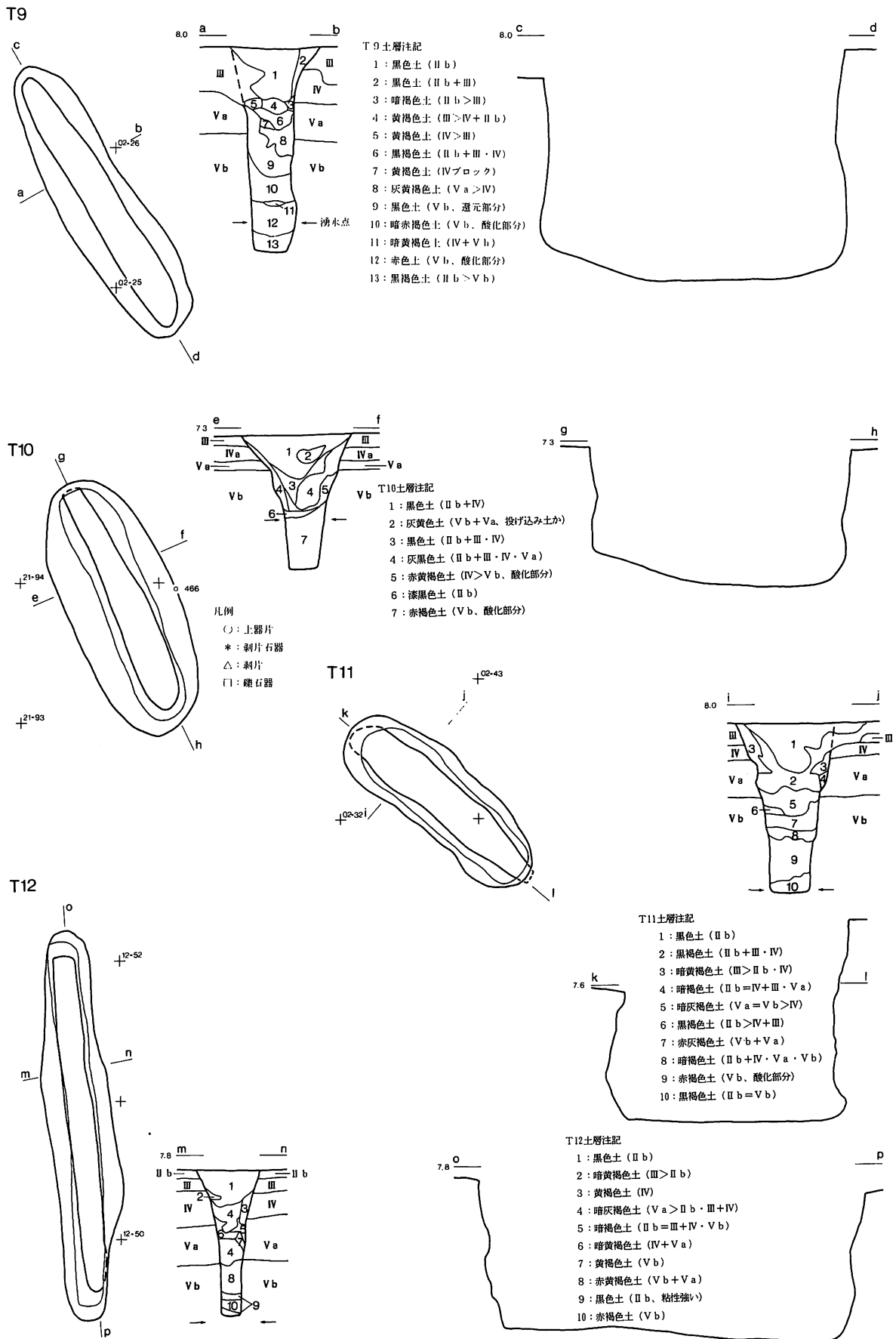
T12 長さ278cm 幅48cm 深さ105cm

1・2-40区で確認した。長軸方向は北東-南西で、コンターに斜行する。湧水点が壙底より低い（標高 6.6m）ためか比較的残りが良く、Vb 層の崩落も些程ではない。

壙底は狭長で、北側三分の一ほどが平坦であるが、残りの部分は南側に向けて若干下がっている。杭穴はない。壙底直上と 10cm ほど上部には粘性の強い黒色土の帯状堆積がみられる。

遺物は出土していない。

位置・形態などから T24と対をなすものと考えられる。



図IV-38 T9~12 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T13 長さ349cm 幅70cm 深さ137cm

1・4-10区で確認した。長軸はほぼ南北方向で、コンターに並行する。極めて狭長な T ピットで、壙底長幅比は39基中16.4ととっても大きい。

壙底は若干「く」の字状に折れ曲がっており、北側三分の一ほどが斜めに上がり、両端が角張っている。壙底直上と15cmほど上位に黒色土の堆積がみられる。壁面は壙底から30cmほどまでは比較的良く残っているが、それより上位は極端に崩落しており、東側のIV層部分とVb層部分では地山との区別が付き難い。

湧水は壙底付近の標高6.6m でみられた。杭穴はない。

遺物は、覆土1層中から縄文時代早期の土器片2点と、覆土2層中から安山岩の方割礫B1点が出土している。位置・形態からT8と対になるものと思われる。

T14 長さ166cm 幅59cm 深さ124cm

2・4-83区で確認した。長軸方向は北西-南東で、コンターに直交する。

壙底はほぼ平坦で、北西端が角張っている。壙底直上に黒褐色土が堆積している。湧水は壙底から10cmほど上位の、標高6.6m 付近でみられた。杭穴はなく、遺物も出土していない。

位置・形態などからT21と対をなすものと考えられる。

T15 長さ209cm 幅67cm 深さ121cm

1・4-29区で確認した。長軸方向は北東-南西で、コンターに斜行する。

壙底は南側で「く」の字状に折れ、極端に細くなって上がっており、端部は角張っている。壙底直上に黒色土が薄く堆積し、40cmほど上位にも黒褐色土の薄層がみられる。壙底が標高6.8m 付近で止まっているため湧水はみられなかった。

杭穴はなく、遺物も出土していない。

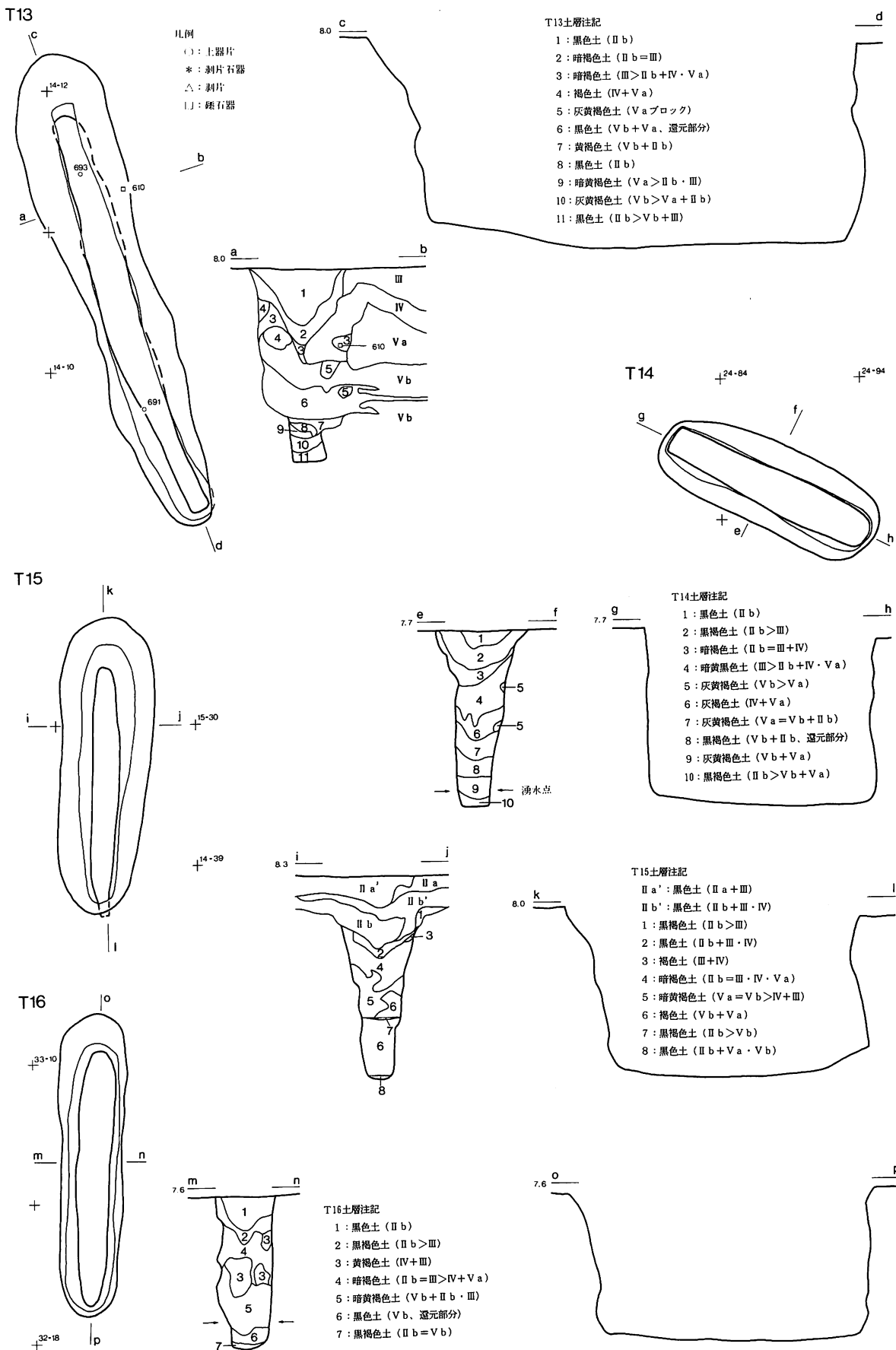
位置・形態などからT4と対をなすものと考えられる。

T16 長さ215cm 幅49cm 深さ109cm

3・2-19区で確認した。長軸方向はほぼ北東-南西で、コンターに並行する。

壙底はまっすぐで、ほぼ平坦である。壙底直上に黒褐色土が薄く堆積している。湧水は壙底より10cmほど上位の標高6.6m 付近でみられた。杭穴はない。

遺物は、覆土1層中から縄文時代前期と早期の土器片各1点が出土している(図IV-46-3・4)。3は胎土に繊維が含まれており、横走る縄文がみられる。4は内外面に炭化物が付着し、横位の組紐がみられる位置・規模からT9・18と列をなすものと考えられる。



図IV-39 T13~16 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T17 長さ188cm 幅82cm 深さ124cm

1・3-61区で確認した。長軸はほぼ南北方向で、コンターに直交する。

墳底はほぼ平坦で、中央部分が東側に張り出している。墳底直上にVb層混じりの黒褐色土が12～13cmほど堆積している。湧水は墳底付近の標高6.6mでみられた。杭穴はない。

遺物は、覆土1層中から楔形石器1点(図Ⅳ-47-4)と黒曜石の剥片1点が出土している。

位置・規模からT11と対をなすものと考えられる。

T18 長さ227cm 幅62cm 深さ122cm

1・2-88区で確認した。長軸はほぼ南北方向で、コンターに直交する。墳底はまっすぐで、ほぼ平坦である。両端は丸い。

墳底直上にVb層混じりの黒褐色土が10cmほど堆積している。湧水は墳底付近の標高6.6mでみられた。杭穴はない。

遺物は、覆土1層中からコッタロ式土器片1点が出土している。

位置・規模からT9・16と列をなすものと思われる。

T19 長さ258cm 幅52cm 深さ102cm

2・3-91区で確認した。長軸方向は北北東-南南西で、コンターに並行する。

墳底はほぼ平坦で、直上に黒褐色土がみられるが、Vb層の崩落土がかなりは入り込んでいる。湧水は墳底付近の標高6.7m付近でみられた。杭穴はない。

遺物は、確認面東縁の覆土1層中から安山岩のたたき石1点(図Ⅳ-47-5)が出土している。これは焼けて半分に割れたすり石を転用したもので、焼けた部分(図のスクリーントーン部分)は剥落が著しい。

位置・規模からT27・39と列をなすものと思われる。

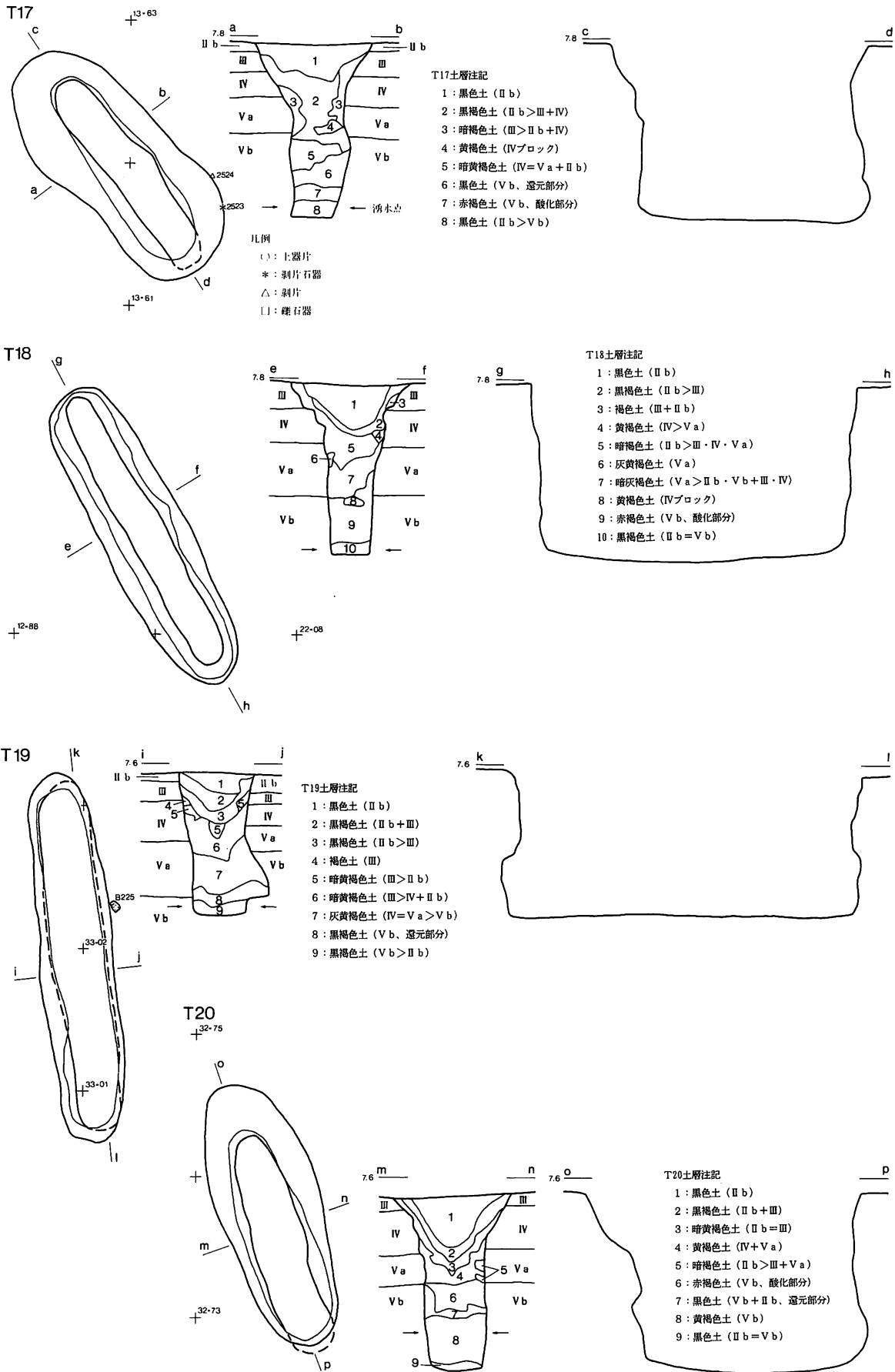
T20 長さ193cm 幅75cm 深さ123cm

3・2-73区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに直交する。

墳底はほぼ平坦であるが、北側と南側で軸のずれが若干みられる。墳底直上にVb層混じりの黒色土がみられる。湧水は墳底から30cmほど上位の標高6.5m付近でみられた。南側の墳底付近が丸くぐれているのは、水の影響と思われる。

杭穴はなく、遺物も出土していない。

位置・規模からT32と対をなすものと考えられる。



図IV-40 T17~20 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T21 長さ174cm 幅73cm 深さ116cm

3・4-09区で確認した。長軸はほぼ南北方向で、コンターに並行する。

墳底はほぼ平坦で、北端が角張る。墳底直上に混じり気のない黒色土が10cmほど堆積し、西側ではそのうえに若干のVb層を含む黒灰色土がみられる。

なお、土層断面の中央で杭の痕跡のような白黄褐色土が細長くみられたが、幸いにも湧水点が墳底より低い（標高6.4m）ため詳細に墳底を調査したが杭穴は確認できず、この細長い層は両側から壁面がずり落ちた際に残った部分であると判断した。

遺物は出土していない。

位置・規模から T14と対をなすものと考えられる。

T22 長さ182cm 幅72cm 深さ125cm

2・4-75区で確認した。長軸方向は北東-南西で、コンターに並行する。

墳底はほぼ平坦で、直上に黒褐色土・黒色土が20cmほど堆積し、墳底から40cmほど上位にも暗褐色土の帯状堆積がみられる。

なお、覆土1層は投げ込み土と思われるVb層のブロックである。墳底は標高6.5mに達しているが湧水はみられなかった。

杭穴はなく、遺物も出土していない。

位置・規模から T25と対をなすものと思われる。

T23 長さ251cm 幅112cm 深さ138cm

3・2-01区で確認した。長軸は東西方向でコンターに並行する。

墳底はほぼ平坦であるが、東端が上がる。なお、東端は更に大きくオーバーハングし、壁面が段状に見える、これは土層断面にもみられるように、湧水（標高6.6m付近）の影響でVb層が大きく崩落しているためである。墳底直上には黒色土が薄く堆積している。

杭穴は確認していない。

遺物は出土していない。位置・規模から T29と対をなすものと思われる。

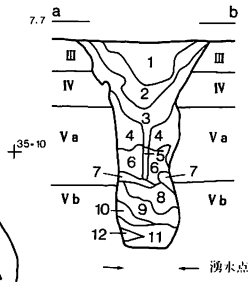
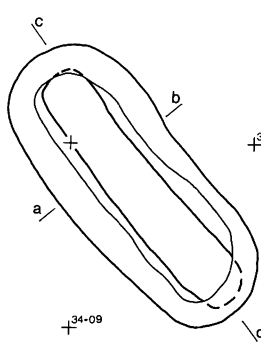
T24 長さ273cm 幅62cm 深さ104cm

2・1-58区で確認した。長軸方向はほぼ北東-南西でコンターに斜行する。

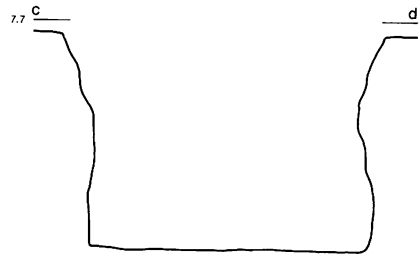
墳底はほぼ平坦で、南西端が角張る。墳底直上には、若干の黒色土を含むVb層の崩落土が12~13cm堆積し、その上に黒色土の帯状堆積がみられる。湧水は墳底付近（標高6.6m）にみられた。杭穴はない。

覆土最上部は他の遺構の掘上土で覆われており、その中から楔形石器かと思われるR・F1点（図IV-47-6）が出土している。位置・規模から T12と対をなすものと思われる。

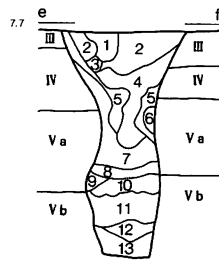
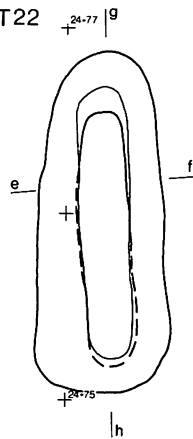
T21



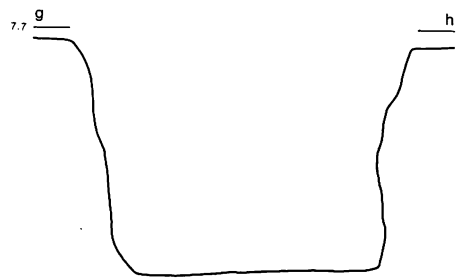
- T21土層注記
- 1: 黒色土 (II b)
 - 2: 黒褐色土 (II b+III)
 - 3: 暗褐色土 (II b>III)
 - 4: 暗灰褐色土 (III>IV・Va)
 - 5: 白黄褐色土
 - 6: 黄褐色土 (IV+III・Va)
 - 7: 黒灰色土 (II b+III・Va)
 - 8: 灰黄褐色土 (IV>Va+III)
 - 9: 黒色土 (V b、還元部分)
 - 10: 黒灰色土 (II b+V b)
 - 11: 黄褐色土 (V b)
 - 12: 黒色土 (II b)



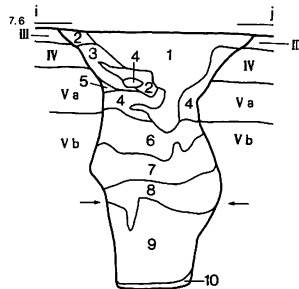
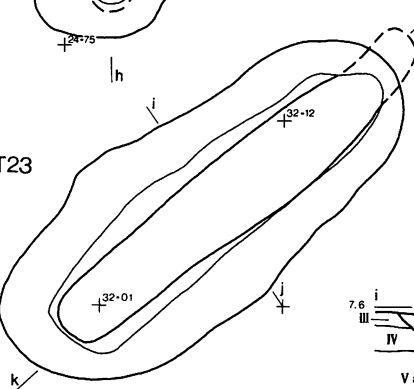
T22



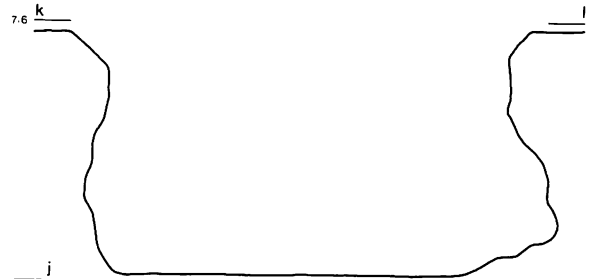
- T22土層注記
- 1: 黄褐色土 (V b、投げ込み土か)
 - 2: 黒色土 (II b+V b)
 - 3: 黒褐色土 (II b>V b)
 - 4: 黒褐色土 (II b+III)
 - 5: 暗褐色土 (II b=III)
 - 6: 暗黄褐色土 (III>II b・IV)
 - 7: 黄褐色土 (IV>Va+III)
 - 8: 暗褐色土 (II b+III・Va)
 - 9: 暗黄褐色土 (II b=Va+V b)
 - 10: 灰黄褐色土 (V b>Va)
 - 11: 赤褐色土 (V b+Va、酸化部分)
 - 12: 黒色土 (II b+V b)
 - 13: 黒褐色土 (V b+II b)



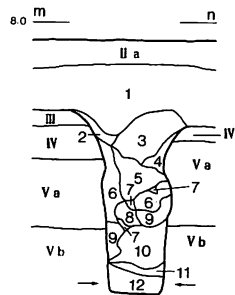
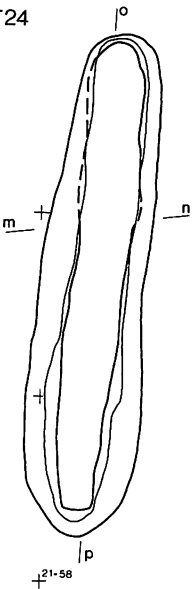
T23



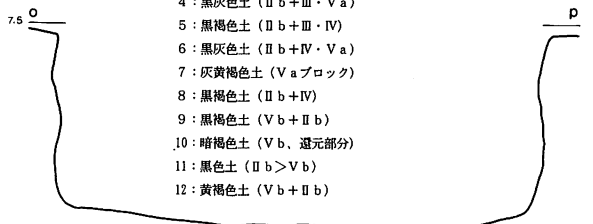
- T23土層注記
- 1: 黒色土 (II b)
 - 2: 黒色土 (II b+III)
 - 3: 黒褐色土 (II b>III)
 - 4: 暗黄褐色土 (III>II b+IV)
 - 5: 暗黄褐色土 (IVブロック)
 - 6: 灰黄褐色土 (IV>III・Va)
 - 7: 灰黄褐色土 (IV=Va>V b)
 - 8: 赤褐色土 (V b、酸化部分)
 - 9: 黒黄色土 (V b、還元部分)
 - 10: 黒色土 (II b>V b)



T24



- T24土層注記
- 1: 暗黄褐色土 (II b>V b+III・IV、掘り上げ土)
 - 2: 黒褐色土 (II b+III)
 - 3: 黒色土 (II b)
 - 4: 黒灰色土 (II b+III・Va)
 - 5: 黒褐色土 (II b+III・IV)
 - 6: 黒灰色土 (II b+IV・Va)
 - 7: 灰黄褐色土 (Vaブロック)
 - 8: 黒褐色土 (II b+IV)
 - 9: 黒褐色土 (V b+II b)
 - 10: 暗褐色土 (V b、還元部分)
 - 11: 黒色土 (II b>V b)
 - 12: 黄褐色土 (V b+II b)



図IV-41 T21~24 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T25 長さ178cm 幅67cm 深さ124cm

2・4-06区で確認した。長軸方向はほぼ北東-南西で、コンターに斜行する。

墳底はまっすぐで、北側が下がっている。墳底直上に黒色土が15cmほど堆積している。墳底は標高6.5mに達しているが湧水はなく、壁面の残りも良好である。

杭穴はなく、遺物も出土していない。

位置・規模から T22と対をなすものと考えられる。

T26 長さ150cm 幅50cm 深さ88cm

3・1-55区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに並行する。

墳底は中央部で波打っているもののほぼ平坦である。墳底直上には黒色土が6~7cm堆積している。

湧水は墳底から20cmほど上位の標高6.7m付近でみられ、墳底付近ではかなりの量の水が南東側に流れている状態で、壁面の両端はその影響でオーバーハングし、墳底も変形しているものと思われる。

杭穴は確認していない。

遺物は覆土1層中から縄文時代前期の土器片1点(図IV-46-5)が出土している。位置・規模から T30・38と列をなすものと思われる。

T27 長さ238cm 幅89cm 深さ136cm

2・3-10区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに直交する。

墳底はほぼ平坦であるが、湧水(標高6.6m)の影響で壁面の崩落が著しく、墳底もかなり変形している。

位置・規模から T19・3と列をなすものと思われ、本来はこれらと同様に細長い形態のものと思われる。墳底直上には黒色土がみられるが、Vb層の崩落土もかなり混じっている。杭穴は確認していない。

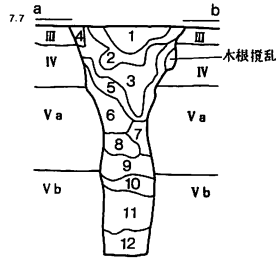
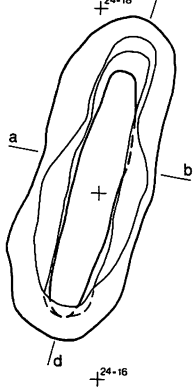
遺物は覆土1層中から縄文時代早期の土器片(遺物No1254)と石鏃各1点(図IV-47-7)、覆土2層中から早期の土器片3点(図IV-46-6)が出土している。

T28 長さ315cm 幅77cm 深さ136cm

3・5-46区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに並行する。湧水の影響はなく比較的残りが良い。墳底はほぼ平坦である。北端の壁面がわずかな段を残しながら斜めに上がる点は、対をなすと思われる T3と同様である。墳底直上及び、15cmほど上位に黒色土の帯状堆積が認められる。

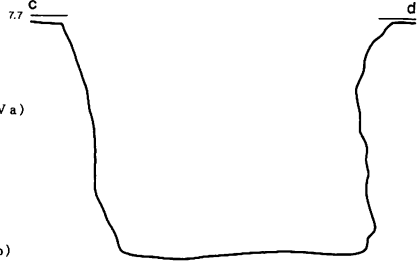
杭穴はない。遺物も出土していない。

T25

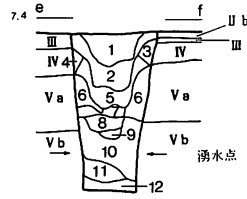
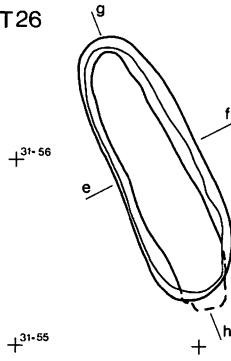


T25土層注記

- 1: 黒色土 (II b)
- 2: 黒褐色土 (II b > III)
- 3: 暗褐色土 (II b = III + IV · Va)
- 4: 暗黄褐色土 (III + II b)
- 5: 灰黄褐色土 (IV + III · Va)
- 6: 褐色土 (IV)
- 7: 暗灰褐色土 (III + IV · Va)
- 8: 灰黄褐色土 (Va + IV)
- 9: 暗褐色土 (II b = Va + Vb)
- 10: 灰黄褐色土 (IV > Va)
- 11: 青灰褐色土 (Vb, 酸化部分)
- 12: 黒色土 (II b > Vb)

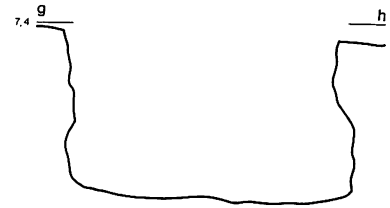


T26

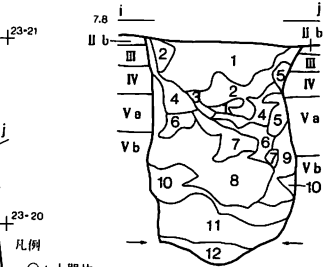
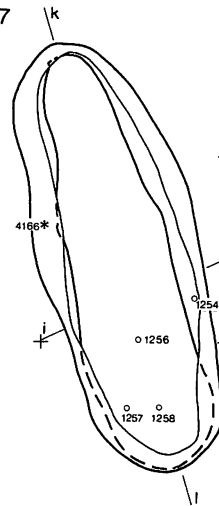


T26土層注記

- 1: 黒色土 (II b)
- 2: 暗褐色土 (II b > III)
- 3: 暗黄褐色土 (III + II b)
- 4: 黄褐色土 (IV)
- 5: 暗黄褐色土 (II b = III + IV)
- 6: 灰黄褐色土 (Va + IV)
- 7: 灰黄褐色土 (Va > II b · III)
- 8: 灰黄褐色土 (Va > Vb)
- 9: 灰黄褐色土 (Vb > Va)
- 10: 赤褐色土 (Vb, 酸化部分)
- 11: 黒褐色土 (Vb + II b, 還元部分)
- 12: 黒色土 (II b = Vb)



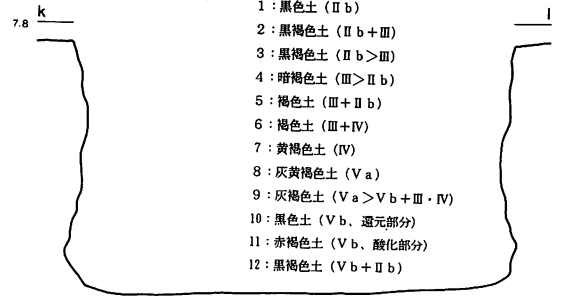
T27



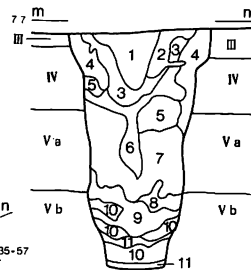
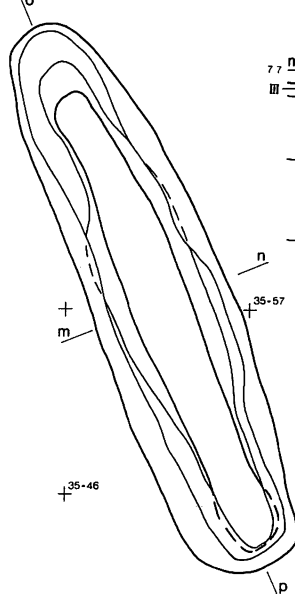
- 凡例
- : 上器片
 - *: 剥片石器
 - △: 剥片
 - : 礫石器

T27土層注記

- 1: 黒色土 (II b)
- 2: 黒褐色土 (II b + III)
- 3: 黒褐色土 (II b > III)
- 4: 暗褐色土 (III > II b)
- 5: 褐色土 (III + II b)
- 6: 褐色土 (III + IV)
- 7: 黄褐色土 (IV)
- 8: 灰黄褐色土 (Va)
- 9: 灰褐色土 (Va > Vb + III · IV)
- 10: 黒色土 (Vb, 還元部分)
- 11: 赤褐色土 (Vb, 酸化部分)
- 12: 黒褐色土 (Vb + II b)

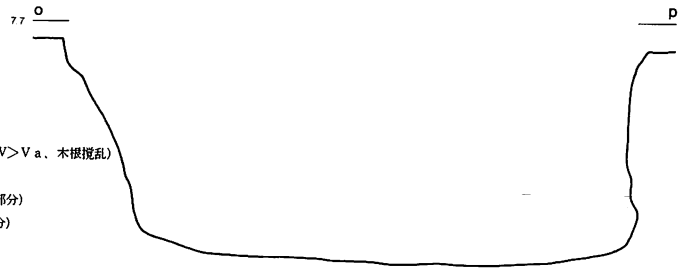


T28



T28土層注記

- 1: 黒色土 (II b)
- 2: 黒褐色土 (II b + III)
- 3: 黒褐色土 (II b > III)
- 4: 暗黄褐色土 (III + II b)
- 5: 黄褐色土 (IV)
- 6: 暗褐色土 (II b = III · IV > Va, 木根攪乱)
- 7: 灰黄褐色土 (Va + IV)
- 8: 赤褐色土 (Vb, 酸化部分)
- 9: 黒色土 (Vb, 還元部分)
- 10: 黄褐色土 (Vb)
- 11: 黒色土 (II b + Vb)



図IV-42 T25~28 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T29 長さ231cm 幅88cm 深さ116cm

3・1-63区で確認した。長軸は東西方向で、コンターに直交する。

壙底は東側で上がる。壙底直上に黒色土が6cmほど堆積している。壙底より30cmほど上位の標高6.5m付近で湧水がみられた。杭穴は確認していない。

遺物は出土していない。

位置・規模から T32と対をなすものと考えられる。

T30 長さ169cm 幅70cm 深さ105cm

3・1-23区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに直交する。

壙底はほぼ平坦で、北端の壁面が段を残して斜めに上がっている。壙底直上にVb層の崩落土を含む黒色土が5cmほど堆積し、壙底から30cmほど上位には黒色土の薄層がみられる。湧水はその薄層上位の標高6.6m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は出土していない。

位置・規模から T26・38と列をなすものと思われる。

T31 長さ166cm 幅97cm 深さ132cm

2・1-08区で確認した。長軸方向は北北東-南南西で、コンターに直交する。

壙底はほぼ平坦で、南端が角張る。壙底直上に黒色土が25cm前後と厚く堆積している。壙底から60cmほど上位にも5cm前後の黒色土層がみられる。湧水は壙底直上の黒色土上位、標高6.6m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は出土していない。

位置・規模から T5・6と列をなすものと思われる。

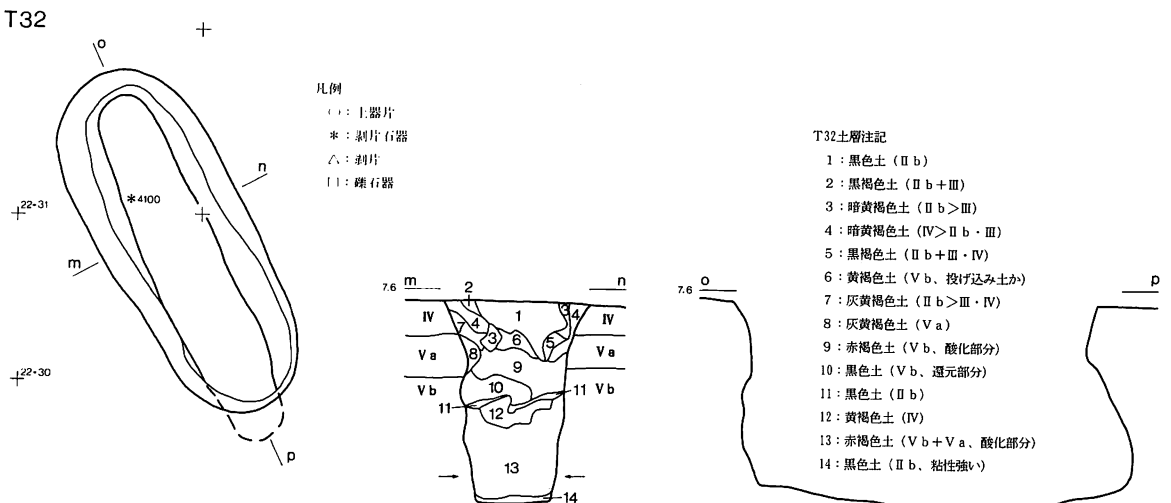
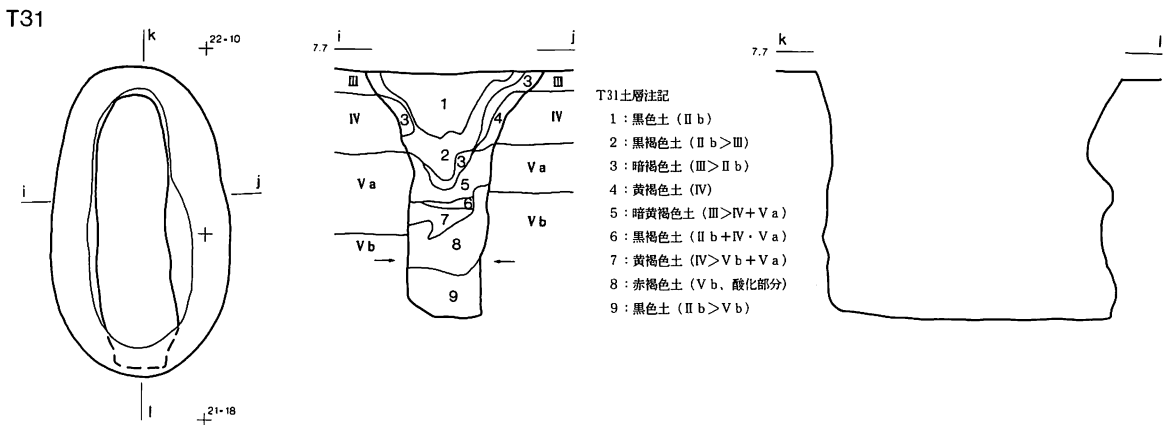
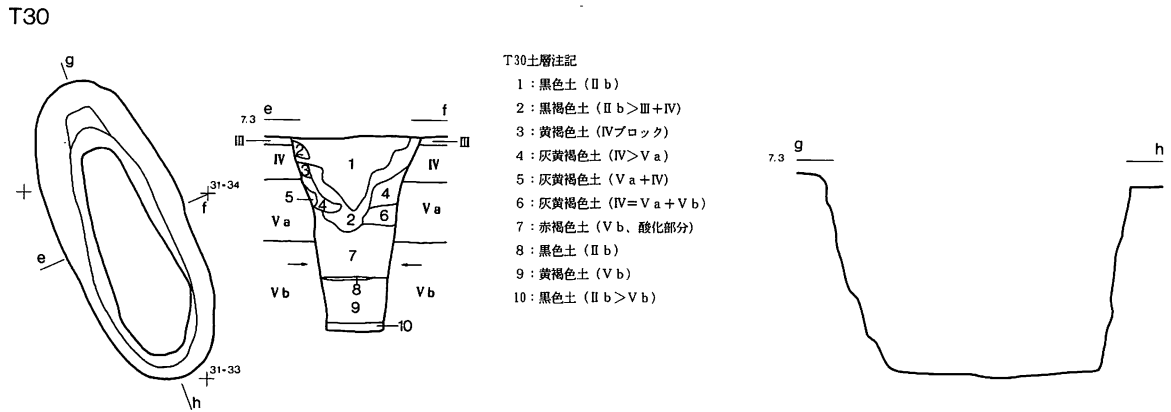
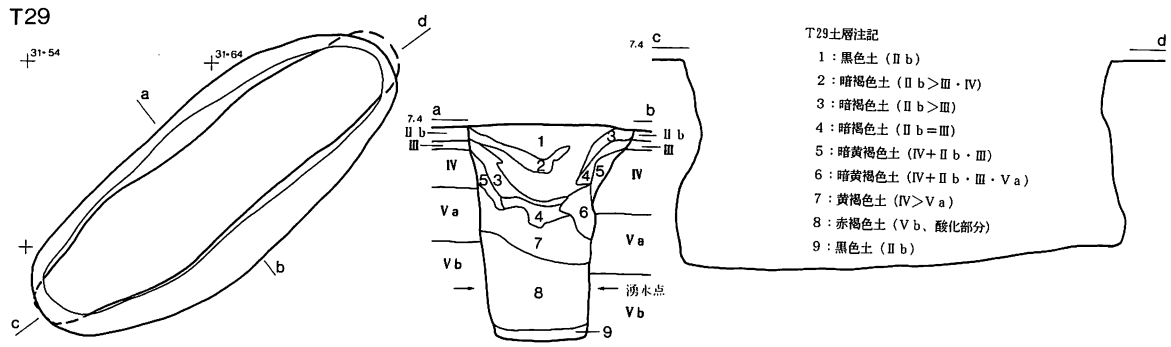
T32 長さ200cm 幅81cm 深さ110cm

2・2-30区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに直交する。

壙底は中央部が下がり、南端で大きくオーバーハングしている。壙底直上に粘性の強い黒色土が4～5cm堆積し、壙底から50cmほど上位にも5cm前後の黒色土層がみられる。湧水は壙底から10cmほど上位の標高6.6m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は、覆土1層中から石槍もしくは削器の中央部片（折れてから焼け）と思われるR・F1点が出土している。

位置・形態から T20と対をなすものと思われる。



図IV-43 T29~32 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T33 長さ157cm 幅62cm 深さ102cm

2・0-09区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに直交する。

墳底はほぼ平坦である。墳底直上に黒色土が4～5cm堆積し、墳底から20cmほど上位にも5cm前後の黒色土層がみられる。湧水はその黒色土層の上位、標高6.4m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は、覆土2層中から頁岩の石核1点(図IV-47-8)が出土している。

位置・形態からT10と対をなすものと考えられる。

T34 長さ240cm 幅73cm 深さ96cm

3・0-78区の沢跡肩部分で確認した。なお本ピットとT35は、IIb層とIII層を重機で除去した後に検出したもので、本ピットの確認面はIV層上面である。長軸は東西方向で、コンターに斜行する。墳底はほぼ平坦である。

黒色土の堆積は、墳底直上及び、墳底から約15cmと30cm上位にそれぞれ厚さ5～6cmずつみられる。湧水はその黒色土層の上位、標高6.6m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は、覆土1層中から頁岩の石斧片1点と覆土2層中からコッタロ式土器片1点(図IV-46-7)が出土している。

規模・長軸方向からはT23・29とセットとみなされるが、同一列状には並ばない。

T35 長さ247cm 幅48cm 深さ44cm

3・0-56区の沢跡内で確認した。確認面はIV層上面で、残された深さは44cmとかなり浅くなっている。従って本ピットが掘開された時期には、この沢は既にほとんど埋まって平坦になっていたと思われる。長軸は南北方向でコンターに斜行する。

墳底は若干「く」の字状に曲がり、北側が上がり、北端は角張る。黒色土の堆積はみつからず、VI層の青灰色粘質土が墳底隅に一部みられた。確認面が既に湧水点に達しており、常時水が流れている状態で、杭穴は確認できなかった。

遺物は出土していない。

対をなおすと思われるTピットは今回の調査では確認していない。

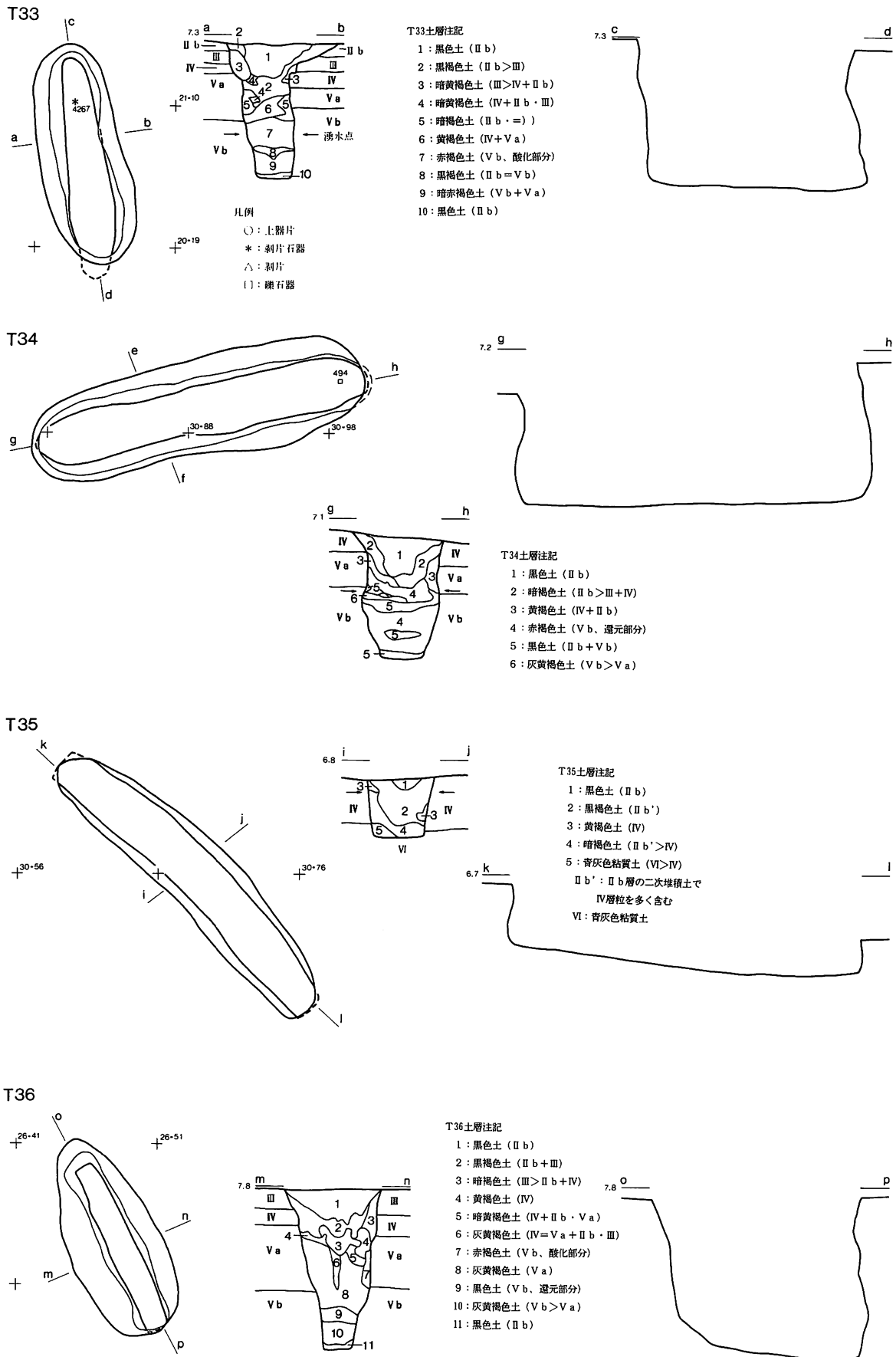
T36 長さ147cm 幅67cm 深さ112cm

2・6-40区で確認した。長軸は南北方向でコンターに並行する。墳底北側が斜めに上がり、両端が角張る。

墳底直上に黒色土が5cmほど堆積している。墳底のレベルが6.7cmで、湧水はみられなかった。杭穴はない。

遺物は出土していない。

位置・規模からT2と対をなすものと考えられる。



図IV-44 T33~36 平面及び断面

IV 遺構と遺跡

T37 長さ184cm 幅69cm 深さ124cm

3・5-81区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに並行する。

壙底はほぼ平坦で、直上にVb層混じりの黒色土が約20cm堆積している。壙底のレベルは6.4mに達しているが、湧水はみられなかった。杭穴はない。

遺物は、覆土1層中から縄文時代早期の土器(図IV-46-8)と方割礫各1点、覆土3層中から黒曜石剝片3点が出土している。

対をなすと思われるTピットは、今回の調査では確認していない。

T38 長さ149cm 幅81cm 深さ122cm

3・1-98区で確認した。長軸は南北方向で、コンターに並行する。

壙底はほぼ平坦で、直上にVb層混じりの黒色土が10cm前後堆積している。湧水は壙底付近の標高6.4m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は出土していない。

位置・規模からT26・30と列をなすものと思われる。

T39 長さ226cm 幅23cm 深さ119cm

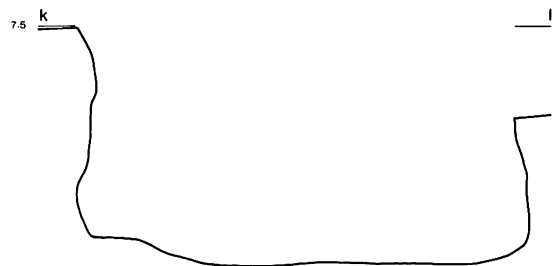
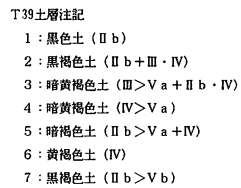
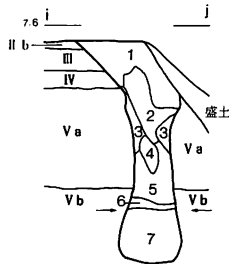
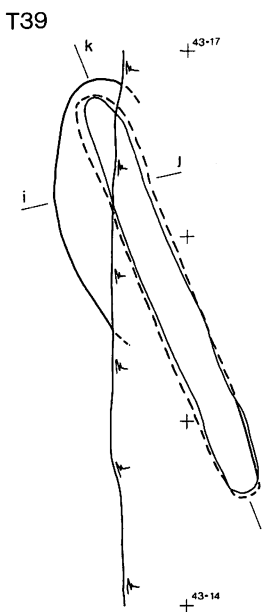
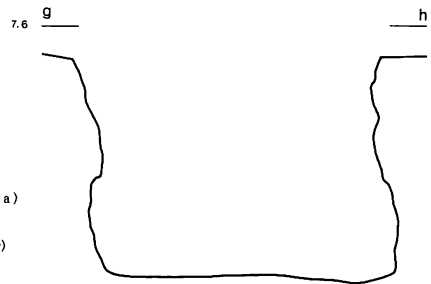
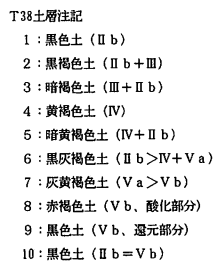
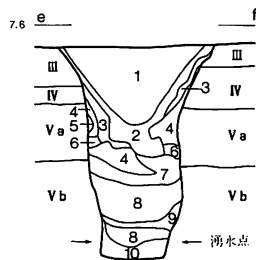
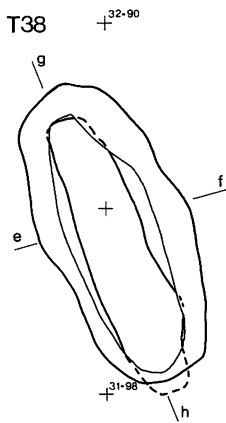
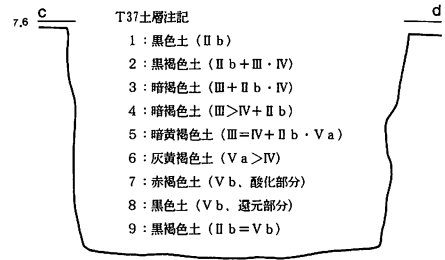
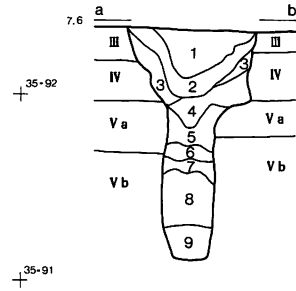
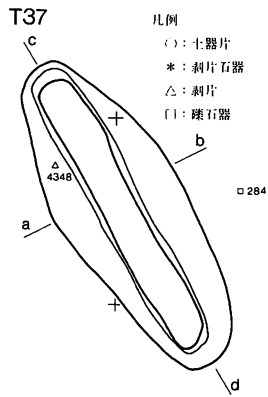
4・3-15区の調査区端で確認した。上部過半は用水路法面で切られ失われている。長軸は南北方向で、コンターに並行する。

壙底はほぼ平坦であるが、北側が一段高くなっている。壙底直上に黒褐色土が30cmほど堆積している。湧水は黒色土直上の標高6.6m付近でみられた。杭穴は確認していない。

遺物は出土していない。

対をなすと思われるTピットは、今回の調査では確認していない。

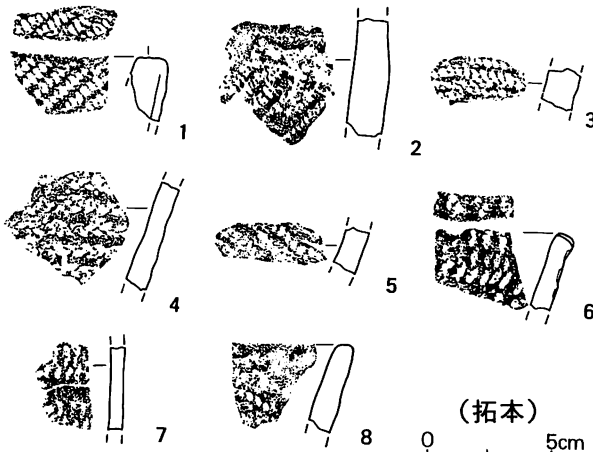
(田才)



図IV-45 T37~39 平面及び断面

表IV-25 TPの土器集計

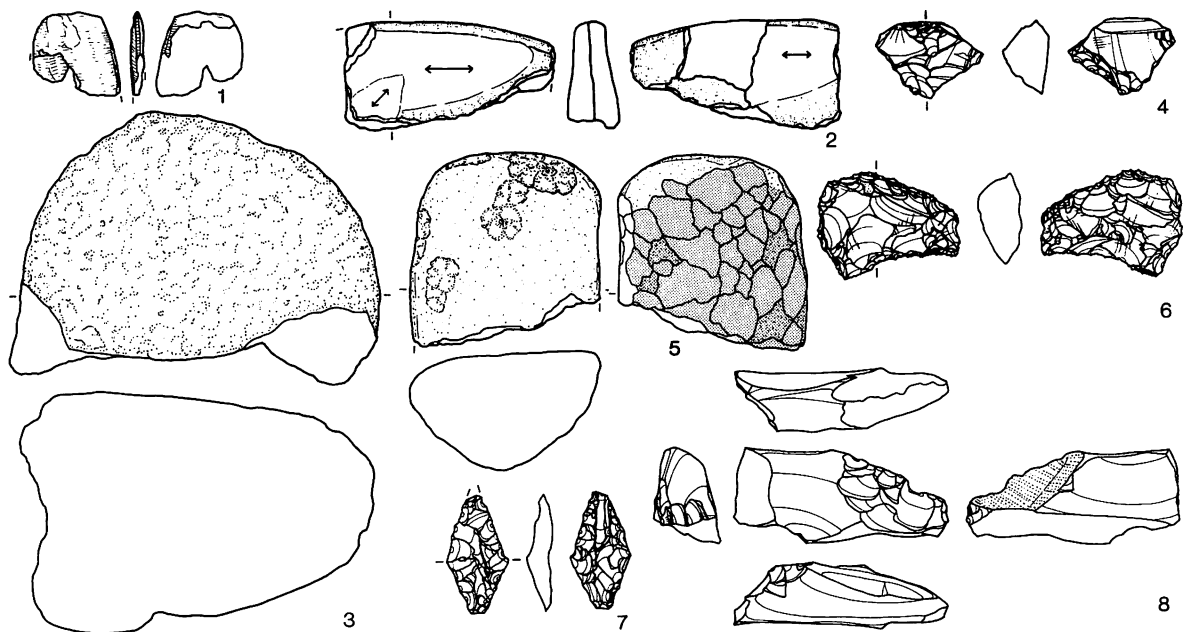
遺構 層位	部 位			合 計
	口 縁	胴 部	底 部	
TP-2				
覆土 1	余市	8		余市 8
TP-8				
覆土 5	コッタロ	1		コッタロ 1
TP-10				
覆土 1	前期	1		前期 1
TP-13				
覆土 1	早期	2		早期 2
TP-16				
覆土 1	早期	1		早期 1
	前期	1		前期 1
TP-18				
覆土上のIIb	コッタロ	1		コッタロ 1
TP-26				
覆土 1	前期	1		前期 1
TP-27				
覆土 1	早期	1		早期 1
覆土 2	早期	2		早期 3
TP-34				
覆土 2	コッタロ	1		コッタロ 1
TP-37				
覆土 1	早期	1		早期 1



図IV-46 Tピット出土の土器

表IV-26 Tピット出土石器一覧

No.	No.	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	TP 1	34.5	34.0	4.8	8.4	石斧	チャート	1	47	—	基部から背部片、00-bと接合
2	TP 1	83.2	42.6	20.2	83.8	砥石	砂 岩	2	45	—	両面に使用痕、遺物No. 46・714 (00-53, b)と接合
3	TP 3	28.3	35.4	5.4	7.2	石斧	泥 岩		336	—	背部片
4	TP 4	22.8	13.2	6.8	2.4	つまみ付き	黒曜石		1523	—	つまみ部片、両側縁つぶれ顕著
5	TP 8	148.5	97.5	104.3	1,770	台石	安山岩	3	147	—	
6	TP13	39.0	37.4	22.4	57.2	方割礫	安山岩		610	B	
7	TP17	20.4	27.9	12.0	5.5	楔形石器	黒曜石	4	2523	凸状	両端つぶれ
8	TP19	76.7	76.4	46.6	404.2	たたき石	安山岩	5	225	—	半分に割れたすり石の転用、焼け
9	TP24	27.5	38.0	11.0	10.6	R・F	黒曜石	6	3748	—	上下端に楔形石器的加撃痕あり
10	TP27	31.6	17.1	16.4	2.2	石鏃	黒曜石	7	4166	菱形	凸状部
11	TP32	24.6	24.0	8.1	6.2	R・F	黒曜石		4100	—	両側縁両面加工の中央部片、折れてから焼
12	TP33	27.8	57.5	14.9	21.7	石核	頁 岩	8	4267	—	
13	TP34	47.9	22.9	6.0	5.7	石斧	泥 岩		494	—	背部片
14	TP37	63.3	40.1	16.0	46.2	方割礫	安山岩		284	—	板状礫素材の石皿片か、焼けてから割れ



図IV-47 Tピット出土の石器

4 焼土

FP 1 長さ50cm 幅42cm 厚さ5cm

1・5-28, 29区のIIb層中位で確認した。中央部分は良く焼けて締まっている。フローテーションで若干の炭化材片と種子（同定不能）が得られている。

FP 2 長さ168cm 幅100cm 厚さ8cm

1・3-12区のIIb層下位で、H3の掘上土が焼けているのを確認した。範囲は大きい、全体に焼けは弱く締まりもない。遺物は東釧路Ⅲ式やコッタロ式、その他の早期・前期の土器片（図Ⅳ-49-1～3）と、黒曜石・頁岩の剥片22点がある。また、フローテーションで種子（同定不能）とベンガラと思われる赤褐色の小片が得られている。

FP 3 長さ32cm 幅22cm 厚さ4cm

0・3-14区のⅢ層上面で確認した。小規模で締まりがなく、多量の剥片類（削器1点、黒曜石剥片486点、焼けた黒曜石剥片46点、頁岩剥片36点）が含まれており、こうした状況からH2から投棄された焼土の可能性がある。フローテーションで若干の炭化材片と種子（同定不能）、ベンガラと思われる小片が得られている。なお、削器（図Ⅳ-50-1）は、腹面に顕著な曇り（図のスクリーン部分）がみられる。

FP 4 長さ118cm 幅45cm 厚さ17cm

0・4-01, 02区のIIb層中位で確認した。比較的良く焼けており厚い。フローテーションで若干の炭化材片と種子（同定不能）が得られている。

FP 5 長さ39cm 幅25cm 厚さ4cm

1・1-42区のIIb層中位で確認した。比較的良く焼けている。フローテーションでも得られた遺物はない。

FP 6 長さ38cm 幅14cm 厚さ8cm

2・0-29区のⅣ層上面で確認した。焼けは弱く締まりもない。フローテーションで炭化材片がわずかに得られている。

FP 7 長さ67cm 幅29cm 厚さ9cm

2・5-54, 55区のIIb層中位で確認した。比較的良く焼けている。多量の炭化材がみられ、直立しているもの2本も確認した。遺物は、焼土の上・下・脇から縄文時代前期の土器片各1点が出土しており（図Ⅳ-49-4・5）、本焼土もその時期のものと考えられる。また、フローテーションで種子（同定不能）が若干得られている。

FP 8 長さ45cm 幅35cm 厚さ4cm

1・3-18区のIIb層下位で確認した。比較的良く焼けている。フローテーションで炭化材片が若干得られている。

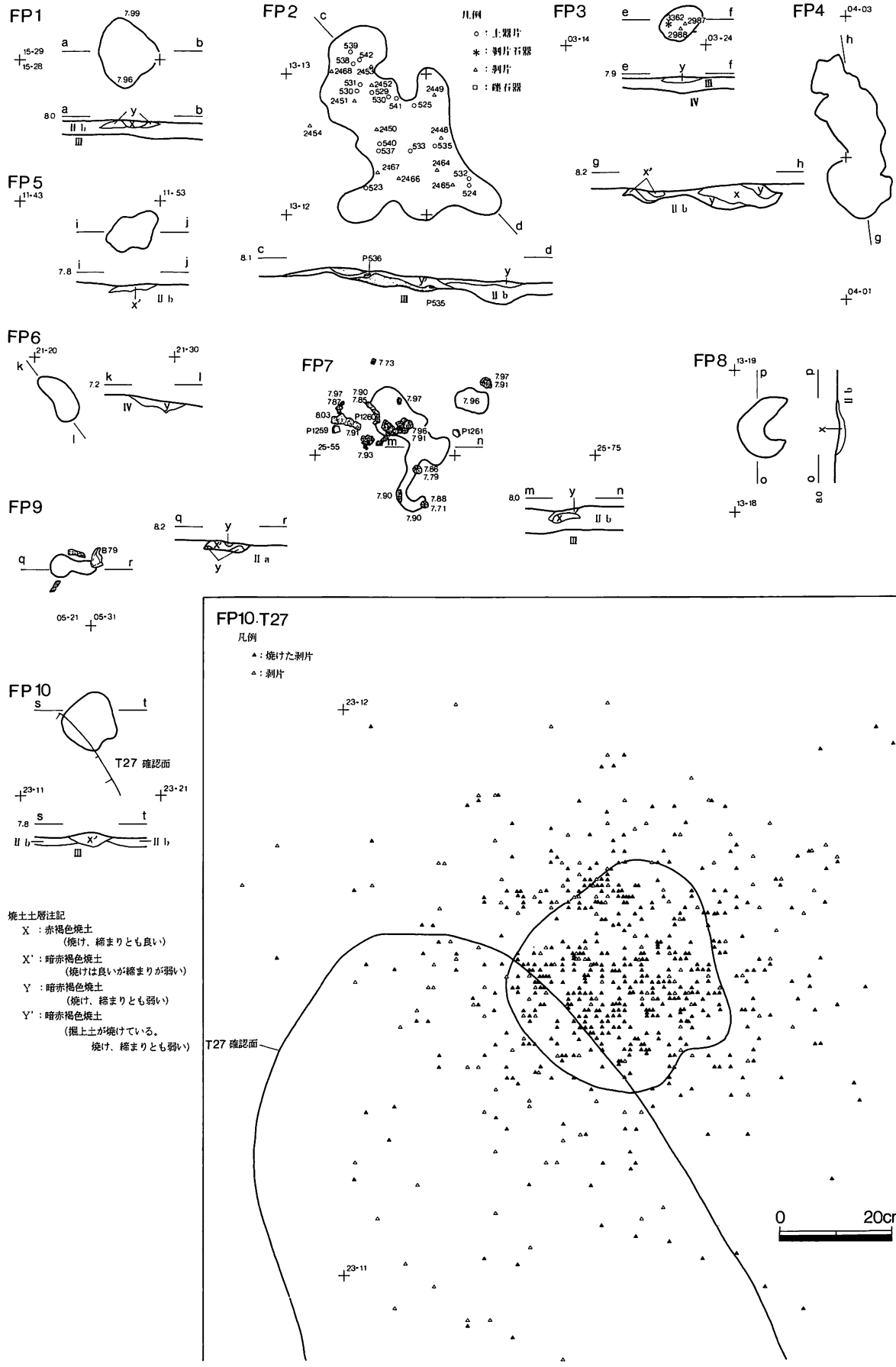
FP 9 長さ33cm 幅16cm 厚さ6cm

0・5-21区のIIa層中位で確認した。比較的良く焼けており、炭化材もみられた。焼土上からは台石もしくは石皿の破片かと思われる焼けた方割礫1点が出土している。

FP10 長さ42cm 幅40cm 厚さ10cm

2・3-11区のIIb層下位で確認した。規模は小さいが比較的良く焼けており厚い。黒曜石の剥片類が多量（剥片60点、焼けた剥片287点）に出土しており、後から掘られたTピット（T27）の崩落に伴ってTピット内に流れ込んだものも多数（剥片73点、焼けた剥片180点、頁岩剥片2点）ある。フローテーションでは、種子等の遺物は得られていない。（田才）

IV 遺構と遺跡



凡例
○: 土製片
* : 剥片石器
△: 剥片
□: 雑石器

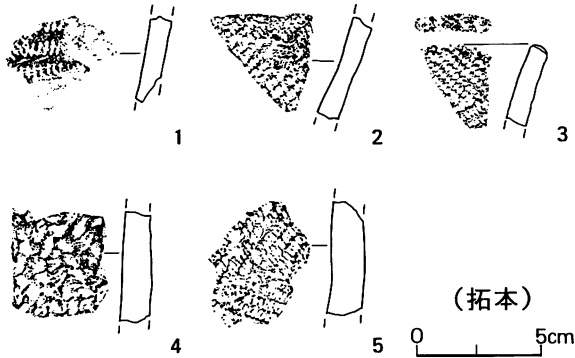
凡例
△: 焼けた剥片
▲: 剥片

焼土土層注記
X : 赤褐色焼土
(焼け、締まりとも良い)
X' : 暗赤褐色焼土
(焼けは良いが締まりが弱い)
Y : 暗赤褐色焼土
(焼け、締まりとも弱い)
Y' : 暗赤褐色焼土
(掘上土が焼けている。
焼け、締まりとも弱い)

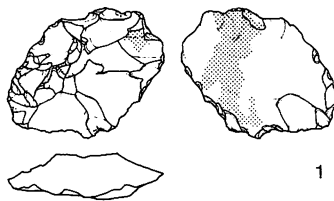
図IV-48 焼土平面及び断面

表IV-29 焼土出土の土器集計

遺構層位	部 位			合 計	
	口 縁	胴 部	底 部		
FP-2					
覆土上のIIb	コッタ口	早期	2	早期	2
		不明	1	コッタ口	2
		不明	3	不明	3
焼 土 中		早期	4	早期	4
		前期	6	前期	6
FP-7					
焼 土 中		前期	3	前期	3



図IV-49 焼土出土の土器



図IV-50 焼土出土の石器

表IV-30 焼土出土石器

No.	No.	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	器種	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	FP 3	45.4	33.0	11.0	15.3	搔器	黒曜石	1	3362	波形刃	全周に粗い加工、腹面曇り顕著、摩耗
2	FP 9	141.2	71.7	61.5	800	方割礫	安山岩		79	B	焼け、台石もしくは石皿か

表IV-31 木製品一覧

No.	名 称	グリット	長さ	幅	厚さ	湿重量	樹皮	木取	樹 種	写真No	備 考
1	串状木製品	1・0-93	12.7	1.0	0.5	4		偏割枝	まつ科トクニ属ツマ		一端が細く削り出されている
2	切片	0・6-85	3.3	6.5	3.5	26			もくせい科トクニ属トクニカキコブツ		杭先? 基部側にノコ引き痕あり
3	杭?	0・6-65	14.5	6.0	4.7	210		丸木	かばのき科トクニ属トクニ		二方向切り出し? 腐れ顕著
4	外皮	0・6-56	10.3	2.5	0.8	11	有				
5	杭先	1・6-16	8.5	4.3	3.2	30		丸木	もくせい科トクニ属ツマ		六方向切り出し、内部腐れ
6	立杭-1	1・6-25	14.1	5.6	4.5	45		丸木	もくせい科トクニ属ツマ	1	五方向切り出し、内部腐れ
※7	立杭-2	0・5-52	24.3	10.1	9.7	792		丸木	もくせい科トクニ属トクニ	2	五方向切り出し、内部腐れ
※8	立杭-3	0・5-53	12.1	5.6	3.7	84			もくせい科トクニ属トクニ		四方向切り出し、内部腐れ
9	立杭-4	0・5-43	17.6	10.0	7.2	396			にれ科トクニ属トクニ		腐れ顕著、破片あり
※10	立杭-5	1・4-43	37.5	8.5	7.1	700		丸木	もくせい科トクニ属トクニ	3	四方向切り出し
11	立杭-6	1・3-39	12.8	2.2	2.2	30		丸木	もくせい科トクニ属ツマ		先端腐れ、加工痕不明
12	立杭-7	1・4-51	-	-	-	-	有				樹皮のみ残存
※13	立杭-8	1・4-54	10.6	3.8	2.8	36			もくせい科トクニ属トクニ		腐れ顕著、加工痕不明
14	立杭-9	1・4-63	33.4	7.0	6.0	552		丸木	もくせい科トクニ属トクニ	4	五方向切り出し
15	立杭-10	3・4-43	20.3	5.2	4.5	215		丸木	まめ科トクニ属トクニ	5	腐れ顕著、加工痕不明
16	立杭-11	1・4-46	28.7	7.0	7.0	435		丸木	もくせい科トクニ属トクニ	6	五方向切り出し
17	立杭-12	2・4-96	10.4	4.1	3.7	52			もくせい科トクニ属トクニ		四方向切り出し、内部腐れ
18	立杭-13	2・4-59	14.7	4.9	4.1	95			もくせい科トクニ属トクニ	7	五方向切り出し、内部腐れ
19	立杭-14	2・5-08	20.4	5.5	3.9	179		1/4割材?	もくせい科トクニ属トクニ	8	加工痕不明
20	立杭-15	1・5-85	38.6	5.5	5.4	470		丸木	もくせい科トクニ属トクニ	9	三方向切り出し
21	立杭-16	1・6-04	9.9	3.2	3.1	31	有		もくせい科トクニ属ツマ		四方向切り出し、内部腐れ
22	立杭-17	2・6-00	12.9	4.5	3.9	106	有	丸木	まめ科トクニ属トクニ		五方向切り出し
23	立杭-18	2・6-42	-	-	-	-			にれ科トクニ属トクニ		腐れ顕著
24	立杭-19	2・5-39	-	-	-	-			にれ科トクニ属トクニ		腐れ顕著
25	立杭-20	3・6-26	11.8	4.7	4.0	114			かばのき科トクニ属トクニ		腐れ顕著、加工痕不明
26	立杭-21	1・6-52	9.3	4.6	2.5	28		1/4割材?	もくせい科トクニ属ツマ		
27	立杭-22	1・6-53	23.3	6.6	6.2	-			まつ科トクニ属トクニ		腐れ顕著、加工痕不明
28	立杭-23	3・4-81	11.9	8.0	7.5	208		丸木	もくせい科トクニ属ツマ		五方向切り出し
29	立杭-24	3・4-92	9.6	5.7	5.2	132			にれ科トクニ属トクニ		腐れ顕著、加工痕不明

(※印は掘立柱)

IV 遺構と遺物

5 掘立柱建物跡

調査区北半部に計37個の掘立柱跡を検出した。下端を3～6方向から削って尖らせた木を掘り形に打ち込むようにして、立てられたものである。柱の太さは8～12cm前後で、径約30cm掘り形のほぼ中央に立てられ、先端部は地山に達しているものもある。柱基部が残る例もあり、柱と掘り形の境に粒子の粗いTa-a層が入っていた。掘り形にはII層とIII層が混じりあった土が詰まっており、Ta-aは入っていない。いくつかの掘立小屋があったものと推定されるが、建物のプランが分かるのは2ヵ所のみであった。

柱先端部の木質が残っているもののうち、4点の樹種同定を行ったところ、すべてハシドイの木が用いられていることが判明した。ハシドイはモクセイ科ハシドイ属の落葉広葉樹で、アイヌの人たちはこの木が容易に腐らないことから、掘立小屋の柱にしたといわれる。

B1

調査区北西部、0・5区のIIa層上面で7本の柱跡を確認した。柱の間隔は南北が約1.6m前後、東西が2.0～2.2mを計る。間隔の狭い柱列がほぼ真北を向いている。北西と南東隅の柱跡を欠くが、3間×3間の建物があった可能性がある。この付近は心土破砕による攪乱があり、本来さらに多数の柱跡があったものと考えられる。東西中央列東端の柱跡の掘り形には、杭が1本打ち込まれている。さらに、南北列中央には柱跡に沿って、杭跡が7本並んで確認されており、この建物跡と関連するものの可能性がある。

B2

調査区中央部北西寄り、B1の南西約12mに位置している。3本2列の柱跡で、間隔は南北がほぼ2m、東西が約1.5mを計る。柱の間隔が長い列がほぼ北を向いている。6本すべてに先端部の木質が残っている。この南方にも2本の柱跡があるが、方向を異にしている。

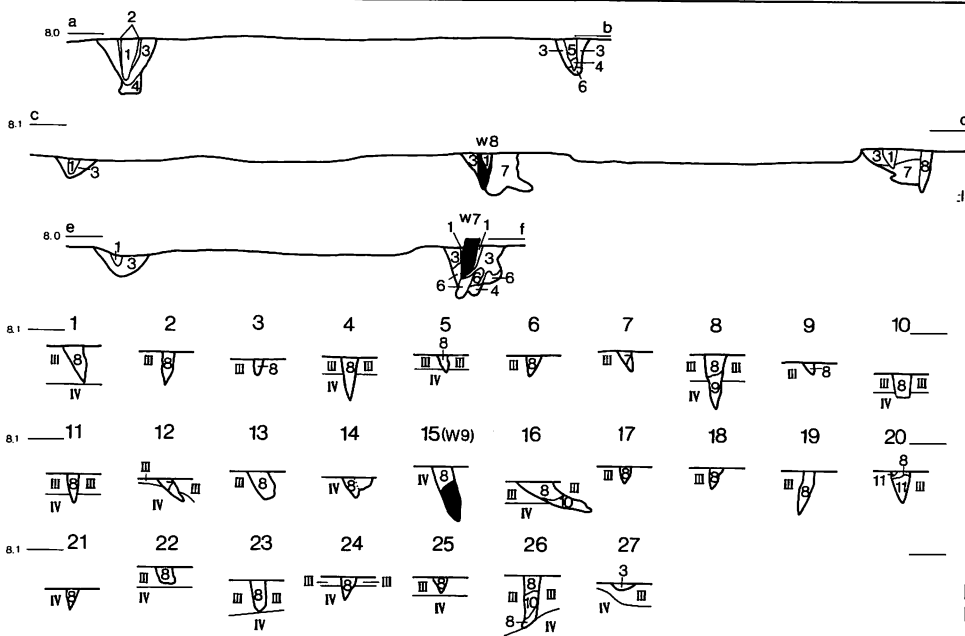
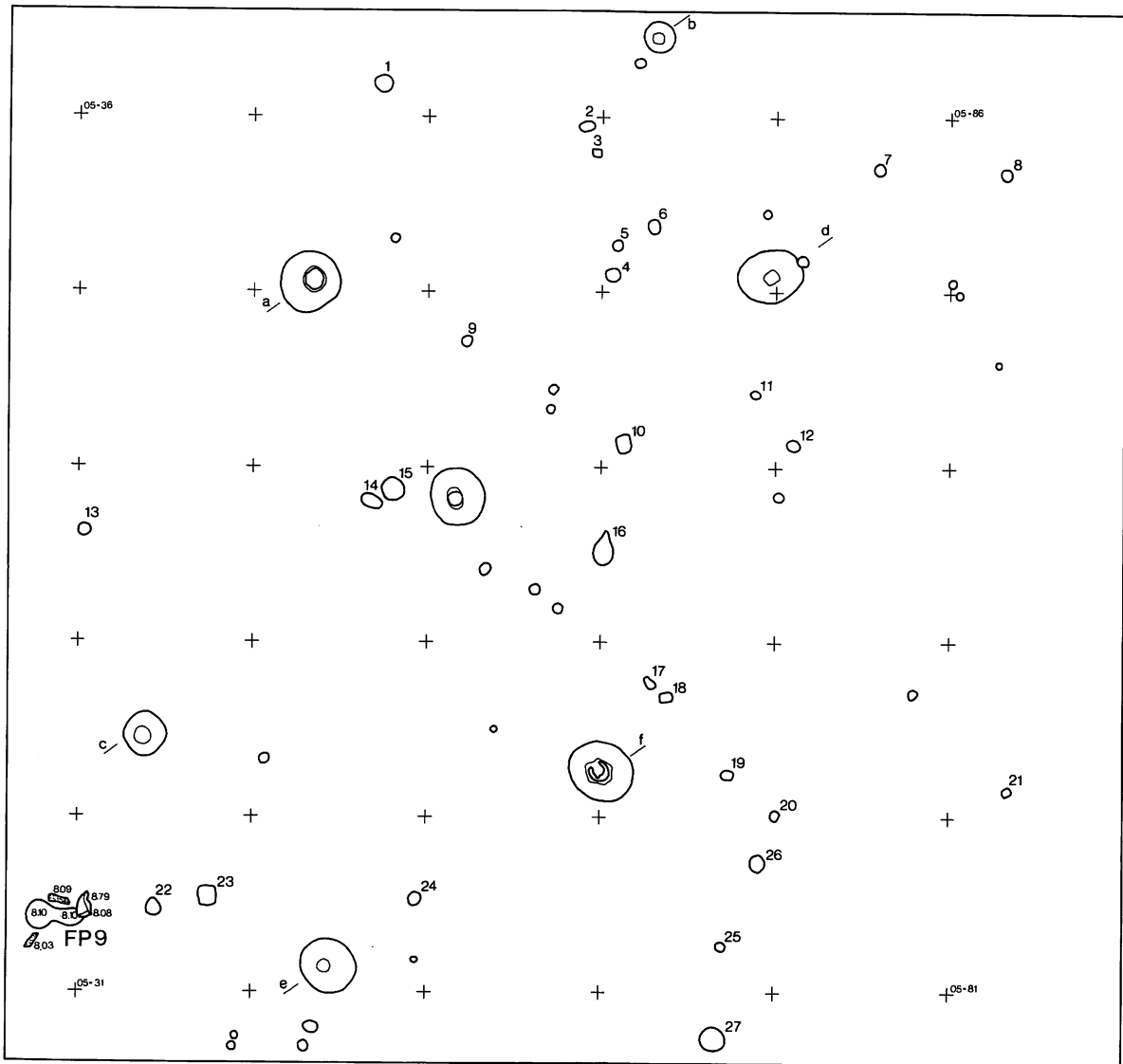
柱および掘り形はH1と基本的に同様であるが、この付近には心土破砕の影響が見られないことから、B1に比べて深く残されている。

6 杭跡

杭跡は537本が検出された。心土破砕や耕作によって削平されたものも多いと考えられるが、とくに調査区北部に密集して分布している。南東部にも多く分布する所がある。南西部と川跡には見られない。太さは5cm～8cmほどで、先端を鋭く尖がらせたものが大半である。先端部の木質が残っている例が22本あった。先端部にTa-a火山灰が入っているものもある。Ta-aの降下以前から以後にわたる時期に打ち込まれたものであろう。深さは数cmから50cmを超えるものまであり、重複しているものも少し見られる。樹種同定によると、ハシドイのほかに、イヌエンジュ、ハルニレ、ハンノキ、トドマツなどの木も使われている。

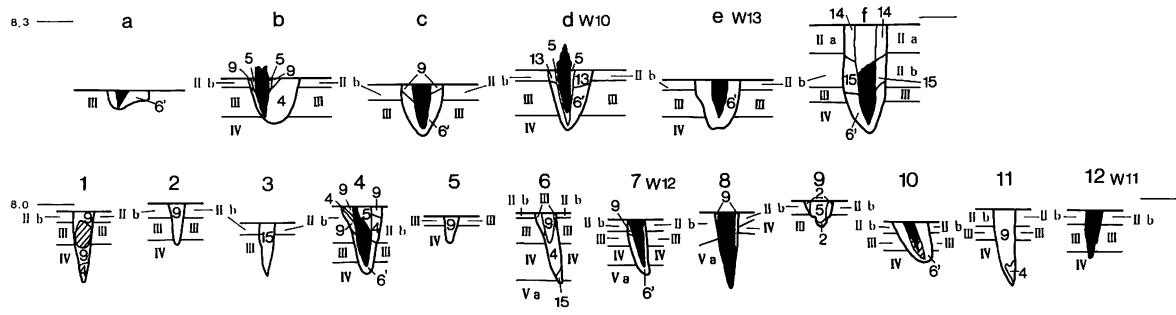
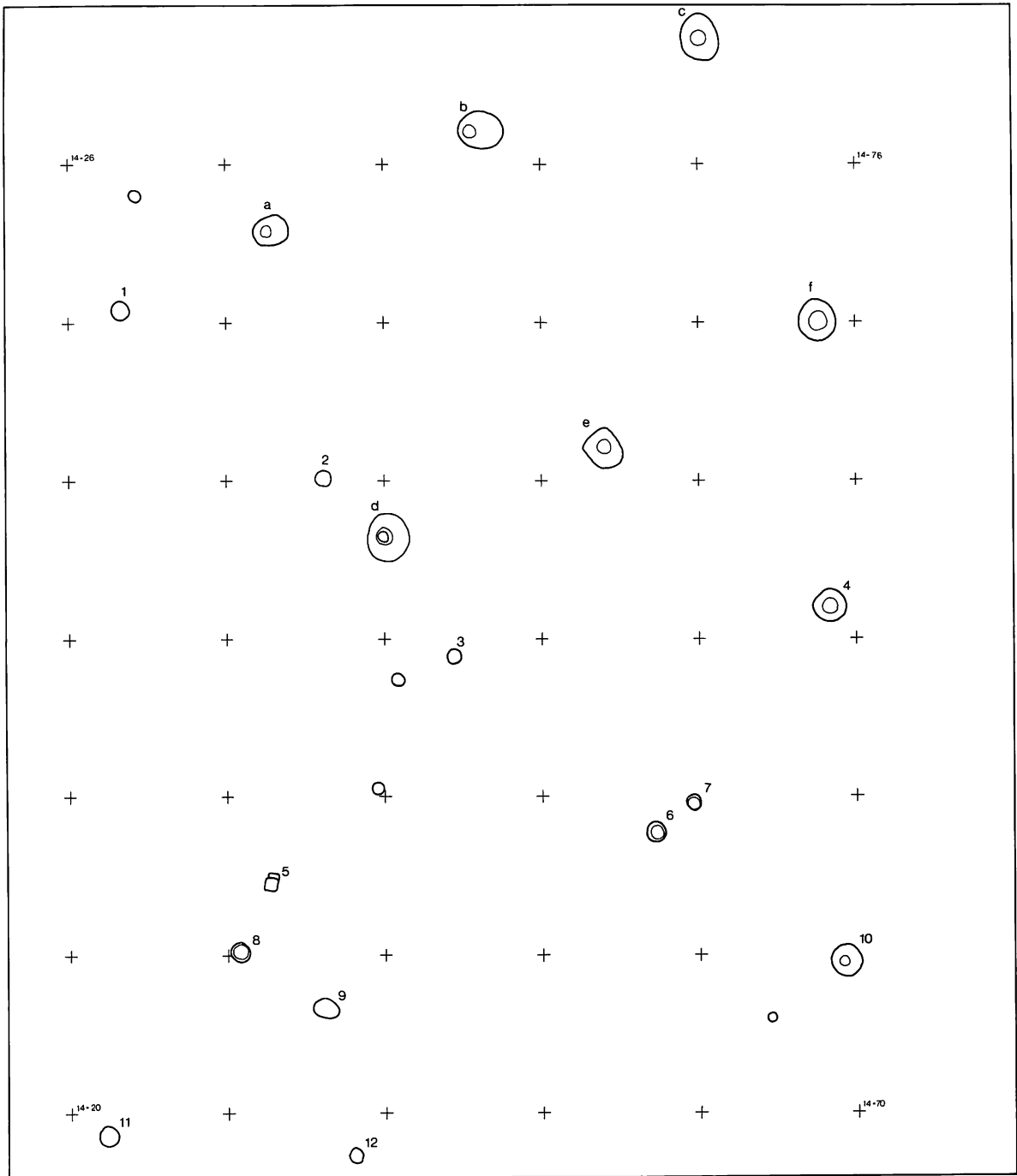
7 ピツ

3・2-19,29区のIIa層上位で、長さ5～6cmの楕円礫12点が集中して出土した。重量は50.8～94.6mg(平均71.7mg)で、石材は安山岩・凝灰岩・珪岩である。なお、3・2-49区の同一レベルからも3点の同様な礫が出土しており、これらも一括遺物の可能性が高い。こうした楕円礫の集中出土例は、縄文時代後期の忍路土場遺跡(1989 北海道埋蔵文化財センター)を始め、擦文時代の竪穴住居跡やアイヌ期の住居跡などに多くみられ、忍路土場の報告に若干の小活を記した。本例の場合、その出土層位や大きさ・数量から、アイヌ期の「ピツ」(pit)に相当する遺物と考えられるが、従来出土例や渡辺誠氏の分類(1981)からみると若干小さめである。

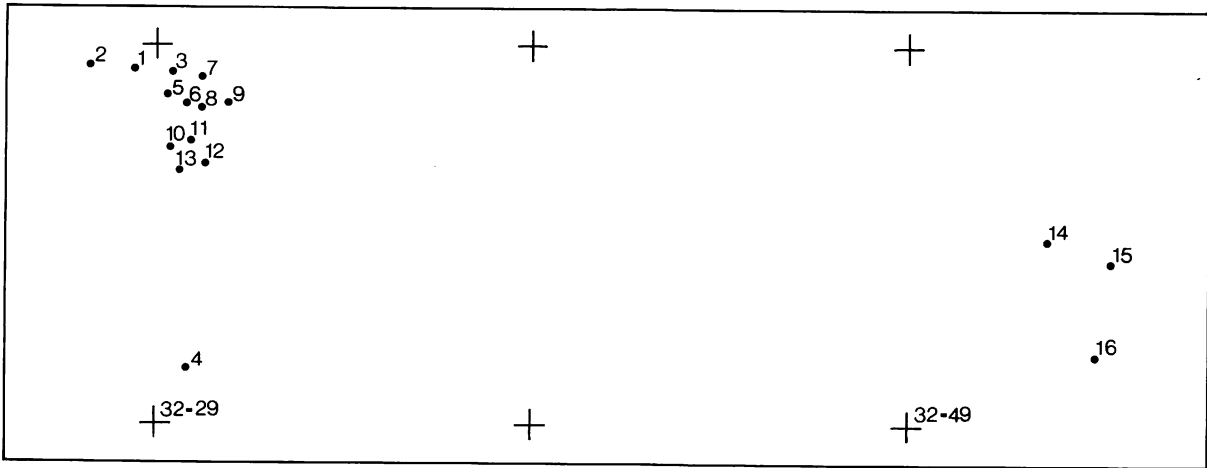


- 土層注記
- 1 : 灰黒色土 (Ia+Ta-a)
 - 2 : 黒色土 (IIa+Ta-a)
 - 3 : 灰褐色土 (Ia+IIa・III)
 - 4 : 褐色土 (III+IIb)
 - 5 : Ta-a
 - 6 : 灰黄色土 (IV層が褐色した土)
 - 6' : 暗灰黄色土 (IV+Ia・III)
 - 7 : 灰褐色土 (Ia>III+IIa)
 - 8 : 黒色土 (Ia)
 - 9 : 黒色土 (IIb)
 - 10 : 褐色土 (III+Ib)
 - 11 : 灰褐色土 (III>Ib)
 - 12 : 暗黄褐色土 (IV+IIb)
 - 13 : 黒色土 (IIb+IV)
 - 14 : 黒色土 (IIa)
 - 15 : 黒褐色土 (IIb+III)
- : 木質残存部
□ : 空疎

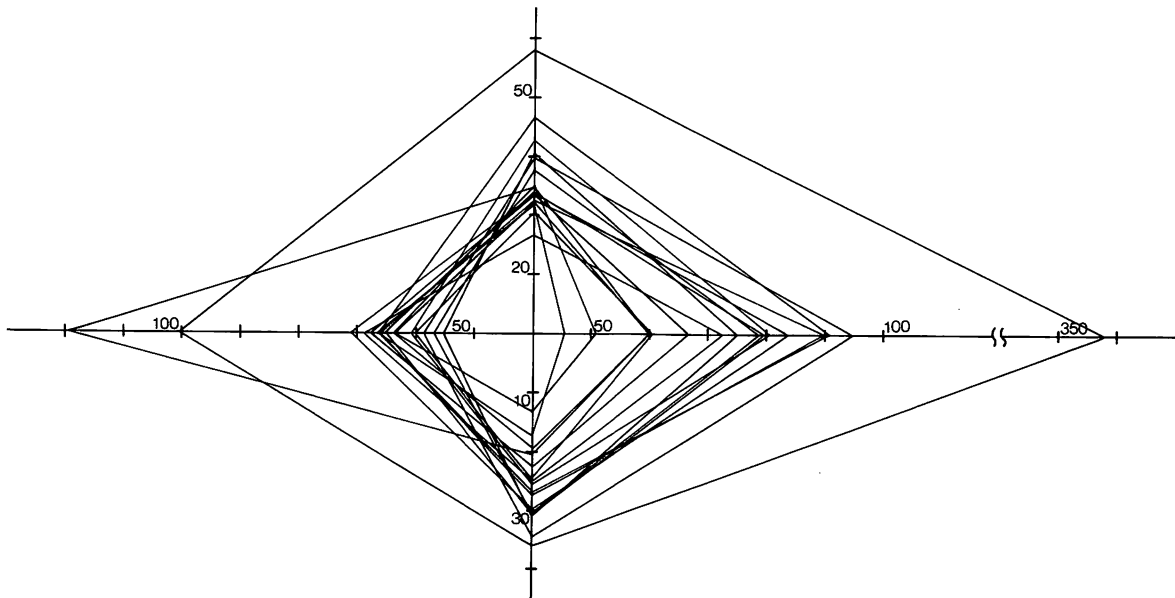
図IV-51 掘立柱建物跡 B1 及び杭跡



図IV-52 掘立柱建物跡 B 2 及び杭跡



図IV-53 ピツ出土分布



図IV-54 ピツ形態分布

表IV-30 ピツ一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	3・2-19	70.9	33.6	29.9	83.7	珪岩		8	長楕円	凝灰岩体の一部か
2	19	67.8	33.4	22.6	66.7	安山岩		391	長楕円	
3	29	66.0	32.6	27.5	90.0	安山岩		9	長楕円	
4	29	100.3	58.2	36.0	357.7	凝灰岩?		10	楕円	
5	29	58.8	39.6	34.6	94.6	凝灰岩		392	楕円	
6	29	67.0	32.3	17.5	45.4	凝灰岩		393	長楕円	
7	29	60.3	42.8	25.8	80.5	凝灰岩		394	楕円	
8	29	66.2	46.8	27.0	90.7	凝灰岩		395	楕円	
9	29	63.6	32.8	19.6	60.0	安山岩		396	楕円	
10	29	56.8	37.5	30.5	78.8	珪岩		397	楕円	凝灰岩体の一部か
11	29	60.0	30.6	24.2	60.2	凝灰岩		398	楕円	
12	29	119.2	34.6	20.4	59.4	安山岩		399	長楕円	
13	29	63.4	35.0	13.2	50.8	安山岩		400	扁平楕円	
14	49	68.8	26.4	25.0	72.8	安山岩		401	長楕円	
15	49	64.6	33.8	30.7	79.8	安山岩		402	楕円	
16	49	55.3	40.2	30.9	75.1	安山岩		403	楕円	

V 包含層出土の遺物

1 土器など

縄文時代早期の土器

I群b1類(1~13)：東釧路II。この型式は口縁部~胴部上半部分に、横位に施文され、かつ横環する区画文様帯がないものを含む。地文に撚り糸文が多用されており、内面に条痕は施されていない。

1・2は口縁部が肥厚せず丸くおさまる。1は口縁部直下に無文帯を形成し、撚り糸文が施される。2は口縁部直下に無文帯を形成し、口縁端面には縄線文が施される。3・4・5は口縁部が肥厚して端面を形成する。3は口縁部直下が無文で、撚り糸文が施される。4は口縁部直下が無文で、撚り糸文が施され、その後ナデが施される。口縁端面には縄線文が施される。5は口縁部直下に無文帯を形成し、口縁端面には指頭圧痕文がある。撚り糸文が羽状に浅く施される。6~8は絡条体圧痕文の同一個体。やわらかい丸軸原体を使って孤状の文様が施される。9は撚り糸文が施され、その後弱くナデが施される。10は無節の角軸絡条体圧痕文を縦位に、その下には斜縄文を施す。11は無節の斜行縄文。12-a・bは口縁部が肥厚せず、端面は形成されない。胴部上半には乱れた斜行縄文があり、その上から無節の角軸絡条体圧痕文が横位に施されている。13は全体的に縄文施文の前段のナデ調整が丁寧でないこと、施文時の力のかかりが一定でないことが相俟って節の大きさが一定でない。口縁部が肥厚せず、端面は形成されない。口縁部から胴部上半部にかけて撚りの異なる縦行気味の撚り糸文が羽状に施されている。胴部下半以下は乱れた羽状となっている。底部に近い部分はほとんど縄文は施されずナデのみである。

I群b1類(14~63)：東釧路III。この型式の細分は、口縁部~胴部上半部分を対象とし、横位に施文され、かつ横環する区画文様帯の原体を基準として分類を行う。

イ類：区画帯が縄線文で構成され、区画帯間の充填文は区画帯施文の後、斜・縦位に施されるもの。

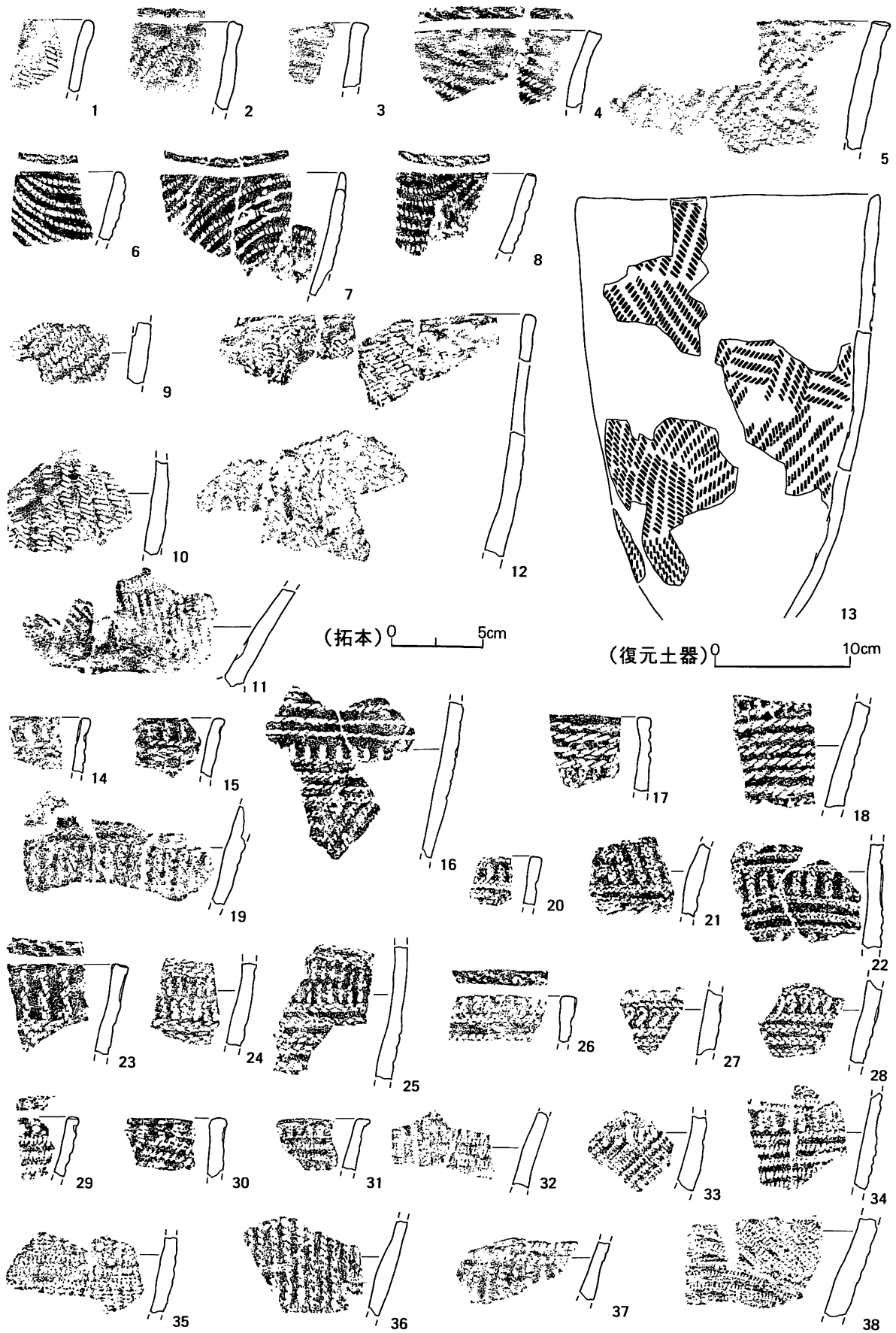
14~19は充填文が区画帯の短縄文と同一原体。14・15は縄端側面が縦位に押圧されている。16~18は同一個体。19の充填文は短縄文。胴部下半は施文後に強くナデられている。

ロ類：区画帯が組紐圧痕文で構成され、区画帯間の充填文は区画帯施文の後、斜・縦位に施されるもの。

20~28は充填文が組紐圧痕文で区画帯と同じ原体を使う。20は断面形が四角で、端面が丁寧にナデられている。20・21は同一個体。ともに摩耗が著しい。23~28は充填文が短縄文。23は短縄文を二段に充填し、口縁端面に縄文が施された後にナデられている。24・25は短縄文を二段に充填した後にナデられている。26は末端に環の付いた短縄文を充填している。27・28は末端に環の付いた短縄文を充填している。

ハ類：区画帯が絡条体圧痕文で構成され、区画帯間の充填文は区画帯施文の後、斜・縦位に施されるもの。

29~40は区画帯が絡条体圧痕文で構成され、充填文も絡条体圧痕文で構成されるもの。29~31は絡条体の端近くを使って、縦位に施文される。29は口縁端面に絡条体圧痕文が施される。31は施文の後ナデられている。32~38は充填文が区画帯の絡条体と同一原体。32・33・38は絡条体の端部が押圧されている。36・37は同一個体。細い丸軸の絡条体圧痕文で充填した後に強くナデている。39は細い丸軸の絡条体圧痕文で区画され、太い角軸の絡条体圧痕文で充填されている。40は口縁部が若干肥厚し、口縁端面をもつ。口縁直下には角軸絡条体の木口が押圧され、その下には、無文の部分と横位絡条体圧



図V-1 縄文時代早期の土器

V 包含層出土の遺物

痕文が多段に付された部分が交互に配置されている。そして、その下には区画の絡条体圧痕文が施されている。

41~51は区画帯が絡条体圧痕文で構成され、充填文は短縄文で構成されるもの。41・44は短縄文と絡条体圧痕文で充填される。42・43は短縄文で充填される。42は口縁端面に爪形文が施される。45・46は胴部上半で、短縄文と絡条体圧痕文で充填される。45は充填文と区画帯文様の原体幅が異なる。46は角軸の原体が使われており、充填文と区画帯文様の原体幅が異なる。47・48は末端に環の付いた短縄文で充填される。47は区画帯文様原体が角軸。49は区画帯文様原体が丸軸。50は絡条体圧痕文が浅く施される。51は口縁直下には縦位の絡条体圧痕文が付される。その下には斜位の絡条体圧痕文で山形の空間を作り、そこに縦位の末端に環の付いた短縄文が充填される。これが次第に横位のみ構成になりながら、交互に繰り返される。

二類：区画帯がヨコナデで構成され、区画帯間の充填文は斜・縦位に施されるもの。この分類は充填文が斜・縦位に施されると仮定したものであり、ヨコナデが区画帯として意識されていたかは不明である。単一施文の横環であるかもしれない。

52~54は縦位短縄文で充填される。52・53は同一個体。55は縦位絡条体圧痕文で充填される。56は横位絡条体圧痕文で充填される。57・58・60は横位組紐圧痕文で充填される。61・62は胴部下半との区画に組紐を使用している。施文後器壁をナデている。

ホ類：無文のもの。器表全面にナデが施されている。

63は外面にタテナデが粗く施されているため粘土紐の接合痕が残る。内面は外面よりもさらに粗い調整が施され粘土紐の接合痕がめぐる。口縁断面は角がとれた四角形を呈する。胎土は砂粒を含んで粗い。63の他には、H2・4・6、P4の接合個体（図IV-22-14）がある。これは口縁断面形が外方へ肥厚する典型的な東釧路Ⅲの形態を呈する。胴部にはナデによるS状の文様が施されている。

I群b1類（64~78）：東釧路Ⅲ。口縁部~胴部上半部分について区画文様帯が不明なものについて、文様を基準として分類を行った。

縄線文（64~65）

64は縄線文が横位に施される。65-a・bは、緩い縄間のあいた縄文を全面に施した後、口縁端面と口縁部に縄線をめぐらす。65-bは底部は肥厚しない。内底面は揚げ底になっている。この個体は文様帯を形成しながらも、底部が肥厚しないことにより、東釧路Ⅲの中でも古いものと考えられる。

短縄文（66~69）

66は三列の短縄文がやや斜めに施され、口縁端面には縄文を施している。67は二列の末端に環の付いた短縄文が下から順に、やや斜めに施される。その下には0段の斜行縄文が施されている。口縁端面には縄文が施される。68は三列の短縄文がやや斜めにつけられ、その下には0段の斜行縄文が施されている。口縁端面には縄文が施される。69は短縄文が等間隔で浅く施されている。全体に摩耗している。

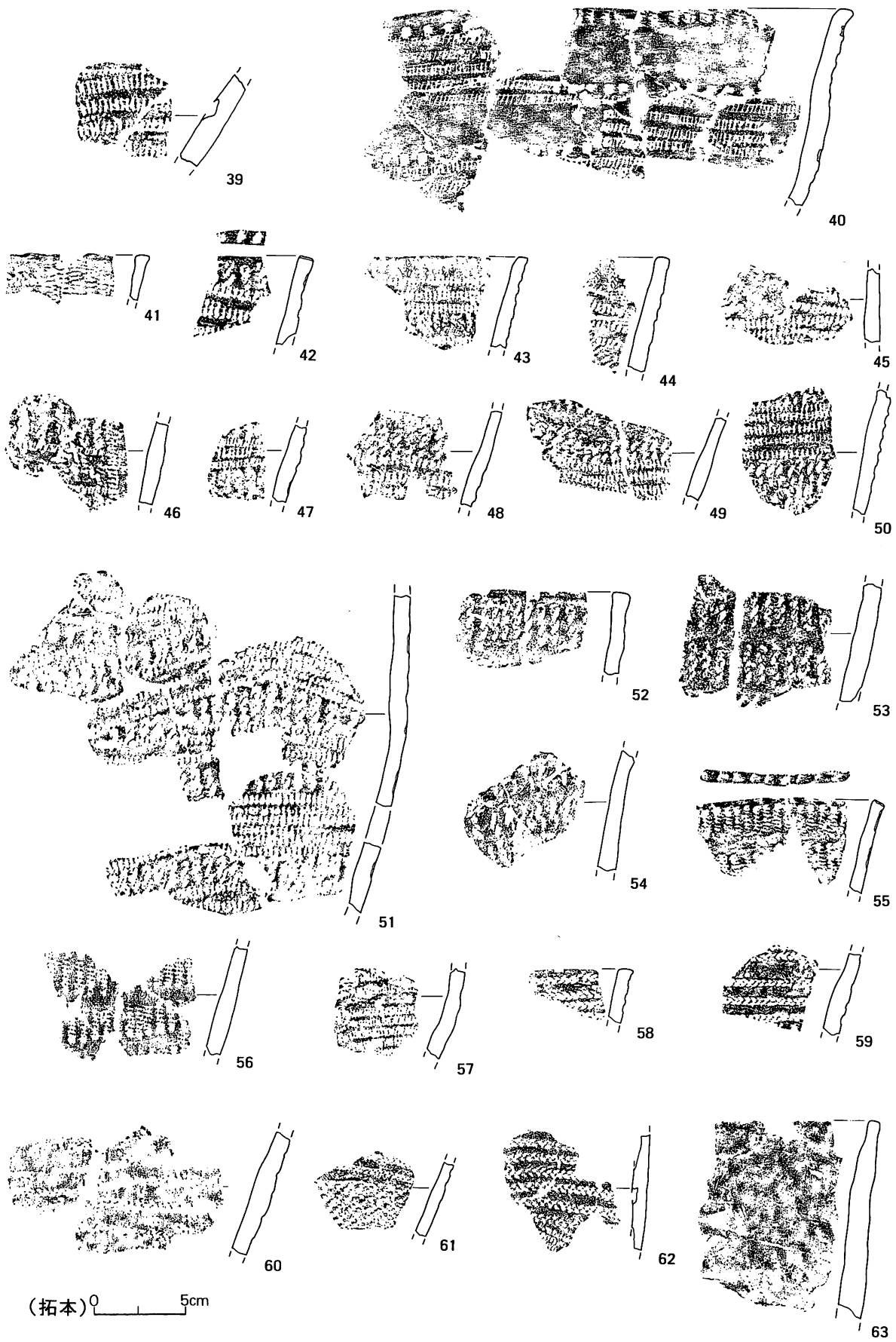
組紐圧痕文（70~71）

70・71は横位に組紐圧痕文が等間隔で施されている。

絡条体圧痕文（72~78）

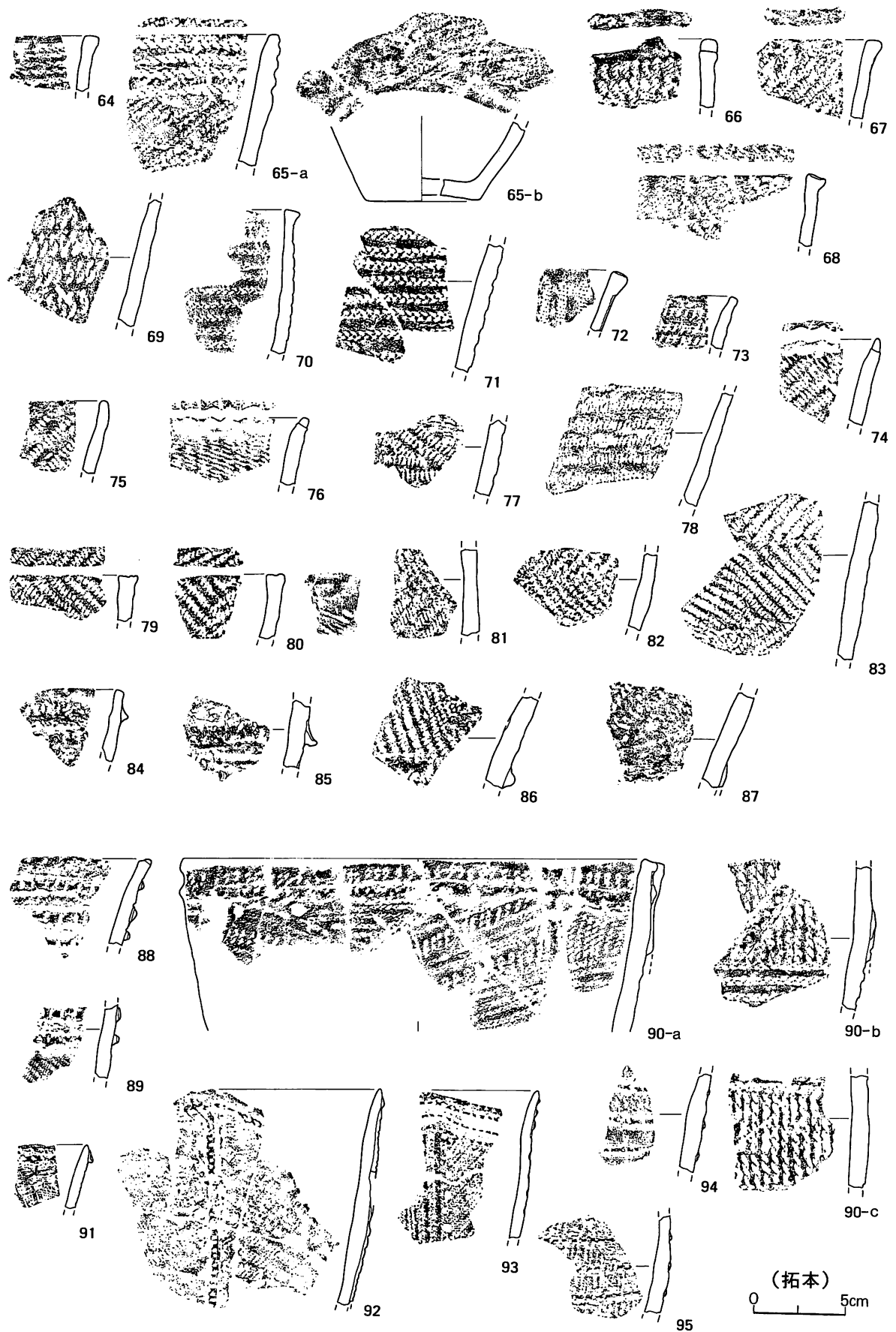
72・73は絡条体圧痕文が縦位に施される。74・75は絡条体圧痕文が斜位に施される。74は口縁端面に爪形文が施される。76は絡条体圧痕文が縦位に施され、口縁端面に爪形文がある。77は絡条体圧痕文が斜めに充填される。78は横位に絡条体圧痕文が等間隔で浅く施されている。

縄文のみ（79~83）：胴部下半の資料も含まれる。



図V-2 縄文時代早期の土器

V 包含層出土の遺物



図V-3 縄文時代早期の土器

79は斜行縄文。口縁端面には縄文が施される。80は縦方向の羽状縄文。口縁端面には縄文が施される。81は撚りの異なる縄文が羽状に施される。82は羽状縄文が施された後に強いナデが施されている。83は撚りの異なる縄文が整然と羽状に施されている。

凸突帯の付いたもの (84~87) : 胴部下半の資料も含まれる。

84は短縄文が凸帯とその直下に施される。85は短縄文が突帯とその直下にある。凸帯の上に施された短縄文は末端に環の付いた縄である。86は短縄文が突帯に浅く施される。87は全体に強いナデが施されており、凸帯は平坦で指頭圧痕がみられる。底部に近い資料である。

I群b2類 (88~100) : コッタロ式。この型式の細分は、口縁部~胴部上半部分を対象とした。横環する貼付帯は東釧路Ⅲにみられる区画文様帯と同じ意図と解釈する。以上により、貼付帯の断面形(幅が3~5位mmを太いとし、幅が2~3mm位を細いとした。)と貼付帯脇のナデの有無の組合せ、貼付帯上の刻目(器表まで届く位の刻みを深いとし、貼付帯が変形せず器表まで届かない位の刻みを浅いとした。)を基準として分類を行った。

イ類: 貼付帯上にV字の深い刻目を付けたもの。**イ類-1:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがない。**イ類-2:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがある。**イ類-3:** 貼付帯が細く、貼付帯脇にナデがある。このうち今回の調査で検出されたものは**イ類-2**と**イ類-3**である。

88・89は**イ類-2**である。88は同一施文具によって、口唇から貼付帯上まで刻目が施される。

口類: 貼付帯上にU字の浅い刻目を付けたもの。**口類-1:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがない。**口類-2:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがある。**口類-3:** 貼付帯が細く、貼付帯脇にナデがある。このうち今回の調査で検出されたものは極少量の**口類-1**と**口類-2**と**口類-3**である。

90-a・b・cは**口類-2**。90-aは口縁部は若干肥厚し、口縁端面をもつ。口縁直下には貼付帯が1本横環し、縦には1~2本付される。口縁直下には末端に環の付いた短縄文、横環する貼付帯の下には、同じ短縄文と区画の組紐より細いものが押圧されている。90-bは斜めに付された貼付帯には爪形文が施されている。

91・92は**口類-2**である。91・92は同一個体。胴部上半は縦位の貼付帯で区画され、斜位の角軸絡条圧痕文とその端部圧痕文で充填される。93は撚りの細い組紐が縦位と斜位に施されている。斜位の組紐圧痕文の端には組紐の端部による刺突が施されている。94・95は**口類-3**である。

ハ類: 貼付帯上に浅く縄文を付けたもの。**ハ類-1:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがない。**ハ類-2:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがある。**ハ類-3:** 貼付帯が細く、貼付帯脇にナデがある。このうち今回の調査で検出されたものは**ハ類-2**のみである。

96・97は**ハ類-2**である。96の口唇には縄文が施されている。

ニ類: 貼付帯上に短縄文を付けたもの。**ニ類-1:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがない。**ニ類-2:** 貼付帯が太く、貼付帯脇にナデがある。**ニ類-3:** 貼付帯が細く、貼付帯脇にナデがある。このうち今回の調査で検出されたものは、**ニ類-2**と極少量の**ニ類-1**、**ニ類-3**である。

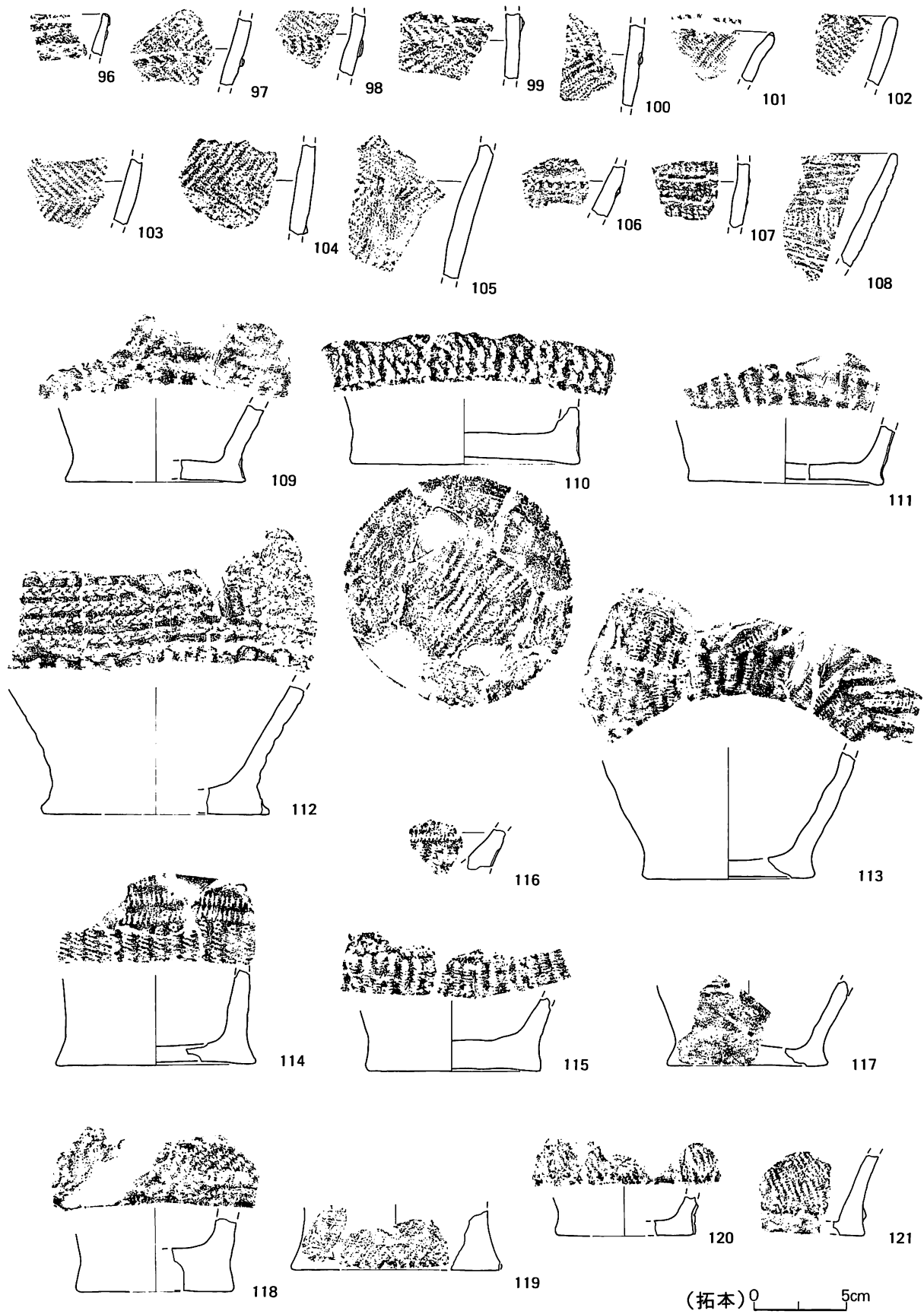
98は**ニ類-1**。幅広の貼付帯に短縄文が押されている。99は**ニ類-2**である。短縄文を浅く付けたもの。100は**ニ類-3**。短縄文が深く押されている。

I群b2類 (101~105) : コッタロ式。口縁部~胴部下半部分について貼付帯が不明なもの。

101は端部が尖る断面形を呈し、縄線による刻みが施される。102は端部が丸まる断面形を呈する。方向の異なる結束羽状縄文が重複して施される。103・104は撚りの異なる原体の羽状縄文が施される。105は結束羽状縄文

I群b1・2類の底部 (109~121) : 東釧路Ⅲ~コッタロ式。内面はすべてナデである。

V 包含層出土の遺物



図V-4 縄文時代早期の土器

109は揚げ底で、末端に環の付いた短縄文が縦位に施される。胴部下半は撚り糸文が不規則な方向に施される。110は揚げ底で、二列の短縄文が縦位に配置される。外底面には縄文が施される。111は少し揚げ底で、組紐圧痕文が縦位に施される。胴部下半は横位の組紐圧痕文。112は組紐圧痕文が横位に施される。胴部下半は横位の組紐圧痕文。底部の角はユビオサエによって波状になっている。113は揚げ底で、角軸絡条圧痕文が深く縦位に施される。胴部下半は斜位の角軸絡条圧痕文。114は少し揚げ底で、丸軸絡条圧痕文が浅く縦位に施される。胴部下半は横位の丸軸絡条圧痕文。115・116は同一個体。115・116は平底で、細かい丸軸絡条圧痕文が浅く縦位に施される。胴部下半は横位の丸軸絡条圧痕文。117は平底。118は平底で、胴部下半は斜行縄文が施される。119は平底で、底部の角が縄端によって刺突されている。120は平底で、縦位に貼付帯がつけられ、その上には細い短縄文が施されている。121は平底で、低い貼付帯の上から細い短縄文が施されている。

I群b3類(106・107)：中茶路式。

106は隆起線文間と隆起線文上に短縄文を施す。107は微隆起線文間に短縄文を配置する。

I群b4類(108)：東釧路Ⅳ式。

108は撚り糸を羽状に施し、羽状が開いた部分に末端に環の付いた短縄文が縦位に施される。

縄文時代前期の土器

前期の土器の綱文土器と縄文土器について、原体の傾きと節の幅で分類した。原体の傾きについては水平に対して30°までが横走、30°～60°までが斜行、60°以上が縦走とした。節の幅は5mm以上を綱文、5mm以下を縄文とした。

Ⅱ群a1類(122～133)：綱文

この土器の胎土には繊維が多量に含まれている。口縁の断面形は四角形、端面は平坦。外面は綱文(横走)が施され、後にナデが施されている例がある。内面・端面には丁寧なナデが施されている。

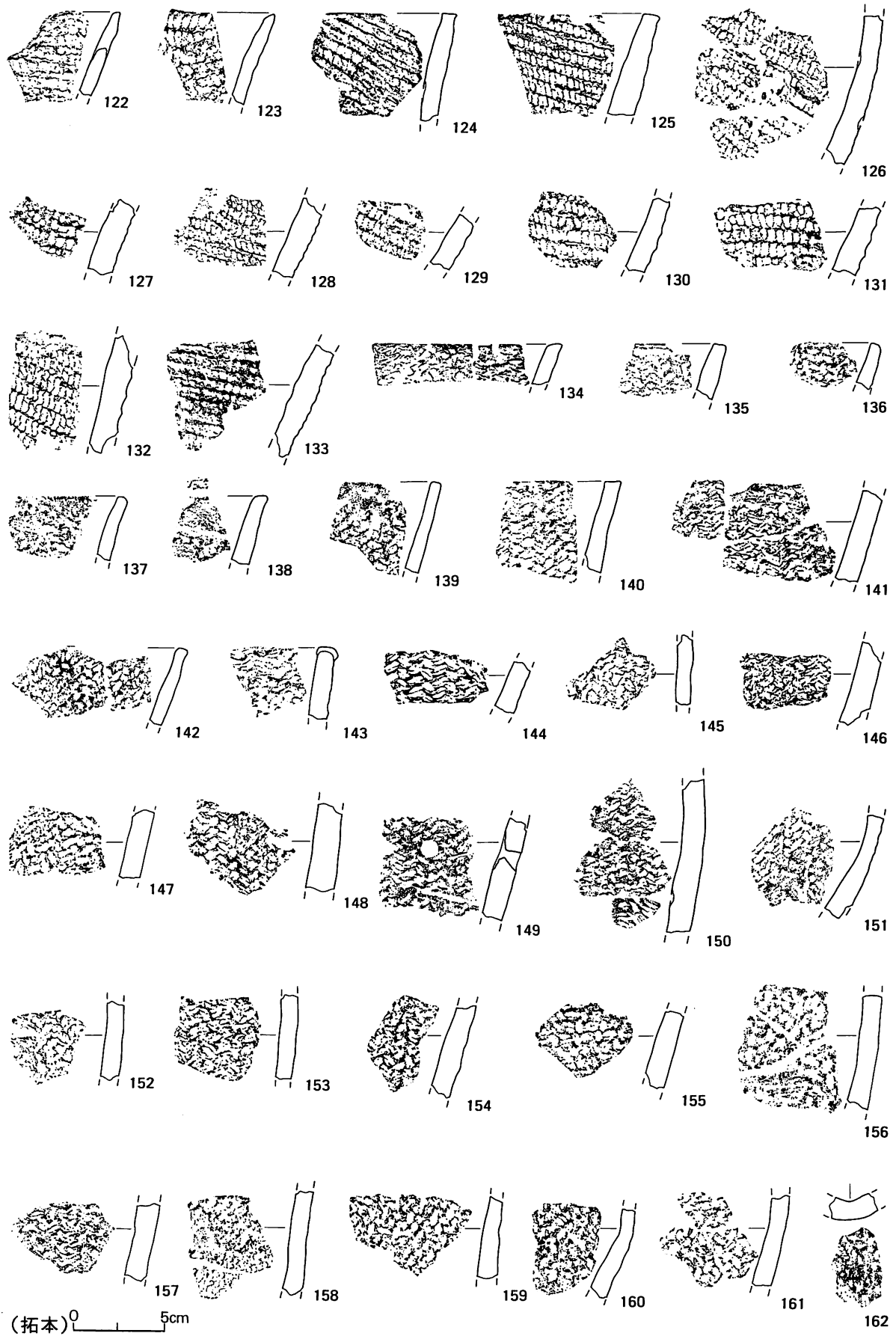
122・123は波頂部である。口縁断面は丸く収まる。施文は非常に浅く施されている。124・125は口縁断面が四角形、端面のナデ調整によって若干肥厚する。端面のナデは丁寧。126・127・128・129は器表が軟らかいうちに施文を行ったので、若干、縄間の粘土がつぶれている。126は施文が浅く施されている。127・129は全面に弱いヨコナデがある。130・131・132は縄間の粘土のつぶれもなく、整った綱文である。133は内面のヨコナデが顕著で、原体の撚りが少し緩いようである。133は全面に弱いヨコナデが施されている。

Ⅱ群a1類(134～162)：組紐回転文

この土器の胎土は砂粒があまり含まれず、繊維が多量に含まれている。口縁の断面形は四角形、端面は平坦。外面は4本組紐の回転文が施され、後にナデが施されている例がほとんどである。134～136・140は口縁断面が四角形、端面は丁寧にナデが施される。外面は全面に弱いヨコナデが施されて組紐の節がつぶされ、特に口縁付近は強めにナデられて文様自体が消えかかっている。140と141は同一個体。137～139は強いナデが全面に施されている。137・139の断面は丸く収まる。141は口縁断面が丸く肥厚している。外面は全面に弱いヨコナデが施されて組紐の節がつぶされている。端面には丁寧なナデが施されているが、口縁付近に強めのナデはない。143は口縁断面がT字状に肥厚する。口縁端面は丁寧にナデられている。外面はヨコナデが施されていない。

144・145は外面にヨコナデが施されていない。146・147は極く弱いヨコナデが施されている。148～150は弱いヨコナデが施されている。149・150は同一個体。149は補修孔がある。151～153はヨコナデが施され、そのために節が埋まりかけている。64は底部に近い胴部資料で、下半はナデによって文様が消されている。154～157は強いヨコナデによって文様はほとんど潰されて見えなくなっている。158～

V 包含層出土の遺物



図V-5 縄文時代前期の土器

161は弱いヨコナデが施されている。158は非常に浅く施文されている。162は底部資料、文様は全面に施されている。

II群 a 1 類 (163~174) : 横走縄文

この土器の胎土は砂粒があまり含まれず、繊維が多量に含まれている。外面は横走縄文が施され、後にナデが施されている例がある。内面には丁寧なナデが施されている。胎土と節の大きさを除くと縄文土器に似ている。

163~165は比較的深く施文され、ヨコナデはない。166~169は弱いヨコナデが施されている。170~172は浅く施文され、ヨコナデはない。173・174は浅く施文され、弱いヨコナデがある。

II群 a 1 類 (181・182) : 結束羽状縄文

この土器の胎土は砂粒があまり含まれず、繊維が多量に含まれている。内面には丁寧なナデが施されている。

181・182は結束羽状縄文が施されており、ナデはない。182-a は口縁端面にはナデが施されている。そのため口縁断面は、角が少し肥厚する四角形となる。182-b は一部に長さの異なる羽状文が施される。

II群 a 1 ~ 2 類 (175~180) : 羽状縄文

この土器の胎土は砂粒があまり含まれず、繊維が多量に含まれている。外面は羽状縄文・結束羽状縄文で、後にナデが施されている例がある。内面には丁寧なナデが施されている。

175~180は羽状縄文。175は口縁部に小さな突起をもち、口縁端面には縄が押しあてられている。そのため口縁断面は角が少し肥厚する四角形となる。外面は羽状縄文で、後にナデが施されている。

内面は口縁部直下に縄文を施す。176・177・179・180は撚りの異なる原体を用いている。179・180はナデが施されていない。

II群 a 類 1 ~ 2 (183~) : RL 斜行縄文

183~185は口縁断面が四角形を呈し、口縁端面にはナデが施されている。外面はナデがない。186・187は口縁断面が丸く収まり、口縁端面にはナデが施されている。外面はナデが施されている。188~190は外面にナデが施されていない。191~194は外面に弱いナデがある。

II群 a 類 1 ~ 2 (195~200) : LR 斜行縄文

195は口縁断面が四角形を呈する。器壁は内湾しながら立上る。196は口縁断面が丸く収まる。縄文は浅く施されている。197は節が密な縄文が施されている。198・199は比較的緩い縄文が浅く施されている。200は縄文施文ののち表面がナデられている。

II群 a 類 1 ~ 2 (201~204) : 表裏 LR 斜行縄文

201・202は表面にナデが施されている。203は節の大きな縄文が浅く施されている。繊維はあまり含まれていない。204は節の小さな縄文が浅く、表面にナデが施されている。繊維はあまり含まれていない。

II群 a 類 1 ~ 2 (205) : LR 縦走縄文

205は繊維を多量に含む。縄文は深めに施され、内面のナデは丁寧である。

II群 a 類 1 ~ 2 (206) : 底部

206は施文調整は見当らない。

II群 b 類 (207) : 静内中野式

207は胴部上半に撚りのきつい斜行縄文。胴部下半に重複した縦走縄文が施されている。繊維が多量に含まれる。

V 包含層出土の遺物

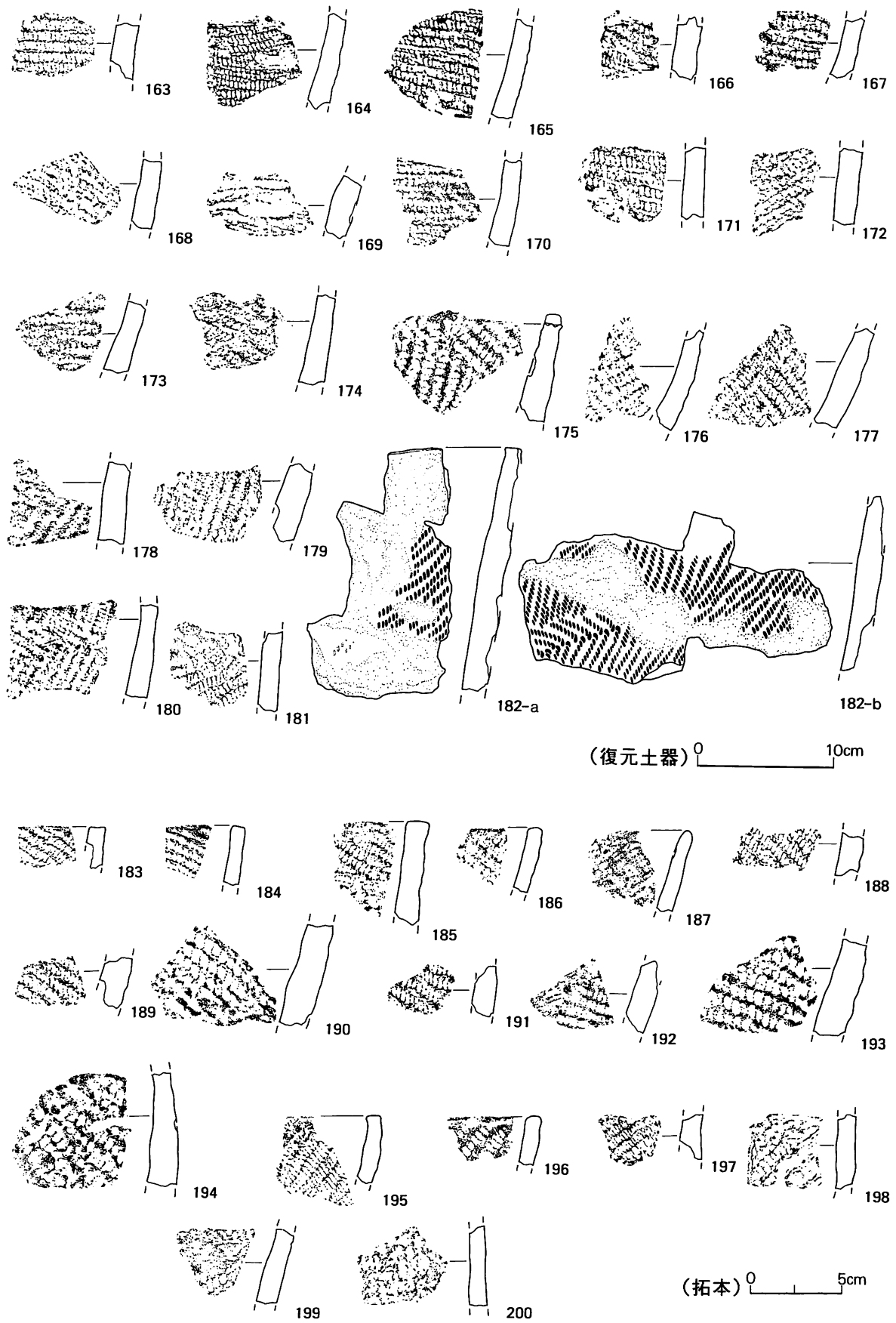
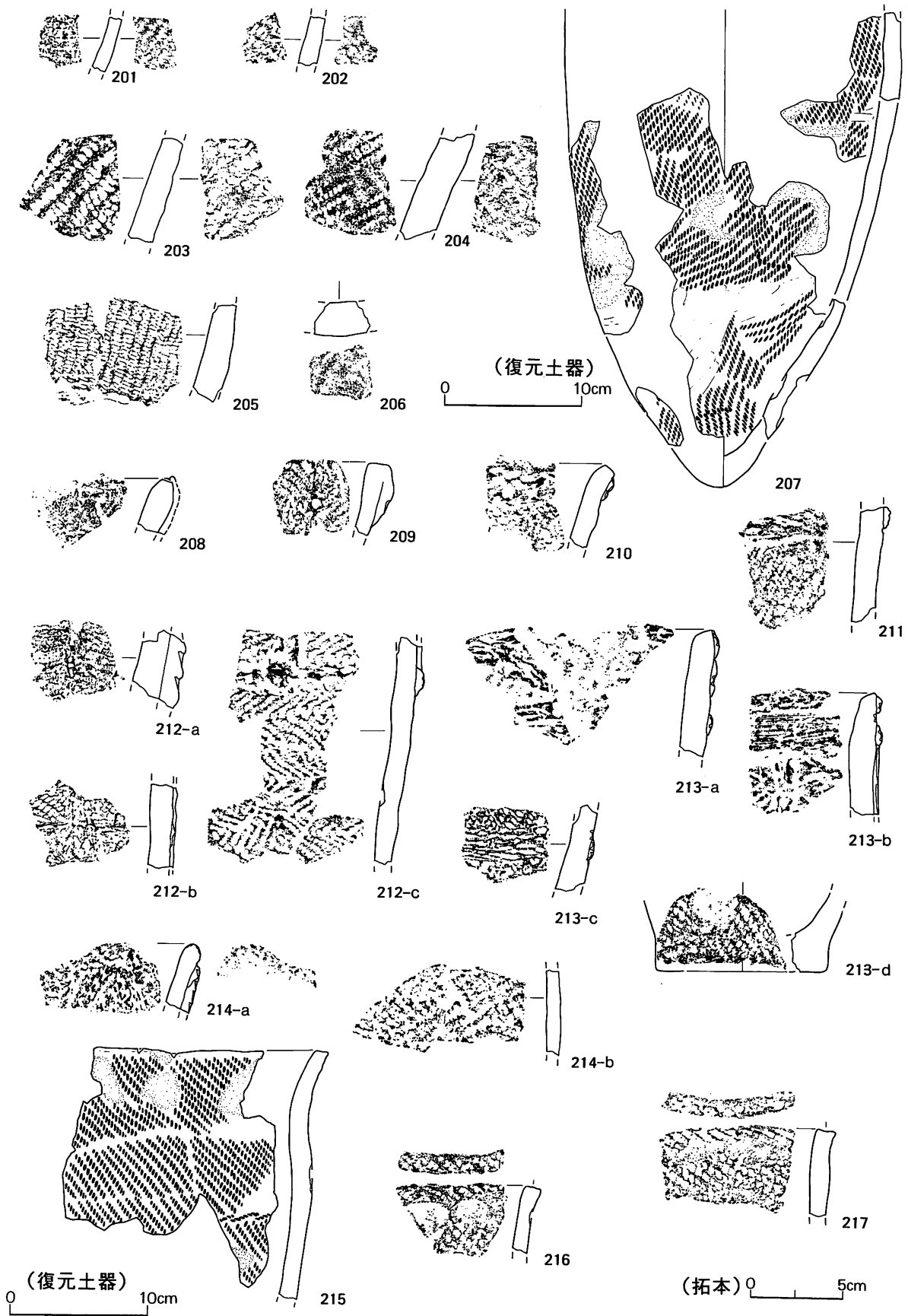


図 V - 6 縄文時代前期の土器



図V-7 縄文時代前・中期の土器

V 包含層出土の遺物

縄文時代中期の土器

Ⅲ群 a 類 (208) : 円筒上層式

208は二本一束の撚り糸圧痕文が口縁部から貼付帯上に施される。

Ⅲ群 a 類 (209~213) : 萩ヶ岡 2 式

209は突起の下部に半截竹管状工具による刺突が施される。210は結束の羽状縄文を施した後に 2 本の貼付帯が付される。貼付帯は指頭によって波状に整形されている。211は縄文を施した後に横位貼付帯が付され、貼付帯には半截竹管状工具による刺突が施され、直下には沈線がある。212-a は柁目取のヘラ状工具の木口による刺突が縦位→横位の順で施される。212-b・c は結束の羽状縄文を施した後、2本の縦位貼付帯が付され、後に 1 本の横位貼付帯が付される。貼付帯は指頭によって波状に整形されている。内面のタテミガキは光沢をもつほど丁寧に施されている。213-a は突起部が剥落したもの。貼付帯上に半截竹管状工具による刺突が施される。213-b は貼付帯上と貼付帯間に半截竹管状工具による押し引き・刺突が施される。213-c は貼付帯上に半截竹管状工具による 3 段の刺突が施される。内面調整は丁寧である。213-d は砂を多く含む胎土で、焼成は良好である。

Ⅲ群 b 2 類 (214~216) : 柏木川式

214-a は口唇部に縄線、貼付帯上に半截竹管状工具による刺突がある。214-b は結束の羽状縄文が施される。215は口縁端面に縄文が施され、胴部上半に結節をもつ。216は口縁端面に縄文が施される。全体的に摩耗が著しい。

Ⅲ群 b 3 類 (217) : ノダップⅡ・煉瓦台式に相当する

217は口縁端面に縄文が施される。口縁部には 1 cm 位の無文帯を設けている。

縄文時代後期の土器

Ⅳ群 a 類 (218~228) : 余市式

218-a は口縁部に半截竹管状工具による二段の刺突をもつ。上から二番目の貼付帯は極めて薄い。この貼付帯は上部が強いナデ調整によって器面と一体化し、段状の器面に見える。218-b は口縁部外面に幅 1 cm くらいの細い貼付帯を施す。218-a と同じく上から二番目の貼付帯は上部が器面と一体化している。219は220は口縁部に扁平な貼付帯を付け、二段目以下は幅が一定でない貼付帯を施す。221-a は口縁端面に丁寧なナデを施し、そのナデは一部外面まで及んでいる。口縁部貼付帯の直下には縄文の施されない無文帯風の部分がある。221-b は貼付帯間は弱いナデが施されている。223-a・b は口縁部貼付帯直下に刺突をもち、口縁端面は縄文を付す。222-a・b は口縁部に非常に扁平な貼付帯を施す。224・225は貼付帯を羽状縄文の境目には施さず、斜行する縄文の中ほどに付している。226は細くて薄い貼付帯が間隔狭く施されている。227-a・b の貼付帯の縄文は地文と同じ傾きに施文されている。228は貼付帯の縄文は地文と異なる傾きに施文されている。

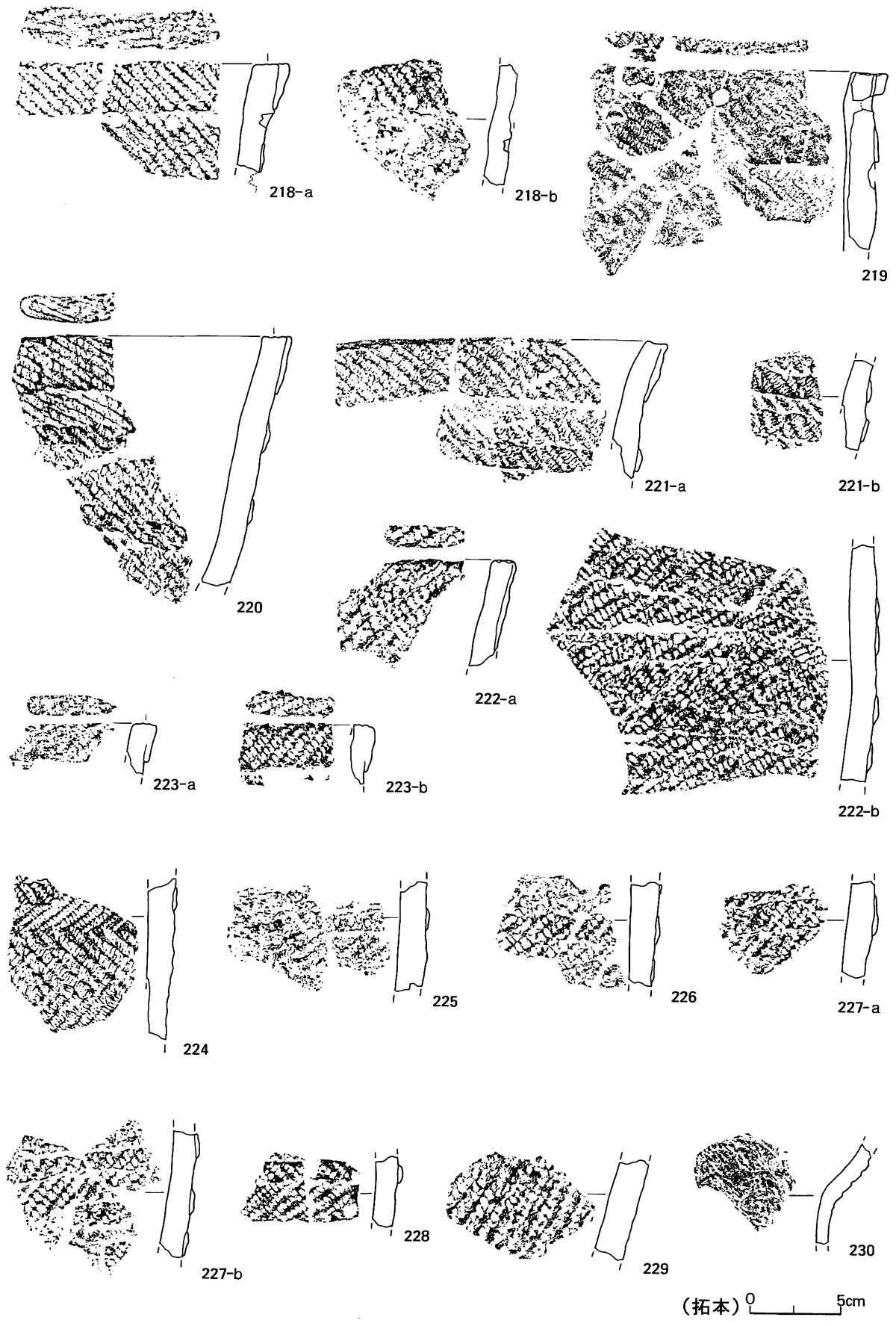
Ⅳ群 b 類 (230) : ウサクマイ C 式

230は耕作土から出土しており表面は摩耗、脱色している。ウサクマイ C 式の古いもの。

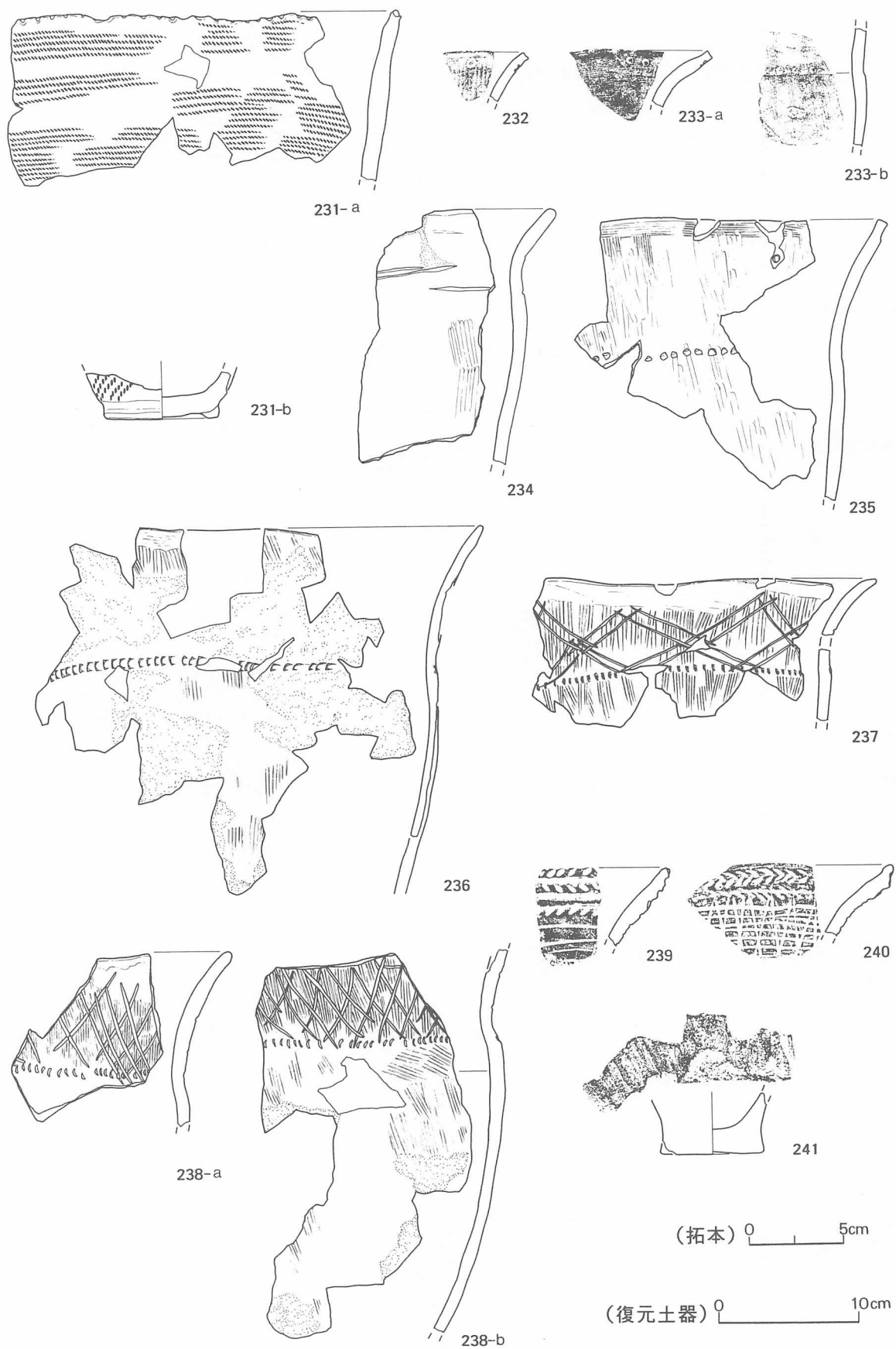
続縄文時代の土器

Ⅵ群 (231) : 大狩部式

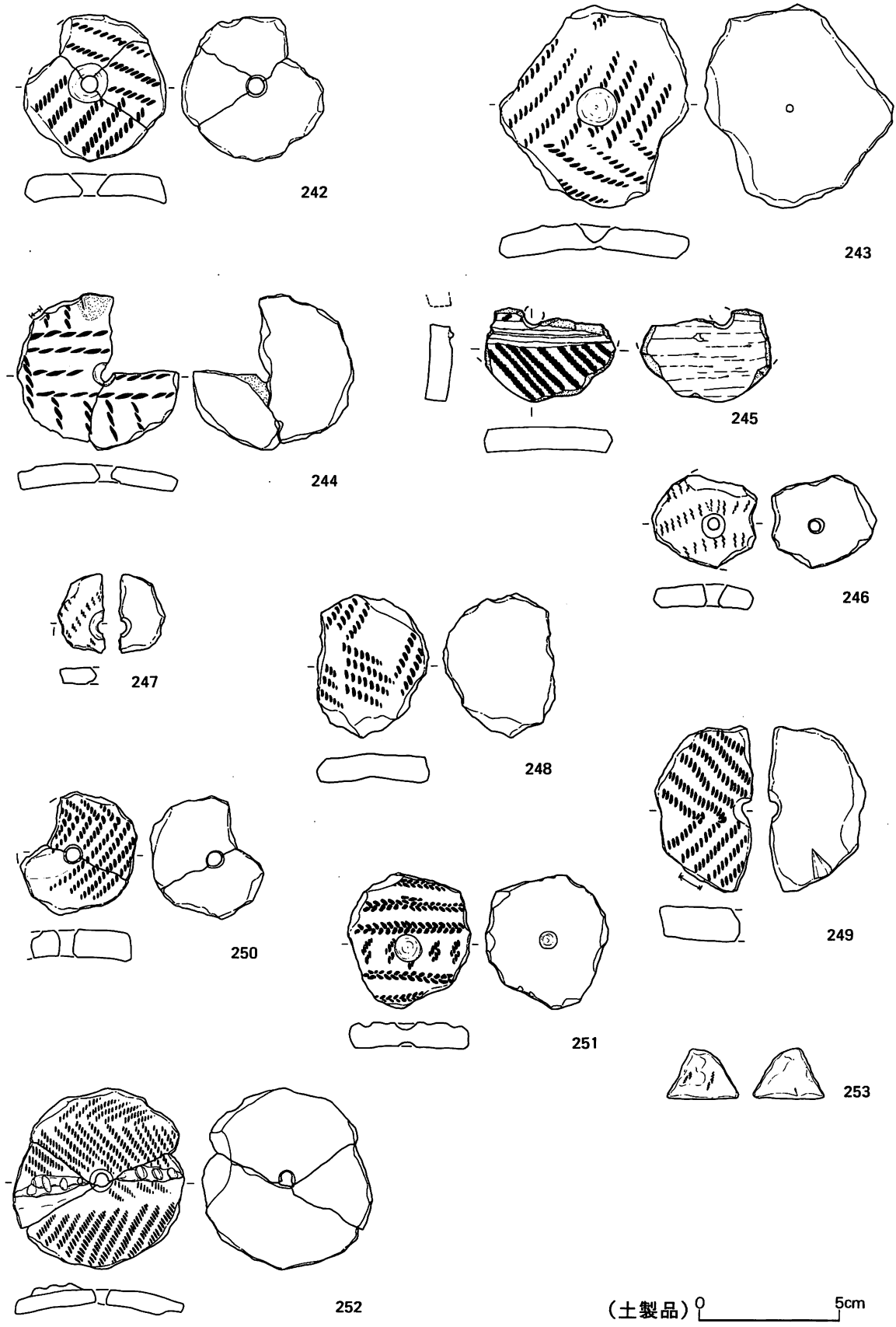
231-a は器壁外面に横走縄文が施された後、ヨコナデが施され、その後で口縁端面に半截竹管状工具による刺突がある。231-b は231-a と同一個体。外底面に粘土紐をまわし、粗いナデが施される。そのため断面形はアーチ状の高台状を呈する。231-a と原体が異なるように見えるが、底部の屈曲部にあたるため原体が深く食い込み、節が大きく見える。



図V-8 縄文時代後期の土器



図V-9 続縄文・擦文時代の土器



(土製品) 0 5cm

図V-10 土製品

V 包含層出土の遺物

擦文時代の土器

VII群 (232・233) : 北大Ⅲ式

232は外面にタテハケの後ヨコナデが施され、竹管状工具による刺突がある。内面はヨコハケの後ヨコナデが施されている。233-aは、外面と口縁端面にヨコナデが施され、竹管状工具による刺突がある。内面はヨコミガキが施されている。233-bは、外面にタテハケの後ヨコミガキが施される。頸部と胴部の境目に竹管状工具による刺突がある。

VII群 (234~241) : 擦文式

234は頸部に連続しない沈線が施されている。胴部は摩耗が著しい。235は外面の調整が粗雑なので調整技法がよく看取できる。頸部と胴部の境目に、タテミガキの後に棒状工具による刺突が施される。この棒状工具はタテミガキに使用された施文具である。236は頸部と胴部の境目に、タテミガキの後に半截竹管状工具による刺突が施される。頸部と胴部は摩耗が著しい。237は頸部と胴部の境目に柁目取のへら状工具の木口による刺突が施され、その後頸部に二重斜格子状沈線文が施される。これらの施文具は同一である。238は頸部と胴部の境目に半截竹管状工具による刺突があり、その後頸部に斜格子状沈線文が施される。239は棒状工具で横沈線が施され、後にその施文具の側面による刺突がある。240は柁目取のへら状工具で横沈線が施され、後にその施文具の木口による刺突があり、その後頸部に斜格子状沈線文が施される。

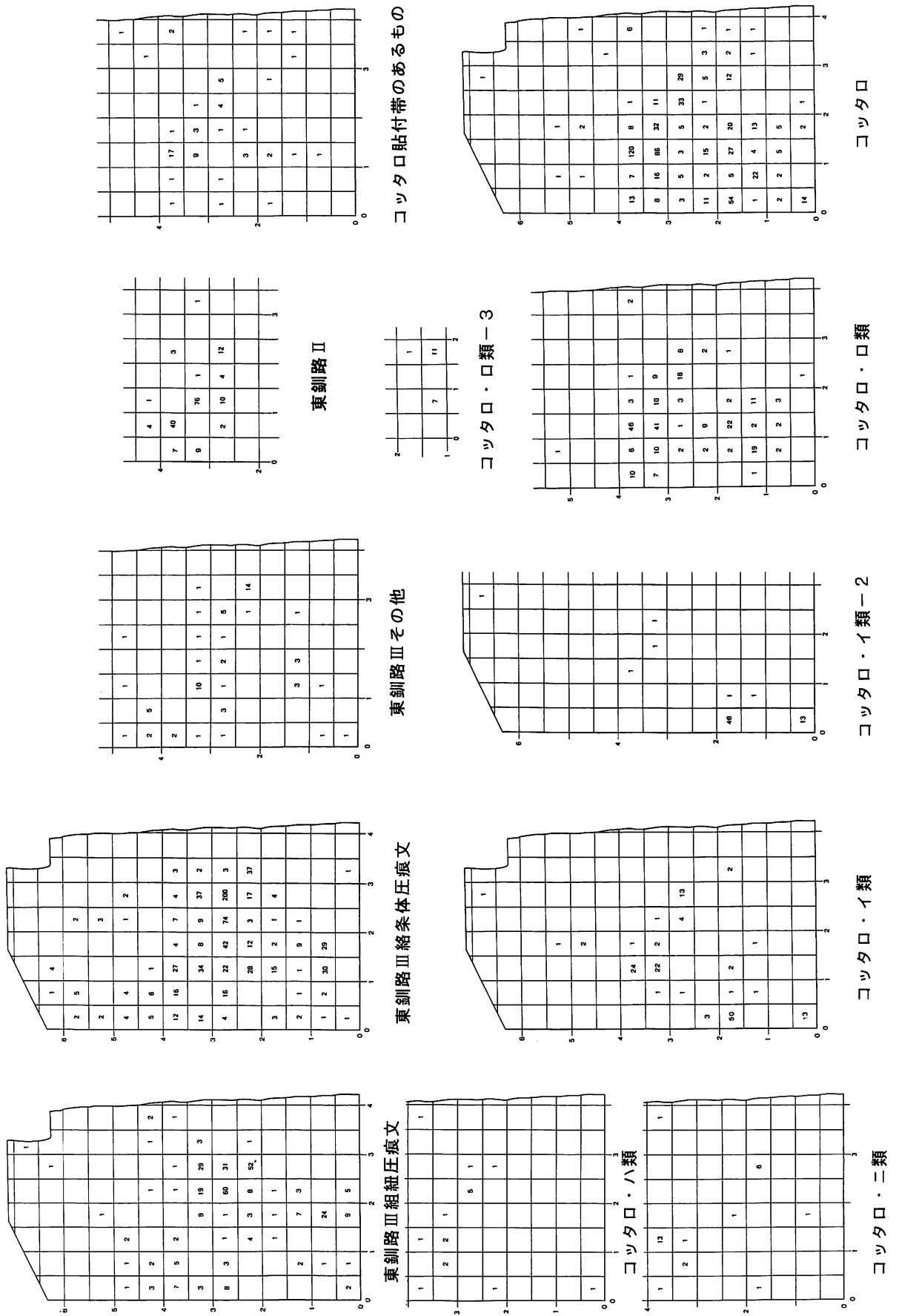
土製品

土製円盤 (242~252)

242・243は撚り糸文が羽状に浅く施される。243は未製品。施文後にナデられている。内面には条痕がみられる。244は縄線文と短縄文の組み合わせ。穿孔中に破損したと思われる。245は未製品。組紐圧痕文と短縄文の組み合わせ。両面から穿孔がみられる。246・247は絡条体圧痕文。全周は残存しておらず、大きさは不明であるが小型の物と思われる。特に247は小さい。248は未製品。縄文が羽状に浅く施され、後にナデられている。周縁を打ち欠いている最中に破損したと思われる。249は結束羽状文。249は撚りの異なる縄文が羽状に浅く施される。251は組紐圧痕文と短縄文の組み合わせ。252は貼付帯を施す。

三角土製円盤 (253)

253は早期の土器片を利用している。1辺が2cm前後の長さをもつ。ユカンボシE5遺跡出土のものより少し小さい。(鈴木)



図V-12 IIb層の土器分布(縄文時代早期)

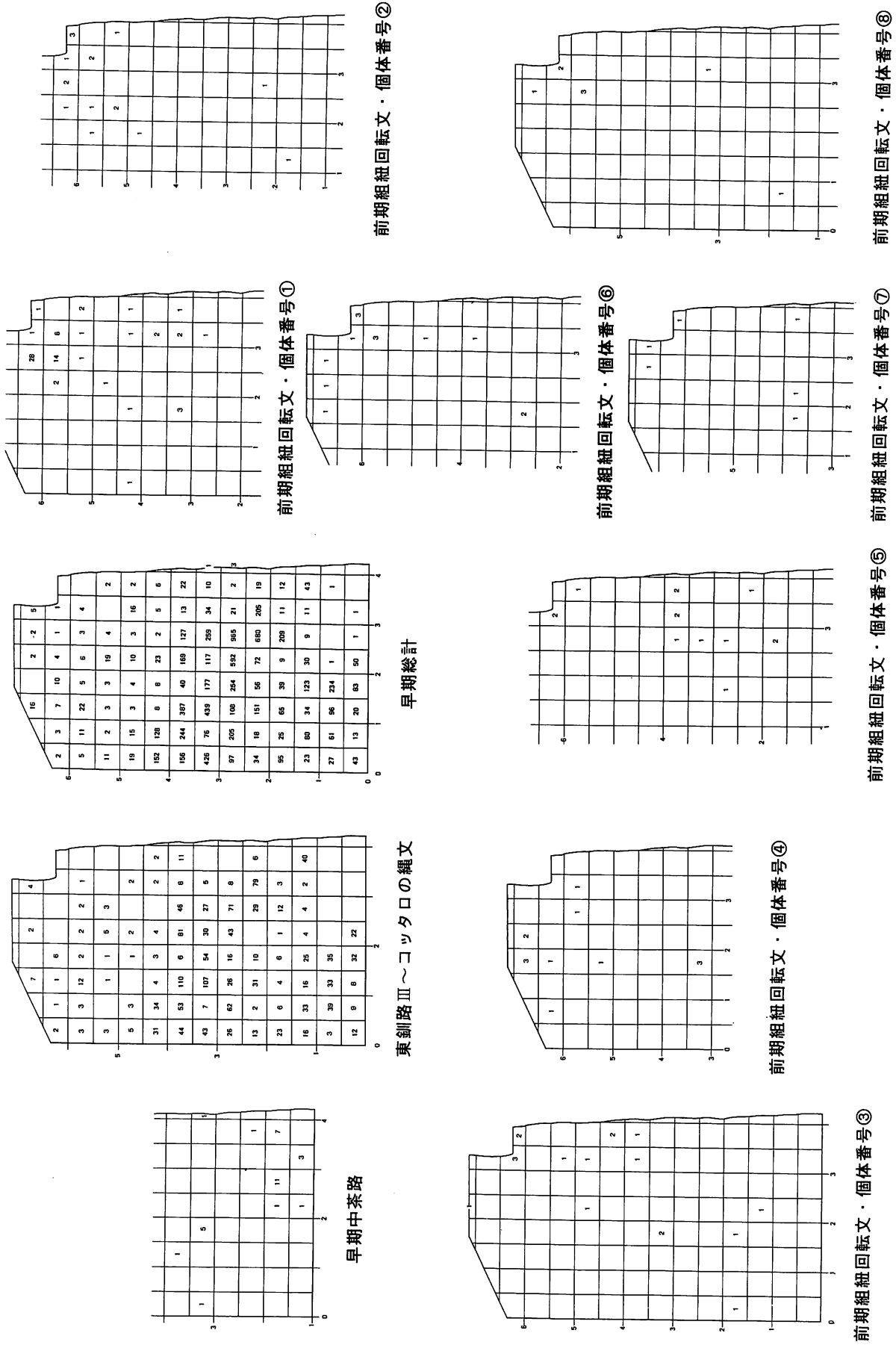
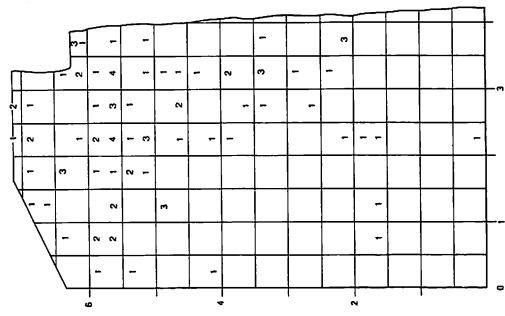
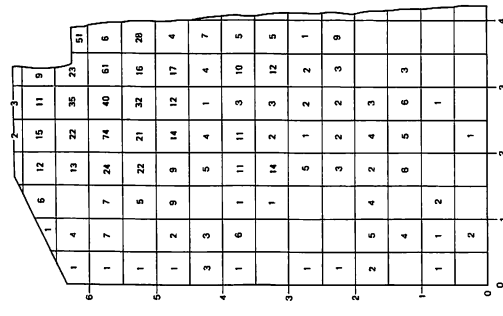


図 V - 13 IIb 層の土器分布 (縄文時代早期・前期)

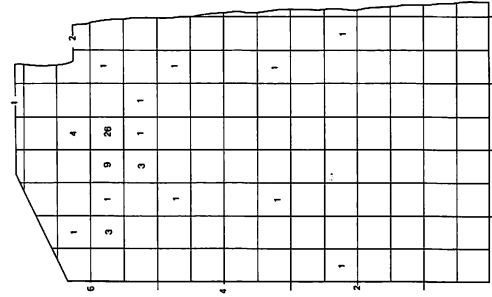
V 包含層出土の遺物



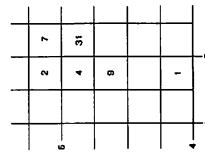
前期斜行縄文
(上段 R L・下段 L R)



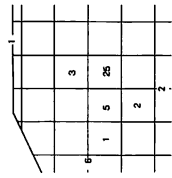
前期総計



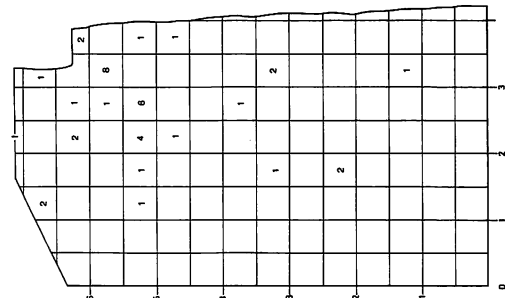
前期結束羽状縄文



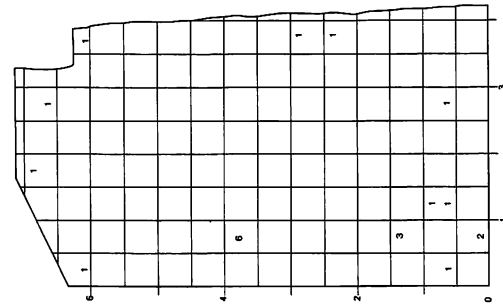
静内中野式①



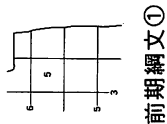
前期結束羽状縄文①



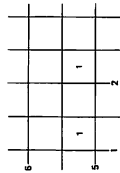
前期網文



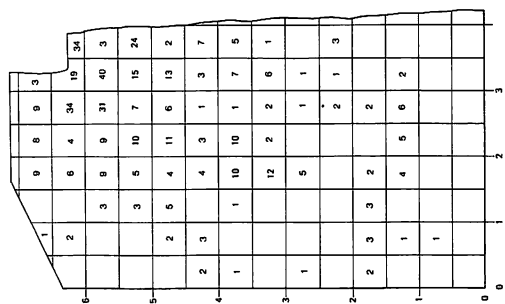
表裏縄文



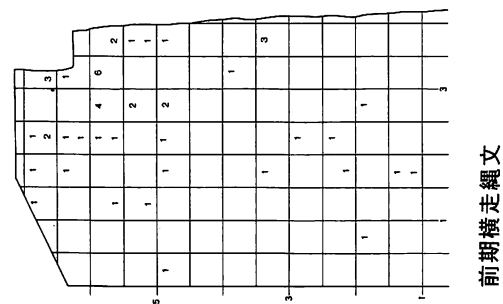
前期網文①



前期網文②



前期組紐回転文



前期横走縄文
(上段 R L・下段 L R)

図 V - 14 IIb 層の土器分布 (縄文時代前期)

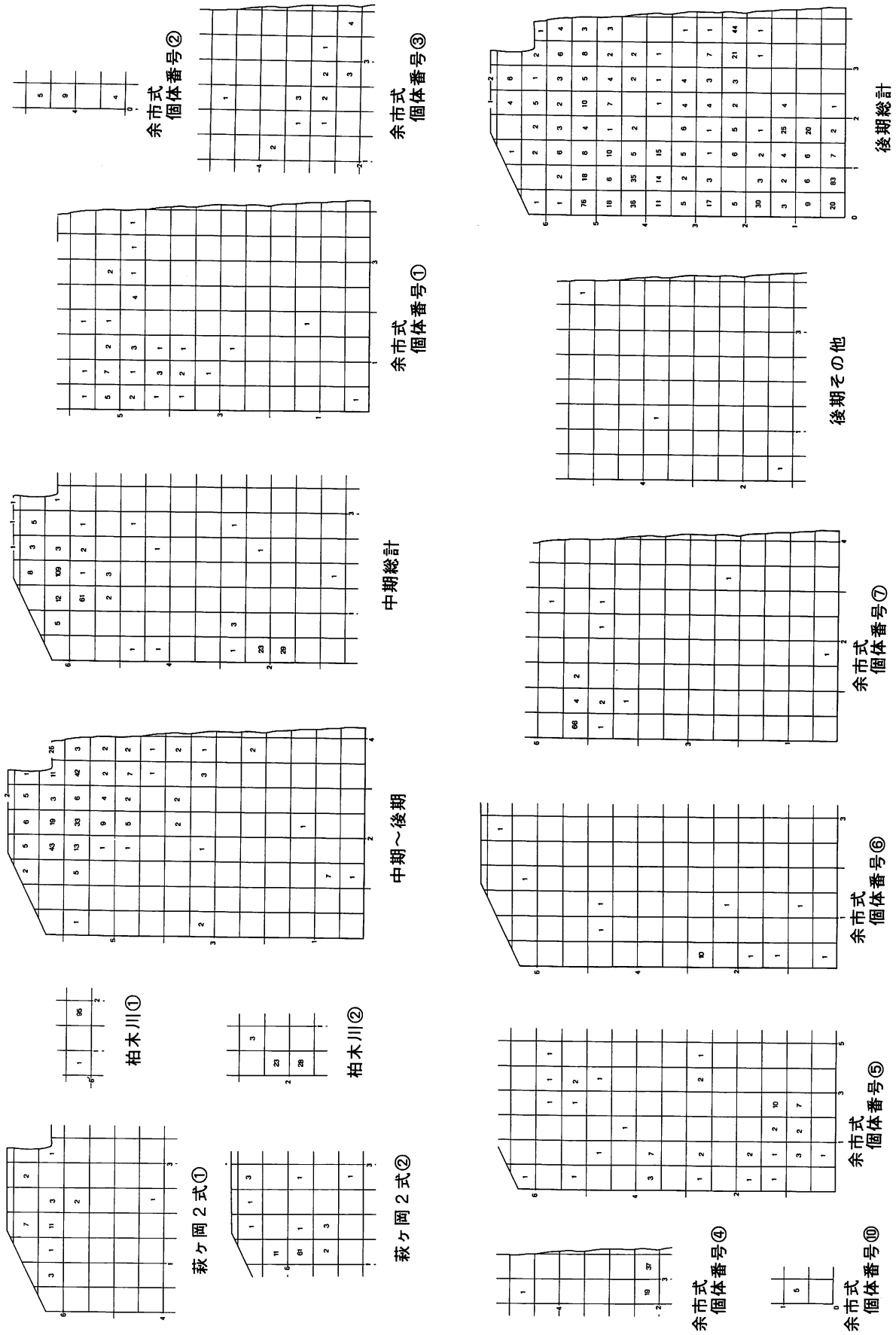
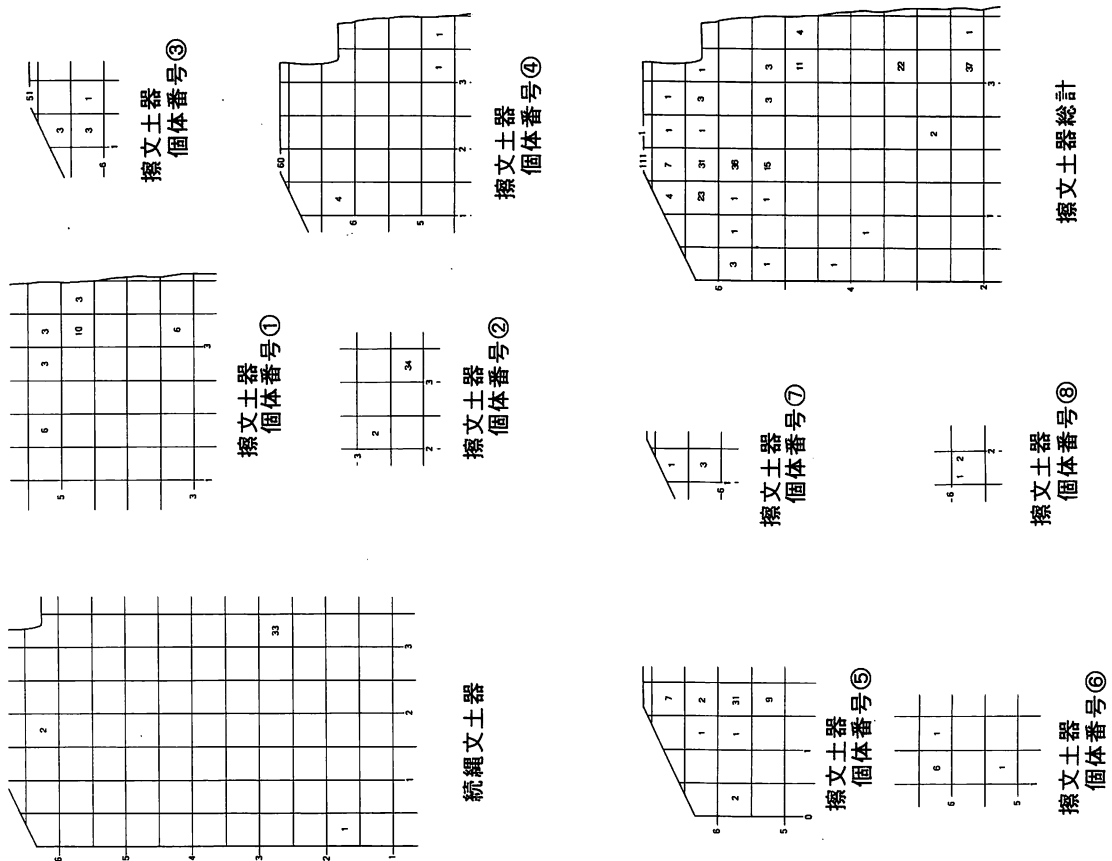


図 V-15 IIb 層の土器分布 (縄文時代中期・後期)

V 包含層出土の遺物



図V-16 IIa層の土器分布（続縄文時代・擦文時代）

包含層出土の土器の分布について（図V-11～16）

型式名に○を付けた番号の分布図は、個別別資料を集計したもので、表V-1中の備考欄の个体番号に対応する。

早期の土器は発掘区のほぼ全域から出土しており、中央部に集中が見られる。東釧路Ⅲ式は発掘区西側の中央部から南東部にかけて分布している。細分した形式ごとの偏在は認められない。コッタロ式は東釧路Ⅲ式に比べて、より南側に分布の中心を移しており、住居跡が集中する地域と重複する。コッタロイ類とロ類は住居跡が集中する地域に分布している。コッタロハ類とニ類は住居跡が集中する地域の北側を取り囲むように分布する。中茶路式はコッタロ式は東釧路Ⅲ式と対照的に、標高7.3m以下の低い南東斜面に分布する。

前期の土器は発掘区のほぼ全域から出土しているが、標高7.4mから7.7mの面に多く、北東隅に集中が見られる。組紐回転文土器は出土点数が多く、前期の土器分布の形を構成している。標高7.7m以下の北東隅の東斜面に集中する。網文土器は組紐回転文土器とほぼ同じ地域に分布するが、標高7.7m以下の北東隅の東に開いた浅い谷上地形の集中する。結束羽状縄文土器、斜行縄文土器、横走縄文土器は組紐回転文土器の分布とほぼ同じである。

中期の土器は発掘区の北側に集中し、標高7.8m付近に多く見られる。

後期の土器は発掘区の西側に集中し、標高7.9m付近の発掘区で一番高いところに多く見られる。擦文土器は発掘区の北側に集中し、杭跡の集中する地域と重複する。

表V-3 土器一覽

図番	出土位置	層位	部位	取上げ番号	備考
V-9-231	2・3-a	II a	口縁部	1221	大神部
	0・1-d	"	底部	448	
-232	1・6-a	II a	口縁部	996	北大III
-233	1・5-c	"	口縁部 ~頸部	1001	"
-234	1・6-a b	"	口縁部 ~胴部	995	撥文式・群群群⑥
-235	1・5-c	"	口縁部 ~胴部	319	撥文式・群群群⑤
-236	1・7-b	"	口縁部 ~胴部		撥文式・群群群④
-237	2・1	"	口縁部 ~頸部		撥文式・群群群②
-238	1・5-b	"	口縁部 ~胴部		撥文式・群群群①
-239	0・5-a	"	口縁部	108	撥文式
-240	0・3-b	"	口縁部	78	"
-241	3・6-a	"	底部	990	"
V-10-242	0・3-a	II b			
-243	0・3-c	"			
-244	2・2-d	"			
-245	2・1-c	"			
-246	0・6-b	"		316	
-247	0・3-a	"			
-248	2・3-c	"			
-249	2・2-a	"			
-250	3・3-c	"			
-251	1・2-c	"			
-252	0・3-b	"			
-253	2・5	"			

V 包含層出土の遺物

2 石器類

今回の調査で出土した石器類を下表に、出土分布を106頁の図に示した。総数28,198点のうち、包含層出土点数は12,657点で、内訳は剥片石器484点、剥片11,586点、礫石器121点、方割礫319点、礫147点である。剥片石器は竪穴住居跡の集中域周辺に弧状に多く分布し、礫石器は全体にまばらな印象である。また、方割礫は3・0区東側、3・4区東側など長都川に寄った低い部分に多くみられる。焼けた例は1割足らずで、接合例も少なく、ユカンボシE4遺跡や同E5遺跡のような際立った傾向は認められなかった。礫の分布にも大きな偏りはみられない。

以下、器種ごとに特徴的な点を記す。

石鏃 161点が出土し、素材は3点を除き全て黒曜石である。形態別には、柳葉形52点、菱形2点、無柄58点（凹基47、平基10、凸基1）、木葉形1点、有柄15点（凹基2、平基3、凸基10）、不明33点である。このうち何らかの形で火を受けているものは34点あるが、その内訳は、全体が焼けているもの10点（無柄凹基5、柳葉形5）、焼けてから折れているもの4点（柳葉形2、柳葉形？2）、折れてから焼けているもの16点（柳葉形9、柳葉形？3、形態不明4）、焼けた剥片を使用しているもの4点（無柄凹基2、柳葉形2）と、形態では無柄凹基と柳葉形に限られている。これらの分布をみると、0・3区15点、1・3区3点、2・2区6点と、先に記した竪穴集中区の外縁部に多く、H2・3にみられる焼けた石鏃や、H2～4・10及びFP10に集中してみられる焼けた剥片類とも密接な関連があるものと考えられる。

表V-4 石器等一覧

分類	H1	H 2	H 3	H 4	H5	H6	H7	H8	H 10	土 塚	T P	F P	F・C 軒	ピツ	包含層	小 計
石 鏃	2	4	4	1	3	1			2		1				161	179
石 槍		1							2						15	18
石 錐					1	3									22	26
楕形器	1										1				10	12
楔入器															3	3
搔 器		1										1			9	11
つみつき	2			2	2	1					1				39	47
削 器	3	3		4	3			1	5						37	56
R・F	3	4	4	6	1	1		1	7		2				144	173
U・F	2	3	3	4	1	4			6						24	47
石 核		1	2	1		1		1	4		1				18	29
石 刃															1	1
石製品															1	1
剥片石器小計	13	17	13	18	11	11	0	3	26	0	6	1	0	0	484	603
剥片類	56	2192	831	6683	72	44	1	15	358	23	88	604	1939		9592	22510
焼けた剥片類	5	79	610	275	9	11			926	7	181	333	27		1994	4445
石 斧	1			1		1	1	1			3		1		76	85
すり石				1					2						21	24
砥 石			1	1							1				3	6
石 冠															2	2
たたき石		1		1							1				10	13
石 皿															5	5
台 石											1				3	4
石製品								1							1	2
ピツ														16		16
礫石器小計	1	1	1	4	0	1	1	2	2	0	6	0	1	16	121	157
方割礫・礫片		2		6	3					1	2	1			319	334
礫					1			1							147	149
総 計	75	2291	1455	6986	96	67	2	21	1312	31	283	939	1967	16	12657	28198

特徴的なものとしては、図番39と64がある。39は基部を欠くが、柳葉形をなすと思われるもので、先端側の両側縁に小さな抉りをもつ。この抉りは、一方が背面からの剝離で、他方は腹面から細かな調整によって作出されている。64は横長の剝片を素材としたもので、一端がつまみ状に作出されている。もう一端は欠損しているが、その部分の調整から同様の形態に作出されていたものと思われる。なお、一側縁の調整が不完全であることから未製破損品の可能性が高い。図番3の側縁が内湾する形態は縄文時代後期に特徴的なもので、図番43・56・73の側縁が外湾して基部が大きく抉れる形態は縄文時代前期に特徴的なものである。

石槍 15点が出土し、図番86が頁岩のほかは全て黒曜石素材である。形態的には木葉形が多く、明瞭な逆刺をもつものは図番87の1点のみである。焼けているものは図番82の1点で、H2掘上土の若干上位から出土している。図番86は、両面からの深く丁寧な剝離で調整されているが、ねじれが顕著である。なお、背面の先端側に黒色有機物（図のスクリーン部分）が付着している。

石錐 22点が出土している。石材は黒曜石17点、頁岩とメノウ各2点、チャート1点で、形態は有柄13点、棒状9点である。図番90は未使用のもので、剝離が先端まできれいに残っている。図番98は、一側縁に抉入石器状の抉りがみられる。

楔形石器 10点全てが黒曜石素材である。断面形が凸レンズ状を呈するものは4点で、残りは楔形を呈す。図番112は磨耗した礫皮片をそのまま用いたもので、四辺ともにつぶれており、特に上辺の加撃痕と下辺の弾けが顕著である。図番113は、基部に顕著な加撃痕がみられ、先端から一側縁にかけては弾けて失われている。

抉入石器 3点がある。いずれも縦長剝片の側縁部に抉入部を設けたもので、頁岩の剝片を使用している図番115の使用痕は明瞭でないが、黒曜石素材の2点は抉入部がつぶれている。なお図番117は、腹面に主として斜め方向の顕著な擦痕と摩滅（図のスクリーン部分）がみられる。

搔器 9点が出土している。石材は頁岩とメノウが各1点で、ほかは黒曜石である。刃部形態は、斜角が4点、波形が2点、ラウンドスクレイパー3点である。図番118は、頁岩の石核を素材にした可能性がある。図番122と124は、黒曜石の礫皮片を素材としており、続縄文時代以降のものかと思われる。

つまみ付きナイフ 39点があり、石材は頁岩23点、黒曜石14点、メノウとメノウ質珪質頁岩が各1点である。形態は大半が縦長で、つまみ部と刃部が斜めになる例が4例ある。横長剝片を素材とした例は図番131・134・140・149の4点のみである。図番126は、先端が石錐状に尖っており、その部分が磨耗している。図番131は未製破損品と思われるもので、折れた後の中央部片に抉入石器状の抉りを設けている。図番128・140・142・146・149・154と遺物No2084は、素材が薄手で剝離も不十分なもので、殊に140・149は横長剝片の側縁につまみ部を設けており、実用品とは考えられず習作の可能性が高い。

削器 37点が出土している。石材は黒曜石22点、頁岩13点、チャートとメノウ各1点である。定型的な削器としては、図番160・171・173の爪形を呈するものがあり、このほか木葉形・縦長・縦長で先端が切出状になるものなどがある。なお、横長の例は遺物No1321の1点のみである。

R・F 144点が出土している。出土分布は、0・3区、1・3区、2・2区の竪穴周辺部分に多く、何らかの形で火を受けているものは全部で27点あるが、そのうち12点がこの範囲からの出土である。また、未製品や破損品の比率も高く、石鏃同様に竪穴との関連性が極めて強い遺物である。

U・F 24点が出土している。R・F同様に竪穴周辺部分からの出土が目立つが、焼けている例は少ない。

V 包含層出土の遺物

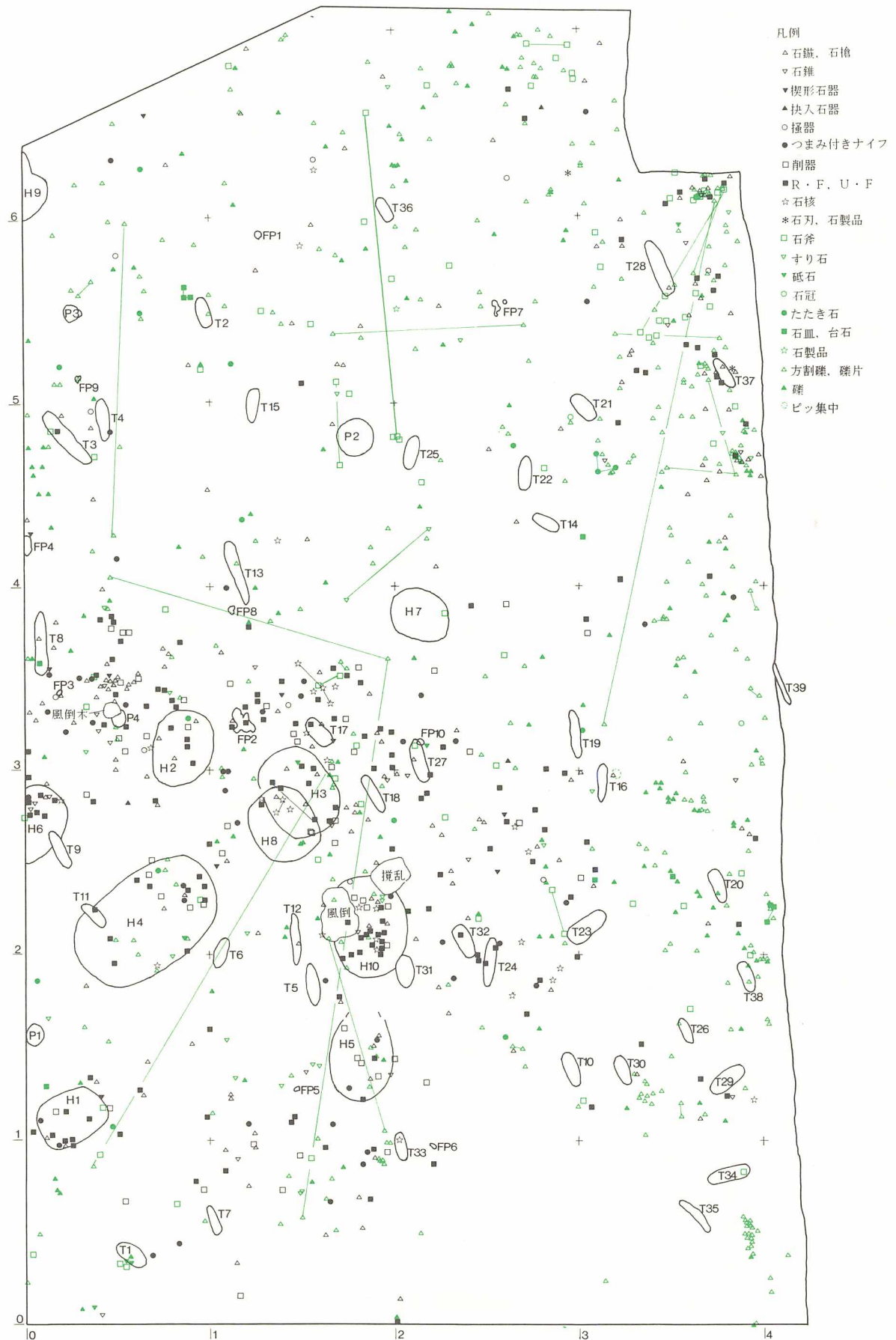


図 V-17 石器類の分布

表V-5 石鏃一覧(1)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・1-33	26.4	11.2	2.4	0.8	黒曜石		657	柳葉形	先端・基部・一側縁欠損
2	38	23.0	8.5	3.3	0.6	黒曜石	1	318	柳葉形	両面に主剥離面
3	62	29.0	13.9	4.0	1.4	黒曜石	2	49	無柄凹基	一端わずかに欠、先端から一側縁部器状剥離、焼け
4	64	27.5	17.7	3.8	0.9	黒曜石	3	50	有柄平基	側縁内湾、透明度大
5	95	17.4	13.4	3.6	0.7	黒曜石	4	77	無柄凹基	側縁外湾、焼け
6	0・2-19	34.7	9.7	2.8	0.9	頁岩	5	2443	柳葉形	両面に主剥離面、一側縁わずかに欠損
7	59	25.1	13.2	4.4	0.9	黒曜石	6	2403	有柄平基	先端わずかに欠損、背面基部に原石面
8	72	15.3	9.9	2.2	0.4	黒曜石		3717	—	柳葉形の基部片か、焼けてから折れ
9	78	27.2	12.4	3.9	0.9	黒曜石	7	2356	有柄凸基	
10	0・3-02	28.0	13.0	4.3	1.5	黒曜石	8	19	木葉形	背面に曇り、白い緒
11	03	26.4	11.7	3.1	1.1	黒曜石		249	柳葉形	先端欠損、透明な緒
12	03	13.7	10.5	7.4	0.4	黒曜石		301	—	柳葉形の基部片か、カキモチ状に焼け
13	07	25.5	9.7	2.5	0.8	黒曜石		3008	柳葉形	先端欠損、透明な緒
14	14	30.5	13.9	2.2	1.0	黒曜石	9	303	柳葉形	先端欠損、透明度大、焼け
15	16	17.5	14.0	2.1	0.7	黒曜石	10	1929	無柄凹基	先端・一端わずかに欠損
16	18	22.9	10.5	2.5	0.6	黒曜石		3350	柳葉形	先端・基部欠損、焼け、流紋岩球類多い
17	22	24.4	8.9	3.1	0.6	黒曜石	11	25	柳葉形	焼け、先端再生か
18	35	23.6	13.0	3.1	1.2	黒曜石		17	柳葉形	腹面に主剥離面、先端・基部欠損
19	40	45.5	11.1	4.1	1.8	黒曜石	12	21	柳葉形	若干ねじれ、透明な緒
20	40	11.4	11.1	3.0	0.3	黒曜石		22	—	折れてから良く焼け
21	43	27.4	10.9	3.1	0.8	黒曜石	13	1625	柳葉形	先端欠損、透明な緒
22	44	11.9	7.7	2.2	0.2	黒曜石		1712	—	先端部片、折れてから焼け
23	44	29.0	11.6	4.6	1.4	黒曜石		1713	柳葉形	先端欠損、折れてから良く焼け、流紋岩球類多い
24	44	21.7	10.9	2.6	0.6	黒曜石		1714	柳葉形	先端過半欠損、折れてから極度に焼け、流紋岩球類
25	44	9.0	7.1	1.5	0.1	黒曜石		3589	—	先端部片、折れてから焼け
26	44	22.5	10.3	3.2	0.7	黒曜石		3590	—	柳葉形の中央部片か、流紋岩球類
27	45	33.2	14.0	4.6	2.0	黒曜石	14	243	柳葉形	先端わずかに欠損、凸状部あり、流紋岩球類多い
28	45	15.4	11.0	2.1	0.4	黒曜石		253	—	柳葉形の基部片か、折れてから良く焼け、流紋岩
29	49	25.7	10.3	4.5	1.1	黒曜石		248	柳葉形	先端欠損、折れてから極度に焼け
30	54	15.1	10.2	1.7	0.2	黒曜石		2102	—	先端部片、透明な緒、流紋岩球類
31	63	32.8	11.2	3.6	1.3	黒曜石	15	1622	柳葉形	両面主剥離面、先端つぶれ、反り、焼けた剥片使用
32	65	29.7	11.0	4.0	1.1	黒曜石	16	28	柳葉形	背面に曇り
33	71	26.5	9.6	2.7	0.6	黒曜石		98	柳葉形	先端欠損、焼けてから折れ
34	75	24.5	12.4	2.2	0.6	黒曜石	17	30	柳葉形	先端欠損、腹面に主剥離面、折れてから焼け
35	76	31.2	11.7	2.4	0.8	黒曜石	18	31	柳葉形	透明度大
36	76	26.8	16.1	2.9	1.0	黒曜石		252	—	基部片、透明な緒
37	80	26.6	13.4	3.8	1.2	黒曜石	19	79	無柄凹基	側縁外湾、一端わずかに欠損、流紋岩球類多い
38	a	13.5	8.8	2.1	0.3	黒曜石		3581	柳葉形	基部片
39	a	31.9	12.4	3.8	1.5	黒曜石		3582	柳葉形	先端・基部欠損、透明な緒
40	a	14.4	11.8	2.8	0.4	黒曜石		3587	—	柳葉形の基部片か、焼けてから折れ、流紋岩球類
41	a	7.5	6.0	1.4	0.1	黒曜石		3588	—	先端部片
42	0・4-03	47.2	16.6	7.7	4.6	黒曜石	20	9	有柄凸基	腹面に主剥離面、反り、一側縁つぶれ
43	19	32.5	12.8	5.0	1.6	黒曜石		4	柳葉形	先端わずかに欠損、両面に主剥離面、反り、ねじれ
44	34	20.5	16.7	3.1	0.6	黒曜石	21	10	無柄凹基	背面に主剥離面、良く焼け
45	38	18.2	8.0	2.5	0.4	黒曜石	22	44	無柄凹基	一側縁に主剥離面、側縁外湾、透明度大
46	95	26.3	8.8	3.3	0.7	黒曜石	23	24	有柄凸基	
47	b	10.5	10.6	2.0	0.2	黒曜石		3569	—	柳葉形の中央部片か、透明な緒
48	0・5-82	32.4	20.6	5.1	2.6	黒曜石		142	有柄凸基	先端欠損
49	0・6-72	29.9	12.7	4.4	1.5	黒曜石	24	45	有柄平基	腹面に主剥離面
50	1・0-09	14.6	14.7	2.9	0.6	頁岩		2076	無柄平基	先端欠損、基部わずかに欠損
51	13	23.0	8.6	2.2	0.5	黒曜石		907	柳葉形	先端・基部欠損
52	27	14.6	15.3	2.6	0.4	黒曜石		1874	—	先端・基部欠損、腹面に主剥離面
53	29	27.6	16.7	3.8	1.3	黒曜石	25	1937	無柄凹基	
54	64	29.0	13.5	4.1	1.4	黒曜石	26	670	—	先端・基部欠損、腹面に主剥離面
55	86	28.8	12.5	3.8	1.2	黒曜石		1934	柳葉形	先端欠損

V 包含層出土の遺物

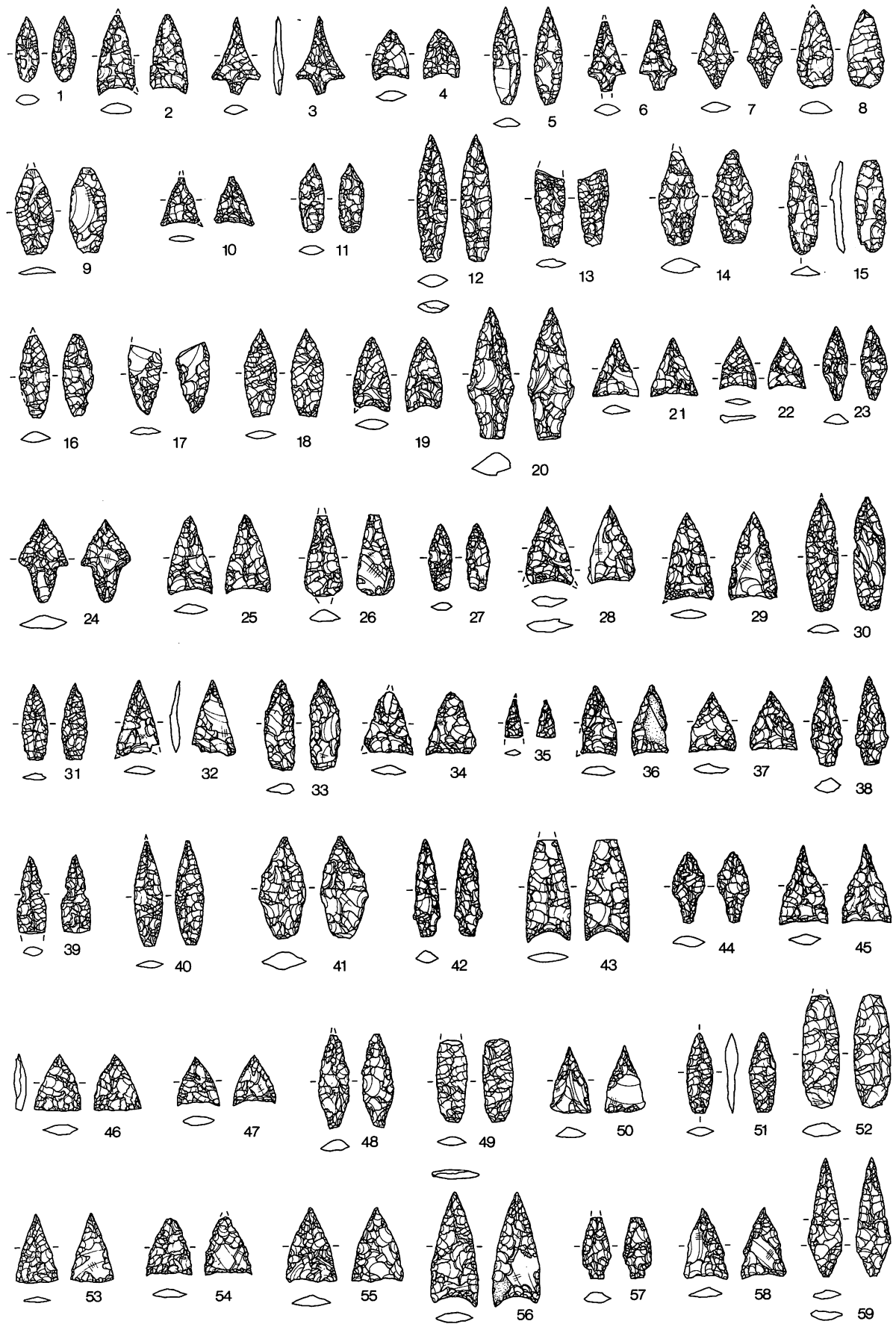
表V-6 石鏃一覧(2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
56	1・0-89	23.8	8.2	2.8	0.5	黒曜石	27	1935	柳葉形	両面に主剥離面、焼けた剥片使用、透明縞、おじれ
57	1・1-12	19.8	10.6	2.4	0.6	黒曜石		2082	柳葉形	先端欠損、腹面に主剥離面、流紋岩球顆、焼け
58	12	17.0	12.3	1.8	0.4	黒曜石		2083	—	先端部片、透明度大、曇り
59	20	29.1	17.0	4.3	1.4	黒曜石	28	1200	無柄凹基	両面に主剥離面、一端わずかに欠損、凸状部、曇り
60	77	31.9	17.7	3.2	1.5	黒曜石	29	1781	無柄凹基	両面に主剥離面、透明度大
61	b	16.6	8.1	2.5	0.5	黒曜石		3747	—	先端部片
62	1・2-05	40.6	11.3	3.1	1.5	黒曜石	30	2489	柳葉形	腹面に主剥離面、先端・側縁わずかに欠損、曇り
63	40	28.2	9.2	2.6	0.5	黒曜石	31	1643	柳葉形	
64	62	27.6	15.3	3.1	0.9	黒曜石	32	1961	無柄凹基	両面に主剥離面、一端欠、一端わずかに欠損、反り
65	76	24.1	16.1	4.9	1.4	黒曜石		2520	—	基部欠損
66	77	21.7	13.4	3.5	0.8	黒曜石		2518	有柄凸基	先端欠損
67	85	32.2	10.8	3.1	1.2	黒曜石	33	3070	柳葉形	腹面に主剥離面
68	87	24.3	10.4	3.1	0.7	黒曜石		3549	柳葉形	基部欠損、透明な縞、流紋岩球顆
69	99	14.0	8.8	2.3	0.2	黒曜石		3550	—	先端部片
70	b	8.8	8.1	2.4	0.2	黒曜石		3709	—	基部片、透明な縞
71	c	19.6	8.6	1.8	0.3	黒曜石		4221	柳葉形	中央部片、透明縞
72	c	16.7	10.6	2.8	0.5	黒曜石		4214	柳葉形	基部片、流紋岩球顆
73	1・3-06	24.0	17.7	3.2	1.0	黒曜石	34	3001	無柄凹基	先端・一端欠損
74	12	13.5	6.9	1.9	0.2	黒曜石	35	2454	—	先端部片、折れてから焼け
75	36	26.1	13.0	3.5	1.0	黒曜石	36	3077	無柄凹基	腹面主剥離面、一端～側縁欠損、焼けた剥片使用
76	55	16.0	8.2	2.1	0.2	黒曜石		3013	—	先端部片、透明度大
77	62	21.1	16.8	3.7	1.0	黒曜石	37	3908	無柄凹基	側縁外湾
78	84	30.0	11.3	3.3	1.2	黒曜石		3087	柳葉形	先端欠損、折れてから焼け
79	91	32.1	11.4	5.0	1.5	黒曜石	38	3654	有柄凸基	
80	92	27.6	10.6	3.3	1.0	黒曜石	39	3655	柳葉形	両側縁に抉り、基部欠損
81	1・4-52	15.2	10.8	2.4	0.3	黒曜石		3007	無柄平基	腹面に主剥離面、先端過半欠損
82	68	20.4	18.2	2.9	0.8	黒曜石		3084	無柄凹基	両面に主剥離面、先端欠損
83	1・5-44	25.3	18.8	5.3	1.6	黒曜石		2528	有柄凸基	未製品、基部欠損、背面に原石面、腹面に主剥離面
84	59	37.4	10.6	2.7	1.0	黒曜石	40	4322	柳葉形	先端わずかに欠損
85	62	36.5	17.0	6.6	3.2	黒曜石	41	3904	菱形	流紋岩球顆多い
86	72	34.5	9.4	4.2	1.2	黒曜石	42	3905	有柄凸基	
87	84	37.1	16.7	3.6	2.2	黒曜石	43	3906	無柄凹基	先端欠損、透明度大
88	1・6-15	11.8	9.4	1.6	0.2	黒曜石		903	—	端部片、透明度大
89	29	25.1	11.5	3.8	0.9	黒曜石	44	902	有柄凸基	
90	73	28.0	17.7	3.8	1.3	黒曜石	45	3702	無柄凹基	側縁先端側内湾
91	97	21.2	17.0	3.8	1.1	黒曜石	46	901	無柄平基	側縁外湾
92	2・0-01	26.0	12.5	3.7	1.2	黒曜石		1030	柳葉形	先端欠損、流紋岩球顆
93	2・1-26	17.5	15.3	3.6	0.7	黒曜石	47	2560	無柄凹基	腹面に主剥離面
94	64	34.0	11.2	3.7	1.5	黒曜石	48	2	柳葉形	先端わずかに欠損
95	88	29.6	11.3	3.5	1.3	黒曜石	49	4227	柳葉形	焼けてから折れ
96	2・1-c	19.8	7.7	2.4	0.3	黒曜石		4376	無柄平基	先端欠損の柳葉形鏃を逆にして欠損部再調整か
97	2・2-09	24.7	14.5	3.3	0.8	黒曜石	50	3647	無柄平基	両面に主剥離面、作り粗雑
98	10	28.6	9.7	4.1	1.0	黒曜石	51	2551	柳葉形	焼け、流紋岩球顆多い
99	26	27.0	12.9	4.4	1.4	黒曜石		1318	—	柳葉形の基部片か、折れてから焼け
100	27	23.5	13.9	2.8	1.1	黒曜石		1317	柳葉形	先端過半欠損
101	32	26.7	11.1	4.0	1.2	黒曜石		3681	柳葉形	先端欠損、折れてから焼け
102	33	40.6	14.0	5.5	3.1	黒曜石	52	2553	柳葉形	先端欠損、折れてから焼け
103	34	24.5	10.6	2.7	0.6	黒曜石		2552	—	柳葉形の先端部片か、白い縞
104	47	18.4	9.1	2.4	0.4	黒曜石		1319	柳葉形	先端過半欠損、折れてから焼け
105	85	20.8	14.0	3.0	0.8	黒曜石		3917	柳葉形	先端過半欠損、白い縞
106	99	10.6	9.3	1.5	0.1	黒曜石		38	—	柳葉形の基部片か、透明度大
107	a	11.7	11.5	2.4	0.3	黒曜石		3714	柳葉形	基部片、折れてから焼け
108	c	24.9	16.6	3.5	1.2	黒曜石		3902	—	先端部片
109	2・3-32	24.6	15.0	2.3	0.7	黒曜石	53	3098	無柄平基	腹面に主剥離面、背面に原石面、透明度大
110	2・4-21	21.5	16.3	3.0	0.8	黒曜石	54	2438	無柄凹基	腹面に主剥離面、側縁外湾、先端わずかに欠損

表V-7 石鏃一覧(3)

No.	グッド	長さ(m)	巾(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
111	2・4-57	26.4	18.4	4.3	1.6	黒曜石	55	2535	無柄凹基	背面に主剥離面、側縁外湾
112	63	41.7	17.4	3.2	2.3	黒曜石	56	39	無柄凹基	腹面に主剥離面・原石面、ねじれ、側縁外湾
113	88	19.0	18.6	3.9	1.0	黒曜石		3086	無柄凹基	先端欠損、両面に主剥離面、透明度大
114	2・5-25	22.4	10.6	4.3	0.9	黒曜石	57	36	有柄凸基	先端欠損、流紋岩球顆
115	2・6-54	25.3	16.2	3.0	1.0	黒曜石	58	2605	無柄凹基	両面に主剥離面、透明な縞、流紋岩球顆
116	3・1-33	42.9	12.7	3.4	1.4	黒曜石	59	3677	柳葉形	凸状部
117	61	46.3	11.9	2.9	1.7	黒曜石	60	3676	柳葉形	透明度大
118	d	15.3	14.5	1.6	0.3	黒曜石		2568	無柄凸基	先端欠損、両面に主剥離面、透明度大
119	3・2-71	34.5	10.3	3.2	0.9	黒曜石	61	3566	柳葉形	透明な縞
120	96	20.9	12.2	3.0	0.5	黒曜石		3705	有柄凹基	先端・一端わずかに欠損、透明な縞
121	3・3-50	24.3	16.3	2.1	0.7	黒曜石	62	3078	無柄平基	腹面に主剥離面、先端・一側縁わずかに欠損、透明な縞
122	3・4-55	32.4	13.1	3.6	1.2	頁岩	63	2495	菱形	腹面に主剥離面
123	65	34.8	18.8	3.0	1.8	黒曜石	64	2494	無柄凹基	異形、両面に主剥離面、一端欠損
124	66	17.0	15.0	3.2	0.7	黒曜石		2493	無柄凹基	先端・一側縁欠損、透明度大
125	69	26.5	16.5	3.2	0.8	黒曜石	65	2492	無柄凹基	反り、透明な縞
126	72	30.3	18.2	4.9	2.7	黒曜石	66	3703	無柄凹基	肉厚、両面に主剥離面、側縁先端内湾
127	76	17.3	16.8	1.9	0.5	黒曜石	67	4331	無柄凹基	両面に主剥離面、側縁外湾、焼けた剥片使用
128	86	26.7	14.7	2.8	0.9	黒曜石	68	4332	無柄平基	側縁外湾
129	86	15.8	17.1	3.2	0.6	黒曜石	69	4334	無柄凹基	肉厚、両面に主剥離面側縁外湾
130	89	19.5	13.5	4.0	0.9	黒曜石	70	4329	無柄平基	未製品もしくは習作、凸状部、腹面に主剥離面
131	96	17.5	8.8	3.4	0.3	黒曜石		4336	—	先端部片、ねじれ
132	97	19.0	18.9	3.2	0.8	黒曜石		4337	無柄凹基	基部片、透明な縞
133	97	17.4	14.4	4.0	0.7	黒曜石	71	4338	無柄凹基	側縁先端内湾、焼け、流紋岩球顆多い
134	—	34.8	12.0	3.0	1.1	黒曜石		4368	柳葉形	腹面に主剥離面、白い縞
135	3・5-08	16.3	16.6	2.4	0.5	黒曜石		3911	無柄凹基	未製破損品、両面に主剥離面、先端・一側縁欠損
136	21	22.5	16.3	3.2	0.7	黒曜石	72	2577	無柄凹基	一端・一側縁わずかに欠損、透明度大
137	22	41.8	16.5	4.1	2.3	黒曜石	73	2569	無柄凹基	先端わずかに欠損、側縁外湾
138	22	21.0	14.8	3.6	0.9	黒曜石	74	2570	無柄平基	腹面に主剥離面
139	28	20.4	14.6	3.5	0.8	黒曜石	75	4266	無柄平基	先端わずかに欠損、両面に主剥離面、透明度大
140	29	21.1	17.4	3.8	1.0	黒曜石	76	3912	無柄凹基	肉厚、腹面に主剥離面、透明度大
141	46	20.6	17.5	3.8	0.9	黒曜石	77	3913	無柄凹基	先端・一端わずかに欠損、反り、焼け
142	54	23.4	14.0	3.1	0.9	黒曜石		3555	—	基部欠損、腹面に主剥離面
143	61	18.5	13.8	3.8	0.7	黒曜石	78	2529	無柄凹基	凸状部、透明な縞
144	65	20.5	17.0	3.5	1.0	黒曜石	79	2536	無柄凹基	習作か、腹面に主剥離面、反り、ねじれ
145	66	20.4	14.0	2.6	0.7	黒曜石	80	2537	無柄凹基	習作か、両面に主剥離面、反り、ねじれ、透明な縞
146	71	18.2	8.5	2.3	0.4	黒曜石		4340	柳葉形	先端欠損、腹面に主剥離面、透明な縞
147	71	28.4	18.0	4.5	1.7	黒曜石		4345	無柄凹基	凸状部、先端・一端欠損、透明度大
148	81	31.5	14.2	2.7	0.9	黒曜石		4343	無柄凹基	凸状部、一端欠損、透明な縞
149	84	21.0	14.6	2.0	0.5	黒曜石		4327	無柄凹基	一端欠損、先端わずかに欠損、両面に主剥離面、曇
150	b	10.5	12.0	4.9	0.5	黒曜石		4361	—	基部片、流紋岩球顆
151	b	9.4	8.6	2.2	0.1	黒曜石		4360	—	基部片
152	3・6-07	23.5	15.4	2.3	0.7	黒曜石		3687	無柄凹基	両側縁欠損、腹面に主剥離面、透明な縞
153	19	20.6	12.4	2.7	0.6	黒曜石		3688	—	両端欠損、腹面に主剥離面、ねじれ、透明度大
154	51	12.7	15.2	2.7	0.4	黒曜石		2547	無柄凹基	基部片
155	61	18.0	18.0	6.0	2.0	黒曜石		2534	無柄凹基	肉厚、凸状部、先端欠損、摩耗、ねじれ
156	61	18.0	11.8	2.6	0.5	黒曜石	81	2540	無柄凹基	両面に主剥離面、側縁先端内湾、透明度大
157	61	24.8	17.1	3.5	1.0	花十勝		2542	—	基部片、腹面に主剥離面
158	61	14.2	10.9	4.2	0.6	黒曜石		2545	有柄凸基	基部片
159	82	15.2	10.0	2.8	0.3	花十勝		4324	—	先端部片
160	表採	17.4	13.1	2.7	0.4	黒曜石		3598	無柄凹基	一端わずかに欠損、透明な縞
161		29.6	10.2	2.9	0.9	黒曜石		3599	柳葉形	先端欠損、透明な縞、ねじれ

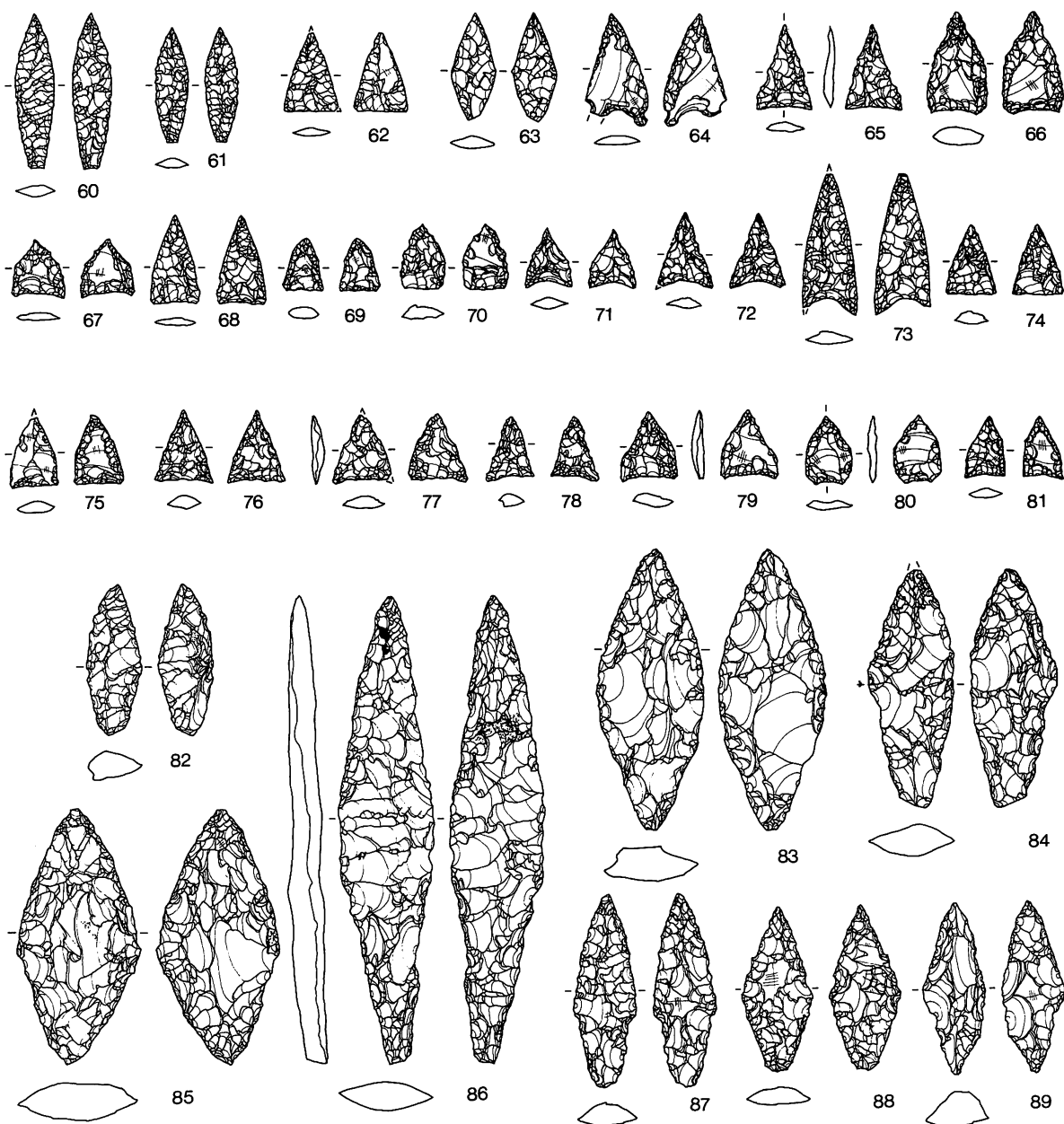
V 包含層出土の遺物



図V-18 包含層出土の石器(1)

表V-8 石槍一覧

No.	グッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・3-44	44.2	16.4	8.0	4.9	黒曜石	82	1928	木葉形	凸状部、焼け
2	1・0-85	22.1	18.8	4.3	1.5	黒曜石		1932	—	先端部片
3	1・2-21	83.9	32.1	9.3	25.1	黒曜石	83	2701	木葉形	凸状部、摩耗
4	78	71.2	25.4	9.0	15.1	黒曜石	84	2516	木葉形	摩耗顕著な石槍を再生か
5	78	76.8	36.8	10.8	29.3	黒曜石	85	2517	木葉形	腹面に主剥離面、摩耗、リモナイト付着
6	1・3-51	140.5	27.5	8.0	34.0	頁岩	86	2505	柳葉形	ねじれ、リモナイト付着、背面先端黒色有機物付着
7	1・5-27	57.6	18.8	6.0	5.8	黒曜石	87	3697	有柄凸基	腹面に主剥離面
8	2・1-28	31.2	23.6	6.4	4.3	黒曜石		2561	—	基部片、基端に原石面
9	2・2-47	39.2	18.3	6.6	4.7	黒曜石		1320	木葉形	凸状部、先端大損
10	75	21.2	18.9	3.8	1.7	黒曜石		3916	—	基部片、流紋岩部分で折れ、流紋岩球顆多い
11	3・2-03	49.5	21.4	5.0	4.7	黒曜石	88	3567	菱形	両面に主剥離面、流紋岩球顆の縞
12	09	32.0	19.6	7.2	5.6	黒曜石		3684	木葉形	先端大、両面主剥離・基端に原石面、両側縁つぶれ
13	19	51.5	19.0	9.6	7.2	黒曜石	89	3080	柳葉形	腹面に主剥離面、流紋岩球顆多い
14	86	46.8	22.4	7.1	5.4	黒曜石		3704	木葉形	未製破損品、基部から一側縁大損
15	表採	43.3	19.0	6.7	4.9	黒曜石		3597	木葉形	先端部軽く焼け、ねじれ



図V-19 包含層出土の石器(2)

V 包含層出土の遺物

表V-9 石錐一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	0・0-40	47.0	43.0	4.1	5.6	黒曜石	90	12	有柄	未使用
2	0・3-33	50.2	19.6	8.0	7.1	黒曜石	91	1626	有柄	
3	41	25.5	7.5	2.5	1.6	黒曜石	92	23	棒状	刃部つぶれ
4	42	29.6	9.7	3.5	1.1	黒曜石	93	239	棒状	刃部つぶれ
5	44	29.6	7.1	5.4	1.9	黒曜石	94	2080	棒状	刃部つぶれ、折れてから焼け、折れた石錐の転用か
6	d	29.6	21.6	7.1	3.1	頁 岩	95	4372	有柄	刃部つぶれ顯著
7	1・0-19	18.7	13.5	4.9	0.8	黒曜石	96	1873	有柄	背面に原石面
8	1・1-53	31.2	19.3	6.8	3.3	黒曜石	97	2306	有柄	刃部つぶれ、先端大損
9	1・2-67	53.5	29.9	6.8	8.3	黒曜石	98	2522	有柄	刃部つぶれ、先端大損、柄部一側縁抉入石器状剥離
10	81	38.1	16.7	7.2	4.6	黒曜石		1642	棒状	刃部つぶれ、先端大損
11	99	43.1	15.3	6.8	3.9	黒曜石	99	3648	棒状	先端大損
12	1・3-25	32.3	11.1	4.8	1.5	黒曜石	100	3004	棒状	刃部つぶれ、反り
13	2・2-09	32.8	22.1	4.8	3.1	頁 岩	101	1315	有柄	刃部つぶれ顯著
14	45	27.2	11.6	4.0	1.6	黒曜石	102	147	棒状	刃部つぶれ顯著
15	3・1-82	32.4	19.4	7.6	4.4	黒曜石	103	2566	有柄	刃部つぶれ、先端大損
16	3・2-89	50.2	22.5	7.3	7.4	花十勝	104	3707	有柄	刃部つぶれ、リモナイト付着
17	3・4-16	30.2	31.4	9.4	7.1	黒曜石	105	2482	有柄	刃部つぶれ、先端大損
18	87	35.3	25.3	10.3	9.8	チャート	106	4335	有柄	
19	d	21.9	9.6	5.8	1.2	黒曜石		4355	棒状	全体に摩耗
20	3・5-44	46.6	33.1	11.2	16.2	メノウ	107	3660	有柄	刃部つぶれ、先端大損
21	58	49.7	18.2	7.3	6.6	メノウ	108	2533	有柄	刃部つぶれ、先端大損、焼け
22	3・6-61	33.7	8.5	3.9	1.1	黒曜石	109	2544	棒状	刃部つぶれ、反り

表V-10 楔形石器一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	0・3-15	34.0	45.0	12.3	18.2	黒曜石	110	6	楔形	両端つぶれ、摩耗、背面一側縁先端側に原石面
2	45	25.2	31.8	7.6	5.4	黒曜石	111	242	凸状	基部一辺つぶれ、先端大損
3	0・4-02	26.6	40.2	17.8	17.7	黒曜石	112	250	楔形	四辺つぶれ、摩耗した礫皮片使用
4	b	24.8	38.2	11.2	8.7	黒曜石		3568	楔形	三辺つぶれ、一辺大損、若干摩耗
5	0・6-65	44.1	26.8	13.7	16.7	黒曜石		47	楔形	三辺つぶれ、一辺大損
6	1・2-04	31.8	29.4	8.3	4.9	黒曜石	113	1644	楔形	基部から一側縁部片、基部つぶれ
7	b	27.7	41.2	14.0	11.8	黒曜石		4201	凸状	基部片、曇り顯著
8	1・3-34	25.6	29.8	7.7	4.4	黒曜石	114	2459	凸状	両端つぶれ
9	2・2-54	31.7	43.3	12.6	18.6	黒曜石		3670	凸状	基部つぶれ、先端大損
10	57	34.3	16.2	8.2	4.9	黒曜石		144	楔形	基部片、基部・両側縁つぶれ

表V-11 抉入石器一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	抉入部数	備 考
1	0・2-58	48.0	22.5	10.9	12.5	頁 岩	115	2401	1	
2	2・3-60	32.2	15.7	4.4	1.9	黒曜石	116	2550	2	抉入部摩耗
3	2・6-85	33.3	24.7	9.6	6.4	黒曜石	117	328	1	礫皮片使用、腹面擦痕顯著

表V-12 搔器一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	0・4-39	62.6	54.3	12.2	50.8	頁 岩	118	5	波形刃	全周に粗い加工、腹面一側縁は比較的細かい剥離
2	0・5-48	49.2	34.2	11.0	14.8	黒曜石	119	1507	斜角刃	両側縁背面加工
3	1・0-a	27.3	26.3	5.5	4.6	黒曜石		3578	波形刃	全周に粗い加工、基部に原石面、摩耗
4	1・2-74	34.7	34.0	7.0	7.4	黒曜石	120	1963	ラウンド	腹面に曇り、若干摩耗
5	1・3-43	52.4	40.9	12.6	27.2	黒曜石	121	2461	斜角刃	摩耗
6	1・6-53	37.4	29.4	14.0	18.1	黒曜石	122	1	ラウンド	礫皮片使用
7	2・2-84	43.0	53.3	22.2	39.4	黒曜石	123	3667	斜角刃	全周に粗い背面加工
8	2・6-62	31.6	24.8	9.4	8.5	黒曜石	124	4328	ラウンド	礫皮片使用
9	3・5-77	59.5	33.0	21.0	33.6	メノウ	125	3650	斜角刃	一側縁背面加工、先端つぶれ

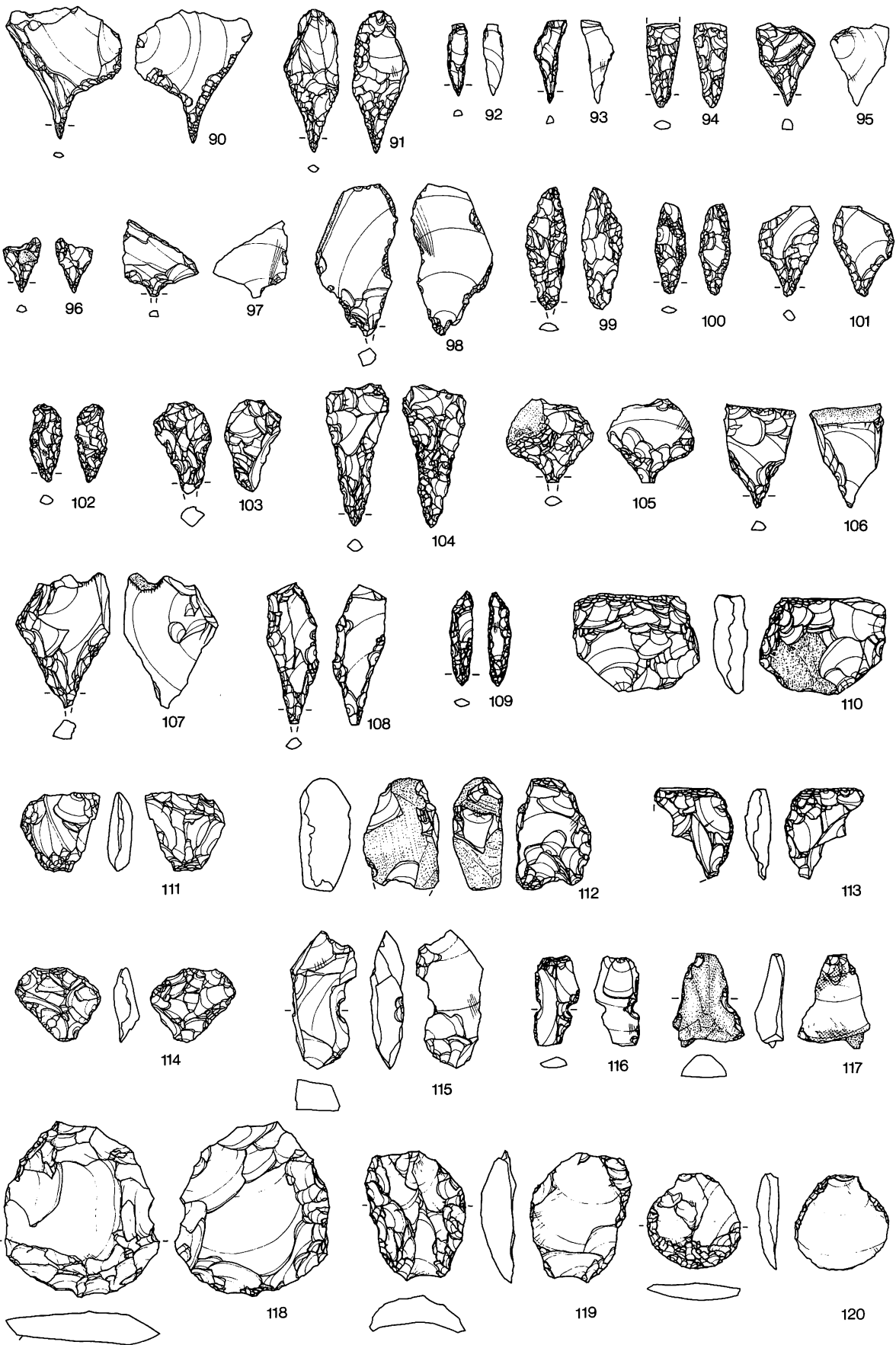
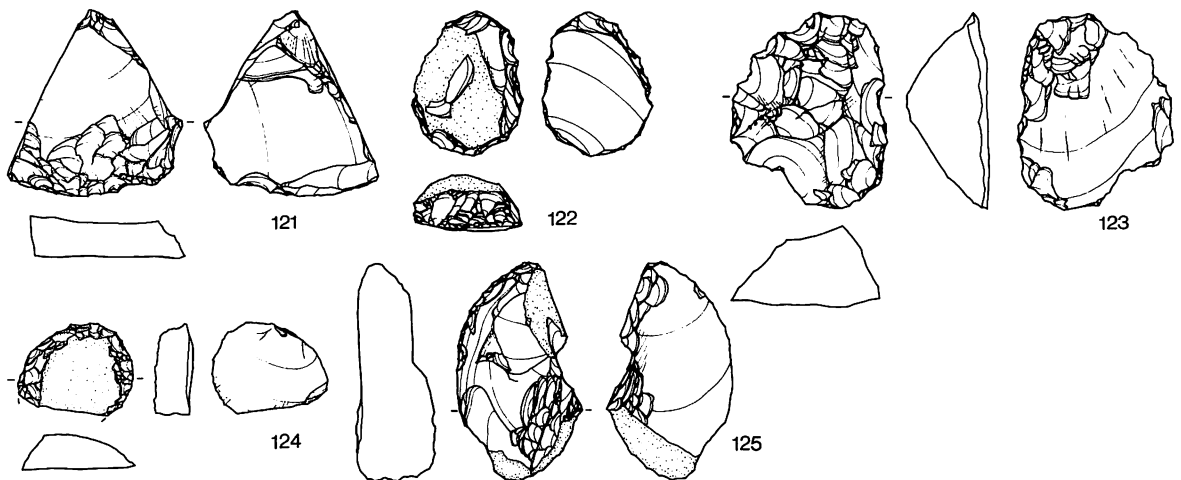


図 V - 20 包含層出土の石器(3)

V 包含層出土の遺物

表V-13 つまみ付きナイフ一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・0-63	111.2	20.5	6.0	13.6	頁岩	126	14	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端切り出し状
2	84	38.6	15.6	5.0	3.2	頁岩	127	289	縦長	両側縁両面・一側縁基部側面加工、先端つぶれ顕著
3	0・3-13	22.3	10.4	3.0	0.7	黒曜石	128	302	斜め	両側縁背面加工、先端欠損、習作か
4	15	41.1	17.0	4.7	4.1	頁岩	129	304	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠損
5	22	42.2	18.3	5.6	4.9	頁岩		20	縦長	両側縁背面・一側縁基部側面加工、先端欠損
6	25	38.7	23.2	4.5	4.7	頁岩	130	16	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端わずかに欠損
7	32	55.2	21.3	5.9	6.5	頁岩	131	238	縦長	先端欠損、反り、03-dの中央部片と接合
8	35	50.4	21.6	3.9	5.7	頁岩	132	18	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠損
9	53	75.8	36.1	11.4	30.4	黒曜石	133	1623	縦長	両側縁両面加工、摩耗した石器の再生品
10	0・4-41	32.1	22.0	6.9	3.6	黒曜石	134	32	横長	一端欠損、先端・側縁両面加工
11	0・6-43	21.9	22.2	3.1	1.9	頁岩		46	—	つまみ部片
12	1・0-66	49.4	20.0	7.2	8.0	メノウ質珪質頁岩	135	1936	縦長	両側縁背面加工、先端欠損、焼け
13	88	41.6	19.7	4.7	4.8	メノウ	136	1628	斜め	両側縁背面・一部両面加工、先端両面加工
14	89	50.5	15.5	2.6	2.5	頁岩	137	1716	斜め	両側縁背面加工、先端切り出し状
15	1・1-20	58.4	23.0	7.3	9.0	頁岩	138	1199	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠損
16	60	29.5	29.4	4.8	4.7	黒曜石		2084	縦長	両側縁背面加工、先端欠損、習作か
17	68	41.7	19.6	5.3	5.4	頁岩	139	1780	縦長	両側縁背面・一部両面加工、先端欠損
18	1・2-08	27.2	14.8	2.8	1.1	黒曜石	140	2483	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状、習作か
19	17	42.4	25.2	4.1	5.0	頁岩	141	2485	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠損
20	93	34.7	22.0	7.2	5.3	頁岩	142	1666	横長	先端未調整
21	1・3-00	47.5	22.3	4.0	5.8	頁岩	143	2480	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠損
22	00	44.5	19.2	4.3	3.9	頁岩	144	2481	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状
23	09	52.9	17.5	6.3	5.8	黒曜石	145	3002	縦長	一側縁背面加工、一側縁刃こぼれ状、先端欠、反り
24	23	37.4	21.5	6.8	4.8	黒曜石	146	2473	縦長	両側縁両面加工、習作
25	44	43.0	36.5	12.7	21.8	黒曜石	147	2479	縦長	両側縁両面加工、先端欠損、背面加工に原石面
26	54	39.0	11.6	3.6	2.0	頁岩	148	3564	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状
27	d	24.7	23.2	3.3	1.2	黒曜石	149	4207	斜め	先端切り出し状、習作か
28	2・1-38	95.8	22.4	9.5	23.8	頁岩	150	4210	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状
29	78	30.4	15.3	3.7	1.8	黒曜石	151	4224	縦長	先端・一側縁両面、一側縁背面加工、反り、ねじれ
30	2・2-20	20.0	17.8	4.0	1.2	頁岩		3680	—	つまみ部片
31	50	37.6	13.9	4.5	2.9	頁岩		3673	縦長	一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠損
32	92	16.6	17.3	5.3	1.7	頁岩		3671	—	つまみ部片
33	2・3-01	47.4	19.4	6.7	5.6	頁岩	152	2548	縦長	一側縁背面、一側縁腹面加工、反り
34	14	77.5	24.5	8.4	14.9	頁岩	153	3096	縦長	先端・一側縁両面、一側縁背面加工、反り、ねじれ
35	31	39.7	13.4	3.3	1.5	黒曜石	154	3095	縦長	両側縁刃こぼれ状、焼け、反り、習作か
36	3・3-37	35.3	33.9	8.0	7.3	黒曜石		3074	—	つまみ部片
37	89	43.7	30.9	5.3	6.4	黒曜石	155	4347	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状、反り、摩耗、曇
38	3・5-05	19.5	11.3	4.8	0.8	黒曜石		3094	—	つまみ部片、折れてから酷く焼け
39	3・6-05	50.2	15.6	5.6	5.4	頁岩	156	3686	縦長	両側縁背面加工、先端欠損、反り、ねじれ



図V-21 包含層出土の石器(4)

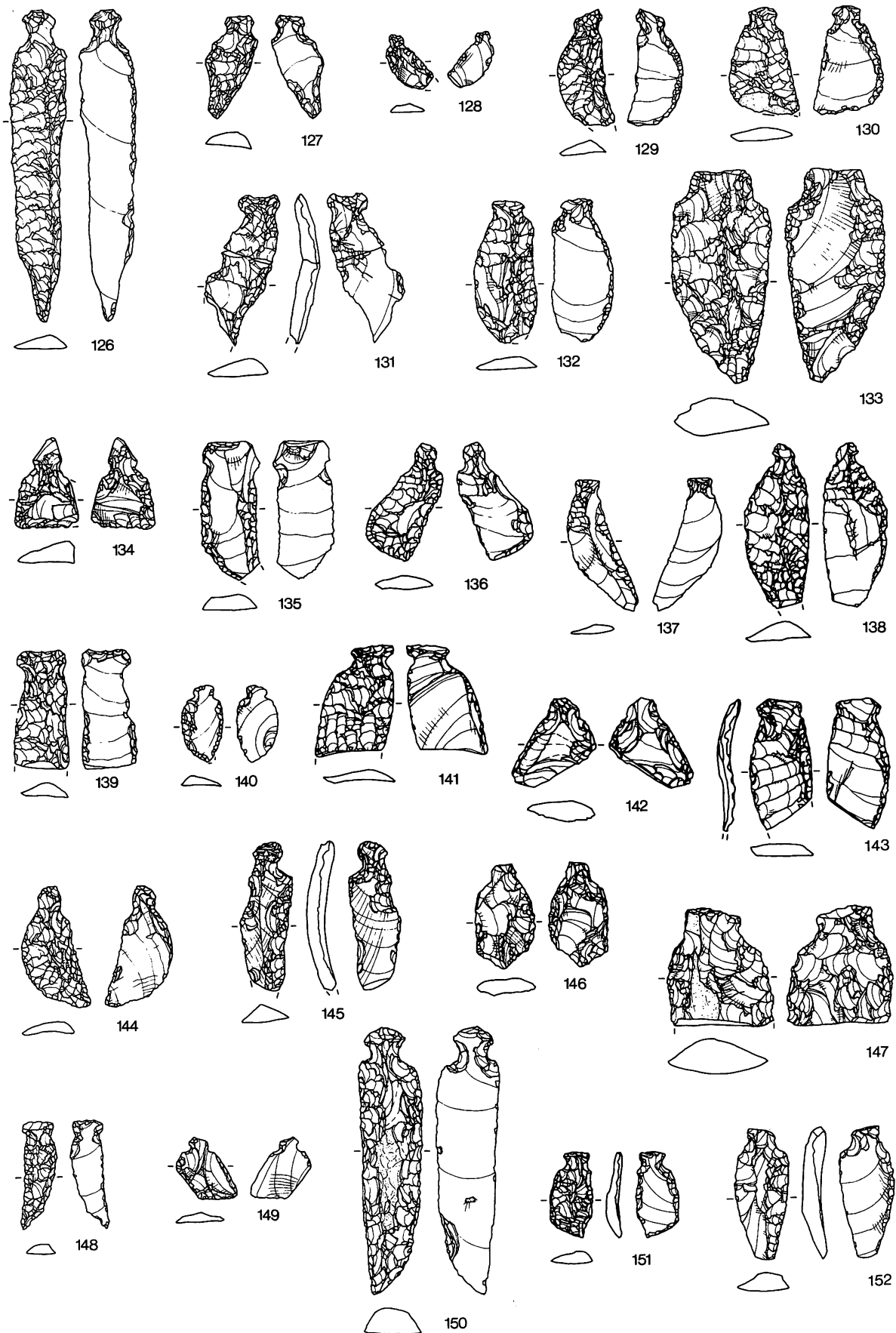


図 V-22 包含層出土の石器(5)

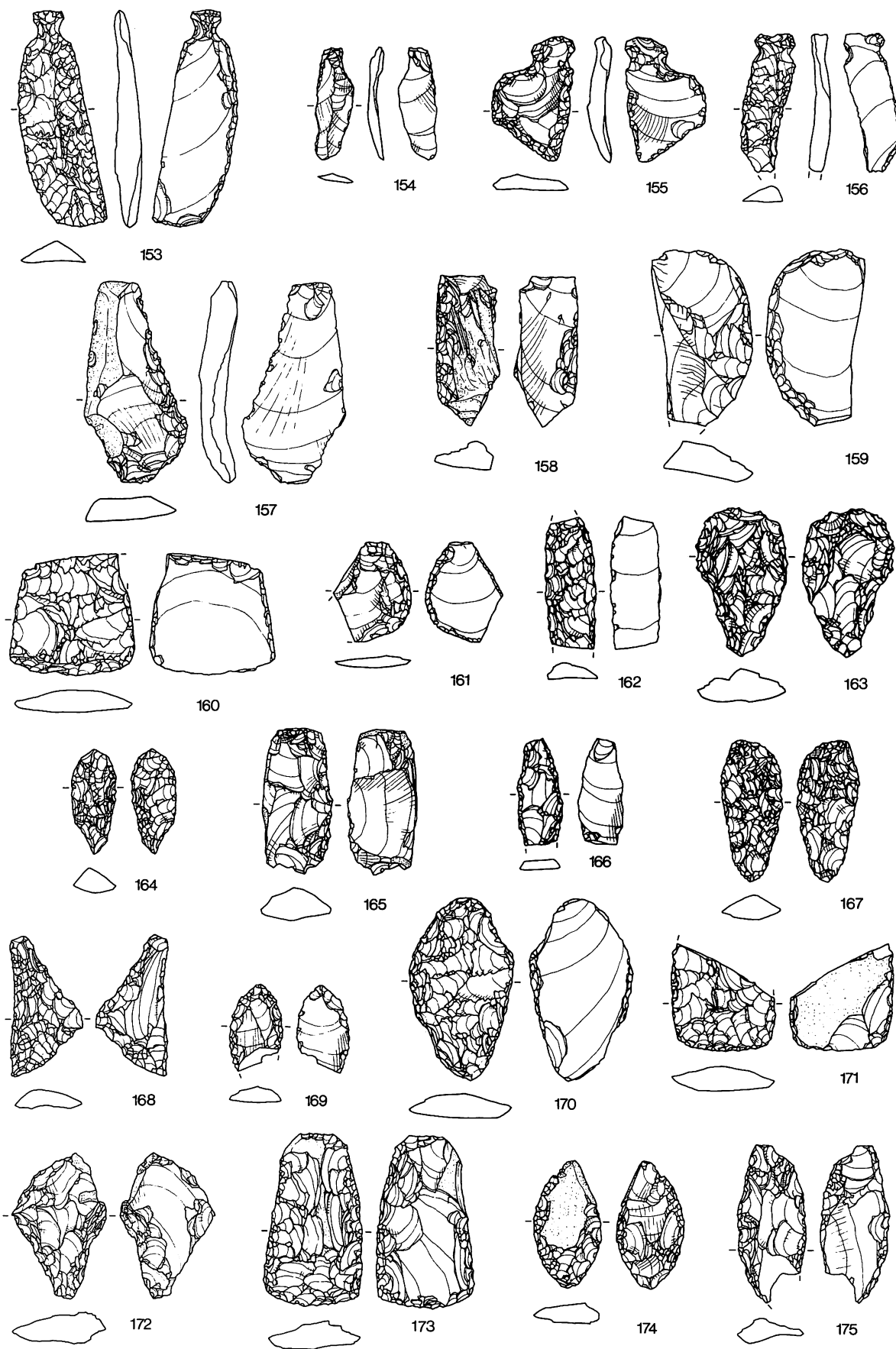


図 V-23 包含層出土の石器(6)

表V-14 削器一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・0-56	72.4	35.8	8.0	23.8	黒曜石	157	40	縦長	一側縁背面加工、基部・背面・一側縁に原石面
2	97	53.3	21.7	12.9	13.9	黒曜石	158	41	縦長	一側縁背面加工、背面・一側縁に原石面
3	0・2-38	63.4	33.1	11.4	26.8	頁岩	159	2241	縦長	一側縁両面加工、先端欠損
4	65	43.0	44.4	9.0	20.7	頁岩	160	2357	爪形	先端背面・両側縁両面加工、一側縁欠損
5	0・3-47	31.1	33.4	6.0	7.3	頁岩		8	—	両側縁両面加工の基部片、基部に原石面
6	51	36.4	27.2	4.5	4.2	頁岩	161	323	—	両側縁両面加工、先端から一側縁欠損
7	57	46.7	18.0	5.6	6.7	頁岩	162	29	—	両側縁背面加工、先端・基部欠損、つまみ付きか
8	57	25.6	18.0	6.0	2.7	頁岩		42	—	一側縁両面・一側縁背面加工の先端部片
9	61	51.2	31.6	11.5	17.4	黒曜石	163	1621	木葉形	両側縁両面加工
10	65	36.7	7.8	8.2	4.7	黒曜石	164	27	木葉形	両側縁両面加工、肉厚、石鏃の刃部欠損後焼けか
11	83	51.0	24.8	11.5	16.4	黒曜石	165	1968	縦長	一側縁背面加工、先端・基部・一側縁に原石面
12	1・0-11	52.0	25.3	6.6	10.4	黒曜石		908	縦長	一側縁背面加工、一側縁欠損、基部に原石面
13	29	38.0	6.3	3.6	2.9	黒曜石	166	1878	縦長	両側縁両面加工、先端欠損
14	37	44.6	24.5	8.4	8.9	花十勝		1875	縦長	一側縁背面加工、先端欠損、基部・一側縁に原石面
15	49	49.8	21.3	8.4	8.0	黒曜石	167	1877	木葉形	両側縁両面加工
16	99	49.1	29.2	6.1	6.6	チャート	168	1627	切出状	先端・一側縁両面・一側縁背面加工
17	1・1-84	72.0	42.8	13.4	32.9	黒曜石		1198	縦長	両側縁に粗い加工
18	94	52.2	35.7	5.6	13.1	黒曜石		2244	—	一側縁背面加工、一側縁刃こぼれ状、先端欠損
19	1・2-05	31.6	19.0	5.9	3.6	黒曜石	169	2488	切出状	両側縁背面加工
20	07	64.5	37.0	10.1	25.4	頁岩	170	2486	木葉形	両側縁背面・一部両面加工
21	66	36.0	37.5	8.7	10.5	頁岩	171	2507	爪形	先端背面・両側縁両面加工、基部欠損
22	67	36.0	16.3	5.2	3.3	黒曜石		3556	切出状	両側縁背面・先端側両面加工
23	1・3-14	51.9	33.2	10.4	15.4	黒曜石	172	2471	切出状	一側縁両面・一側縁背面加工、先端・一側縁に原石
24	33	61.3	34.8	10.5	24.2	頁岩	173	4222	爪形	先端・一側縁背面・一側縁両面加工
25	41	44.9	23.8	7.2	7.5	黒曜石	174	2478	木葉形	両側縁両面加工、基部・背面・一側縁に原石面
26	42	56.7	25.0	10.4	11.1	頁岩	175	2462	—	両側縁両面加工、先端欠損
27	60	46.4	24.7	8.4	9.3	黒曜石	176	2514	木葉形	両側縁両面加工、基部・腹面に原石面、基部欠損か
28	71	44.3	19.1	6.4	4.6	黒曜石	177	2510	切出状	一側縁両面・一側縁背面加工、曇り
29	72	58.8	31.1	12.4	19.1	頁岩	178	3092	縦長	基部背面・一側縁両面加工、先端から一側縁欠損
30	85	78.0	27.3	8.3	15.3	黒曜石	179	3343	木葉形	両側縁両面・一部背面加工
31	2・1-13	51.8	33.7	10.8	14.0	黒曜石	180	1717	—	先端から一側縁背面加工、基部から一側縁欠損
32	2・2-67	60.0	29.7	13.0	23.8	黒曜石		1321	横長	基部両面、先端一部腹面加工、先端・一側縁に原石
33	2・3-25	34.9	43.0	14.5	25.4	頁岩	181a	2439	—	先端一部背面・一側縁両面・一側縁腹面加工
		72.1	52.5	19.7	77.6		181b			23-cの剥片と接合後
34	41	39.6	16.8	7.3	5.1	黒曜石	182	2440	切出状	両側縁背面・基部腹両面加工、先端・基部に原石面
35	69	48.2	26.4	6.2	8.0	メノウ	183	3069	木葉形	両側縁両面加工
36	3・2-04	32.5	21.5	4.7	4.0	頁岩		3081	切出状	一側縁両面・一側縁背面加工の先端部片
37	3・3-07	59.5	28.6	9.3	13.2	黒曜石	184	3072	切出状	一側縁背面・一側縁先端側腹面加工、先端欠損

石核 18点が出土しており、1点が頁岩でほかは黒曜石である。分布は1・3区、2・1区、2・2区で計12点と過半数を占めており、堅穴との関連性が強い遺物といえよう。図番193は、図裏面の左右から剥片を剥いだ後、図正面側の上下方向から剥片を剥ぎ、更に両極打法の跡がみられる。原石面は全く残っていない。図番195・197・198にも、両極打法の跡と思われる楔形石器状の階段剥離がみられる。図番194は、2～3m離れた地点から出土した3点が接合している。

石刃 3・5-81区から図番199の1点が出土している。透明度の高い黒曜石が素材で、背面に二本の稜がみられる。

石製品 調査区北端に近い2・6-92区から、有柄凸基鏃のような形をしたもの1点(図番200)が出土している。

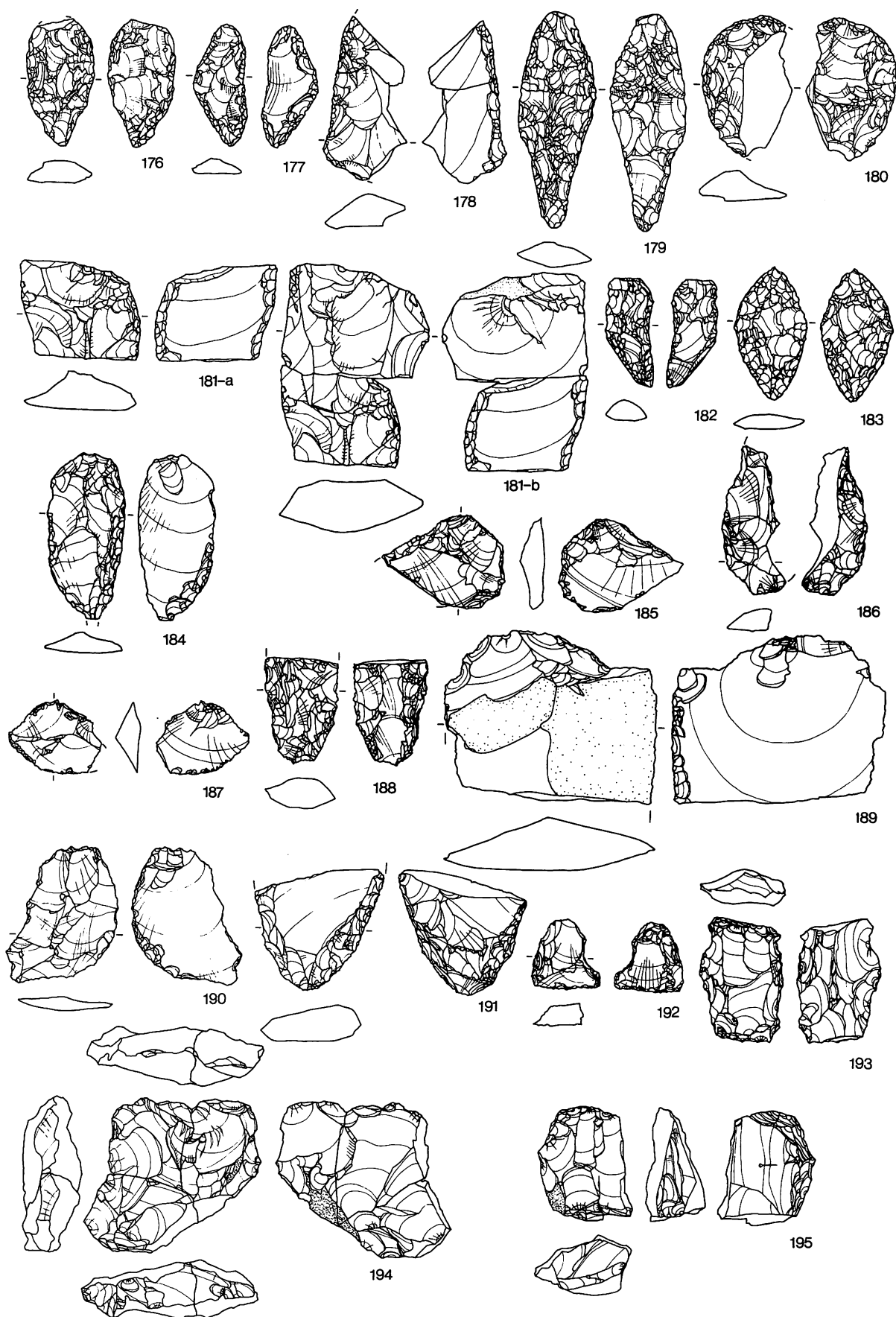


図 V-24 包含層出土の石器(7)

表V-15 R・F一覽(1)

No.	グリッド	長さ(m)	巾幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備 考
1	0・0-97	34.4	20.4	9.3	5.9	黒曜石		33		背面加工の側縁部片
2	a	49.0	30.3	9.8	12.2	頁 岩		4366		一側縁背面加工、一側縁に原石面
3	c	20.6	15.8	3.2	0.8	黒曜石		3596		両面加工の先端部片
4	0・1-00	36.5	39.2	9.5	9.7	黒曜石		4369		先端背面加工、背面擦痕顕著
5	50	33.2	29.0	10.3	5.9	黒曜石		78		両面加工の端部片、曇り
6	62	14.4	9.5	4.7	0.6	黒曜石		732		背面加工の端部片
7	91	25.5	30.5	7.0	5.2	黒曜石		731		一側縁両面加工、基部欠損、背面に原石面
8	0・2-09	19.0	29.0	6.0	3.1	頁 岩		2442		腹面加工の端部片
9	18	61.9	31.4	12.3	14.1	黒曜石		2242		両側縁一部背面加工、先端・基部に原石面
10	38	37.0	15.2	7.3	2.4	黒曜石		2081		一側縁背面加工、極度に焼け
11	78	44.4	41.5	10.6	14.6	頁 岩		2402		一側縁両面・一側縁背面加工の端部片
12	96	17.0	24.7	8.0	2.7	黒曜石		2404		両面加工の端部片
13	c	15.5	8.4	3.2	0.4	黒曜石		4367		一側縁背面・一側縁腹面加工の先端部片
14	0・3-01	32.3	28.9	8.3	8.0	黒曜石		15		両面加工の端部片、折れてから良く焼け
15	35	34.4	19.2	3.0	2.5	頁 岩		1902		一側縁背面加工、先端欠損
16	46	35.4	13.5	7.8	3.1	黒曜石		7		両側縁先端側両面加工
17	48	23.4	15.0	5.4	2.6	頁 岩		245		一側縁両面・一側縁背面加工の端部片
18	48	20.6	37.8	9.0	6.2	黒曜石		246		両側縁両面加工、両側縁つぶれ、基部に原石面
19	57	32.6	26.0	6.0	4.2	黒曜石		34		両側縁両面加工の端部片、折れてから良く焼け
20	73	43.7	37.4	6.1	7.3	黒曜石		1964		先端背面加工、曇り
21	74	37.0	27.0	3.3	4.2	黒曜石		1965		一側縁背面加工、先端刃こぼれ状、基部に原石面
22	74	27.8	21.4	4.3	2.0	黒曜石		4374		一側縁背面加工の先端部片
23	83	62.4	27.4	6.3	10.6	黒曜石		2101		一側縁背面加工、焼けた離皮片使用
24	87	37.6	20.9	8.3	5.2	黒曜石		43		背面加工の側縁部片、基部・腹面に原石面
25	a	31.0	17.0	2.5	1.5	頁 岩		3579	切出状	一側縁背面・一側縁腹面加工
26	a	29.6	21.2	3.5	2.2	頁 岩		3580		一側縁背面加工
27	a	21.8	16.3	3.5	1.9	頁 岩		3583		一側縁背面・一側縁腹面加工の中央部片
28	a	23.0	20.6	6.0	2.5	頁 岩		3584		両側縁背面加工の先端部片
29	a	26.4	14.1	3.1	1.2	黒曜石		3586		先端・両側縁背面加工の先端部片
30	a	12.2	16.4	2.4	0.5	黒曜石		3593		一側縁両面加工の先端部片、良く焼けてから折れ
31	d	29.5	14.0	4.9	1.4	黒曜石		3577		背面加工の側縁部片、焼けてから折れ
32	d	44.3	24.1	6.1	3.3	頁 岩		4373	切出状	両側縁背面加工
33	0・4-18	29.3	44.3	11.2	10.7	黒曜石		3		一側縁背面加工、一側縁に原石面
34	b	13.6	13.8	1.6	0.4	黒曜石		3570		一側縁背面加工、一側縁刃こぼれ状の先端部片
35	1・0-08	25.4	19.2	3.7	1.7	頁 岩		1872		一側縁両面加工、石鏝未製品か
36	86	23.7	11.7	3.2	1.1	黒曜石		1933	横長	先端・基部背面加工
37	a	24.8	20.2	5.3	3.2	黒曜石		3591		背面加工の基部片、背面に原石面
38	c	20.7	18.4	4.3	1.3	黒曜石		3574		腹面加工の側縁部片
39	c	26.5	33.2	6.6	4.9	黒曜石		3576		一側縁背面加工、先端・一側縁欠損、基部に原石面
40	1・1-06	24.5	47.6	5.3	5.3	黒曜石		733		先端・一側縁腹面加工、一側縁背面加工、曇り
41	41	17.4	22.5	7.4	3.0	頁 岩		1324		腹面加工の先端部片
42	41	41.3	29.2	6.2	5.8	黒曜石		1715		一側縁両面加工
43	67	31.3	20.9	6.6	2.9	黒曜石		1782		両側縁両面加工の端部片
44	79	25.0	27.0	4.4	2.8	頁 岩		2307		両側縁背面加工の基部片、焼けてから折れ
45	a	39.2	20.5	8.4	6.1	黒曜石		3571		一側縁背面加工、一側縁に原石面、四辺つぶれ
46	1・2-71	26.4	10.9	2.8	0.8	黒曜石		1688		両側縁背面・先端側両面加工、基部欠損
47	a	28.8	17.5	5.9	2.9	黒曜石		4218		両面加工の端部片、焼けてから折れ
48	1・3-12	43.5	33.0	8.8	10.5	黒曜石	185	2446		一側縁両面加工、一側縁欠損・曇り、背面に原石面
49	12	53.7	20.5	9.2	7.6	黒曜石	186	2469		楔形石器的加撃痕のある端部片
50	13	29.5	25.0	7.8	4.5	黒曜石	187	2470		先端一部背面加工、一側縁欠損、基部つぶれ
51	22	28.7	22.6	3.1	2.0	黒曜石		2472		一側縁一部背面加工、一側縁欠損
52	23	15.6	16.9	2.6	0.8	黒曜石		2474		一側縁背面加工の基部片
53	24	36.1	34.5	5.0	5.9	頁 岩		2475		一側縁一部背面・一部腹面加工
54	27	23.3	8.9	7.8	2.6	黒曜石		3003	切出状	両側縁両面加工、良く焼けてから折れ
55	34	38.1	16.7	10.6	11.2	黒曜石	188	2460		両側縁両面加工の端部片、若干摩耗

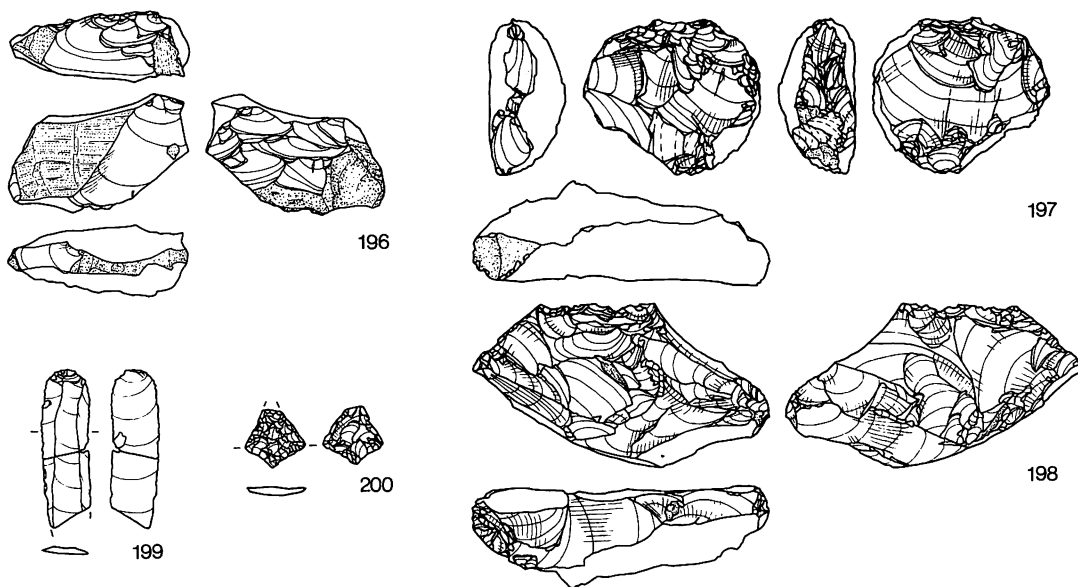
V 包含層出土の遺物

表V-16 R・F一覽(2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
56	1・3-42	59.3	78.3	19.5	93.5	頁岩	189	2477		一側縁面加工、一側縁挿入石器状剥離
57	62	49.7	32.7	9.4	11.2	黒曜石		3561		楔形石器的加撃痕をもつ礫皮片
58	65	20.6	23.6	4.8	2.2	黒曜石		3012		両面加工の端部片
59	75	55.3	33.3	5.0	7.6	黒曜石	190	3011		一側縁面加工、焼けた剥片使用
60	80	47.7	31.0	6.0	9.3	黒曜石		3559		両側縁両面加工
61	84	32.6	26.4	5.2	3.5	黒曜石		3562		両面加工の基部片
62	90	35.1	21.6	6.0	3.9	黒曜石		3089		両側縁背面加工、良く焼け
63	90	49.4	47.3	13.7	25.7	頁岩	191	3558		両面加工の端部片
64	92	34.1	31.6	7.9	8.8	頁岩		3560		先端両面加工、一側縁欠損
65	d	27.8	17.0	5.3	2.0	頁岩		4202		先端・一側縁背面加工
66	d	21.0	17.0	5.8	2.5	黒曜石		4203		一側縁背面・一側縁面加工、先端欠損
67	d	16.7	16.6	3.2	0.9	黒曜石		4204		一側縁背面加工、先端欠損
68	d	9.2	20.0	6.3	1.8	黒曜石		4205		両側縁両面加工の中央部片
69	d	31.0	16.9	6.3	2.4	黒曜石		4206		背面加工の先端部片、腹面擦痕顕著、摩耗
70	1・5-41	30.6	22.9	10.8	5.2	黒曜石		2527		背面加工の側縁部片
71	c	29.1	33.9	5.5	4.1	黒曜石		4382		一側縁背面・一側縁面加工、腹面曇り顕著
72	2・0-00	44.5	33.5	10.4	13.7	頁岩		909		一側縁背面加工
73	28	25.0	24.5	8.4	4.9	黒曜石	192	906		一側縁背面加工、先端刃こぼれ状、一端欠、石鏃か
74	a	22.8	20.0	3.1	1.8	黒曜石		4213		両側縁両面加工、先端欠損
75	d	58.0	34.8	9.8	14.2	黒曜石		4353		一側縁面加工
76	2・1-49	36.1	34.2	7.3	10.1	黒曜石		2562		両側縁面加工
77	49	26.9	29.6	8.2	4.6	黒曜石		2563	切出状	両側縁両面加工、折れてからカキモチ状に焼け
78	76	32.1	26.2	7.0	5.7	黒曜石		4226		一側縁背面加工
79	78	59.6	32.7	9.6	17.8	頁岩		4223		一側縁面加工
80	c	21.1	24.5	6.6	4.2	黒曜石		4377		両面加工の基部片
81	c	15.9	14.6	2.2	0.6	黒曜石		4378		両側縁背面加工の基部片
82	2・2-02	30.4	28.9	6.8	4.7	黒曜石		3679		一側縁背面加工の端部片
83	12	36.3	24.2	6.6	4.8	黒曜石		3678		両側縁両面加工の端部片
84	18	23.0	19.2	5.5	2.2	黒曜石		1316		両側縁背面加工の中央部片
85	18	34.0	27.5	10.9	6.1	黒曜石		2556		一側縁両面・一側縁背面加工、先端欠、三辺つぶれ
86	19	20.5	22.8	2.3	1.3	黒曜石		3090		一側縁背面加工、一側縁刃こぼれ状の先端部片
87	24	20.2	24.5	5.4	2.7	黒曜石		3683		一側縁両面・一側縁背面加工の端部片
88	40	29.5	20.7	7.4	3.6	黒曜石		2554		一側縁背面加工の基部片、背面に原石面
89	55	58.2	31.7	8.2	15.3	黒曜石		3914		一側縁背面加工、礫皮片使用
90	59	25.1	13.3	3.7	1.1	黒曜石		143	切出状	一側縁背面加工、焼けた剥片使用
91	67	33.6	22.0	10.6	6.4	黒曜石		145		腹面加工の端部片、背面に原石面、摩耗
92	75	37.2	19.0	5.9	3.6	黒曜石		3915		両側縁両面に粗い加工、カキモチ状に焼け
93	77	38.1	21.4	6.2	3.4	黒曜石		3918		背面加工の側縁部片、つぶれ
94	86	38.8	30.8	4.0	5.7	黒曜石		1323		一側縁背面加工、背面に原石面、曇り
95	93	34.6	26.7	8.8	6.8	黒曜石		3669	切出状	両側縁両面加工の端部片、折れてから焼け
96	99	20.8	15.0	6.9	2.1	黒曜石		37	切出状	両側縁両面加工の端部片
97	a	34.1	21.6	6.0	4.1	黒曜石		3713		先端背面加工、一側縁欠損
98	c	16.6	17.9	4.8	1.4	黒曜石		3903		腹面加工の先端部片、折れてから良く焼け
99	c	10.5	10.1	3.2	0.3	黒曜石		4209		両面加工の中央部片
100	d	34.3	15.7	11.8	5.3	頁岩		3901		背面加工の先端部片
101	2・3-21	32.1	19.1	7.2	5.4	黒曜石		3097		両面加工の基部片、若干摩耗
102	49	35.5	22.5	8.8	5.9	黒曜石		2441		一側縁背面加工、一側縁欠損、背面に原石面
103	80	28.8	22.7	3.5	2.8	頁岩		3910		両側縁背面加工の中央部片
104	a	14.8	12.6	4.1	0.8	黒曜石		3712		両面加工の端部片、石鏃基部か
105	b	21.2	22.9	5.6	3.2	黒曜石		3710		一側縁背面・一側縁面加工、先端欠、腹面に擦痕
106	d	17.6	9.3	3.7	0.7	黒曜石		3746		両側縁背面加工、先端欠損
107	2・6-66	40.0	27.0	12.7	13.1	黒曜石		35		一側縁背面加工、先端・背面に原石面
108	75	30.7	21.6	6.1	4.5	黒曜石		327		両側縁背面加工、先端に原石面
109	3・1-01	29.2	19.3	2.3	1.7	黒曜石		2243		背面加工の側縁部片
110	35	22.6	18.4	3.7	1.5	黒曜石		2567		両側縁背面加工、先端欠損、折れてから良く焼け

表V-17 R・F一覽(3)

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
111	3・1-63	31.0	25.0	4.3	3.7	黒曜石		3675	切出状	両側縁腹面加工の先端部片
112	82	21.2	19.2	3.5	1.5	黒曜石		2565		両側縁背面加工の先端部片、折れてから良く焼け
113	3・2-04	34.6	18.3	7.3	3.1	黒曜石		3082		背面加工の基部片、一側縁に原石面、摩耗
114	06	31.0	20.0	7.5	3.4	黒曜石		3079		背面加工の側縁部片、腹面曇り・リモナイト付着
115	81	19.0	16.4	8.5	3.4	黒曜石		4351		両面加工の側縁部片、つぶれ
116	96	30.0	26.2	5.2	4.2	黒曜石		3706		一側縁背面加工、先端欠損
117	b	52.4	35.4	6.0	7.8	黒曜石		4208		一側縁一部背面加工、一側縁刃こぼれ状
118	3・3-08	40.4	22.0	6.7	4.5	黒曜石		3075		一側縁背面加工、先端欠損
119	3・4-20	29.6	16.0	5.1	2.4	黒曜石		2447		一側縁両面加工、先端・基部欠損、焼けた剥片使用
120	28	28.7	37.5	6.5	5.9	メノウ		2490		一側縁背面加工の中央部片、酷く焼けて折れ
121	70	30.2	56.4	12.0	25.5	メノウ		3076		一側縁腹面加工の中央部片、34-dの剥片と接合
122	87	38.3	20.0	6.0	6.9	黒曜石		4333		一側縁背面加工の中央部片
123	88	28.4	17.5	8.3	4.0	花十勝		4330		一側縁背面加工の基部片、基部に原石面
124	d	23.2	24.5	6.3	2.8	黒曜石		4362		一側縁背面・一側縁腹面加工、先端に原石面
125	3・5-28	36.4	16.4	2.7	1.6	黒曜石		4265	切出状	両側縁先端側両面加工
126	31	29.6	18.6	3.8	1.8	黒曜石		3651		両面加工の基部片
127	53	25.0	20.7	5.5	2.0	黒曜石		3663	切出状	両側縁基部側両面加工、先端わずかに欠損、石鏝か
128	62	21.6	34.8	19.3	15.1	黒曜石		3664		基部一部背面加工、基部に原石面、先端欠損、摩耗
129	66	18.1	13.4	2.2	0.8	黒曜石		2538		背面加工の側縁部片
130	71	14.4	9.7	3.4	0.5	黒曜石		4341		両側縁両面加工の基部片、焼け
131	71	20.8	18.4	6.6	2.4	黒曜石		4342		一側縁背面加工、先端欠、焼けて摩耗した剥片使用
132	72	44.0	31.0	10.6	18.5	メノウ		4339		背面加工の側縁部片
133	76	32.8	21.4	9.2	6.4	黒曜石		4325		両側縁背面加工、背面に原石面、焼け
134	76	36.7	13.7	8.6	4.1	黒曜石		4326		両面加工の端部片、摩耗した剥片使用
135	b	33.8	17.5	5.8	4.3	黒曜石		4216		一側縁両面加工、焼け
136	b	22.1	13.0	3.5	1.3	黒曜石		4359		両面加工の側縁部片
137	d	24.5	8.4	5.0	0.6	黒曜石		4363		背面加工の側縁部片
138	d	26.0	14.5	3.0	0.8	花十勝		4364		背面加工の側縁部片
139	3・6-10	13.6	19.7	5.0	1.7	黒曜石		3093		両面加工の端部片
140	51	32.6	14.8	7.2	3.8	メノウ		2539		一側縁背面加工、焼け、石鏝か
141	62	13.0	9.6	1.4	0.2	黒曜石		2546		両面加工の先端部片、石鏝未製破損品か
142	71	28.0	12.0	2.4	0.9	黒曜石		2543		両側縁先端側両面加工、石鏝未製品か
143	71	20.7	31.4	6.9	4.0	頁岩		4323		背面加工の端部片、焼け
144	a	36.7	28.4	9.6	10.1	黒曜石		4381		基部両面加工の腹皮片



図V-25 包含層出土の石器(8)

V 包含層出土の遺物

表V-18 U・F一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・0-c	15.0	18.6	2.0	0.5	黒曜石		3600		一側縁刃こぼれ状、先端欠損
2	c	33.8	16.6	4.6	2.3	黒曜石		4370		一側縁刃こぼれ状、背面に原石面
3	0・1-33	28.9	37.7	3.7	3.1	頁岩		48		先端・基部刃こぼれ状、一側縁欠損
4	0・3-42	58.7	27.5	10.0	12.4	黒曜石		1624		両側縁刃こぼれ状、先端欠損、背面に原石面、摩耗
5	48	24.2	14.6	2.8	1.0	黒曜石		244		両側縁刃こぼれ状、先端欠損
6	a	25.6	7.2	1.8	0.4	黒曜石		3585		一側縁先端側刃こぼれ状、マイクロブレードか
7	a	18.7	22.6	2.6	0.9	黒曜石		3592		先端・基部刃こぼれ状
8	d	23.0	14.2	4.2	0.9	黒曜石		4220		一側縁刃こぼれ状、一側縁欠損
9	1・0-69	25.0	24.3	4.3	2.7	頁岩		2077		一側縁刃こぼれ状、先端欠損
10	89	26.9	18.0	3.0	1.5	黒曜石		1967		両側縁刃こぼれ状
11	1・2-95	24.4	47.0	6.0	4.6	頁岩		3551		先端一部刃こぼれ状、背面に原石面
12	c	15.2	16.3	3.0	0.9	黒曜石		4215		一側縁刃こぼれ状、先端欠損
13	d	19.7	23.6	2.6	0.8	黒曜石		4219	切出状	両側縁先端側刃こぼれ状
14	1・3-52	25.4	23.3	4.4	2.2	黒曜石		3907		先端刃こぼれ状、基部に原石面
15	53	32.6	25.7	4.0	2.8	黒曜石		3909		先端・一側縁刃こぼれ状、一側縁欠損
16	81	52.8	27.0	4.3	4.7	黒曜石		3088		一側縁刃こぼれ状、背面に曇り、13-bの中央部
破片と遺物No. 3100 (13-92)の基部片と接合、13-bのみ鏡け										
17	b	34.1	19.0	2.8	1.8	黒曜石		4356		一側縁刃こぼれ状
18	2・1-99	21.5	22.5	4.9	1.7	黒曜石		3674		両側縁刃こぼれ状、先端・基部欠損
19	c	27.7	21.4	3.7	2.1	黒曜石		4379		両側縁刃こぼれ状、先端欠損、リモナイト付着
20	c	22.4	14.0	2.4	0.9	黒曜石		4380		両側縁刃こぼれ状、リモナイト付着
21	d	25.8	20.4	4.6	1.9	黒曜石		4371		先端・一側縁刃こぼれ状、一側縁欠損
22	2・2-a	28.7	27.3	3.9	3.1	黒曜石		3715		両側縁刃こぼれ状、先端欠損
23	a	21.0	9.4	2.4	0.5	黒曜石		3716		両側縁刃こぼれ状
24	3・5-31	34.5	72.2	11.6	21.1	縞頁岩		2571	横長	先端刃こぼれ状、礫皮片使用、鏡け

表V-19 石核一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・0-d	44.5	30.6	12.7	16.4	黒曜石	193	3594		
2	1・2-61	23.4	11.2	17.8	4.5	黒曜石		2521		一面に原石面
3	1・3-45	56.2	63.2	19.1	53.8	黒曜石	194	3006		一面に原石面、遺物No. 3091・3656 (13-63, 64)と接合
4	52	27.0	28.6	18.5	15.1	黒曜石		2525		五面に原石面、転蹻使用
5	54	41.5	30.5	22.4	24.9	黒曜石	195	3565		一面に原石面
6	60	19.8	30.2	11.6	7.1	黒曜石		2513		三面に原石面、転蹻使用
7	64	18.7	48.4	16.5	22.8	黒曜石	196	3563		五面に原石面
8	1・4-32	29.8	31.6	14.5	10.0	黒曜石		3005		三面に原石面
9	1・5-48	29.5	43.3	11.2	13.2	黒曜石		3700		四面に原石面
10	1・6-52	31.7	32.4	9.2	6.8	花十勝		3701		若干摩耗
11	2・1-67	27.9	32.0	9.4	7.3	黒曜石		4225		一面に原石面
12	88	42.0	48.3	20.6	43.5	黒曜石	197	4228		二面に原石面
13	89	33.3	48.1	17.8	19.0	黒曜石		4229		二面に原石面
14	2・2-60	22.4	47.5	11.4	12.8	黒曜石		3672		四面に原石面
15	67	60.6	27.4	80.6	71.4	黒曜石	198	146		一面に原石面、摩耗
16	75	39.8	46.3	22.6	26.8	頁岩		1322		摩耗顕著
17	d	54.2	45.8	11.8	27.1	黒曜石		3182		三面に原石面
18	3・1-92	33.0	38.0	10.7	12.9	黒曜石		2564		二面に原石面

表V-20 石刃

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	3・5-81	42.9	13.3	2.3	1.1	黒曜石	199	4344	二稜	先端欠損

表V-21 石核一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	2・6-92	15.3	16.2	2.6	0.5	黒曜石	200	2607		有柄凸基石礫のような形態、先端欠損

石斧 破片も含めて76点が出土しているが、完形のは図番3・14とNo.56の3点のみである。刃部が残されているものは20点で、片刃が4点と両刃が16点ある。石材は泥岩が主体で、他に片岩8点、蛇紋岩4点、チャートと思われるもの2点がある。製品の出土分布に顕著な偏りはみられないが、泥岩の破片類は調査区北東の2・6区、3・5区、3・6区に多く、剥片石器類とは異なった分布の特徴を示している。No.1（遺物No.65）は、艶のある灰緑色を呈す背部片で、T1の覆土上層出土基部片と同一母岩である。図番2は蛇紋岩のすり切り残片で、図番4と同一母岩の可能性もある。なお、図番4・6・9・15は、刃部が角のない半円形を呈している。図番3は自然礫をほぼそのまま用いて、一端に片刃を作出したものである。図番7は、石英脈の発達した片岩を素材としたもので、チャートに似た光沢と粘りがある。全体に丁寧な面取りと磨きがなされているのに対し、基部は全く未調整の原石面を残している。刃部は使い込まれて片減りしたものの再生と思われる。図番9は刃部が肉厚で先端に敲打による剥離がみられ、たたき石的に用いられたことを示している。なお、腹面から両側縁にかけて黒色有機物（図のスクリーントーン部分）が付着している。図番11・13は、いずれも敲打調整の跡を顕著に残す基部片で、13は一面に原石面を残している。図番14は、チャートと思われる淡緑色の石材を用いたミニチュアで、背面と一側縁にすり切り痕がみられ、もう一方の側縁には原石面がそのまま残されている。それをみると、すり切り残片を素材とし、最大の幅を得るために斜めに面取りしているのがわかる。図番15は細身の両刃で、刃部中央からみごとに縦に割れたものが、約10m離れた地点から出土し接合した。

すり石 21点あり、うち5点が1・1区からの出土である。素材は安山岩13点、砂岩・凝灰岩各3点、他にハンレイ岩かと思われる暗緑色のもの（No.12）と、肌理が粗く重い石材（図番19）が各1点ある。形態的には、断面三角形を呈するものが大半を占めるが、図番16・18のように偏平楕円礫を素材としたものもみられる。16は下辺を敲打剥離によって調整しているが、使用痕は些程顕著ではない。図番19は石材が不明のもので、図の下半部は暗緑色、上半部は黄褐色を呈す。使用面端部に敲打痕がみられ、側面と端部もすられている。図番21は安山岩素材で、重量が1kgを越す。すり面は2面からなり、中央部にわずかに稜がみられる。

砥石 砂岩を素材としたもの3点がある。図番24は、砥石としての使用痕に加え、両面中央に敲打痕がみられる。

石冠 安山岩素材の2点がある。図番25は、把握部と頂部に丁寧な敲打調整が施されているが、把握部とすり面の長軸がねじれている。また、すり面は正面図左側で向こう側へ、中央部は手前側に片減りしており、敲打痕もみられる。重量は1kgを超える。

たたき石 10点のうち安山岩素材が7点、他は凝灰岩・砂岩・珪質岩各1点である。図番27は石斧の基部片の可能性もあるが、凝灰岩素材で端部の敲打痕が顕著なためたたき石に分類した。図番29は砂岩の棒状礫を使用したもので、三面と一端に敲打痕が残されている。図番30は、大型礫の端部片を使用したもので、一端と一面に敲打痕がみられる。図番31は珪質岩素材、同33は安山岩素材であるが、いずれも一端に「トチむき石」状の使用痕がみられる。図番34はかなり使い込まれた使用痕がみられ、その部分で二つに割れている。使用面及び図の上端が焼けており、下端と接合面は焼けていない。従って使用後に焼かれ、更に四つ以上に割れたものである。

石皿 5点全てが破片である。4点が砂岩を素材とし、そのうち3点が板状礫を使用している。図番35はかなり使い込まれたもので、両面が顕著にすりくぼみ、敲打痕も残されている。

台石 安山岩素材の3点がある。No.1はかなり大きな台石の端部片で、割れてから焼けている。図

V 包含層出土の遺物

表V-22 石斧一覧(1)

No.	グッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・0-03	33.1	16.8	3.3	2.0	チャート ?		65	—	背部片、T1出土の遺物No. 47と同一個体
2	49	119.4	59.8	20.8	286.3	泥岩	1	329	—	先端欠損
3	53	123.7	55.0	16.7	152.2	蛇紋岩	2	337	—	すり切り残片
4	86	140.0	56.4	16.8	239.4	泥岩	3	55	片刃	
5	c	22.8	28.9	7.4	5.0	泥岩		751	—	中央部片
6	0・3-33	4.5	10.0	1.5	0.1	泥岩		749	—	中央部片
7	35	40.2	22.4	5.3	5.1	泥岩		109	—	背部片
8	78	85.0	54.3	21.6	149.0	蛇紋岩	4	56	片刃	基部欠損、すり切り痕を残す
9	d	26.9	15.4	4.9	2.1	泥岩		752	—	背部片
10	0・4-37	57.8	34.6	9.3	34.2	泥岩	5	21	両刃	基部欠損
11	0・5-91	12.6	27.0	7.7	2.8	泥岩		88	両刃	刃部片
12	0・6-a	22.0	29.0	4.7	3.8	泥岩		715	両刃	刃部片
13	1・0-59	40.1	45.7	13.5	24.7	泥岩		159	両刃	刃部片
14	1・2-65	114.1	57.8	17.2	180.7	蛇紋岩	6	674	両刃	基部欠損
15	69	19.1	7.9	3.1	1.4	片岩		661	—	背部片
16	88	57.8	31.2	13.4	34.8	泥岩		664	—	背部片
17	d	15.6	13.5	3.2	0.8	蛇紋岩		717	—	背部片
18	1・3-64	141.6	46.0	12.2	142.7	片岩	7	434	両刃	13-75(遺物No. 180)出土の刃部と接合
19	81	113.3	50.3	33.2	337.2	泥岩	8	668	両刃	基部欠損
20	1・4-76	54.2	43.0	12.6	37.2	片岩		206	—	15-61(遺物No. 460)出土の基部と接合
21	1・5-24	52.4	39.9	12.4	23.6	泥岩		677	両刃	刃部片
22	54	53.6	38.6	7.0	20.6	片岩		463	両刃	刃部片
23	70	63.8	38.8	16.5	53.8	泥岩		459	—	基部片、擦り切り痕を残す
24	89	100.2	63.0	28.1	268.8	泥岩	9	506	両刃	基部欠損、腹面から両側縁に黒色有機物付着
25	a	12.2	9.9	1.5	0.2	泥岩		716	—	背部片
26	1・6-18	104.2	52.4	9.1	61.9	泥岩		122	—	背部片もしくは原材片
27	85	89.7	43.5	18.1	96.8	片岩		120	—	24-08(遺物No. 220)出土の基部と接合
28	2・2-27	22.4	24.2	7.7	5.7	片岩		711	両刃	刃部片
29	42	35.8	25.4	6.4	5.2	泥岩		708	—	刃部片
30	83	116.5	38.6	26.2	117.6	泥岩		208	—	22-91(遺物No. 457)出土の基部と接合
31	2・3-11	11.8	23.6	1.9	0.6	泥岩		231	—	背部片
32	50	35.3	28.2	17.0	22.2	泥岩		710	両刃	刃部片
33	66	57.4	18.4	9.3	12.7	泥岩		617	—	側縁部片
34	2・4-08	33.4	19.5	4.5	4.2	片岩		207	—	背部片
35	08	19.8	28.4	6.1	3.4	片岩		219	—	背部片
36	15	30.9	12.3	3.4	1.6	泥岩		218	—	中央部片
37	86	64.5	47.5	19.8	94.1	泥岩	10	694	両刃	刃部片
38	2・5-06	26.6	18.3	4.8	3.1	泥岩		64	両刃	刃部片
39	37	41.1	33.1	9.6	12.4	泥岩		732	—	背部片
40	2・6-27	65.4	43.3	18.7	88.0	泥岩	11	319	—	基部片、敲打剥離調整
41	76	23.0	11.4	2.6	0.8	泥岩		324	—	中央部片
42	79	42.4	21.1	4.9	4.1	泥岩		311	—	26-98(遺物No. 70)出土の背部片と接合
43	97	29.7	16.7	6.8	3.4	泥岩		68	—	中央部片
44	97	38.0	13.8	6.6	4.9	泥岩		69	—	中央部片
45	98	17.0	14.7	4.2	1.1	泥岩		72	—	背部片
46	2・7-b	18.5	15.4	3.1	0.9	泥岩		560	—	背部片
47	3・1-02	30.2	30.6	5.2	8.2	泥岩		238	—	背部片
48	67	67.6	36.2	10.8	57.6	泥岩	12	702	両刃	基部欠損
49	3・2-32	69.3	32.5	5.7	14.3	泥岩		202	—	背部片
50	52	58.0	35.9	17.2	54.0	泥岩	13	447	—	基部片、敲打剥離調整
51	84	53.4	36.1	15.3	38.0	泥岩		520	—	基部片、先端欠損
52	90	45.8	21.3	6.1	11.6	チャート ?	14	529	片刃	ミニチュア、すり切り痕を残す
53	3・4-77	39.8	16.0	2.4	1.9	泥岩		265a	—	背部片
54	77	19.8	11.5	1.9	0.6	泥岩		265b	—	背部片
55	89	27.0	19.8	4.5	2.2	泥岩		259	—	中央部片

表V-23 石斧一覽(2)

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
56	3・5-17	110.4	52.6	20.8	127.2	泥岩		232	片刃	自然稜の端部をわずかに敲打剥離調整
57	19	29.6	15.4	4.1	1.8	泥岩		233	—	背部片
58	33	75.3	34.3	18.2	41.3	泥岩	15	414	両刃	遺物No.248(36-71)の側縁部片と接合
59	33	22.0	16.2	4.9	1.6	泥岩		416	—	背部片
60	43	14.5	12.1	2.8	0.4	泥岩		417	—	背部片
61	44	17.1	10.9	3.6	0.6	泥岩		420	—	背部片
62	44	25.6	12.2	3.4	1.2	泥岩		421	—	背部片
63	45	20.2	20.8	5.7	2.0	泥岩		237	—	背部片
64	54	41.4	17.2	2.0	2.1	泥岩		423	—	背部片
65	61	21.6	29.6	5.9	3.5	泥岩		430	—	背部片
66	65	16.0	12.5	3.1	0.7	泥岩		685	—	中央部片
67	75	37.2	17.1	5.5	3.1	泥岩		695	—	中央部片
68	3・6-50	28.8	24.6	7.8	11.5	泥岩		226	—	基部片
69	52	17.0	9.6	3.1	0.6	泥岩		215	—	背部片
70	60	13.7	7.7	2.6	0.2	泥岩		221	—	中央部片
71	61	38.7	46.6	6.7	8.4	泥岩		210	—	背部片、遺物No.211の中央部片と接合
72	61	18.8	7.0	2.2	0.4	泥岩		222	—	中央部片
73	71	20.7	9.3	3.2	0.6	泥岩		213	—	背部片
74	71	19.8	13.9	2.8	0.7	泥岩		246	—	背部片
75	表採	11.1	4.3	1.0	0.1	泥岩		—	—	中央部片
76	表採	8.0	4.8	1.2	0.1	泥岩		—	—	中央部片

表V-24 すり石一覽

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・1-16	103.8	59.2	48.0	274.4	安山岩		301	断面菱形	上下辺使用、一端欠損、焼け
2	0・3-31	160	59.7	18.9	312.8	安山岩	16	44	断面扁平	敲打剥離
3	48	121.0	71.0	57.5	770	砂岩	17	24	断面三角	一端欠損
4	74	157	29.4	61.1	397.4	安山岩	18	357	断面扁平	
5	1・0-57	68.8	66.1	47.8	288.9	安山岩		158	断面三角	端部片、遺物No.341の上辺部片と接合
6	1・1-15	73.6	52.2	44.8	142.0	安山岩		170	断面三角	端部片
7	13	30.8	41.1	23.7	44.8	安山岩		139	—	下辺部片
8	43	73.9	35.3	61.5	237.3	?	19	140	断面三角	側面・端部も使用、肌理が粗く重い石質
9	54	130.5	48.3	62.2	477.8	凝灰岩	20	167	断面三角	
10	64	162	59.0	74.6	1,060	安山岩	21	169	断面三角	敲打調整
11	1・2-21	117.4	64.4	78.0	670	安山岩	22	348	断面三角	一端欠損
12	1・3-79	59.0	51.0	34.7	58.8	パレイ岩?		178	断面三角	遺物No.613(24-13)の端部片と接合 端部片、暗緑色を呈し長石の目立つ火成岩
13	1・5-70	27.2	48.4	33.6	59.4	砂岩		458	—	下辺部片、焼け
14	1・6-96	117.9	77.2	46.4	570	凝灰岩		121	断面三角	使用面不鮮明
15	2・2-86	78.4	60.0	39.2	235.7	安山岩		144	扁平楕円	端部片
16	2・5-33	33.8	32.8	35.9	28.4	砂岩		727	断面三角	下辺部片
17	3・2-09	83.4	44.8	47.0	256.6	安山岩		197	断面三角	一端・一辺欠損、焼けてから割れ
18	3・4-78	56.9	67.9	64.2	371.1	安山岩		264	断面三角	両端欠損、割れてから焼け
19	97	75.8	43.2	42.1	165.5	安山岩		280	—	下辺部片
20	3・6-80	89.1	68.1	44.2	382.3	安山岩	23	250	断面三角	一端欠損、敲打剥離
21	b	103.9	61.6	45.8	403.8	凝灰岩		688	断面三角	使用面不鮮明、一端欠損

表V-25 砥石一覽

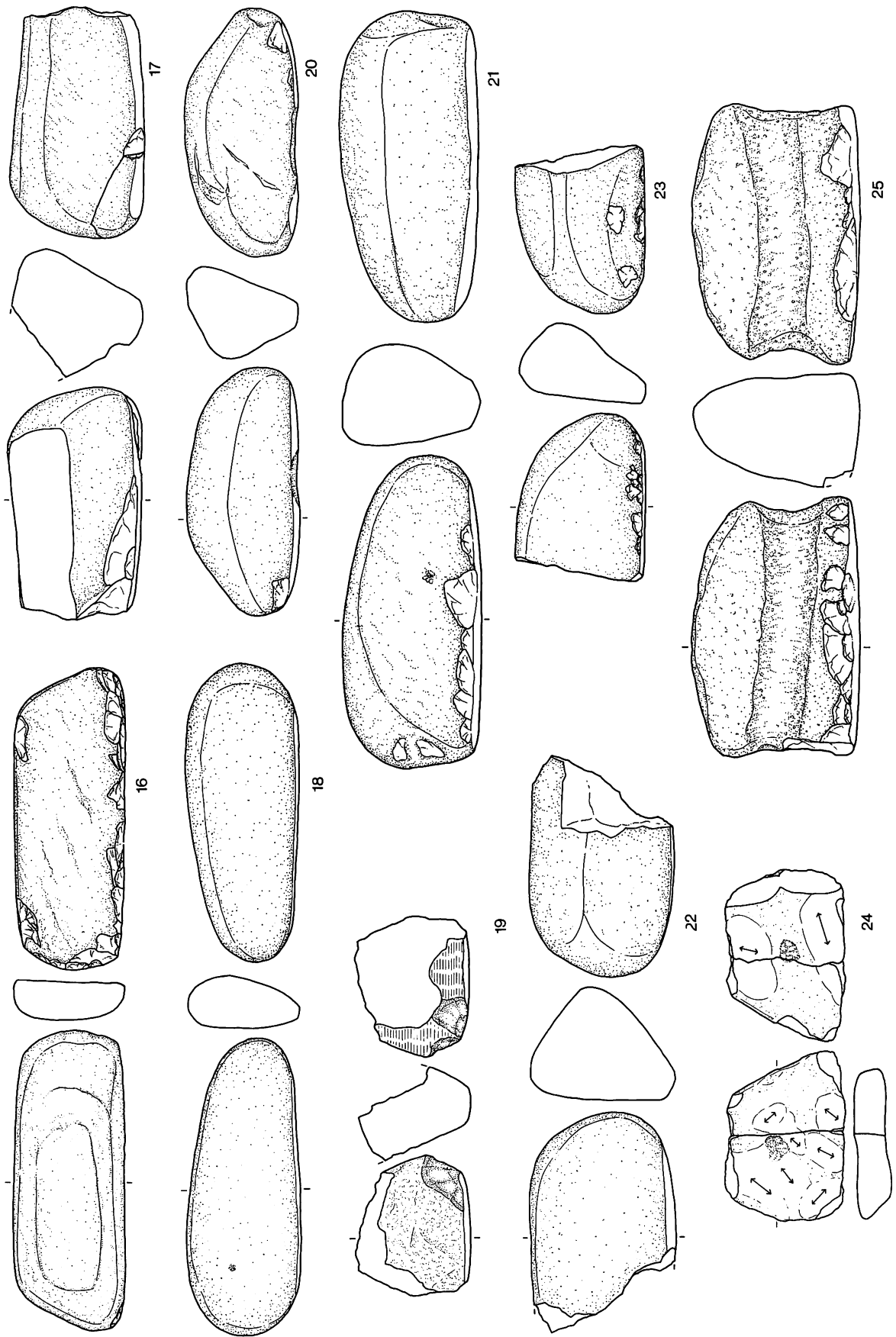
No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・0-30	89.5	62.8	17.5	140.2	砂岩	24	37	—	両面に使用痕と敲打痕、遺物No.38と接合
2	2・3-11	27.2	26.3	11.4	7.6	砂岩		229	—	両面に使用痕のある端部片
3	3・5-59	27.4	14.6	19.4	7.5	砂岩		687	—	破片、焼けてから割れ

表V-26 石冠一覽

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	2・4-99	136.2	88.3	55.0	1,090	安山岩	25	682	—	一端欠損、敲打剥離
2	3・3-82	45.3	45.4	28.0	53.6	安山岩		294	—	下辺部片、割れてから焼け



図V-26 包含層出土の石器(9)

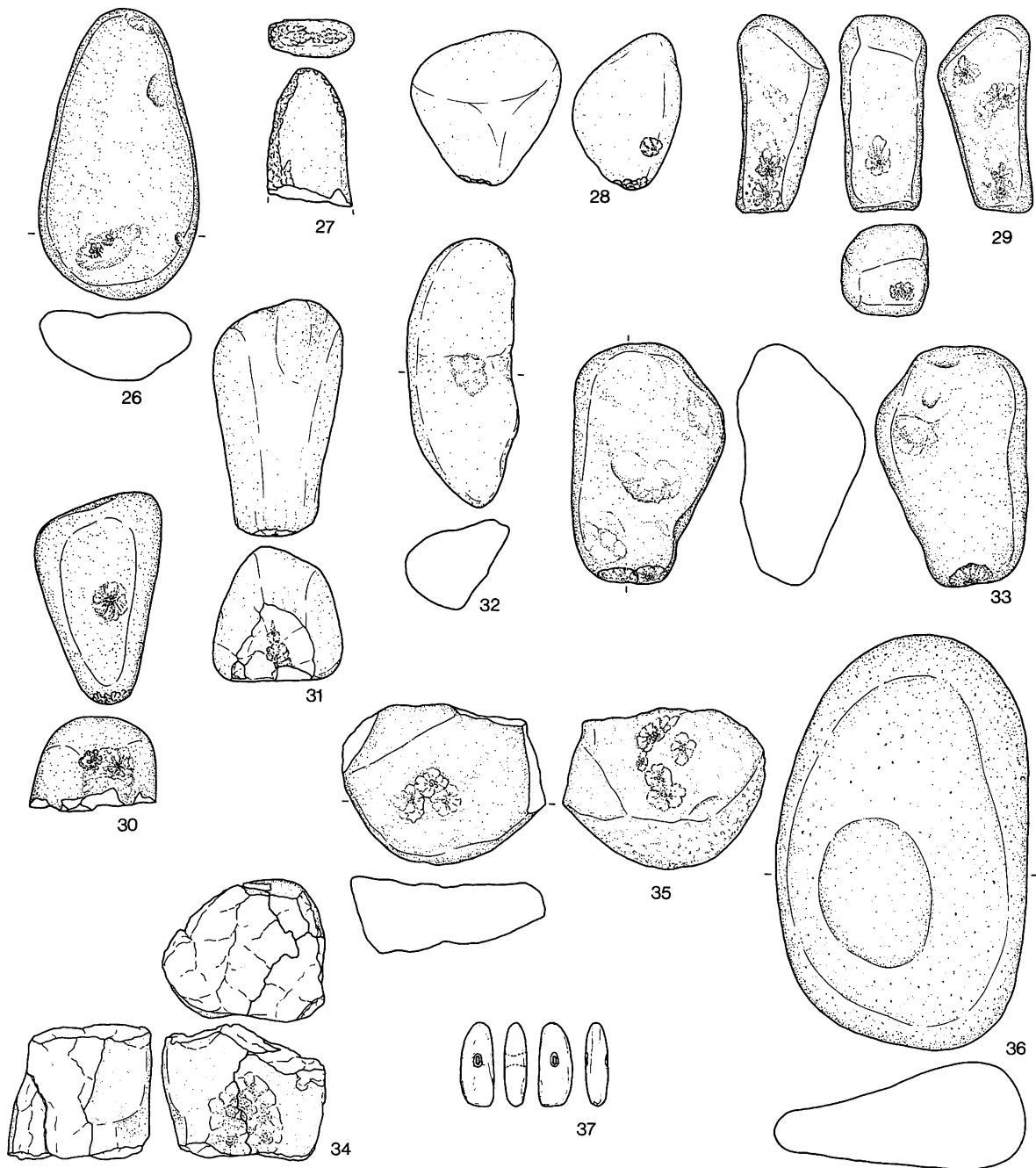


図V-27 包含層出土の石器(10)

V 包含層出土の遺物

表V-27 たたき石一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0・1-40	132.2	73.9	31.2	381.3	安山岩	26	117	—	一面に敲打痕
2	0・5-12	61.4	39.5	17.2	71.9	凝灰岩	27	334	—	端部に敲打痕、石斧の基部片か
3	64	72.0	68.4	49.0	257.5	安山岩	28	94	—	一端に敲打痕
4	0・6-62	89.7	44.3	39.0	216.9	砂岩	29	76	—	三面と一端に敲打痕
5	1・4-13	98.2	59.5	41.0	321.3	安山岩	30	368	—	一面と一端に敲打痕、一面欠損
6	1・5-12	109.0	58.0	61.7	478.4	珪質岩	31	676	—	一端にトチむき石状の使用痕
7	2・1-65	94.3	53.4	29.5	151.2	安山岩	32	718	—	面部片、一面に敲打痕、割れてから焼け
8	2・2-07	122.5	48.0	47.7	361.6	安山岩	33	102	—	一面に敲打痕
9	2・4-67	106.1	69.2	58.6	600	安山岩	34	129	—	一端にトチむき石状の使用痕
10	3・4-16	62.1	75.3	57.8	344.8	安山岩	34	632	—	一面に敲打痕、その部分で割れ、両端欠損
一端欠損後縫け、遺物No. 633・634(34-17・26)と接合										



図V-28 包含層出土の石器(11)

表V-28 石皿一覽

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0-1-12	60.5	53.0	25.8	76.2	砂岩		118	—	破片、両面すりくぼみ、板状礫使用
2	0-5-85	71.9	65.5	33.2	247.9	安山岩		90	—	破片、一面すりくぼみ、遺物No. 91・331 (05-86, 85)と接合
3	3-2-14	95.5	73.5	34.3	235.2	砂岩	35	204	—	破片、両面すりくぼみ、両面に敲打痕
4	3-4-02	82.4	49.5	17.8	76.4	凝灰質砂岩		619	—	破片、一面すりくぼみ、板状礫使用
5	3-6-61	62.5	50.6	32.2	144.1	砂岩		209	—	破片、両面すりくぼみ、板状礫使用 遺物No. 700(36-61)と接合

表V-29 台石一覽

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0-1-08	226	102.7	132.1	2,780	安山岩		358	—	端部片、割れてから焼け
2	3-2-54	192	115.7	48.2	1,615	安山岩	36	404	—	両面みがき
3	4-2-01	61.8	49.0	40.4	209.7	安山岩		535	—	破片、一面みがき、板状礫使用 遺物No. 532・537(42-02)と接合

表V-30 石製品

No.	グリッド	長さ(m)	中幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	2-5-05	38.4	15.4	10.0	10.0	カンラン岩	37	245	垂飾	

表V-31 F・C集中一覽

No.	グリッド	層位	剥片・破片数	剥片・破片重量(g)	焼けた剥片・破片数	焼けた剥片・破片重量(g)	遺物No.	備考
1	1-0-31, 32	II b	1,557	171.3			384	他に石斧背部片1点(0.2g)あり
2	1-0-31, 41	II b	285	10.4			457	
3	1-0-90	III	11	1.0	4	0.3	1035	
4	1-3-66	III	28	34.3			3727	
5	2-0-01	II b	58	13.8	23	7.2	1031	遺物No. 1032～1034を含む

番36は両面がみがかれ、一面は中央がわずかにすりくぼんでいる。

石製品 図番37のカンラン岩製垂飾1点が出土している。くすんだ緑色を呈し、枝状に茶褐色の縞が入っている。両側から径2mmほどの小さな穴二つを穿ち、それをつないで楕円形の穴にしている。両面には整形時のものと思われる斜め方向のキズが残っている。

方割礫 319点が出土している。このうち接合例は30あり、30m以上離れた接合例(No.3・208)もみられるが、ユカンボシE4・5遺跡のような方向性や偏りは認められない。全体の出土分布は、調査区東側に多く、堅穴周辺は比較的少ない。形態(接合例は接合後)をみると、B型が60例、C型48例、D型59例、E型58例、破片88点で、元の礫に復元できたものは6例(長楕円2、偏平円3、楕円1)ある。焼けているものは25例で、内訳は焼けてから割れているもの12例、割れてから焼けているもの8例、いずれか不明のもの(単に焼けと表示)5例である。石質は安山岩・砂岩・凝灰岩が多く、流紋岩・閃緑岩・片岩・泥岩・蛇紋岩・片麻岩・シルト岩・玄武岩などもある。なおNo.183は、千歳周辺では産出しないトロニウム岩で、雨竜郡多度志の幌内で産出した原石が持ち込まれたものと思われる。

礫 147点が出土している。分布には特に偏りはみられない。形態別には、楕円58点、長楕円51点、偏平楕円22点、偏平長楕円6点、円4点、偏平垂角と垂角が各2点、偏平円と角が各1点となっている。焼けているものは楕円と偏平円に各1点あるのみである。石質は方割礫同様に、安山岩・砂岩・凝灰岩が多く、流紋岩などもあるが、方割礫にはみられなかったものとして、珪岩・メノウ・カンラン岩?とがある。

(田才)

V 包含層出土の遺物

表V-32 方割礫一覽(1)

No.	グット	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0-0-02	33.4	25.0	13.3	10.7	安山岩		36	D	焼けてから割れ
2	04	49.7	50.8	40.5	104.8	安山岩		35	D	割れてから焼け
3	38	33.4	56.4	25.3	50.5	流紋岩		51	B	B+C、遺物No. 670(13-60)と接合
4	95	115.2	62.8	21.9	176.4	安山岩		73	E	
5	a	44.0	29.8	5.4	6.9	安山岩		—	破片	焼けてから割がれ
6	0-1-36	53.9	37.1	17.1	25.7	砂岩		365	B	焼けてから割れ
7	45	65.7	28.1	31.9	52.6	凝灰岩		166	B	
8	79	44.5	14.0	28.7	16.0	流紋岩		83	C	遺物No. 51と同一母岩か
9	0-2-75	43.8	16.2	18.6	10.6	砂岩		364	C	
10	0-3-06	43.1	33.8	21.5	32.0	安山岩		350	E	
11	48	34.0	17.3	5.0	3.2	砂岩		112	破片	
12	83	50.0	18.6	13.0	10.8	泥岩		82	C	
13	86	68.0	65.5	29.4	145.3	砂岩		54	D	D+D、焼け?
14	d	23.7	18.4	7.3	3.0	?		683	B	ペンガラ付着
15	0-4-09	43.9	17.4	11.5	13.8	泥岩		20	C	
16	17	34.0	35.0	26.4	43.2	凝灰岩		19	B	
17	31	60.5	49.9	31.2	70.6	砂岩		32	E	焼け割け
18	40	73.9	55.2	19.3	72.3	流紋岩		34	B	CX3、遺物No. 182・340と接合
19	42	72.1	23.6	13.2	29.3	泥岩		33	長楕円礫	B+B、遺物No. 97(05-59)と接合
20	57	60.8	50.5	40.8	150.2	安山岩		74	E	
21	91	62.5	51.5	6.9	21.9	泥岩		53	破片	
22	0-5-11	32.8	26.0	26.4	28.8	安山岩		80	D	
23	19	95.5	43.3	39.3	214.8	安山岩		3	B	
24	21	53.2	44.3	26.7	63.7	安山岩		335	C	
25	35	96.9	60.0	11.3	68.2	石英片岩		98	破片	破片×2、遺物No. 99(05-36)と接合
26	49	65.0	45.4	32.8	101.2	安山岩		101	C	
27	64	35.3	49.8	23.0	49.2	安山岩		93	D	
28	66	39.4	34.9	21.9	44.0	安山岩		332	E	
29	66	42.4	35.0	37.1	60.2	安山岩		333	E	割れてから焼け
30	78	41.2	36.6	8.7	10.9	安山岩		96	破片	
31	98	25.5	23.7	4.7	2.9	安山岩		92	破片	
32	0-6-21	56.3	36.2	21.4	58.0	砂岩		302	B	
33	41	60.4	44.9	13.8	45.5	砂岩		303	破片	
34	55	47.4	58.2	18.6	62.6	泥岩		127	D	
35	1-0-35	58.1	45.4	12.1	25.2	安山岩		339	破片	
36	48	45.6	53.8	28.0	60.3	安山岩		160	C	割れてから焼け
37	65	47.2	28.0	14.1	24.6	泥岩		162	D	
38	66	72.3	52.4	38.2	117.0	安山岩		155	D	割れてから焼け
39	67	34.6	43.6	26.6	44.1	安山岩		156	D	
40	98	103.2	73.6	36.7	221.0	砂岩		148	C	CX4+D、遺物No. 149~152と接合
41	99	31.6	22.0	18.4	16.0	安山岩		153	B	摩耗
42	99	61.6	27.7	22.4	39.6	凝灰岩		154	C	
43	1-1-01	65.0	45.9	26.2	67.8	砂岩		137	B	
44	43	78.8	64.2	45.4	285.9	安山岩		141	D	焼け
45	50	42.7	26.2	20.7	36.2	砂岩		142	D	
46	79	27.4	36.2	29.3	38.5	安山岩		163	E	
47	90	59.2	38.7	34.0	92.7	安山岩		143	E	E+E、遺物No. 346(12-60)と接合
48	1-2-09	47.7	62.1	4.9	17.1	安山岩		658	破片	
49	29	51.8	43.6	10.6	29.4	安山岩		648	破片	
50	63	66.2	48.6	8.9	21.5	砂岩		345	破片	
51	64	43.6	47.2	18.5	36.2	安山岩		673	E	
52	69	40.9	10.7	52.1	21.0	閃緑岩?		671	C	
53	69	55.1	29.8	17.1	23.5	砂岩		672	B	
54	70	36.4	42.4	50.0	127.1	安山岩		344	D	
55	81	32.4	33.4	7.7	13.8	泥岩		356	偏平円礫	B+B

表V-33 方割礫一覽(2)

No.	グッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
110	2・5-15	64.2	38.6	21.8	49.6	安山岩		731	D	
111	19	63.2	44.4	20.0	52.7	凝灰岩		164	B	
112	45	53.8	79.8	28.3	150.2	砂岩		63	C	
113	45	57.0	26.6	15.0	23.7	安山岩		747	B	
114	49	72.1	57.8	37.7	131.3	砂岩		165	D	
115	72	81.0	37.2	60.5	209.6	安山岩		493	C	D+D、遺物No. 558(25-b)と接合
116	75	25.2	26.5	9.9	9.4	砂岩		491	D	
117	c	58.6	38.1	9.8	21.8	安山岩		559	破片	
118	c	41.4	28.2	9.0	8.4	安山岩		—	破片	
119	2・6-01	65.0	55.6	28.3	109.9	安山岩		501	B	
120	04	47.7	55.2	15.0	30.1	砂岩		496	C	
121	17	51.1	37.9	38.3	107.0	安山岩		320	B	
122	24	57.8	43.8	6.3	15.9	砂岩		504	破片	
123	26	51.2	28.4	24.2	53.4	片岩		58	B	
124	37	39.2	23.6	4.0	4.2	泥岩		57	破片	
125	38	50.0	63.8	17.2	78.8	砂岩		316	E	
126	38	28.5	24.1	9.8	9.2	砂岩		317	破片	遺物No. 316・318と同一母岩
127	38	38.6	25.1	12.4	17.2	砂岩		318	破片	遺物No. 316・317と同一母岩
128	65	24.8	64.7	31.4	58.3	泥岩		328	B	
129	69	23.8	38.4	7.8	7.8	安山岩		309	破片	
130	70	81.5	55.9	56.9	268.2	安山岩		244	E	
131	74	48.9	53.5	17.4	34.2	玄武岩?		239	C	
132	77	8.8	26.2	8.0	5.3	泥岩		323	破片	遺物No. 325・326と同一母岩
133	77	28.2	20.4	9.1	5.2	泥岩		325	破片	遺物No. 323・326と同一母岩
134	77	48.8	25.3	14.0	13.0	泥岩		326	破片	遺物No. 323・325と同一母岩
135	78	39.4	52.5	17.3	44.6	砂岩		314	E	
136	78	3.7	18.9	3.0	1.2	?		315	破片	
137	79	25.6	23.6	3.1	2.3	安山岩		310	破片	
138	81	28.7	42.8	27.7	28.0	安山岩		241	C	
139	81	47.8	39.6	14.6	21.9	安山岩		243	破片	
140	87	38.3	36.3	14.8	23.8	安山岩		327	E	
141	89	40.3	37.8	9.6	13.7	安山岩		312	破片	
142	89	31.2	37.6	7.2	13.4	安山岩		313	破片	
143	93	39.0	29.1	30.6	27.5	安山岩		240	E	
144	97	68.4	28.9	26.4	70.4	流紋岩		71	B	摩耗
145	c	40.5	23.2	6.0	9.2	砂岩		—	破片	
146	2・7-50	71.1	39.6	11.3	23.9	砂岩		721	破片	
147	3・0-12	107.9	97.4	29.0	460.8	安山岩		132	B	
148	90	54.7	46.0	51.8	99.5	安山岩		299	C	
149	93	41.6	54.2	35.6	78.1	安山岩		296	D	
150	94	49.5	70.4	28.0	105.7	凝灰岩		550	D	
151	94	36.4	30.6	53.1	63.5	泥岩		551	C	
152	94	24.1	42.0	46.7	36.2	安山岩		552	D	
153	94	29.2	24.2	20.0	12.8	安山岩		553	E	
154	94	18.5	35.2	28.3	16.3	安山岩		554	E	
155	94	55.3	44.5	49.7	139.5	安山岩		555	D	
156	95	59.8	62.0	34.6	128.8	安山岩		539	D	
157	95	27.5	50.1	37.5	42.1	安山岩		540a	C	遺物No. 540bと同一母岩か
158	95	33.6	29.9	12.5	12.4	安山岩		540b	C	摩耗、遺物No. 540aと同一母岩か
159	95	31.7	68.0	27.9	65.3	凝灰岩		541	C	
160	95	59.5	52.4	33.5	95.1	安山岩		542	E	遺物No. 543・544と同一母岩
161	95	48.9	61.4	31.8	82.8	安山岩		543	E	遺物No. 542・544と同一母岩
162	95	39.3	49.0	31.9	62.5	安山岩		544	D	遺物No. 542・543と同一母岩
163	95	33.4	17.4	19.4	10.7	蛇紋岩		545	D	
164	95	26.7	37.3	34.6	47.4	蛇紋岩		546a	B	

V 包含層出土の遺物

表V-34 方割礫一覧(3)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
56	1・2-84	74.2	45.4	21.7	75.3	凝灰岩		342	B	摩耗
57	93	110.4	42.2	22.6	235.9	泥岩		343	B	
58	99	20.4	9.2	1.9	0.4	泥岩		406	破片	
59	1・3-00	85.5	25.0	18.6	63.9	泥岩		623	C	
60	06	39.7	32.1	9.7	15.8	砂岩		173	破片	
61	24	35.3	29.0	8.6	9.9	安山岩		622	破片	
62	38	81.7	26.5	15.5	46.4	泥岩		192	C	
63	58	47.9	39.6	25.0	56.9	安山岩		605	C	摩耗
64	72	72.8	40.8	9.8	24.7	泥岩		433	破片	
65	75	32.2	30.0	9.1	9.2	泥岩		177	扁平円礫	B+B、遺物No.181(13-75)と接合 中間のCを欠く
66	1・4-22	82.6	31.2	23.4	81.9	砂岩		367	C	
67	81	55.9	44.2	14.8	45.0	安山岩		608	D	
68	82	108.0	72.7	38.8	433.6	安山岩		609	D	
69	93	62.7	28.2	25.5	49.0	凝灰岩		607	B	C+C+C
70	1・5-04	53.8	58.8	3.3	14.1	片麻岩		7	破片	
71	05	80.6	97.6	52.0	540.0	安山岩		723	B	
72	05	36.2	61.6	54.4	140.7	安山岩		724	D	割れてから焼け
73	34	59.8	28.7	27.9	74.4	流紋岩		678	B	
74	44	55.2	38.6	36.6	57.6	安山岩		679	E	
75	63	116.4	36.8	12.8	49.7	砂岩		462	破片	破片+破片、遺物No728(25-74)と接合
76	67	109.9	75.2	18.8	146.8	砂岩		495	D	D+破片
77	68	81.3	73.4	28.8	221.7	砂岩		6	C	
78	83	66.8	33.6	11.7	24.3	砂岩		461	破片	
79	1・6-11	29.2	28.0	53.2	48.4	砂岩		505	C	
80	15	65.0	43.7	12.4	29.0	安山岩		304	破片	
81	16	69.8	30.1	19.8	49.9	安山岩		305	B	
82	49	59.7	40.9	33.4	87.9	安山岩		124	B	B+C、遺物No.125(16-49)と接合
83	55	21.2	40.8	24.8	27.6	砂岩		119	D	
84	74	61.2	27.3	20.5	42.4	安山岩		734	B	摩耗
85	88	79.8	53.8	28.2	192.8	安山岩		306	B	摩耗
86	2・0-14	39.3	15.5	29.5	18.2	砂岩		131	D	
87	2・1-38	36.4	14.5	5.0	3.6	流紋岩		12	破片	
88	46	47.5	47.3	57.2	182.2	安山岩		713	E	
89	65	63.7	46.8	28.0	101.6	流紋岩		359	B	B+C、遺物No.360(21-65)と接合
90	74	77.0	97.8	27.1	171.7	安山岩		361	E	
91	2・2-02	28.1	10.8	20.1	6.4	珪岩		707	C	
92	46	42.4	14.6	37.2	41.5	安山岩		103	D	
93	90	37.4	82.3	43.9	184.7	安山岩		456	D	
94	c	21.2	22.8	8.2	5.1	安山岩		-	破片	
95	c	37.6	22.4	12.8	10.6	泥岩		-	D	
96	2・3-40	53.6	35.5	27.9	99.3	砂岩		230	B	
97	55	58.2	37.1	20.0	37.9	安山岩		614	B	焼けてから割れ
98	60	27.5	26.9	53.3	48.1	安山岩		706	D	
99	62	53.6	16.5	15.2	17.8	泥岩		185	D	
100	75	95.2	76.0	39.9	227.1	凝灰岩		615	D	
101	2・4-12	123.2	39.8	18.6	109.6	砂岩		612	C	
102	26	42.7	45.4	25.0	46.3	砂岩		217	E	
103	58	45.0	35.2	12.7	27.2	泥岩		690	C	
104	68	76.4	51.0	29.3	117.6	安山岩		692	C	
105	95	29.1	22.7	13.1	11.8	砂岩		693	C	
106	98	28.7	27.3	11.8	11.6	安山岩		681	E	
107	2・5-08	30.7	29.4	10.3	8.5	砂岩		748	破片	
108	09	60.6	21.2	35.0	37.0	流紋岩		733	B	
109	12	66.5	53.2	30.2	66.4	砂岩		725	D	

表V-35 方割礫一覽(4)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
165	3・0-95	34.0	23.0	14.5	11.4	凝灰岩		546b	E	
166	95	70.2	48.9	33.1	88.9	安山岩		547	E	
167	95	61.7	43.4	53.3	175.5	安山岩		548	E	
168	95	41.7	59.3	26.1	73.2	安山岩		549	D	
169	3・1-01	23.6	45.4	39.5	64.3	砂岩		362	D	
170	30	18.6	40.1	11.9	20.2	砂岩		472	D	
171	32	32.4	37.8	2.6	5.1	砂岩		474	破片	
172	32	24.0	47.8	14.3	19.0	安山岩		475	C	
173	32	64.4	60.8	23.8	87.8	安山岩		476	D	
174	32	30.0	28.4	12.0	11.1	砂岩		483	D	焼けてから割れ
175	33	26.6	40.0	39.5	39.9	安山岩		479	B	
176	33	16.6	43.0	11.2	22.5	砂岩		480	D	
177	33	43.4	34.4	14.7	29.4	安山岩		481	E	
178	42	31.2	21.6	22.8	11.0	砂岩		473	E	
179	42	25.0	28.2	24.4	22.4	安山岩		477	E	
180	42	34.4	36.1	10.8	16.9	砂岩		482	D	
181	51	74.8	54.0	54.8	250.3	泥岩		468	C	D+D、遺物No. 469(31-52)と接合
182	54	54.4	60.0	28.1	106.4	安山岩		471	E	
183	56	43.4	48.8	25.6	77.0	トロニム岩		701	B	道内では、雨竜郡多度志の観内で産出する石
184	61	53.6	34.0	10.5	22.6	凝灰岩		466	B	
185	86	47.0	15.0	6.1	8.0	蛇紋岩		703	B	石斧原材片か
186	88	38.0	33.2	18.3	18.7	砂岩		290	D	
187	92	58.1	32.9	24.3	42.0	砂岩		538	E	
188	98	13.2	64.7	39.0	30.4	安山岩		291	D	
189	98	62.6	53.1	28.7	114.9	安山岩		513	D	
190	99	67.6	41.7	12.4	28.2	凝灰岩		509	B	
191	3・2-05	54.1	40.8	31.6	53.0	安山岩		666	E	
192	35	26.4	53.2	32.1	47.6	砂岩		667	D	
193	36	56.7	39.0	11.6	21.5	砂岩		200	破片	
194	40	42.0	34.6	38.0	51.0	砂岩		452	E	
195	44	92.6	41.9	33.0	169.0	砂岩		390	B	
196	45	60.0	32.4	20.6	44.9	流紋岩		198	C	
197	50	48.4	30.7	9.5	11.6	安山岩		451	破片	
198	58	77.9	43.4	20.0	77.0	流紋岩		380	B	
199	59	31.6	28.2	6.6	7.5	玄武岩		381	破片	
200	60	49.8	27.5	32.5	49.8	安山岩		450	E	
201	67	52.1	51.0	19.2	74.1	片岩		384	偏平円礫	B+B、遺物No. 385(32-77)と接合
202	68	33.0	31.0	19.5	28.4	凝灰岩		386	B	B+C、遺物No. 387(32-68)と接合
203	68	20.0	43.2	18.0	28.4	片麻岩		388	C	
204	84	77.4	46.8	10.0	46.2	砂岩		446	破片	
205	90	35.5	36.4	9.7	9.6	凝灰岩		514	B	
206	90	49.4	38.0	22.8	37.2	流紋岩?		530	B	焼けてから割れ
207	95	40.5	48.4	34.9	80.0	安山岩		736	E	
208	3・3-12	52.2	36.3	8.8	18.4	砂岩		641	破片	破片+破片、遺物No251(36-70)と接合
209	48	46.6	39.0	23.9	44.8	凝灰岩		187	C	C+C+D+E、遺物No188~190と接合 (33-48)、遺物No. 188・189は焼け
210	51	36.6	24.6	5.9	5.6	砂岩		194	破片	
211	54	58.4	23.3	21.5	36.3	砂岩		195	D	
212	56	41.5	40.5	13.0	32.6	泥岩		625	B	
213	56	49.4	32.8	16.4	26.5	玄武岩?		630	D	
214	62	73.2	31.8	20.6	35.4	流紋岩		196	E	EX4+破片×3
215	77	18.4	36.9	12.5	8.1	泥岩		626	B	
216	79	50.8	21.6	13.6	12.6	泥岩		627	C	遺物No. 626と同一母岩
217	86	44.6	56.2	23.8	68.2	安山岩		525	B	
218	90	23.3	35.7	17.5	9.2	シルト岩		740	B	

V 包含層出土の遺物

表 V-36 方割礫一覽(5)

No.	グリッド	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
219	3・3-94	65.2	34.2	23.0	71.3	安山岩		745	楕円礫	B+B、遺物No. 746(33-94)と接合
220	96	65.3	75.0	39.2	214.3	安山岩		526	B	
221	98	88.6	53.0	54.2	212.4	砂岩		534	B	C+C、遺物No. 533(33-99)と接合
222	3・4-16	59.8	46.1	83.8	295.5	安山岩		635	C	C+D、遺物No. 636(34-16)と接合
223	16	30.9	48.4	17.4	29.2	安山岩		637	破片	
224	17	72.6	61.3	44.1	208.6	安山岩		638	D	焼け
225	17	70.0	28.8	19.2	60.9	砂岩		650	C	
226	19	40.9	40.4	37.6	58.1	安山岩		640	D	
227	26	105.0	44.1	83.8	334.6	安山岩		645	E	D+E、遺物No. 646(34-37)と接合
228	40	33.4	31.0	38.4	63.8	安山岩		620	E	割ってから焼け
229	46	95.0	63.0	67.7	540.9	安山岩		644	E	E+E+破片、遺物No. 268・438(34-86, 35-71)と接合、焼けてから割れ、未接合破片あり
230	46	44.5	29.0	19.6	15.3	砂岩		649	破片	
231	48	53.8	25.9	10.4	11.7	砂岩		651	破片	
232	49	63.8	46.7	35.3	119.0	安山岩		652	E	
233	49	42.5	35.0	7.9	11.3	安山岩		653	破片	
234	52	54.1	42.9	21.7	49.2	安山岩		370	E	
235	53	73.1	65.0	40.3	131.8	安山岩		371	E	
236	59	70.0	50.4	11.2	56.1	安山岩		656	破片	焼けてから割れ、遺物No. 644と同-母岩か
237	60	31.0	29.8	8.9	11.4	泥岩		373	D	
238	61	10.9	42.1	10.0	15.6	凝灰岩		372	破片	
239	66	58.4	53.4	28.2	70.7	泥岩		655	B	
240	69	69.6	52.1	27.6	82.3	安山岩		654	B	摩耗
241	72	49.8	56.4	35.2	89.3	安山岩		523	E	
242	76	12.8	26.4	88.8	181.4	安山岩		266	破片	
243	81	43.6	40.4	14.9	28.8	砂岩		521	E	
244	82	68.8	15.7	34.5	32.4	凝灰岩		286	B	
245	87	22.0	12.8	3.5	1.0	砂岩		269	破片	
246	87	85.6	54.6	16.6	87.0	砂岩		270	破片	破片+破片、遺物No. 272・281・282(34-87)と接合、砥石片か
247	87	33.6	25.9	4.7	4.6	泥岩		274a	破片	
248	87	28.8	22.9	5.9	3.8	泥岩		274b	破片	
249	90	44.4	61.9	63.0	178.4	砂岩		522	E	
250	96	29.4	17.5	3.5	1.5	砂岩		278	破片	
251	98	40.7	37.8	6.4	9.8	安山岩		261	破片	
252	98	25.3	25.1	6.5	2.6	砂岩		262	破片	
253	98	25.6	17.4	4.7	1.8	砂岩		283	破片	
254	3・5-06	27.5	16.3	6.2	1.9	安山岩		228	破片	
255	18	43.3	24.1	18.6	15.5	安山岩		234	D	
256	20	51.8	34.0	18.0	32.2	安山岩		407	D	
257	22	44.6	53.0	15.8	43.9	凝灰岩		410	B	
258	23	160.0	36.0	13.0	68.8	砂岩		413	破片	破片+破片、遺物No. 285(35-73)と接合
259	26	32.2	47.2	31.0	46.2	安山岩		235	B	割ってから焼け
260	28	62.4	38.5	6.6	19.7	安山岩		—	破片	
261	35	33.9	59.2	19.7	39.0	安山岩		236	C	
262	41	50.4	36.7	20.5	32.0	凝灰岩		435	C	
263	43	51.0	23.0	18.5	19.9	砂岩		415	D	
264	44	32.6	32.9	20.5	14.8	砂岩		419	E	
265	51	38.1	26.0	10.7	9.6	砂岩		428	破片	
266	51	59.8	72.2	14.8	65.3	玄武岩?		436	破片	
267	56	31.5	40.0	21.7	42.3	?		689	E	ベンガラ付着
268	59	34.1	26.3	12.9	14.0	安山岩		699	E	焼けてから割れ
269	60	53.2	59.6	11.2	52.2	砂岩		437	破片	
270	61	36.8	16.0	7.8	4.7	砂岩		427	破片	
271	61	27.3	23.2	7.2	4.1	砂岩		429	破片	

表V-37 方割礫一覧(6)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
272	3・5-61	26.5	28.1	9.2	7.9	砂岩		431	破片	
273	62	7.1	20.0	19.0	1.8	砂岩		425	破片	
274	66	47.8	24.8	13.8	14.4	?		697	破片	破片x2、遺物No247d(36-71)と接合
275	72	57.6	32.0	20.8	42.2	安山岩		287	B	
276	76	39.3	28.2	13.4	19.4	泥岩		255	C	
277	76	50.8	38.4	20.9	43.9	砂岩		696	D	板状礫
278	78	90.0	59.3	30.2	102.2	砂岩		698	E	
279	80	64.6	47.1	36.5	67.3	安山岩		288	D	
280	82	68.8	15.7	34.5	32.4	凝灰岩		286	B	
281	87	32.4	17.0	7.0	3.4	泥岩		254	破片	
282	89	43.2	30.0	25.8	48.0	安山岩		252	C	
283	89	28.5	38.8	23.9	26.9	安山岩		253	D	
284	c	43.5	23.8	14.4	15.0	流紋岩		-	E	
285	3・6-00	18.6	50.9	37.4	74.0	砂岩		486	E	
286	02	67.4	50.8	50.0	231.3	安山岩		487	E	
287	02	38.7	24.5	32.2	27.8	安山岩		488	C	
288	03	19.4	44.2	24.8	40.6	玄武岩		489	C	
289	24	31.0	23.2	4.5	3.2	安山岩		490	破片	
290	26	24.3	22.3	7.9	4.2	安山岩		722	破片	
291	30	45.2	42.7	17.9	31.1	安山岩		484	破片	
292	61	36.5	24.1	10.7	11.1	砂岩		214	破片	焼けてから割れ
293	62	48.1	43.1	29.4	44.6	凝灰岩		223	C	焼けてから割れ
294	62	48.6	37.1	30.0	70.0	安山岩		224	B	
295	71	33.6	15.7	8.4	3.9	泥岩		212	C	
296	71	39.5	22.7	5.6	4.6	砂岩		247 a	破片	247dは遺物No. 697(35-66)と接合
297	71	25.4	15.7	5.6	1.6	砂岩		247 b	破片	遺物No. 247a～cは同一母岩
298	71	23.6	10.0	3.7	0.8	砂岩		247 c	破片	
299	71	45.4	27.2	8.3	8.2	砂岩		249	破片	
300	71	20.0	23.0	3.1	1.0	泥岩		257	破片	
301	72	10.7	31.7	12.7	3.6	砂岩		256	破片	
302	b	29.8	34.2	7.4	10.0	砂岩		753 a	破片	遺物No. 753a～cは同一母岩
303	b	14.8	19.9	5.6	2.2	砂岩		753 b	破片	
304	b	12.1	23.8	6.7	2.8	砂岩		753 c	破片	
305	d	47.6	41.3	17.8	41.6	安山岩		-	破片	焼けてから割れ
306	4・0-01	56.7	57.7	40.9	119.0	安山岩		298	E	摩耗
307	02	29.3	45.8	53.5	83.5	安山岩		556	D	割れてから焼け
308	13	41.3	52.3	33.5	62.1	安山岩		297	E	
309	4・1-06	43.8	54.3	19.1	49.2	砂岩		292	E	
310	06	28.6	28.0	25.9	20.3	安山岩		293	E	
311	09	33.0	23.4	10.1	6.6	凝灰岩		510	破片	
312	09	44.8	44.2	12.0	16.9	凝灰岩		511	B	
313	4・2-02	23.9	35.2	9.4	6.7	凝灰岩		517	B	
314	02	37.4	60.0	50.0	165.6	安山岩		536	E	
315	03	37.8	43.8	12.5	17.6	凝灰岩		519	B	
316	4・3-00	125.0	52.0	37.0	127.7	流紋岩		741	長楕円礫	B+B+C+C+D+D+E×4、遺物No742(43-00)と接合、中央部分未接合
317	02	39.3	32.2	24.0	27.2	砂岩		744	D	
318	表採	42.7	85.2	49.2	235.5	安山岩		557	E	板状礫使用の石皿片か
319	表採	30.2	51.3	44.9	98.7	砂岩		561	C	

V 包含層出土の遺物

表V-38 礫一覧(1)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
1	0-0-17	88.0	26.3	15.2	48.8	泥岩		48	長楕円	
2	17	88.1	35.5	15.7	83.9	安山岩		49	扁平長楕円	
3	17	84.5	36.9	20.5	91.4	安山岩		50	長楕円	
4	30	71.3	35.9	37.2	133.5	安山岩		22	楕円	欠け
5	53	57.3	35.0	17.0	45.6	安山岩		40	扁平楕円	
6	0-1-33	59.0	27.1	23.7	31.2	砂岩		77	亜角礫	
7	0-3-06	78.6	29.4	23.7	75.2	砂岩		349	長楕円	
8	10	57.4	43.0	32.9	103.8	砂岩		41	楕円	
9	26	82.3	42.2	25.5	135.9	流紋岩		26	楕円	
10	38	88.0	33.1	22.3	101.0	安山岩		110	長楕円	
11	49	65.5	38.0	18.0	45.9	凝灰岩		25	扁平楕円	
12	0-4-05	61.7	36.7	22.3	70.0	流紋岩		13	楕円	
13	06	69.8	29.2	15.2	58.7	流紋岩		14	長楕円	
14	06	78.8	28.8	18.4	45.6	凝灰岩		15	長楕円	
15	06	69.5	39.0	23.2	87.1	砂岩		115	楕円	
16	07	57.4	33.6	19.4	48.5	安山岩		17	楕円	
17	13	52.8	28.3	27.8	42.2	安山岩		30	楕円	
18	15	86.8	39.1	18.6	88.0	流紋岩		128	扁平長楕円	
19	16	64.6	36.4	28.8	80.4	安山岩		16	楕円	
20	17	75.7	31.7	17.5	67.6	砂岩		18	長楕円	
21	82	71.5	31.8	28.9	105.0	安山岩		116	長楕円	
22	0-5-03	62.0	33.8	20.6	39.9	凝灰岩		126	楕円	
23	30	62.3	47.4	18.2	72.1	安山岩		81	扁平楕円	
24	47	93.0	31.0	28.1	104.8	流紋岩		100	長楕円	
25	67	53.5	34.9	20.0	55.6	安山岩		95	楕円	
26	92	57.0	33.0	16.1	27.9	安山岩		89	扁平楕円	
27	0-6-83	83.2	73.4	35.2	216.8	凝灰岩		75	扁平楕円	
28	b	47.8	37.3	16.5	36.4	流紋岩		-	扁平楕円	
29	1-0-57	94.5	63.8	52.2	237.4	流紋岩		161	楕円	
30	78	55.3	42.4	36.0	96.5	砂岩		157	楕円	
31	1-1-08	83.6	31.8	26.6	118.9	砂岩		330	長楕円	
32	23	65.0	31.0	15.4	36.3	安山岩		138	扁平長楕円	
33	1-2-06	61.2	25.7	19.4	37.2	珪岩?		643	長楕円	流紋岩岩体の一部か
34	16	62.3	24.8	22.0	50.1	安山岩		657	長楕円	
35	41	86.6	40.5	26.1	97.1	砂岩		171	長楕円	
36	41	65.4	31.2	18.2	48.0	流紋岩?		354	長楕円	
37	56	92.8	63.6	26.6	270.0	片麻岩		28	扁平楕円	
38	56	69.7	38.5	31.3	122.4	安山岩		29	楕円	
39	62	81.6	33.7	20.0	68.2	泥岩		347	長楕円	
40	65	70.7	51.2	23.4	112.9	流紋岩		659	扁平楕円	
41	69	72.3	23.8	15.0	27.2	凝灰岩		660	長楕円	
42	87	87.5	30.5	25.0	83.0	安山岩		663	長楕円	
43	96	87.8	39.1	21.9	87.7	凝灰岩		665	長楕円	
44	1-3-11	66.7	43.4	28.0	109.7	安山岩		621	楕円	
45	28	17.1	14.1	12.2	3.2	メノウ		174	円	
46	29	73.2	23.7	10.1	23.2	珪岩		193	扁平長楕円	流紋岩岩体の一部か
47	38	102.9	42.2	23.0	141.8	砂岩		175	長楕円	
48	70	137.2	49.8	34.6	387.8	安山岩		662	長楕円	
49	1-4-23	94.3	35.8	25.8	109.0	砂岩		369	長楕円	
50	60	41.9	31.7	17.3	28.7	安山岩		606	楕円	
51	67	80.6	48.6	35.7	216.4	安山岩		205	楕円	
52	1-5-77	40.5	39.7	26.5	44.4	カンラン岩?		5	角礫	
53	88	82.2	66.3	48.8	379.2	砂岩		4	楕円	
54	1-6-10	90.0	39.2	22.5	85.9	泥岩		1	長楕円	
55	17	111.0	97.0	31.0	560	砂岩		123	扁平亜角	

表V-39 礫一覽(2)

No.	グッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	勸No.	形態	備考
56	1-6-35	62.6	34.0	26.0	77.8	流紋岩		2	楕円	
57	63	76.5	34.5	18.2	68.3	流紋岩		735	長楕円	
58	94	61.8	40.8	28.4	80.6	砂岩		503	楕円	
59	2-0-00	82.8	53.6	25.1	182.4	安山岩		130	扁平楕円	
60	2-1-86	141.4	64.8	35.9	384.5	安山岩		11	長楕円	
61	2-2-42	79.6	53.6	39.1	202.7	安山岩		709	楕円	
62	81	59.8	24.6	17.2	37.7	安山岩		454	長楕円	
63	81	126.4	50.0	29.8	281.0	安山岩		455	長楕円	
64	84	109.0	68.5	36.0	415.7	珪岩		27	楕円	
65	84	78.2	22.4	12.2	24.2	砂岩		453	長楕円	
66	86	70.5	31.4	21.4	58.5	泥岩		104	長楕円	
67	2-3-16	115.2	68.6	23.6	329.8	砂岩		611	扁平亜角	
68	72	85.1	37.6	25.7	87.6	安山岩		705	長楕円	
69	86	40.5	33.4	29.2	37.8	凝灰岩		616	円	
70	2-4-14	48.8	28.5	17.2	40.3	安山岩		62	楕円	
71	69	48.2	32.6	22.0	37.7	凝灰岩		691	亜角	
72	2-5-05	56.1	38.3	33.6	116.6	安山岩		730	楕円	
73	23	87.5	36.7	21.7	106.6	凝灰岩		726	長楕円	
74	58	57.9	32.2	25.8	52.1	安山岩		729	楕円	
75	98	61.7	29.7	21.0	55.7	安山岩		67	長楕円	
76	99	73.5	39.7	27.5	116.5	安山岩		66	楕円	
77	2-6-01	76.4	35.5	14.6	38.6	泥岩		500	扁平長楕円	
78	02	57.0	34.1	18.2	56.6	凝灰岩		497	楕円	
79	02	70.7	40.8	22.7	92.3	泥岩		498	楕円	
80	02	64.3	34.1	28.5	18.7	流紋岩		499	楕円	
81	04	94.3	51.0	31.9	180.8	安山岩		502	楕円	
82	15	77.3	35.2	16.2	65.6	安山岩		61	扁平長楕円	
83	39	83.4	40.3	21.4	103.8	安山岩		307	長楕円	
84	46	81.0	49.3	41.3	221.7	安山岩		321	楕円	
85	67	66.8	32.6	28.4	103.7	泥岩		59	長楕円	
86	67	38.3	38.2	33.6	50.6	泥岩		60	円	
87	69	81.7	55.0	16.8	124.7	安山岩		308	扁平楕円	
88	81	91.3	45.4	31.3	102.2	凝灰岩		242	長楕円	
89	2-7-30	76.4	35.1	28.4	96.4	安山岩		720	長楕円	
90	40	62.9	34.5	22.2	62.5	安山岩		719	楕円	
91	3-0-90	129.9	59.3	46.5	484.6	凝灰岩		300	長楕円	
92	93	58.7	31.6	14.6	35.4	泥岩		295	扁平楕円	
93	3-1-21	69.1	36.4	36.2	139.0	安山岩		478	楕円	
94	62	53.6	23.0	20.9	35.3	安山岩		467	長楕円	
95	81	23.4	20.6	16.0	9.6	流紋岩		465	円	
96	86	78.2	47.1	14.8	154.8	安山岩		704	扁平楕円	
97	99	73.0	39.6	11.6	29.8	凝灰岩		507	扁平楕円	
98	99	73.3	34.4	23.3	44.8	凝灰岩		508	楕円	
99	3-2-24	50.4	29.4	20.0	39.4	安山岩		203	楕円	
100	34	42.4	35.6	20.7	45.0	安山岩		464	楕円	
101	38	39.2	36.8	15.5	29.9	凝灰岩		439	扁平円	謝
102	52	49.2	23.4	20.6	44.7	安山岩		448	長楕円	
103	54	170.2	90.3	73.2	1840.0	安山岩		405	楕円	
104	54	66.2	35.0	19.7	50.1	安山岩		440	楕円	
105	58	134.4	77.2	40.8	690	安山岩		376	楕円	
106	58	154.2	81.4	40.2	770	安山岩		377	扁平楕円	
107	58	58.8	29.4	15.8	46.8	泥岩		378	長楕円	
108	58	77.2	31.4	25.7	92.6	安山岩		379	長楕円	
109	63	56.6	28.4	26.8	53.8	凝灰岩		441	楕円	
110	63	73.6	24.6	21.4	66.1	凝灰岩		442	長楕円	

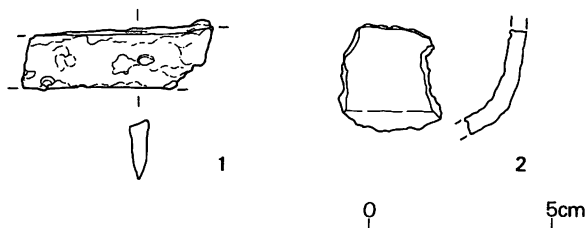
V 包含層出土の遺物

表V-40 礫一覽(3)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No.	形態	備考
111	3・2-67	70.4	31.0	24.3	55.2	安山岩		382	長楕円	
112	67	72.4	29.4	24.8	53.3	泥岩		383	長楕円	
113	71	72.3	37.6	15.8	61.5	砂岩		445	扁平楕円	
114	72	72.4	46.4	46.2	211.1	安山岩		443	楕円	
115	73	61.6	52.0	26.6	117.0	安山岩		444	楕円	
116	81	76.7	45.0	15.0	47.0	凝灰岩		516	扁平楕円	
117	82	73.7	22.4	19.5	35.1	凝灰岩		449	長楕円	
118	87	57.5	36.0	21.2	48.2	凝灰岩		737	楕円	
119	87	66.1	37.2	30.7	67.6	凝灰岩		738	楕円	
120	90	65.0	36.7	12.4	27.4	凝灰岩		515	扁平楕円	
121	97	59.3	37.5	27.7	76.0	珪岩		739	楕円	
122	3・3-03	90.5	47.4	24.4	73.9	凝灰岩		191	楕円	
123	17	75.8	33.6	22.8	98.8	凝灰岩		186	長楕円	
124	55	54.6	34.6	17.8	46.6	砂岩		624	楕円	
125	58	60.0	21.4	14.0	22.1	凝灰岩		628	長楕円	
126	65	25.4	18.6	9.5	6.0	泥岩		201	楕円	
127	79	31.5	26.7	12.9	15.4	メノウ		754	扁平楕円	
128	88	68.0	39.4	25.8	124.5	砂岩		527	楕円	
129	88	98.6	37.3	31.2	161.0	凝灰岩		528	長楕円	
130	91	65.7	41.9	27.9	88.4	凝灰岩		743	楕円	
131	3・4-45	41.8	25.6	10.0	16.7	砂岩		647	扁平楕円	
132	72	78.9	38.2	23.2	95.2	安山岩		374	長楕円	
133	82	157.0	68.6	51.8	790	凝灰岩		258	長楕円	
134	86	79.3	46.3	29.2	112.3	安山岩		279	楕円	
135	87	127.6	56.2	46.9	520	安山岩		271	長楕円	
136	88	41.4	27.5	14.7	22.7	砂岩		260	楕円	
137	96	67.3	46.8	20.0	65.4	凝灰岩		275	扁平楕円	
138	96	62.0	37.9	19.8	49.4	凝灰岩		276	楕円	
139	96	81.3	34.5	29.8	90.4	安山岩		277	長楕円	
140	98	61.3	42.6	34.5	122.8	安山岩		263	楕円	
141	3・5-54	63.6	41.2	18.6	56.6	凝灰岩		422	扁平楕円	
142	62	65.0	32.2	27.1	81.1	安山岩		426	楕円	
143	65	50.2	42.4	28.6	81.1	流紋岩		686	楕円	
144	c	54.6	35.8	23.7	64.9	流紋岩		—	楕円	
145	3・6-21	71.4	54.8	40.0	223.0	安山岩		485	楕円	
146	4・1-09	67.6	43.9	19.8	58.1	凝灰岩		512	扁平楕円	
147	4・2-02	13.5	10.5	6.9	1.5	メノウ		518	楕円	

金属製品 (1・2)

1はマキリ。刃部は使用のため磨滅し、湾曲している棟はつぶれて斜めになっている。東南側にある杭穴群の西側から出土した(2・2-c)。2は鉄鍋の底部と体部の屈曲部。メタル部分の溶脱が激しく軽くなっている。表面には亀裂が多数みられる。掘建柱建物跡の西側から出土した(0・5-a)。他には鉄鍋の底部?が出土している。メタル部分が溶脱し、非常に軽くなっている。触ると剥落する。1・2-dから出土した。(鈴木)



図V-29 包含層出土の金属器

VI まとめと課題

発掘した縄文時代早期の竪穴住居跡は、調査区南部を東流して長都川に入っていた無名川左岸の微高地に分布しており、この川に沿って、調査区の南西に続いているものと考えられる。擦文時代の竪穴住居跡は平成1・2年度に千歳市教育委員会が調査した範囲のうち、東6線付近で多数発掘されているが、今回の調査区にはない。近世アイヌ文化期の遺構とみられる掘立柱建物跡、漏斗状の土壌、杭跡は市教委の調査区でも多く見つかっており、南東方向に向かって今回の調査区に続いている。

擦文時代以後の遺構 樽前a軽石層(Ta-a)の降下直前に構築されたものとみられる掘立柱建物跡と漏斗状の土壌は、上部を削平されていることもあって不明な点が多い。

掘立柱建物跡は2軒判明したが、柱跡は他にも多数ありさらに多くの建物があったものと考えられる。下端部が残っていた柱や杭の樹種(平川康彦氏鑑定)には、アイヌの人々が掘立小屋に用いたといわれるハシドイの木が多数あることが判明した。ハシドイはアイヌ語で「Punkaw ぶんカウ」、「この木で家材(特に柱)を作った(幌別)。柱をも作っただし墓標をも作っただ(名寄)」(知里真志保 1953)という。

漏斗状の土壌の構築目的は分からないが、形態や、埋土が自然堆積を示していることなど市教委が調査した例に極めて類似している。伴出遺物はないが、墳底土壌のフローテーション試料からキハダの種子(吉崎昌一氏同定)が発見された。

おもに調査区北半部に数百本分布する杭跡も、用途・目的について判断できる結果は得られていない。同様の杭跡は長都川対岸のオサツ2遺跡や千歳市美々8遺跡(財北海道埋蔵文化財センター『調査年報4・5』)でも多数発見されている。

(鬼柳)

縄文時代の竪穴住居跡 南半部に位置する8軒の縄文時代早期の竪穴住居跡は、H3が東釧路Ⅲ式期、ほかの7軒はコッタロ式期の遺構と推定される。コッタロ式土器の接合関係からH4・6は同時期に存在し、H10はH4より古いことが判明した。直接、遺構の時期は示していないが東釧路Ⅲ式土器の接合関係から、H2・4・6は近い時期の遺構であることが分かる。以上のことから、H3→H8、H10→H2⇨H4=H6という前後関係を推定できる。

同じ土器型式内の時期における住居跡の長軸方向について見てみると(図Ⅲ-2参照)、H10と同じ向きはH5。H4と同じ向きはH1・6である。土器型式は異なるが、H3とH8は同一方向であり、時期不明のH7も同様である。

接合関係・切り合い関係・住居跡の長軸方向を合わせて考えると、次のような住居跡群の変遷が推測される。H3→H7・H8→H5・H10→H2→H1・H4・H6。

土器について 第一の問題は、I群b1類における東釧路Ⅱ式と東釧路Ⅲ式の分離であった。今回、東釧路Ⅱ式に含めた土器は、内面に条痕といわれるような調整痕は施されていない。分類の基準は横環する文様帯を構成していないものとしたが、東釧路Ⅲ式の古いものを含んでいる可能性がある。層位的な分離はできなかった。第二の問題は、II群a1類における綱文土器と横走縄文土器の分離であった。両者ともRL原体が多いことが共通しており分離が困難であったが、胎土に含まれる繊維の寡多と節の大きさを分類の基準とした。

石器について 調査区南半部の竪穴住居跡周辺では、木葉形の黒曜石製石槍7点出土しているが、竪穴住居跡H10でも多量に石槍の未製品(R・Fに分類した)が見つまっている。H10には削器に分類した石篋も多い。打ち欠きのある石錘はまったく出土していない。

(鈴木)

引用・参考文献

- 知里真志保 (1976) 『分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』
- 飽津博史 (1977) 「方割石」『Wakkaoi III 4. 4. 6』
- 石川 徹 (1979) 『続千歳遺跡』 千歳市教育委員会
- 宇田川洋 校註 (1981) 『河野常吉ノート 考古篇 1』
- 上屋真一 (1989) 『ユカンボシ E 8 遺跡』北海道恵庭市発掘調査報告書
- 上屋真一、佐藤幾子 (1992) 『ユカンボシ E 3 遺跡』北海道恵庭市発掘調査報告書
- 大場利夫、石川 徹 (1966) 『恵庭遺跡』 恵庭市教育委員会
- 大場利夫、石川 徹 (1967) 『千歳遺跡』 千歳市教育委員会
- 長見義三 (1976) 『ちとせ地名散歩』
- 千歳市教育委員会 (1968) 『ユカンボシ 2 遺跡発掘調査概報』
- 〃 (1989) 『ユカンボシ 2 遺跡発掘調査概要報告』
- 〃 (1991) 『ユカンボシ 3・5・6 遺跡発掘調査概要報告』
- 〃 (1992) 『ユカンボシ C13遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書 d]
- 西田茂 (1993) 「ふたたび東釧路 II 式土器について」『考古論集』
- 北海道教育庁生涯学習部文化課 (1993) 『市町村における発掘調査の概要』
- (財)北海道埋蔵文化財センター (1992) 『ユカンボシ E 4 遺跡』
- 〃 (1993) 『ユカンボシ E 5 遺跡』
- 〃 (1989) 『小樽市忍路土場遺跡 忍路 5 遺跡』
- HOWARD A. MACCORD (1960) 『CULTURAL SEQUENCES IN HOKKAIDO』 SMITHSONIAN INSTITUTION
- 渡辺 誠 (1981) 「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集 Lxx』

千歳市ユカンボシ C2 遺跡出土の植物遺体

吉崎昌一（北海道大学）

1：扱った遺跡に関する情報

- a：遺跡の所在 北海道千歳市長都216-10ほか
- b：遺跡の名称 ユカンボシ C2 遺跡
- c：調査機関 (財)北海道埋蔵文化財センター
- d：調査担当者 鬼柳 彰、田才雅彦、鈴木 信
- e：文化・年代 1：アイヌ文化期 (A.D. 1800年以前)
2：縄文時代早期末 (中茶路式・コッタロ式・東釧路Ⅲ式土器)
主体はコッタロ式土器である。(B.C. 4000年～)

2：扱った資料

遺跡のグリッドを基準に土壌を採集，調査者によってフローテーション法による処理が実施され，炭化した植物の破片がとり出された。送付されてきたこの資料を，光学顕微鏡下で選別し，必要に応じて走査型電子顕微鏡を利用して同定作業を行った。

添付されてきた調査データによれば，この報告で扱った資料は，全く異なった二つの時代の層準から得られている。新しい時代に属するものは，樽前 A 火山灰層の降灰によって完全に覆われている地層から検出されたもので，その遺物層準は，少なくともこの降灰の年代，つまり18世紀よりは古いアイヌ文化期のものとなる。ただし，時代の下限（考古学的な表現に従えば上限）を決定するテフラのデータはない。この層準のものを，仮に上位文化層として扱っておく。古い時代のものとしては，これよりさらに下位の層準から，縄文時代早期末の撚糸・絡条体圧痕・縄文などが多用される前記の土器型式が検出されている。この層準のものを仮に下位文化層として扱う。下位文化層で，もっとも出土量の多かった土器型式はコッタロ式土器であった。この層準からは焼土や竪穴住居が確認されているが，なかでも比較的炭化物を多く含むと観察された包含層Ⅲ層と H-4 住居の炉周辺から土壌が採取され処理された。

この報告では，これら新旧二つの層から検出された植物種子について述べたい。

3：検出された植物遺体

付表には，遺構名，土壌サンプル採取グリッド，層準ならびに検出された植物遺体名をまとめて示した。上位文化層からは，P-2 と命名された土壌から得られた資料から植物種子が検出されている。この土壌の11, 12, 13の各層からキハダ属（キワダ）*Phellodendron* Rupr. とと思われる種子が9粒，その種子破片が2片検出された。写真図版-3 に図示したものがこれである。図示した種子で分かるように，左端がヘソで，櫛状または半月形に近い形態を持つ。表皮には皿状網目型の構造が認められる。おそらく *Phellodendron amurense* Rupr. としてよいであろう。長さ5.2mm，幅2.5mm，最大厚1.75mm。

キハダ（俗名シコロ）はミカン科の落葉高木で，日本各地，朝鮮半島，中国，黒龍江流域などに分布が知られている。アイヌ語ではシケルペニといい，その果実はシケレペあるいはシケルペと呼んでいた。アイヌ民族は，秋になるとこの果実を多量に採集，甘いものは生食し，苦みのあるものは乾燥

保存し、オオウバユリや雑穀の煮込み料理などに利用している。この料理をシケレペ・ラタシケブという。薬用にも使用していた（知里：1953）。時期、地域を問わず検出例の多い種子である。

写真-2 に示したものはユリ科 LILIACEAE の根茎である。上面から撮影してみた。径は10.1mm。

この仲間にはいろいろな種類があるが、種類についてはよく分からない。ネギ属 *Allium* L. のノビル *Allium grayi* Regel ; *A. nipponicum* Franch. et Savat. の可能性がある。

写真 1 a, 1b にあげた資料はブドウ科 VITIDACEAE の種子である。1例だが P-2 土壌から検出された。種子は炭化よりは酸化したといった方が良い状況で残っていた。火山灰直下から発掘されたので、人間の行動とは直接的には関係せず、周囲の環境条件の中で流入したものかも知れない。種子は、基部が突出した洋梨型球形で、腹面（1b）には2条の浅い溝に囲まれた隆起条、その両脇には深い凹みがある。背面（1a）には粒長の1/2程まで伸びるわずかな隆起部分が観察される。現世のヤマブドウ *Vitis* L. にはこのような隆起部分が認められない。4a~5c に現世ヤマブドウとノブドウの比較資料をあげておく。ヤマブドウの背面は中央にわずかな隆起を持つくぼみが発達するが、ノブドウにはこれが認められず、むしろ、その部分を覆うような舌状のカバーが存在する。1a に見られる同様な特徴から、出土したブドウ科の種子はブドウ属 *Vitis* L. ではなく、ノブドウ属 *Ampelopsis* Michx. と考えられる。

ノブドウ属は山野にごく普通に見られる木本性の落葉つる植物で、その果実はあまり積極的に利用されていない。

[引用文献]

知里真志保

1953：『分類アイヌ語辞典』 第1巻 植物編 日本常民文化研究所 刊

[参考文献]

大井次三郎（北川政夫 改訂）

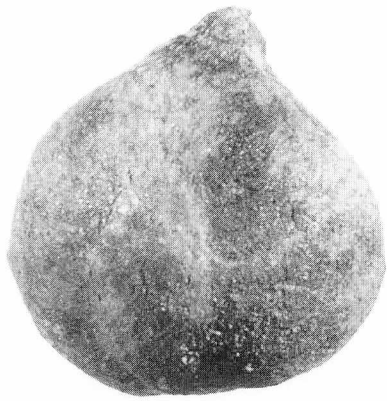
1992：『新日本植物誌』 顕花編

笠原安夫

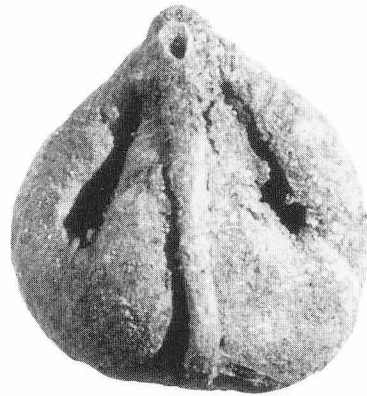
1976：『走査電子顕微鏡で見た雑草種実の造形』 養賢堂 発行

遺跡名 ユカンボシ C2 遺跡出土植物遺体表

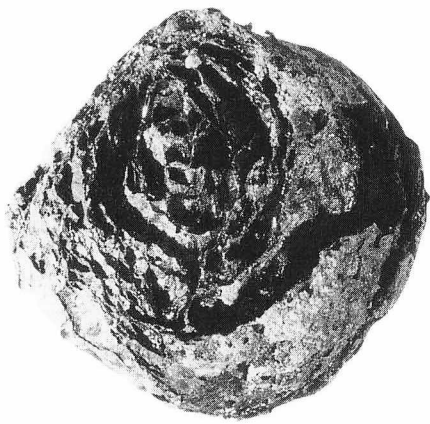
遺構名	サンプル採取区	層位	キハダ属 (粒)	(片)	ブドウ科 (粒)	ユリ科 (粒)
P-2	1-4-77	11	6		1	
〃	〃	12	2			
〃	〃	13	1			
包含層3層	1-5-99 (遺物 N 0.G11)	3				1
H-4	0-2-61・62・71・72	炉		1		
合計			9	1	1	1



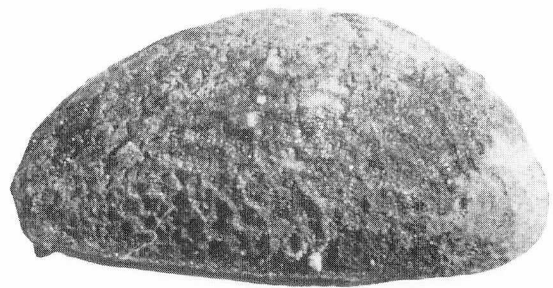
1a ブドウ科背面



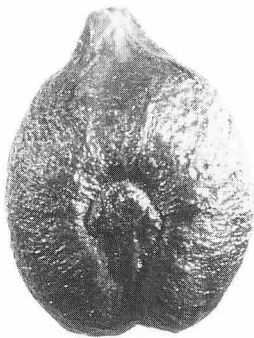
1b 腹面



2 ユリ科



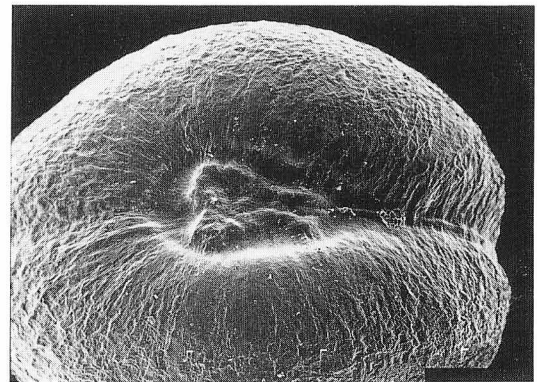
3 キハダ属



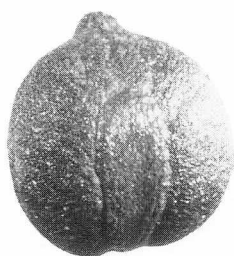
4a 現生ヤマブドウ背面



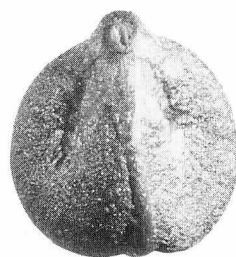
4b 腹面



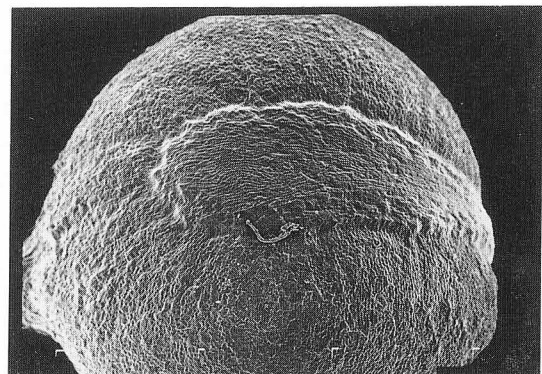
4c 背面の拡大 (×35)



5a 現生ヤマブドウ背面



5b 腹面



5c 背面の拡大 (×35)



財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第86集
恵庭市 ユカンボシC2遺跡

平成6年3月25日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎011-561-3131

印 刷 岩橋印刷株式会社
〒006 札幌市西区西町南18丁目1-34
☎011-661-0111

この報告書は、石狩支庁のご了解を得て増刷したものです。

